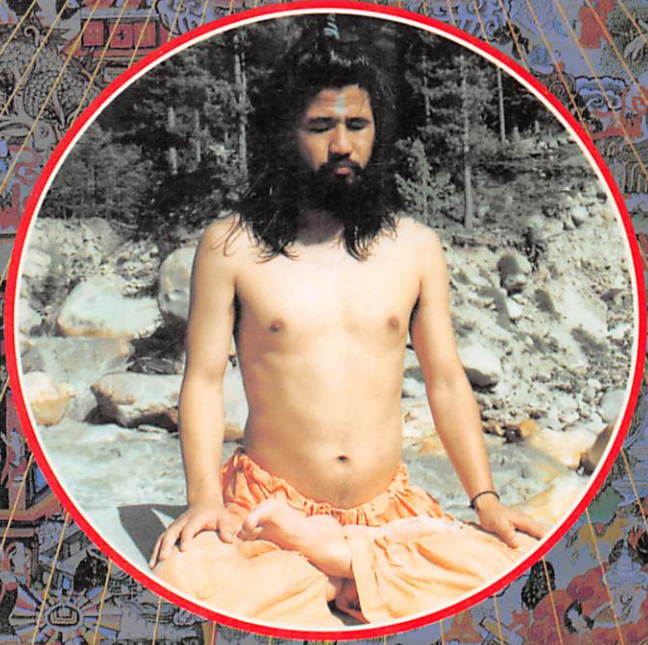
INITIATION

イニシエーション

麻原彰晃

SHOUKO ASAHARA

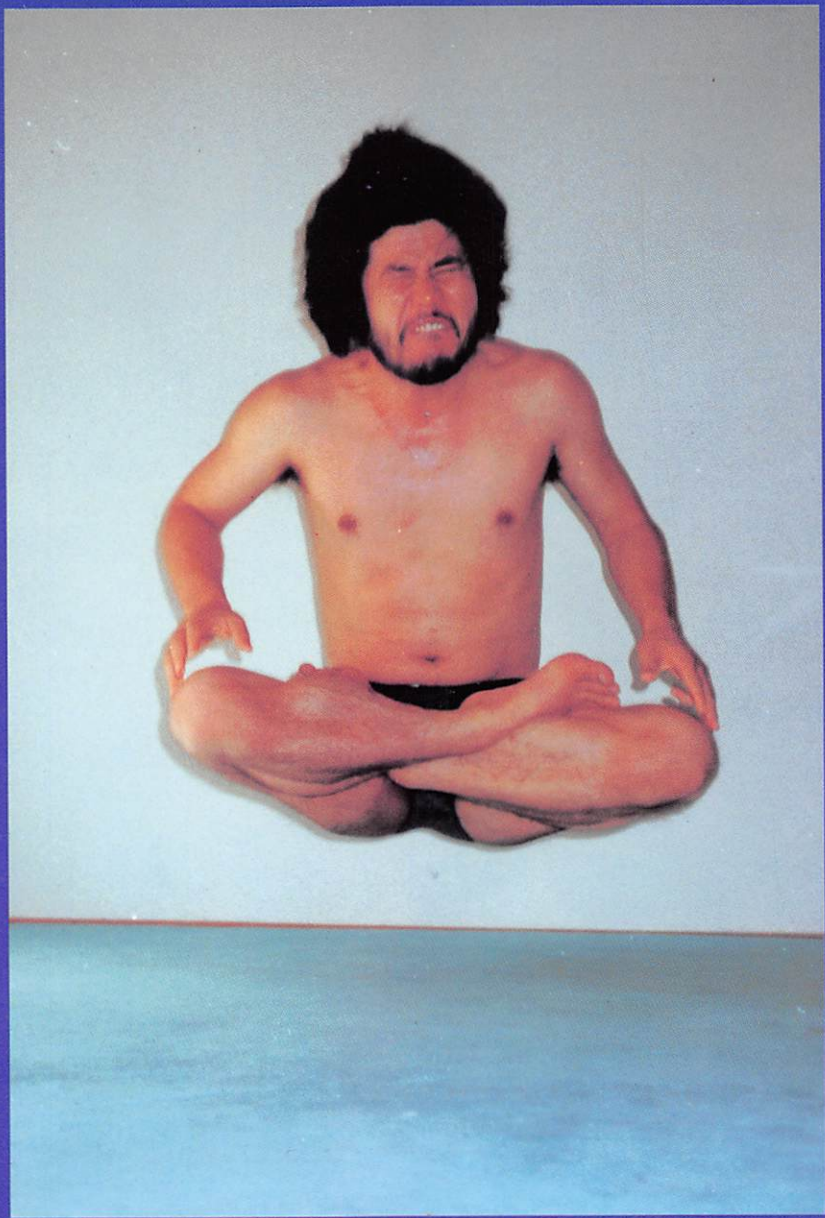


INITIATION

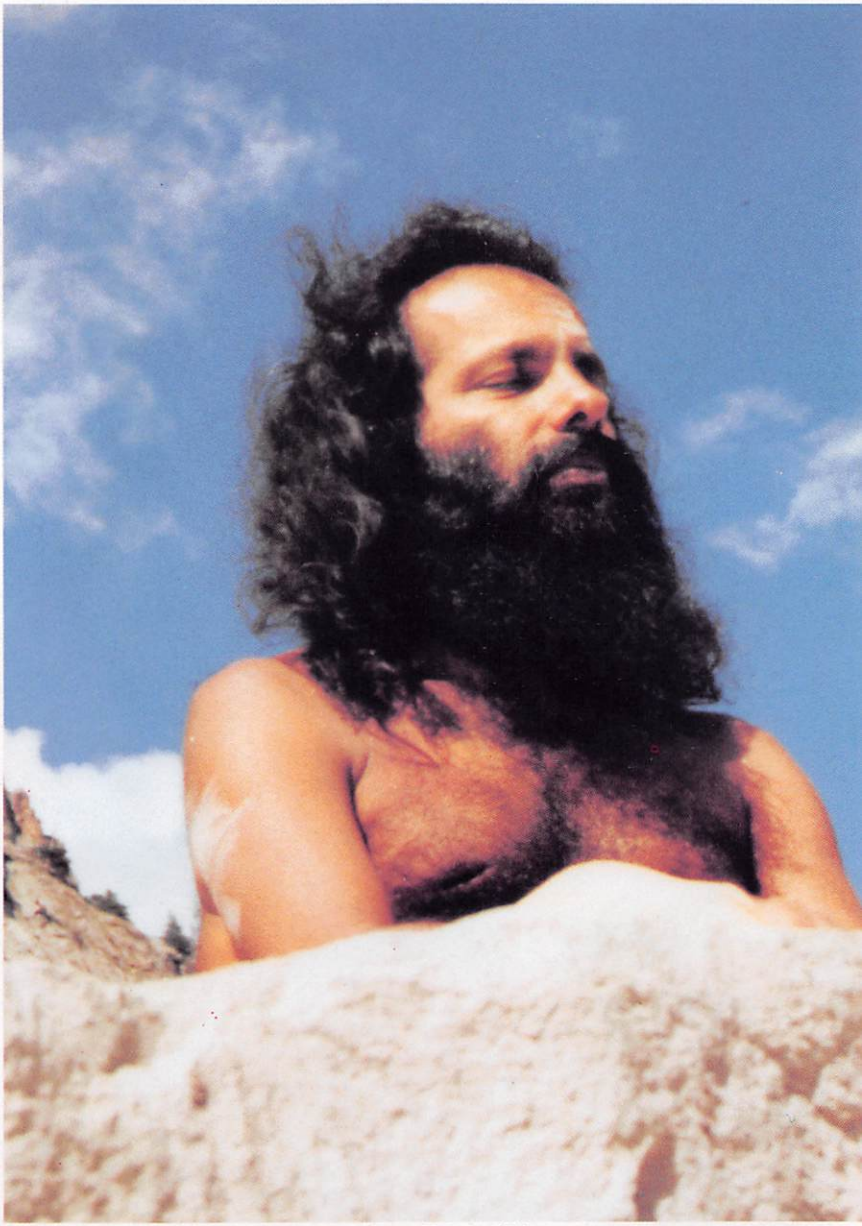
イニシエーション

麻原彰晃

SHOUKOU ASAHARA

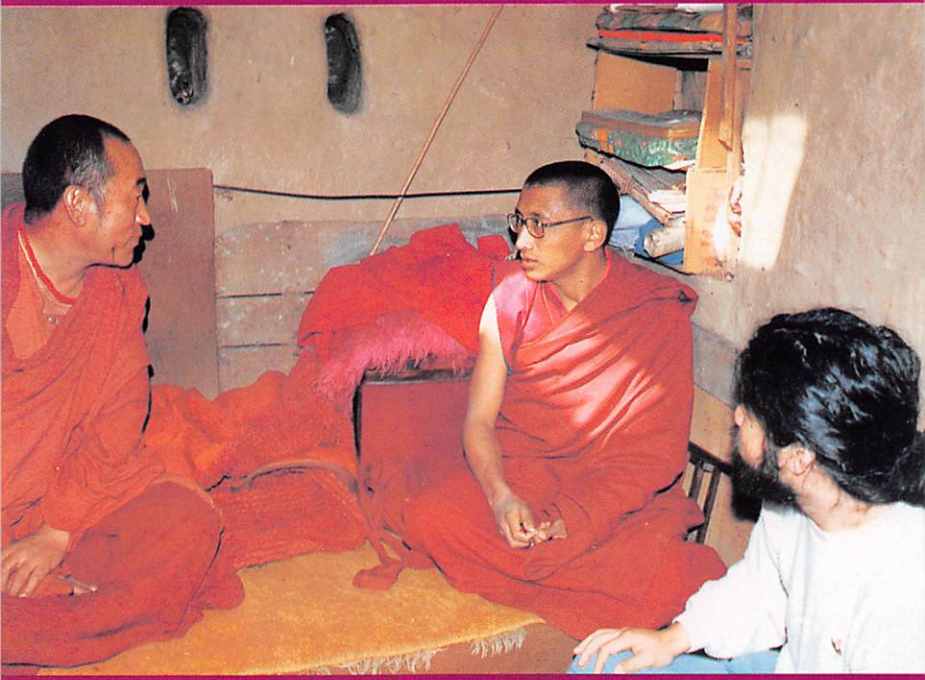


麻原彰晃尊師が見せた「空中浮揚」の奇跡"風"のステージに入ると、
誰でも空中に浮くことができるのだ。



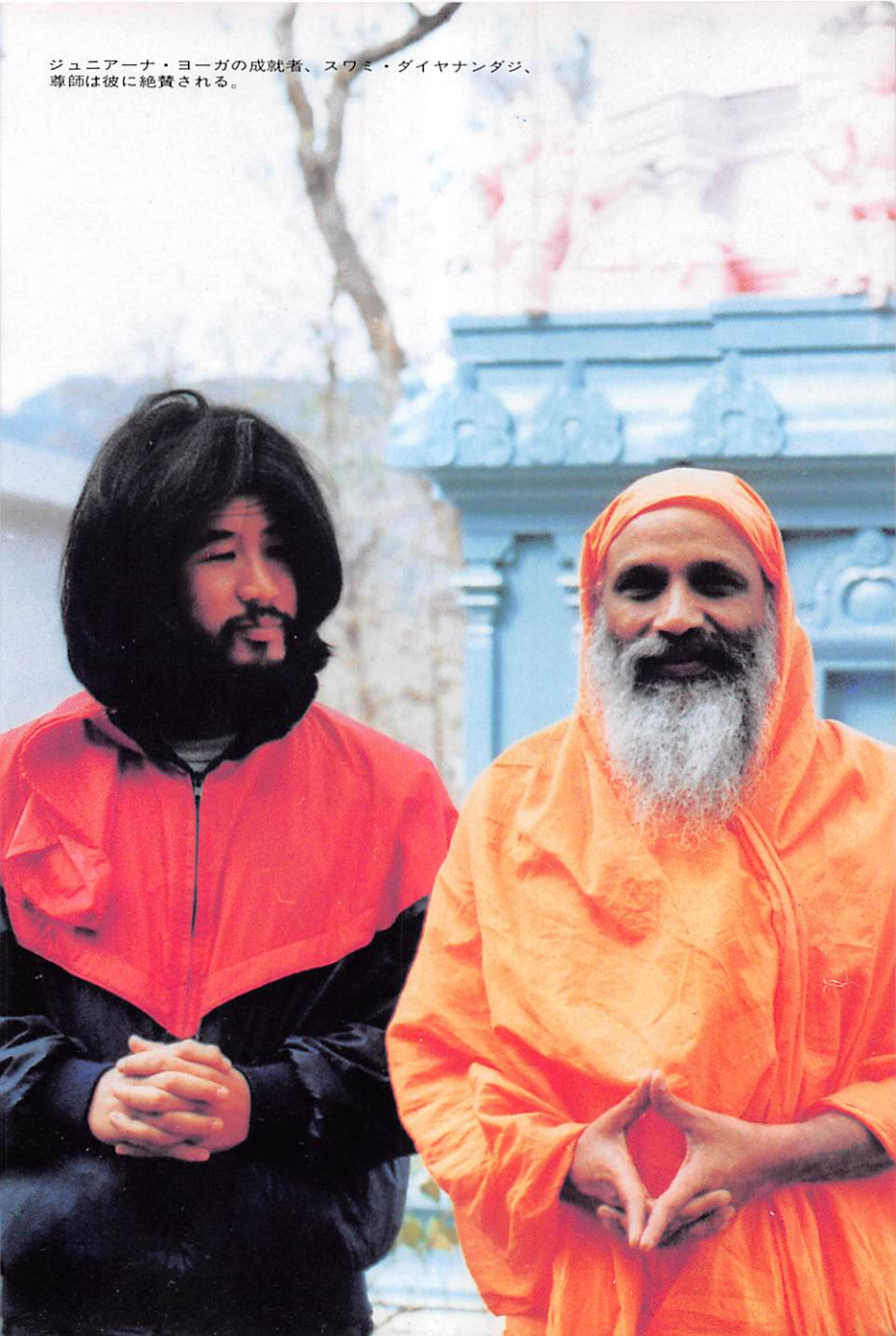
超能力者、パイロット・ババとヒマラヤ山中にて瞑想する尊師。

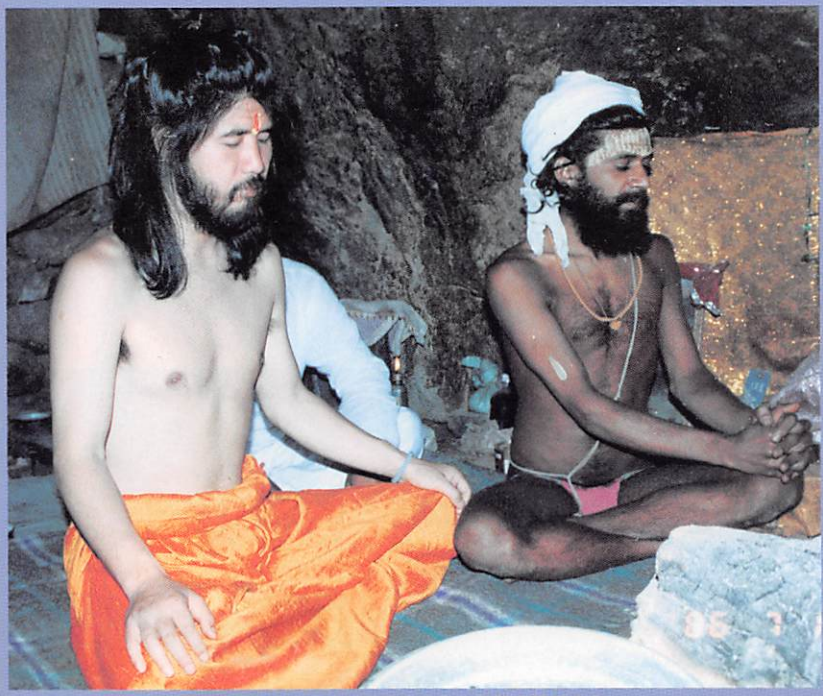
チベット仏教の成就者カムトゥル・リンポチェとの会談。
彼との会談で、尊師が経験した死の世界が正しいことを確認した。



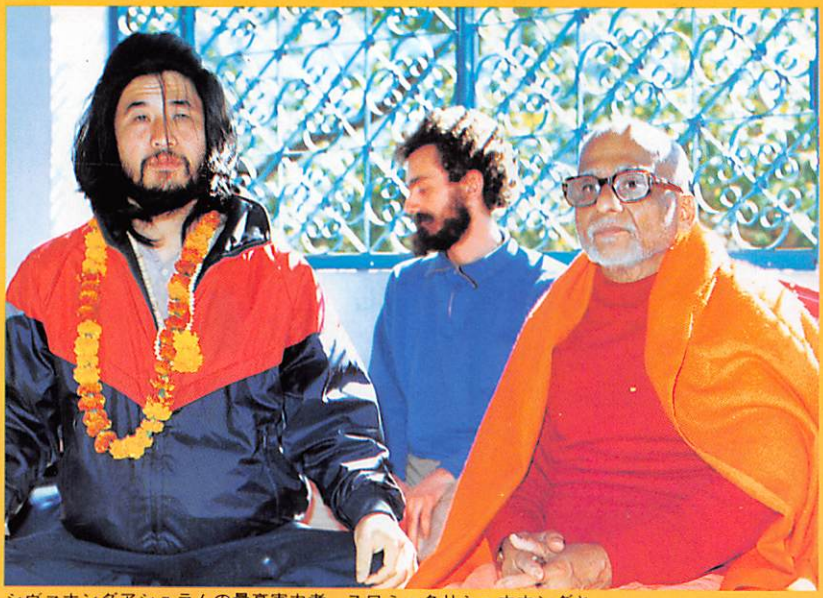
チベット仏教、無上ヨーガの修行者、ジャンパル・テンジン師との会談。
尊師のステージの高さに驚いた彼は、ダライ・ラマ法王との会談を勧める。

ジュニアーナ・ヨーガの成就者、スワミ・ダイヤナンダジ、
尊師は彼に絶賛される。



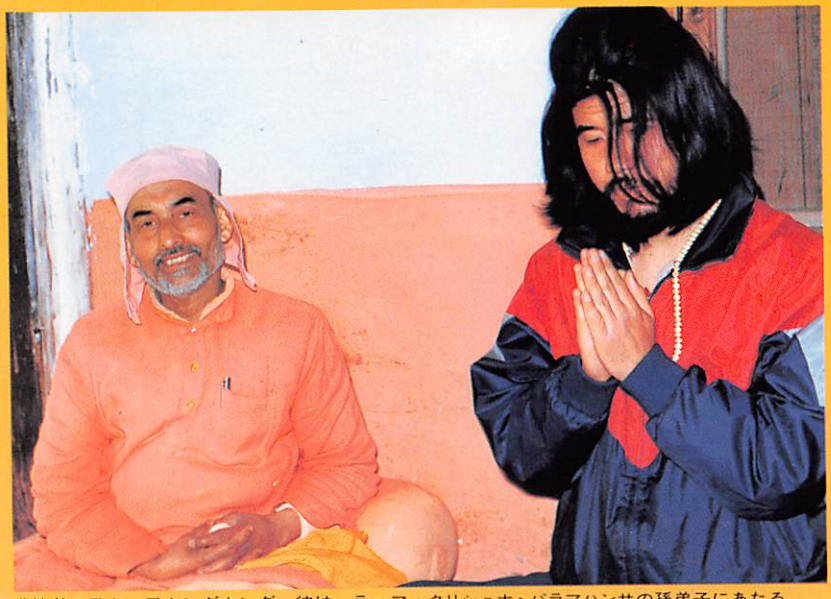


標高3500メートルのヒマラヤ洞窟で瞑想する、
尊師とインドヨーギー。

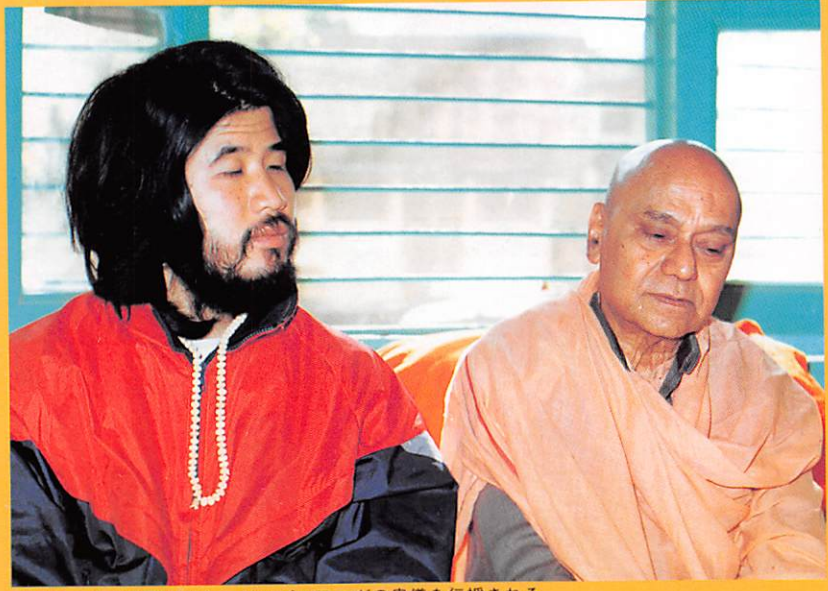


シヴァナンダアシュラムの最高実力者、スワミ・クリシュナナンダと、
アストラル世界のシヴァ神について語る。

トゥモ（熱のヨーガ）の成就者、ロブサン・テンジン師と会見。
相手の霊的ステージを確認している。



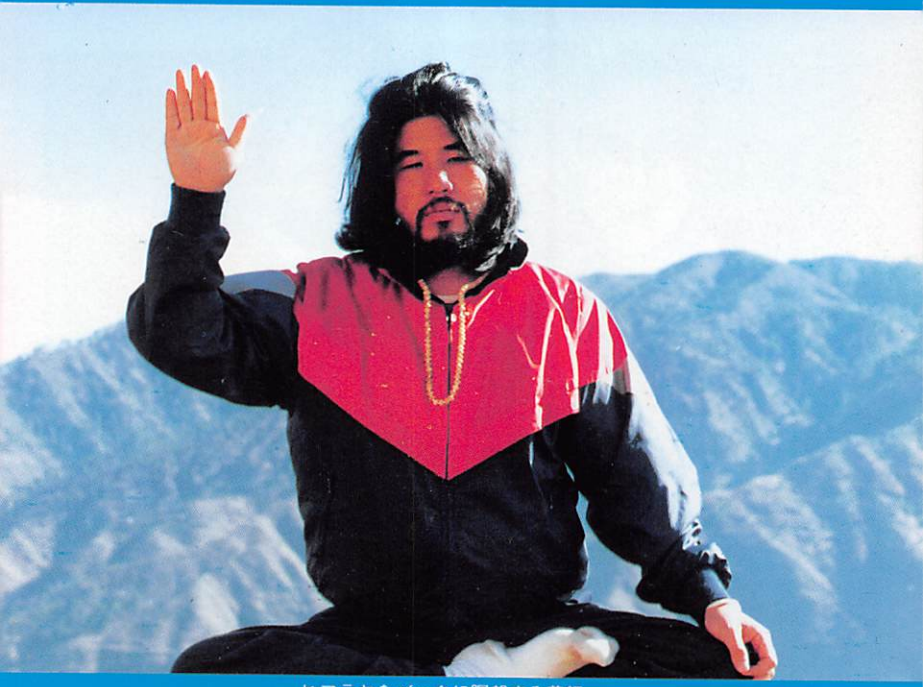
成就者スワミ・アカンダナンダ、彼は、ラーマ・クリシュナ・パラマハンサの孫弟子にあたる。
尊師はこの時、アストラル・ヨーガのイニシエーションを受けた。



スワミ・チタナンダから、ジャパ・ヨーガの奥儀を伝授される。

尊師のシャクティーパットを見、絶賛し、
花輪の祝福を与えたスワミ・ビハール・マハラジ。

観音様の化身、ダライ・ラマ法王との会談。尊師はこの時、
法王に「最高の宗教を日本に布教する使命を持っている。」と言われる。



ヒマラヤをバックに瞑想する尊師

日本テレビ「鶴太郎のテレもんじゃ」にて、ヨーガの奥儀を公開。

弟子達に霊的ヴァイブレーションを与えている尊師。

日本でただひとり、シャクティーパットを行なう尊師。弟子のアストラル世界を浄化中。
このシャクティーパットだけで、数百人のクンダリニーを覚醒させた。

インドにて、ドイツ人にシャクティーパットを行なっている尊師。

88年7月6日、ダライ・ラマ法王の誕生日に、法王と。この日尊師は、法王よりイニシエーションを受けた。

THE DALAI LAMA

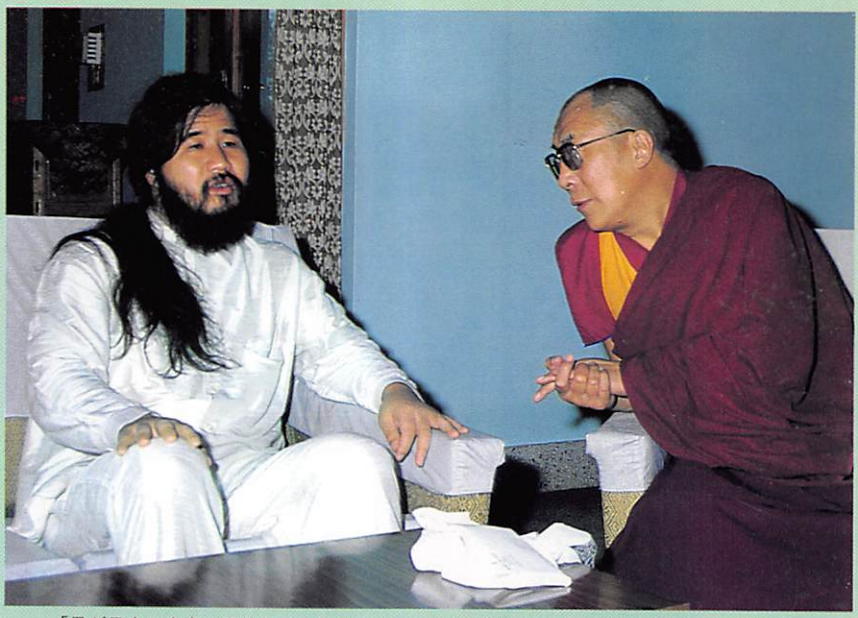
TO WHOM IT MAY CONCERN

Aum, according to my knowledge, endeavours to promote public awareness through religious and social activities. Apart from providing intensive meditation guidance its members also practice Mahayana Buddhist traditions.

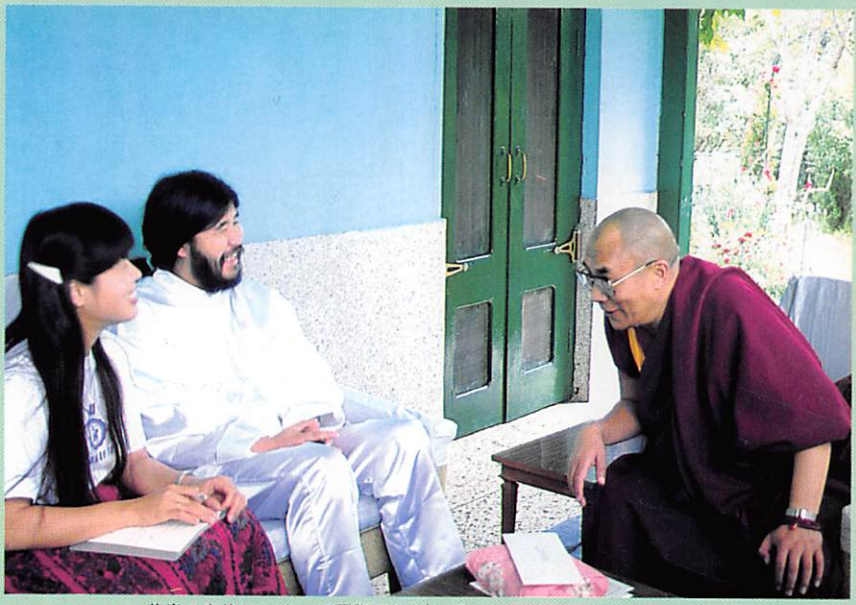
Aum has also been providing generous offerings for our Buddhist community in exile, particularly for monk students who have recently arrived from Tibet. These have been very useful and much appreciated.

May 26, 1989

法王から寄せられた、オウム真理教の活動を称える親書。(89/5)

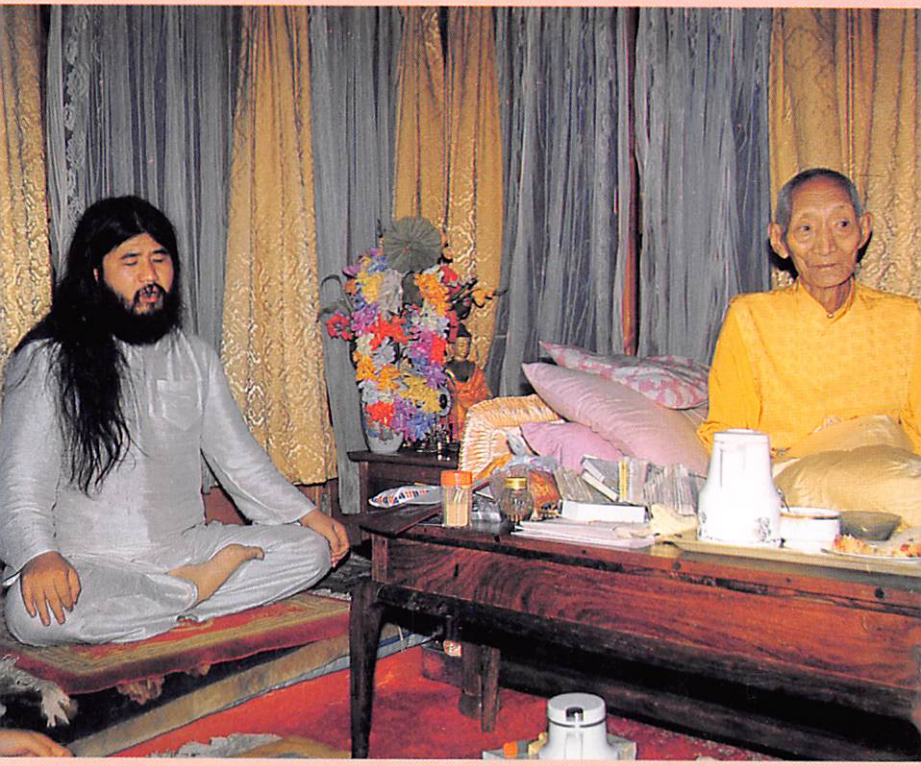


「君が日本に本当の宗教を広めなさい」と、法王は尊師のステージの高さを絶賛。(87/2)



善意の布施は、すべて国際平和と幸福のために寄贈された。(88/7)

チベット仏教カギュ派の総帥、カール・リンポチェ師のイニシエーションを受ける尊師。



カール・リンポチェ師と共に瞑想する麻原尊師。

《はじめに》

今年の二月、私はインドのダラムサーラーを訪れました。ここは、チベット亡命政府（ダライ・ラマ政庁）が置かれていることで有名です。昨今の日本でも、ちょっとしたチベット・ブームが起こっているので、ご存知の方も多いことでしょう。

さて、私はこの地で幸運にもダライ・ラマ法王にお会いすることができました。ダライ・ラマ法王は、言わずと知れたチベットの政治・宗教の最高指導者です。また、観音様の生まれ変わりとも言われ、人々に崇められていらっしゃいます。

その法王は私にこうおっしゃいました。

「ねえ君、今の日本の仏教を見てみたまえ。あまりにも儀式化してしまって、仏教本来の姿を見失ってしまっているじゃないか。これじゃあいけないよ。このままじゃ、日本に仏教はなくなっちゃうよ。だからね、君が日本に本当の宗教を広めなさい。君ならそれができるからね。そうしてくれると私もとても嬉しいし、それが私の役割を助けてくれることにもなるんだよ。」

そして更に、

「君はボーディ・チッタを持っているのだから……。」

と、つけ加えられました。ボーディ・チッタとは、仏陀の心という意味です。私はかねがね、大乗の仏陀として救済の道を歩いて行こうと決心していましたので、法王のような方に、

――ボーディ・チッタを持っている――

と理解していただけたのは、大変嬉しいことでした。

ところで確かに、法王は日本の仏教の現状を手に取るようにわかっていらっしゃるようです。日本の仏教が儀式化してしまっている――この言葉は日本の仏教のことを的確に表現しているとは言えないでしょうか。

皆さんは、仏教と言ったら何が思い浮かびますか。読経、お葬式、お墓……実生活の中で縁があることは、こんなことではないでしょうか。もちろん、仏教が釈迦牟尼仏の教えであるということはご存知でしょう。しかし、本当にその教えを知っているという人は、残念ながら日本にはほとんどいないのです。

実は、釈迦牟尼仏は、瞑想方法、解脱、悟りのプロセスを後世に残してくださっていました。これらが、私たちの魂を絶対幸福、絶対自由へと導いてくれるものなのです。しかし、どういうわけか日本には言葉だけしか伝わっていません。つまり、実を伴っていないのです。

もっとも、この日本の現状は仕方のないことでもあります。なぜなら、日本には今まで悟りを開いた人、解脱者が存在していなかったからです。どうして中途半端な、つまり、悟っていない人、解脱していない人が他に悟りや解脱の内容を教えることができましょう。

しかし、今の私には真の宗教を日本に広めることができる——と法王はおっしゃったのです。観音様の化身と言われるほどのステージに立つ方がおっしゃったのです。いや、そういう方だからこそ、私の修行レベルを見抜いたのかもしれません。私が悟りを開き解脱しているということを——。

私の他の著書をお読みになった方だったらご存知でしょう。私は前年にヒマラヤで修行に入り、悟りと解脱を得たのです。その時、釈迦牟尼仏の教えを完全に理解することができました。これからは、法王がおっしゃるように、日本に真理を広めることが私の使命だと思うのです。

使命を全うする一つの手掛かりとして、私のセミナーにおける講話を本書にまとめました。これをお読みいただけたなら、必ずやあなたの前に〝真理〟の道が現われるだろうと信じています。また、全くの初心者だった人たちの修行体験談も載っております。彼らは着実に高いステージに上りつつあります。こちらも合わせてお読みいただけたなら、大いに参考となることでしょう。

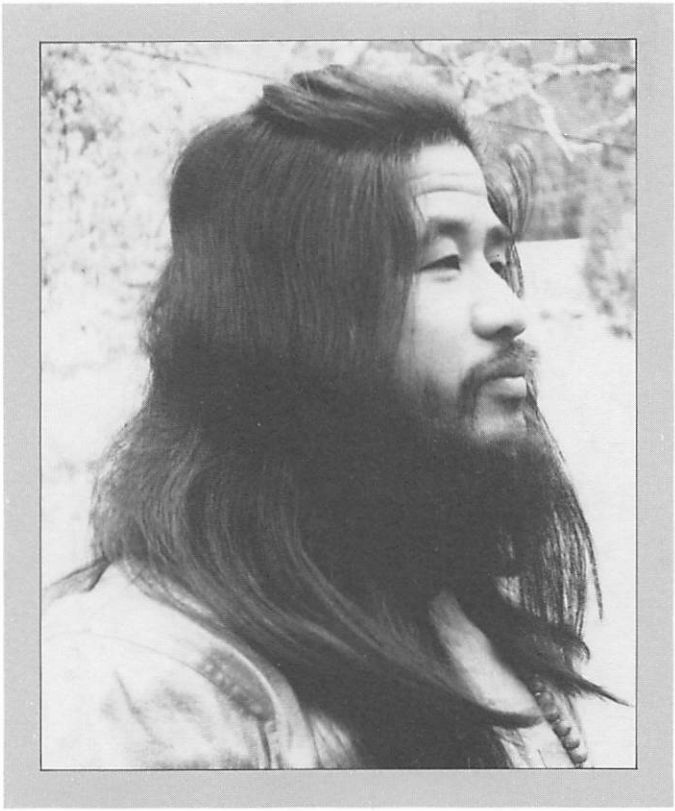
なお、次の拙著も読んでいただけたら、更に理解を深めることができることでしょう。

「生死を超える」
クンダリニー覚醒から解脱までのプロセス
――オウム出版――

「超能力秘密のカリキュラム―健康編―」
クリヤ・ヨーガの秘法、初級・中級・病人向け
――オウム出版――

「超能力秘密の開発法」
現世的な超能力獲得法
――大和出版――

八七年初夏　著者しるす



イニシエーション——密儀伝授——●目次

《はじめに》……1

第一章　真理——苦からの解放

第一話　修行の目的とプロセスそして成就……18

▼苦へのプロセス……18
▼経験こそ修行の第一歩……19
▼迷妄を取り除け！……20
▼悟り——パラダイス……22
▼覚者こそ解脱する……24

▼救済の門――それは「信」……26
▼ジュニアーナ・ヨーガは真理のサイン……26
▼オウムの修行……27
▼解脱のプロセス……28
▼偉大なグル……30

第二話　悟りの障害と六つの極限……32

▼苦楽の因は条件だ……32
▼「思い込み」をなくせ！……34
▼悟りのステージ……35
▼あるがままに見なさい……36
▼あるがままに生きなさい……37
▼運命を変える秘密の修行……38
▼「布施」は幸運をもたらす……38

▼「持戒」は魔境を越える……39
▼意志力は「忍辱」から……40
▼三つの極限が「精進」を支える……42
▼「禅定」とは？……43
▼「私はだあれ？」……44
▼基礎こそタントラ仏陀への道……46
▼疑問をなくそう……48

第三話　悟りの道程……50

▼迷妄の源泉――「観念」……50
▼「悟り」とは透明な鏡……51
▼両極を捨てなさい……52
▼愛憎の向こうには……53
▼五本の柱……55

▼如来の条件……55
▼幸せをもたらす瞑想……56
▼平等心は『四無量心』の礎……56
▼菩薩の糧『四無量心』……58
▼救済のテクニック……59

第四話　その1　三毒の浄化こそ成就の鍵……60

▼解脱、悟りは気道の浄化から……60
▼無智――イダー管……61
▼瞋り――ピンガラ管……62
▼執着――スシュムナー管……62
▼スシュムナーへ導け……64
▼執着のステージ……65
▼気道の浄化は外せない……66

第四話　その2　十二縁起の法……67
▼「苦界」へのプロセス……67
▼「苦」から『六ヨーガ』へ……74
▼真理はひとつ……76
第五話　その1　潜在意識をつかめ！……79
▼潜在意識――指令室……79
▼精神分裂――解脱直前……80
▼潜在意識こそ欲望の根源！……82
▼潜在意識へのアプローチ……83
▼入れ替えよ――潜在意識……84
▼「識」から「解脱」へ……86
▼「からっぽ」は仏陀の意識……87

▼最高の修行法はこれだ！……88
▼一瞬にして苦を滅する解脱者……90
第五話　その2　苦の滅尽を知りなさい……92
▼苦の根本『無明』を滅せ……92
▼時代錯誤――八正道……94
▼大乗仏教誕生……99
▼君には六つの極限しかない……100
▼確信を持て……104
第六話　予言と救済……106
▼確実に核戦争だ！……106
▼世界へ羽ばたけ……107
▼最期の救済メソッド……109

▼真理の道場『地球』を守れ……110
▼あなたも救済者……112
▼真理を広めよ……113
▼完璧な修行体系……114
▼続出する成就者……115
▼これからの三年間……116
第七話　タントライニシエーションの全貌……118
▼秘伝の伝授――イニシエーション……118
▼第一イニシエーション……118
▼第一イニシエーション　その2……122
▼第一イニシエーション　その3……123
▼第一イニシエーション　その4……123
▼第一イニシエーション　その5……123
▼第一イニシエーション　その6……124

▼第二イニシエーション……124
▼第三イニシエーション……125
▼第四イニシエーション……127
▼ロベスンジュ……128
▼ミロベスンジュ……129
〈専門用語の解説〉……130

第二章　真理の道——三十一人が明かす解脱のプロセス

だれもが経験する神秘のステージ……134
▼プロローグ……134
〈ステージの段階〉……134

▼クンダリニーの覚醒……136
小宮　英子　四十三歳　元看護婦……136
佐藤　律子　二十九歳　日赤勤務　臨床検査技師……140
平田　悟　二十二歳　富士通勤務……145
▼火のステージ……149
萩沢　隆子　二十六歳　修行者　津田塾大学卒……150
堀　富士男　三十六歳　塾教師……154
神田　豊　二十二歳　修行者　元警備員……158
R・N　十七歳　高校生……163
▼風のステージ……169
新実　智光　二十三歳　修行者　元マルサン勤務……170
井上　嘉浩　十七歳　高校生……175
宮本　公恵　二十六歳　修行者　元グラフィックデザイナー……180
満生　均史　三十五歳　満生不動産経営……188
西沢　直人　二十二歳　修行者　元防水工……193

▼空のステージ……199
上祐　史浩　二十四歳　修行者　元宇宙開発事業団勤務……200
堀口　雄一　三十八歳　医　師……207
広田　耕之　二十四歳　修行者　東京芸大大学院卒……212
二宮　耕一　二十一歳　修行者　元愛知製鋼勤務……222
▼ポアのステージ……227
大内　早苗　三十歳　修行者　元エスティシャン……228
佐伯　一明　二十六歳　修行者　元営業マン……232
青山　仁志　三十歳　会社員……240
飯田　エリ子　二十六歳　日産火災海上保険勤務……248
▼悟りのプロセス……253
大内　利裕　三十四歳　修行者　元鍼灸師……253
船木　俊子　四十六歳　画　家……259
杉本　繁郎　二十八歳　修行者　元東京証券勤務……266

▼超能力及び現実生活に表われる修行の功徳……275
早川　紀代秀　三十七歳　会社員……275
鈴木　伸幸　二十歳　慶応大学　大学生……280
中山　浩子　五十歳　主婦……285
松下　晃敏　四十六歳　大学職員……290
中村　昇　二十一歳　修行者　大学中退……294
景山　樹良　五十八歳　個人タクシー運転手……297
三井　宣子　三十一歳　アルバイト……301
木庭　稔雄　三十五歳　証券マン……305

この章には、麻原彰晃尊師の一九八七年五月の集中セミナーでの説法と、尊師がこの本の為に特別に書かれたものを編集しました。
なお、専門用語の意味については、章の終わりにまとめて解説しましたので、ごらんください。

◉第一章 真理——苦からの解放

第一話　修行の目的とプロセスそして成就

▼苦へのプロセス

今日は修行の目的、修行のプロセス、そして成就――この三つについて語りたいと思う。

はっきり言ってね、この世が楽だと考える人、そういう人は修行者向きではない。なぜなら、まだ行きつくところまで行っていないんだよね、そういう人は。苦を感じるようになって修行を始める途中の段階とも言っていいね。

これを理解してもらう為には、私達の真我が自分の真の姿を見失っていくプロセスを知らなければならない。真我とはね、本当の私って言ったらいいかな、私達の根本となるものだ。真我に意志とかイメージとかが加わったのが魂なんだよ。こう言った方がわかり易いかも知れないね。

その真我はね、功徳・悪徳・行動というね、三つのグナに影響されているんだ。三つのグナに影響されることによってね、どんどん自分本来の姿を見失って錯覚に陥っていってしまう。その

錯覚に陥っていく、まだ途中の段階の人は、さっき言ったように、この世が楽だと考えているんだよ、ね。また、この世が絶対だとも考える。ね、いいですか。

しかしね、そのプロセスの最後まで行ってしまうと、つまり行きつくところまで行ってしまうと、今度は苦を感じるようになるんだよ。この世に生まれ変わってくることの苦しさ、無意味さなどをね、痛切に感じるようになるわけだ。真我がたくさんのことを経験した結果、それに気付くんだよ。

▼経験こそ修行の第一歩

例えばね、ここにオレンジがあるとしよう。オレンジ——もしオレンジを食べたことのない人がオレンジを食べて、「ああ、なんておいしんだろう。」って思ったとするよ。最初においしいと思っても、一日に五個、十個、二十個、三十個とね、食べていってごらん。毎日毎日それを続けてごらん。必ず飽きる。そうじゃないか。

それと同じように、すべての経験においてね、いずれ飽きるときがやってくる。恋愛だってそうだ。あるいは、地位とか名誉、これも同じだ。お金もそうだね。

この世での経験が激しければ激しい程、経験が多ければ多い程、この世の中に飽きてしまうんだね。これは潜在意識が満足しきってしまうからなんだよ。そうなると、この世は苦だ、この世

は幻影に過ぎないとね、考えるようになってくるんだ。そして、この世から脱け出したい、苦しみの世界から脱け出したい、と望むようになるんだよ。

じゃあ、一体この苦しみの世界から脱け出すのにどうしたらいいんだ、とね、このことについて考えるようになってくる。こうして、修行によって魂の解放を願うようになるというわけだ。以上が人間が修行に入っていくプロセスなんだよ。

▼迷妄を取り除け！

さて、こうして魂の解放を願うようになった。次の問題は、その方法を知ることだよね。

魂が解放される為には、魂と肉体とがね、別個のものだという事実を感じ取らなければならない。次に、夢の世界とアストラル世界が、私達の魂と別個であることを理解しなくてはならない。そして最後にですよ、心と魂が別個であると認識する。いいですか。

これを認識する為には『理論的に認識する方法』と『経験的に認識する方法』の二通りの方法がある。そして、そのどちらも私達には必要だ。

経験として認識する方法は解脱だよ。論理的に認識していく方法は悟りだよ。どうしたら、その悟り、あるいは解脱をね、私達は得ることができるんだろうか。今度はこれを考えなくてはならない、ね。

ここに愚者と智者のふたりがいたと想定しよう。愚者は、例えばここでオレンジを一個買う。それを食べて、そのおいしさを味わったとしよう。次の日も二個三個四個と買って飽きるまで食べる。そして、オレンジに飽きる。もはやおいしくはない。次はリンゴにしようとね、彼はリンゴを食べる。飽きるまで食べる。次はバナナだ。バナナで同じことを繰り返す。こんなことを、懲りずに繰り返しているような人は、悟りや解脱までとても時間がかかるだろうね。

ここで、智者だったらどういうプロセスを辿るのかね。その人は、オレンジに飽きたとき、「なぜ私はオレンジに飽きたんだろう?」と考える。そして、「私は今度は、リンゴを食べたいと思っているけど、ひょっとしたらリンゴにも飽きるんじゃないか。」っと考え至るだろうね。そして、リンゴに挑戦するとき、「その時の心の変化をできるだけ客観的に見ていこうじゃないか。」と決心する。そして、リンゴを食べていきながら、個数を増やしていきながら、ね、心の変化を理解していく。

そうするとねえ、オレンジとリンゴ、これくらいで飽きる経験は済んでしまうわけだ。飽きる経験が済んでしまうから、次のバナナまでいかない。いく必要がないんだね。

オレンジやリンゴがね、車に変わっても同じだね。私は車の名前をあまり知らないけれども、例えばブルーバードね、例えばスカイラインね、例えばシビックね。初めにブルーバードに乗っていてね、飽きてスカイラインにする。次はシビックにしてみる。これと、オレンジ、リンゴ、

バナナのプロセスは全く同じだ。
異性について考えても同じだよ。A子さん、B子さん、C子さんと心が移っていくプロセス、これも全く同じだ。ね？

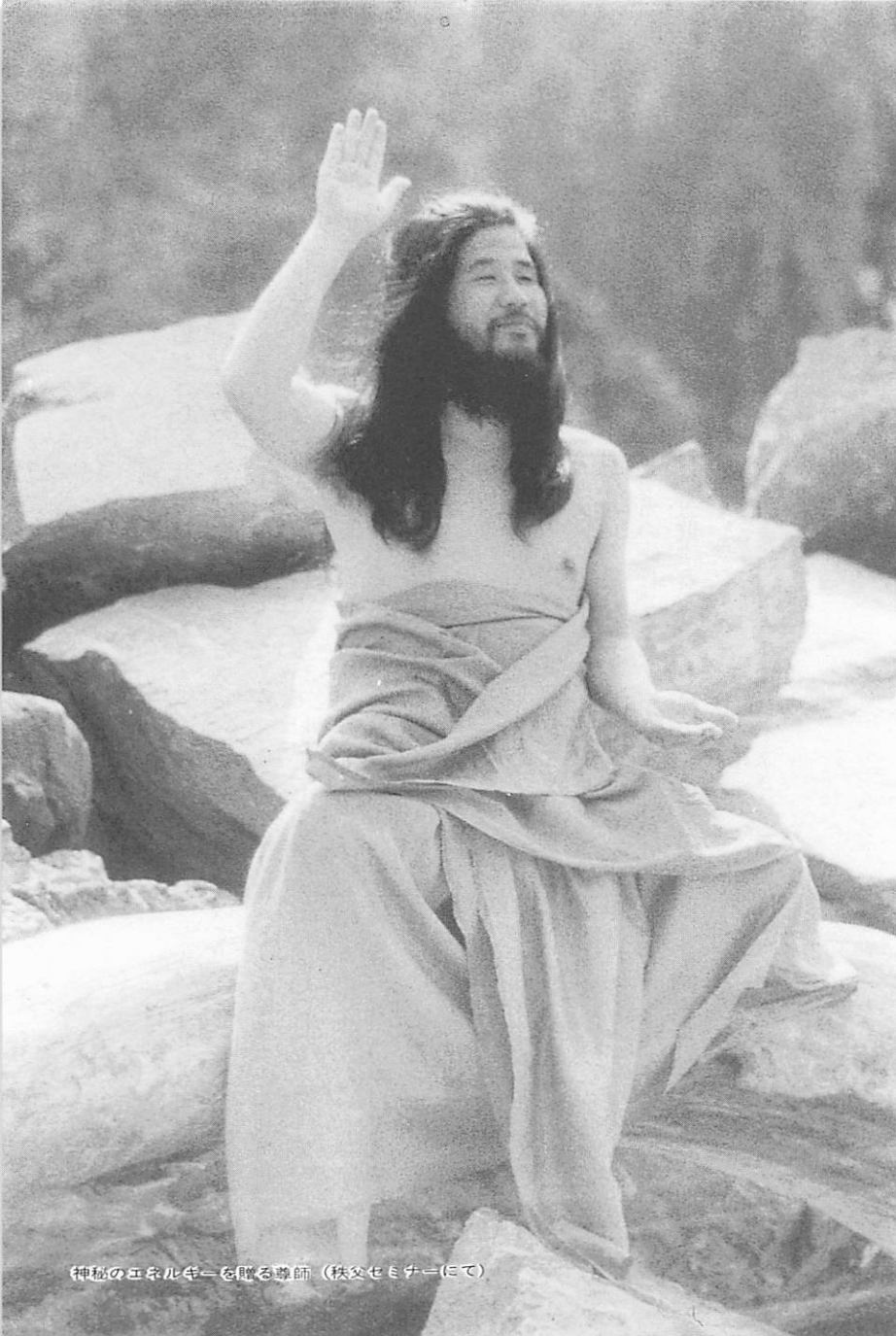
▼悟り——パラダイス

私達は、だから、もしオレンジで心の動きを理解したならば、車に対しても異性に対しても、惑わされることはないだろう。その時、自ずと悟りが訪れます。

急に、悟り、なんて言葉がでてきてびっくりしたかな。オレンジや車と悟りが、なにやらつり合わないような気がするかもしれない。しかし、悟りとは心の動き、あるいは真我がどのようにして闇の中に入っていくかをね、客観的に見て理解できる状態のことなんだよ。いいですか。これが悟りのプロセスだ。そして悟りに必要なのは、ジュニアーナ・ヨーガなんだよ。ジュニアーナ・ヨーガとは、分析的ヨーガとか哲学的ヨーガとか言われている。

悟りを開くとね、今何をなさなければならないか、この人生というものは何であるか、ね、それが理解できるようになってくる。

そうすると、お金に興味が無くなってくる。まあ、お金は一定量は必要だ。しかし、さして私達のね、人生に影響はない。例えば、ある人が三十万円もする背広を着ていてね、自分が五千円



神秘のエネルギーを贈る導師（秩父セミナーにて）

のジャージであったとしても、トレーニングウェアであったとしても、そういうことは問題でなくなってくる。例えばある人が、最高車であるプレジデントに乗っていて、自分が七十万のファミリアに乗ってたとしても、大した問題ではなくなってくる。例えば、ある人が美女と歩いていて、例えば自分がそんなに美人じゃない人と歩いていたとしても、大した問題ではなくなってくる。

だって、そんなことよりも、ずーっと大切なことに気付くんだから。一日一日をいかに充実して生きるか、ね。いかに、真我が本当に望んでいる絶対自由、絶対幸福、そして歓喜を求めて生きるか、ね。この点に少しずつ焦点がしぼられてくるんだよ。そして修行に入り、解脱へと向かうんだ。

▼覚者こそ解脱する

ここで、ちょっと触れておきたい。私は悟りを得た後修行に入り、解脱へと向かうと言った。これは、悟りを開いてからが本当の修行であり、本人も修行に没頭できるということなんだ。悟りを開いた人は、もはや修行に失敗することはない。修行以外のことには見向きもしなくなる。——そして、必ず解脱を果たすことができるんだ。

私がね、ジュニアーナ・ヨーガを重視しているのは、まさにこの理由からなんだ。あなた方に、

一日も早くジュニアーナ・ヨーガで悟ってもらいたいと思っているんだよ。そうしないと、潰れてしまう可能性があるからね。潰れてしまう例——これは、このオウム内でもある。今までにも何人かの弟子が潰れていったよ。これは事実だ。

一番ひどい一件があったのは、私がインドに行っていた留守中のことだった。Rという男の弟子がいた。彼は以前、バグワン・シュリ・ラジニーシのところにいてね、私のところにきたとき、彼はすでにクンダリニーが覚醒していた。

そして、彼はね、師の無観念の、つまり一切の観念は必要ないという教えの影響を受けていた。そして、『一切の観念は必要ない』という〝観念〟を持っていたんだ。

オウムではね、奉仕修行と瞑想修行をすることが弟子の条件となっている。厳しい規律も守らなければならない。それまで、男女が同居していても、そのことで男女の性的な問題が持ち上がることなど、一度もなかった。

ところがRは、「男性と女性が一緒に風呂に入ってはいけないなんて、それは観念じゃないか。」と言い出した。私は、解脱していない男女が一緒になると、そこで苦が生じるということを知っていた。その為に禁止していたのだった。

Rは無観念という観念を利用した。利用して、自分の性的欲望を満足させたかったのだった。結果的に、彼は自分の他に女性ふたりと男性ふたりを巻き込んだ。そして二組のカップルができ、

肉体関係を持ったのだった。

最終的に立ち直ったのはたったふたり。肉欲に溺れていたRとその相手、そしてもうひとりの男を――彼は別の理由だったが――私は破門した。

▼救済の門――それは『信』

このようにね、悟っていないと、修行者であってもね、あっさり潰れてしまうことがあるんだよ。巻き込まれても立ち直ったふたり、彼らは私に対する信が強かったからね、それができたんだと思うよ。

皆さんも悟ってはいない。こんな話を聞くと心配になるだろう。でもね、グルや神に対する信を持ち続けなさいよ。私を信じなさいよ。そうすれば、私はいつでもあなた方を見守って、助けてあげられるからね。

▼ジュニアーナ・ヨーガは真理のサイン

また、こういう恐ろしい話をしなくてはならない。ジュニアーナ・ヨーガで悟りを開く。クンダリニー・ヨーガで解脱する。しかし、解脱する為にもジュニアーナ・ヨーガが必要なのには、もう一つ理由がある。それは、クンダリニーのプロセスだけだと、成就できなかったら気が狂って

しまうということなんだ。ついこの間も、他のヨーガ道場のインストラクターが気が狂って自殺したという話を聞いたばかりだ。クンダリニーのエネルギーはそれほどに強い。しかし、ジュニアーナ・ヨーガで悟りを開いていれば、クンダリニーのエネルギーを正しい方向に使えるようになるので、気違いになってしまうというようなことはない。

ジュニアーナ・ヨーガの良いところは、「自分の状態を把握して、乗り越えていく。」というところにもあるんだよ。例えば、「病気で苦しんでいるんだ。」と。また、「私は今経済的な問題で苦しんでいるんだ。」という人がいる。あるいは、「恋愛問題に悩んでいるんだ。」という人がいるかもしれない。私はこう言うことができるよ。ジュニアーナ・ヨーガで健康を得なさい、経済的に安定しなさい、幸せな恋愛結婚をしなさい、とね。

直接そういう効果を持つものは、ジュニアーナ・ヨーガではなく、ラージャ・ヨーガあるいはクンダリニー・ヨーガなんだけどね。ジュニアーナ・ヨーガによる精神的基礎がないとね、修行者にあるまじき現世利欲の方向へ行ってしまうんだ。それはカルマとなってしまう。

▼オウムの修行

オウムの修行というのは、非常に効果がある、ね。例えばプラーナーヤーマで二分、三分とクンバカ（保息）ができるようになったならば、相手を自由にコントロールできるよ。欲しいもの

はすべて手に入るよ。だからこそ、精神的基礎をジュニアーナ・ヨーガで作っておかないと堕落してしまうわけだね。悪いカルマを作ってしまうわけだね。

だったらどうしたらよいか?この世は仮の居場所だからね、必要な分だけを取って還元しなさい。いいですか。それをするなら、今の苦しみを乗り越えることができるだけでなく、来世でも素晴らしい世界に行けるからね。そして何よりも、安定した平和な気持ちでね、人生を歩むことができるからね。

▼解脱のプロセス

では次に、解脱のプロセスに移るよ。解脱というのはね、私達の執着、これを物理的に消してしまうプロセスだ。

例えば、お腹がすいたときはどこで感じるか?お腹で感じるね。性欲はどこで感じるか?このスヴァディスターナ・チャクラで感じるね。瞋(いか)りはムーラダーラ・チャクラからの熱だ。それらは、ストレスのエネルギーとも言える。ところが、凡夫はそのエネルギーの行き場を持っていないんだ。いいか?だから、空腹感を感じたら、その空腹感がおさまるまで食べなければならない。性欲があったら我慢して精神的におかしくなるか、あるいは漏らすかしなければならない。ね?瞋りの感情というのは、コントロールすることなど到底できない。これが凡夫だ。

しかし、これらのストレスのエネルギーの流れ道が開いたならば違ってくる。あなた方のスシュムナー管、これが開いたならば、それがストレスのエネルギーの流れ道となるんだ。

例えば、性欲が起きたとき、スシュムナー管が開いていたら、性欲はスシュムナー管を通って上昇する。上昇して頭頂に集まる。食欲も同じ。瞋りも同じだよ。いいかな。だから、第一に私達は背中の中心にあるスシュムナーを開かなければならない。いいね？

そして、上昇したエネルギーがサハスラーラを崩壊させるとだ、ツァンダリーが起こるね（ツァンダリーについてはP75を参照のこと）。

そのツァンダリーによって、上昇したエネルギーは、下降する。今度は、同じ道を辿らないで身体の中央を降りてくる。そこで、まあいろんな神通力が起こるわけだけれども、超能力が起こるわけだけれども――私達の食欲、性欲、瞋りというものはね、循環するようになるわけだ。いいですか。そうすると、例えば性欲は起きた瞬間にツァンダリーのエネルギーに変わるね。したがって、私達は全くストレスを持たない状態になるわけだ。

それだけじゃないよ。この食欲にしろ性欲にしろ瞋りにしろ、私達の大脳をいろんな形で振動させるんだ。興奮させて、喜ばしてくれるんだ。だから快感状態にひたることができる。何もしないのに、いつも気持ち良い状態でいられる。

――これが解脱だ。私達がこの世に生まれているのは、煩悩があるからだったね。欲望や執着

があるから輪廻の輪から抜け出せなかったんだね。だから、私達が煩悩から解放されたならば、私達はこの世という苦界に生まれてくることもない。幸せな高次元の世界へと行くことができるんだよ。それが解脱なんだよ。

要するに、理論的追究をした場合『悟り』が起きる。物理的追究をした場合、『解脱』が起きる。この『悟り』と『解脱』を合わせてしまえば、最高の状態になるんだよ。

▼偉大なグル

一つつけ加えておこう。解脱のプロセスの途中で、もしサハスラーラ・チャクラが崩壊しなかった場合についてだ。サハスラーラ・チャクラが崩壊しなかったらどうなるか？これは大変なことになるよ。何しろストレスのエネルギーが下から上に移動したにすぎないんだからね。先程述べた、気が狂う危険性があるのがこの時なんだ。

例えば、性欲のかたまりの人間は、アストラル世界で性欲を満足させるようになるだろう。例えば、瞋りに満ちている人はアストラルの世界で闘争するだろう。私は、実はこのタイプだった。また、食欲過多、あるいは無智の人は、ね、いつも眠たくなるだろう。寝てばっかしいるだろう。

しかし、成就したグルがついていれば、必ずサハスラーラ・チャクラを崩壊させることができるだろう。その危険な状態をコントロールすることができるからね。まあ、悟りを開いた後に解

脱のプロセスに足を踏み入れるのがベストなんだけれどね。この理由は先程も説明したね。

では、今日の説法はこれで終わりにします。

第二話　悟りの障害と六つの極限

▼苦楽の因は条件だ

さあ、今日は少し思い込みについて話そうかね。思い込みが、いかに悟りの障害となっているか。どうしたら、その思い込みをね、私達は取り除くことができるか、ということに話をしぼりたいと思う。

ここに一軒の家があるとしようね。その間取りは十五畳、八畳、八畳、八畳だ。もしその家にだよ、今まで1LDKの家に住んでいる人が引っ越したとしよう。そうしたら、「私達は、なんと広い家に引っ越すことができるんだろう。」とね、感激するかもしれないね。

ところが、もしその3LDKの家よりも、二倍も三倍も広い家に住んでいる人が、その3LDKの家に引っ越したならばどう考えるだろうかね。「ああ、私はなんて運が悪いんだろう。運が悪いから、こんな狭い家に引っ越さなければならなかったんだ。」と考えるんじゃないかな、ね？で

も、ちょっと待ってくれ。ここで問題となっている3LDKは同じ家なんだよ、空間の大きさというものは同じなんだよ。ところが、1LDKから3LDKに引っ越した人にとっては「広い。」、逆により大きな家から引っ越した人にとっては「狭い。」と感じるわけだ。どうしてかねえ。

さあ、今家の話をした。車はどうだ？　例えば、お金が無くてね、やっと車の免許を取った人にとってね、三十万、四十万――今、そのくらいじゃないか――六十万でいいだろう。六十万円の中古車を手に入れたときの感激といったらね、はかり知れないだろう。やっと私もオーナードライバーになることができたと、ね。

ところがだ。三百万、四百万の車に乗り付けている人にとっては、その中古車なんて車などと呼べない代物ということになる。しかし、対象となっている六十万の中古車は同じ物だ。

次は異性だ。まあ、オウムの場合、男性会員が多いから、一応は男性サイドに立って考えるよ。今まで全くモテなかった男がここにいてね、ごく普通の女性と巡り会ったとしよう。その女性が自分に好意を持ってくれた。自分だって彼女が嫌いじゃない。そしてお付き合いすることになったとしようね。それは感激するだろうね。

反対に、今度はモテすぎてうんざりしている男がいるとしよう。同じ女性が「好きです。」と表現したら、その男はどう感じるだろうね。想像つくだろう？

いいですか。条件となっているものは全く同じなんだ。3LDKの家、六十万の中古車、ごく

普通の女性――。しかし、それらに対する評価は人によって違ってくる。そして、それは例えばあなた方が1LDKに住んでいるか、ね、あるいは3LDKの二倍も三倍も大きな家に住んでいたかによってね、反応が同じになるはずだ。今までお金が無かったか、あるいは高級車に乗り慣れているかによってね、やはり反応が同じになるはずだ。これは異性についてもね。同じだ。

で、それを「すべての苦楽は条件によって成立するんだよ。」と釈迦牟尼如来（しゃかむにによらい）は言っていらっしゃるんだよ。だから、私達がそれらの条件に影響されて生き続けている限り幸福は無い。

おかしいじゃないか、例えば1LDKから3LDKに移ったとき、幸福になるんじゃないか、と言われるかもしれない。例えば1LDKから3LDKに移ったとき、幸福を感じるんじゃないか、と。確かにこのときは幸福を感じるだろう。

しかし、この世は無常だ。絶え間なく移り変わっていく。そうだろう？3LDKから再び狭い家に移らなければならないかもしれない。やっと買えた六十万の中古車を手離さなければならなくなるかもしれない。そのときは不幸を感じるだろう。彼女が、今度は他の男性を好きになってしまった。「さよならしましょう。」なんて言われたら、これも苦を感じるだろうね。

▼「思い込み」をなくせ！

このように、外的環境・条件によって、私達は喜びを感じたり、苦しみを感じたりしているん

だ。無始の過去から、想像もつかないような遠い遠い無始の過去から、私達は苦しみ続けている。あるいは、一時的な喜びを味わい続けている。これらは、さっきも言ったように、環境や条件に左右されているにすぎないんだ。思い込みがあるからね。しかし、こんなことに惑わされていたら真実は見えないね。だから『思い込み』は悟りの障害でもあるんだよ。

▼悟りのステージ

では、悟った人はどう感じるか、どう考えるかということになってくるね。あなた方がもし悟りを開くとね、セルフ・リアライゼーションの段階に入るとね、一切の影響を受けなくなるんだよ。

3LDKは、3LDKにしか見えなくなってくる。それは、大きい空間から狭い空間に移ったとしても、狭い空間から大きな空間に移ったとしても、そのことからは何の影響も受けない。1LDKは1LDK。それ以外の何物でもない。苦も感じなければ楽も感じない。3LDKについても同じだ。

六十万の車に乗ろうが、二百万の車に乗ろうが、三百万の車に乗ろうが、これも全く何も感じなくなる。

あるいは、どんなに外見の美しい人が現われようが、そんなことに一切こだわらなくなる。影

響を受けなくなる。相手の心の美しさ、清らかさだけを感じるようになってくるね。たかだか、この短い五十年六十年の期間にだよ、都合が悪くなれば「はい、さようなら。」というようなね、人間に対して興味を抱かなくなる。本当に心が清らかで、愛してくれる人たち——それが誰なのか、あなた方のね、直感智によってわかるようになる。そう、これが悟った人の状態だ。

▼あるがままに見なさい

特に修行中の人、人を見る目を持ちなさいよ。気を付けなさいよ。なぜなら、普通人は自分を良く見せようとするからね。例えば女性の化粧、あれは自分をより美しく見せようとする手段だと思うね。もっとも最近は男性用のメークアップ用化粧品も出まわっているそうだけども。

私の友人にO君というのがいた。O君は恋愛結婚をした。ところがだ、結婚後、彼女が化粧を落とした段階で、ショックを受けたそうだ。そんな夫婦関係だったら、簡単に崩れてしまうよね。

オウムの女性達を見てごらん。あまり化粧をしないだろう、ね、皆さん。でも、心の美しさがまわりに輝いている。化粧をするよりも、心を磨き上げて心の透明さ、心の清らかさを表現した方がずっと素晴らしいんだよ。修行していると、そのことに気付くだろうよ。皆さんも悟りの道を歩くならば、ありのままをありのままに表現しなさい。今、例として化粧を取り上げただけであって、美しさだけのみならず、すべてをありのままに表現しなさい。そうすることが、あなた

方の最高の運につながるし、死後もいい世界へ行けるんだから。だって、ありのままに表現するというのは、欲望を落とすってことでもあるからね。欲望にこだわっている人が、自分を美しく見せようとしたり、大きく見せようとしたりするんだ。皆さんはできるだけ早く、こんなレベルから離れなさいよ。そして、もっと先へ行きなさいよ。

▼あるがままに生きなさい

悟りを開いた人が、条件や環境に左右されず、ありのままに見ることができるというのも、思い込みが無いだけでなく欲望が無いからだ。いい条件から悪い条件になったとき、無欲だったら何も感じない。例えば、大きな家から小さな家に移ったときね、「ああ、こんな狭いところはイヤだ。大きい家がいい。」という気持ちがあるから苦を感じるんだ。望まなければ、欲しがらなければ、どうってことない。そのままを、何も感じることなく受けとることができる。しかも、正確に対象物を見ることができるよ。

だからね、仏教やヨーガの教典ではね、「この世をあるがままに見なさい。そして自然に生きなさい。」と言っている。「自然に生きなさい。」とはどういうことかというとね、与えられた条件以上のものを望んではいけないよ、ということだ。その与えられた条件が、あなた方に与えられたカルマなんだからね。人間はカルマによって生きているんだよ。

ただ、このカルマというものは変わるんだ。私達がね、六つの極限的修行に挑戦する限りカルマは変わってくるんだよ。それでは、良いカルマを作り私達を幸せに導くこの修行について説明することにしよう。

▼運命を変える秘密の修行

この修行は、大乗仏教では六波羅蜜と呼ばれているものである。布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧の六種の修行を極限まですることなんだよ。

▼「布施」は幸運をもたらす

その修行の根底となるのは布施の極限だ。今日の参加者の七十五パーセントはセミナーを二回、三回、四回と経験している人だからわかると思うが、これには三つの極限的布施がある。一つは財施、次は安らぎを与える布施、そして法施だ。

財施は、――今私達は食べていければいい、着ていければいい、あとは世の中の為に、あるいは真理の為にすべてを差し出そう――というものだ。

次の安らぎを与える布施、安心施とはこういうものだ。私達は真理の法に触れている。だから私達の心は安らかである。確かに、あなた方は成就していないので少しは苦しみが残っているか

もしれない。けれどね、それよりもたくさんの苦しみを持っている人達がいる。その人達を安らがせてあげようじゃないか。心を解放させてあげようじゃないかとね、これを実行するのが安心施だよ。

では、最後の法施とはどんな布施なのだろうかね。それは、こういうものなんだ。私達は真理の法、宇宙の法則というものを知っている。これをみんなに聞かせてあげよう。教えてあげよう。そして、みんなを真理のもとに集わせるように努力しようじゃないか、というものだ。それが法施だ。

▼「持戒」は魔境を越える

そして、この布施の極限を通過したときにグルはね、まあ、あなた方の場合たぶん私になると思うんだが、ひとりひとりに戒を与える。あなたはこの修行を一生懸命やりなさい。現実生活において、これはやってはいけないよ、というね、戒を与えるわけだ。そしてもらった方はそれを極限まで実行する。これが持戒の極限だ。

まず、布施功徳によって、あなた方にいいことが返ってくるだろう。あなた方の環境は変わってくるだろう。持戒の功徳によって、あなた方に悪いことが起きなくなるだろう。魔境から抜け出すことができるだろう。

このように、布施、持戒というものは、一見困難ではあるけれど、やりがいのある修行でもあるんだね。

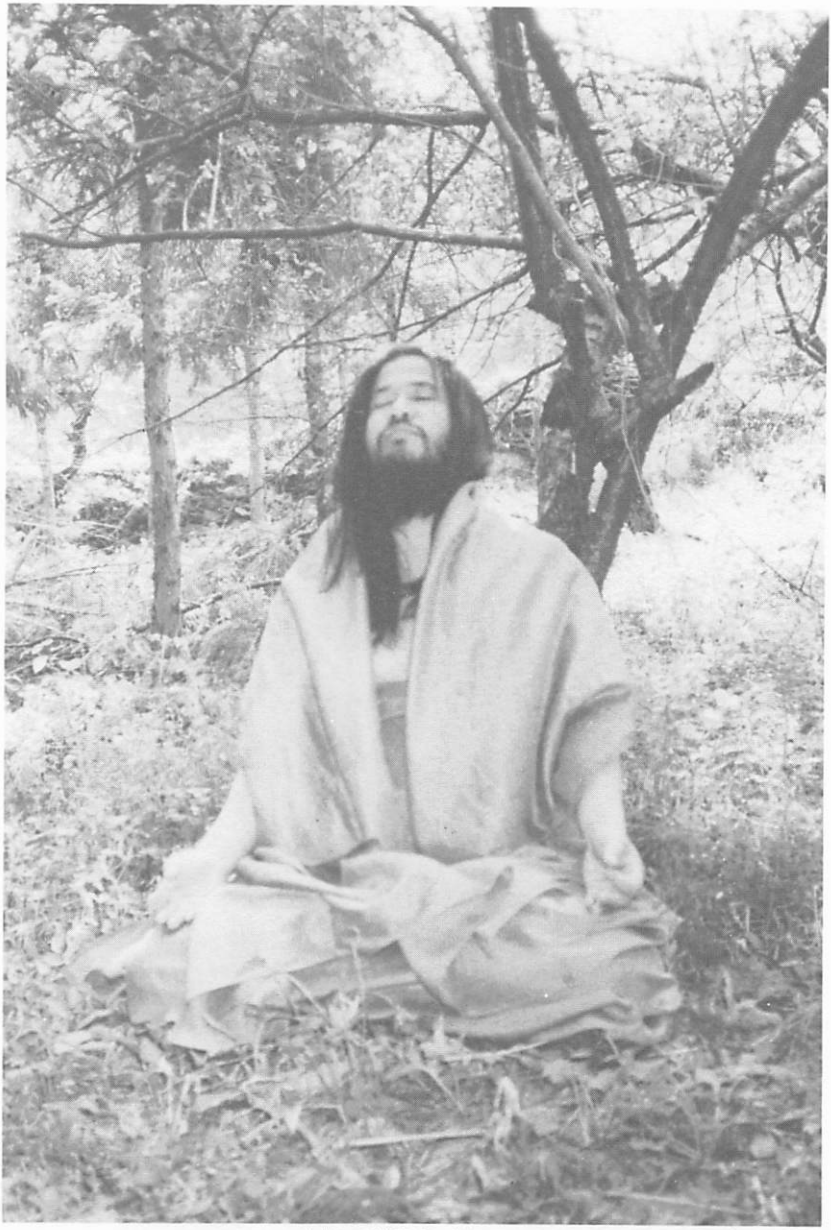
▼意志力は『忍辱』から

次に私達は、忍辱の極限、つまり耐えることの極限の修行をしなければならない。自己の限界に断えず挑戦するということだ。

例えば瞑想修行は辛いね。私も瞑想修行を始めた頃は、瞑想を三分続けることさえ大変だったものだ。しかし、私は耐えたよ。耐えることで継続時間を少しずつ延ばしていった。今では十五時間でも十六時間でも平気で座れるようになっている。これは忍辱の極限の修行の賜物なんだよね。

今述べたような忍辱の極限の修行によって、私達は強靱な意志の力と強烈な精神集中力を持つことができるんだよ。これらの力が、心を一点から離さない状態に到達する為の素地となるんだ。あ、この心を一点から離さないというのはね、ラージャ・ヨーガやジュニアーナ・ヨーガに必要なんだ。

この修行は現実生活においても効果を発揮するんだよね。だって、普通の人が苦しいと思っている環境に対して平気で耐えられるようになる。苦しみの限界が広がるわけだ。これはすごいこ



山中にて修行中の尊師

とだよね。

▼三つの極限が「精進」を支える

布施、持戒、忍辱と進んできた。では次は？もうみんなわかっているね。精進、修行に対する精進、真理の道を歩く為の精進ね、これが私達に待っているわけだ。これまでの三種の極限――布施、持戒、忍辱――を土台として、精進の実践に入っていく。要するに、あなた方が今まで得た一切の功徳がベースとなるわけだね。

それらをベースに何の精進をするのか？教典を読むね。例えば、真理の法を流布するね。布施の極限での法施と、この真理の法の流布は違うよ。法施は単にまわりの人に対して法を説くことだが、この精進の極限ではそれでは足りない。あなた方が出て行って法を説かねばならない。「皆さんは間違っている。真理の法はこうである。」とね。これが精進の極限の修行だ。瞑想をするにも、何はさておき瞑想するという心構えで没頭しなくては精進にならないよ。

例えば今台所班でね、あなた方が食事をする陰で、ひとり必死に食器洗いをしている男がいる。ね、彼がやっているのは忍辱の極限的修行であると同時に、精進の極限的修行だ。そうだと思わないか？皆さんの食器をきれいに洗ってね、食事の時にはきれいな食器を出してあげて気持ち良く修行してもらおうとね、一生懸命やっている。毎日毎日食器洗いだけをやっている。人間だも

の、こんなこと毎日やっていたら途中で投げ出したくなってしまうよね。しかし耐えて続ける。これは忍辱だ。そして、これも自分の修行だと自覚し、しかも人に修行の手助けの一端となれば、と更に頑張る。これはりっぱな精進だよね。私は素晴らしいことだと思っているよ。

このように何でもかまわない。「これは修行である。」これを認識して、毎日毎日限界の修行をする。それが必ず法とつながる。これが精進の極限の修行なんだ。ポイントは、だからここではね、真理の法とつながるかどうかだ。

▼「禅定」とは?

そして、やっとこの段階を終了して初めて、本当の瞑想修行である禅定に入っていけるわけなんだね。

私は三月のセミナーでこういうことを言っているね。瞑想修行に入ったならば、二つの道があるんだよって。一つは『大乗の仏陀』になるやり方、もう一つはね、『タントラの仏陀』になる為のやり方。この二つがあるんだよってね。

大乗の仏陀というものは、単に真理を悟り、その法を説く。タントラの仏陀というものは、真理を悟り法を説くだけではなく、スーパー・シッディを見せて信を獲得する。この二つのタイプの仏陀がいるわけだ。

まず、普通の仏陀である大乗の仏陀からいくと、まず禅定がくる。禅定は漢訳なんだが、あなた方のわかる言葉でいうなら瞑想だ。ここでの瞑想は、ただ単に座るだけではないよ。瞑想の根本となるものは、つまり課題となるものは「私は誰なんだろう?私は何なんだろう?」ということだ。

私は麻原彰晃だよ。しかし、それでは、本質を示していない。麻原彰晃というのはね、単に名前という観念をね、皆さんと私との間でかわしたにすぎない。麻原彰晃が名無しのゴンベエであっても、あるいはゲゲゲの鬼太郎であっても、ね、何でもかまわないわけだろう。

▼『私はだあれ?』

では、「私はだあれ?」の瞑想法について少し話そうね。

私は誰であるのか?私は人間である。いや、この人間も観念だから排除だ。人間という言葉は何も表わしてはいない。人間という言葉を使って、実態がわからないままに終わらしてしまってはならない。

私は生き物である——と、これはどうだ。そのとおり。これは正しいね。私は最低限生きものである。植物人間になってしまったとしても、最低限生きものであるんだ。

しかし、死んでしまったら生きものとは言えない。そこで簡単に私の定義が変わってしまうじ

ゃないか？じゃあ、私は生きものではないんじゃないか？断わっておかなくてはならないけれど、死んでも魂は存在し続けると信じる人の瞑想プロセスとして、私は例をあげているよ。成就した人間だと、『死の体験』などを通して魂の永遠性を実感するものだけどね。

さて、続けよう。私は感覚器だろうか？触覚で感じるもの、これが私か？じゃ、もし感覚が無くなったら私は存在しているか、していないか？――私は存在しているよ。だとしたら私は感覚ではないね。目が見えなくなっても私は生きている。耳が聞こえなくなっても私は生きている。味覚がなくなっても私は生きている。皮膚感覚が無くなっても私は生きている。だから私は感覚ではなかった。じゃあ、私は何だろうね。

もう、みんなわかっているね。今やっているのは四念処の瞑想だね。心でもなければ観念でもない。では一体何か、とシャンバラ新聞にはここまでしか書いていなかった。ね、今日は更に先に行ってみようか。

私は、何かを決定する意志か？それとも夢の中の自分、あるいはアストラル世界の自分が私なのか？これも違う。じゃあ、そのアストラル世界に投影しているコーザル世界にある意識が私か？これも違う。

そこで、四つの極限の修行をやってきた菩薩は苦しむ。徹底的に苦しむ。一体私って何なんだ？それを追求している段階で、あるときふと気がつく。

――なんだ、私というものは透明な水だったのか――

ここらへんは、自分で修行して経験してもらうしかないね。このときの心境は表現不可能だからね。そして、ここまでくると、あなた方は何もかも直感的に知ることができるようになる。その状態の人を目覚めた人、つまり仏陀というんだ。これが大乗の仏様だよ。

あれ、おかしいな?私達は奈良の大仏さんを仏様だと言っている。仏陀だと言っている。しかし、あれは仏像であって仏陀ではない。鎌倉の大仏さんも同じだ、これは。真の仏陀というものは、今私が話したとおり目覚めた人のことなんだよ。その人は、一切の人達をね、論理的に御することができる。一切の世の中の動きを完全に理解できる――ね、いいですか?まあ、これくらいでいいだろう。これが大乗の仏陀なんだよ。

▼基礎こそタントラブッダへの道

ところが、一部の仏教徒たちは考えた。こんなんじゃしょうがない、とね。それでは、ちょっと頭が良ければ仏陀になれるじゃないか、とね。そこで出てきたのがタントラだ。タンとは密儀、トラとはマントラのことだ。つまり秘密の修行をし、マントラを唱えることによって成就を目差す一派が現われたんだよ。この修行によって成就した仏陀は、スーパー・パワーを持っている。

そして、私達のオウムはこのタントラの修行を行なっているんだよ。このスーパー・パワーを

持ったタントラの仏陀として成就することを目差しているんだよ。いいですか。この修行は今あなた方がやっているグル・ヨーガ・イニシエーションね、あるいは三月四月にかけて行なったツァンダリーのイニシエーションで詳しく説いているからね、ここではやらないけれども、自覚して修行してくださいよ。あなた方がやっているのは、タントラの仏陀になる為の技法だということをね（タントラの仏陀になる為の修行法は第七話を参照のこと）。

私は、セミナー中にあなた方に最高の技術的な指導をすることができるよ。しかし、あなた方にもし基礎がなかったら、例えば瞑想の為に座れなかったら、例えばプラーナーヤーマができなかったら、例えば先程言った四つのね極限の修行ができなかったら、何の意味も持たない。ザルで水を汲むようなもんだ。だから、それはあなた方から積極的に私にアプローチし、あるいは私の高弟にアプローチし、吸収しなさいね。「一体私は今、何をやったらいいのか?」それを考えて吸収しなさい。そして、自分の弱いところを補いなさい。ツァンダリーの瞑想を行ない、グル・ヨーガの瞑想を行ないなさい。そうすることによって、あなた方は必ずやグヤサマジャになることができるだろう。グヤサマジャ、これはタントラでの釈迦牟尼如来だ。変化身だ。

▼疑問をなくそう

セミナーというのは非常に短いよ。今回もわずかに六泊しかとれないね。だから、私もあなた

方にほんのちょっとしか教えることができない。しかし、あなた方も先を急いでいるだろうから、最高のものを指導している。したがって、もう一度言うよ、あなた方は基礎的なことは自分でマスターするようにしなさい。もし、どこかで引っかかったら、きちんと指導員に聞きなさい。もし、指導員にもわからなかったら、私のところに上がってくるからね、大丈夫だよ。疑問を解決して、きちんと消化しなさい。そうすることによって今生で必ずやね、あなた方も仏陀になることができるんだ。

第三話　悟りの道程

▼迷妄の源泉――「観念」

今までに私は、こだわり（思い込み）についてね、それから六つの極限についてね、話してきた。今日は、いかに真我というものが迷妄の中に入っているか、錯覚の中に入っているかということをね、話したいと思う。

実は、数日前の事だがね、ある子とテレパシーの実験をやったんだ。その内容は、彼の恋人の年令を当てるというものだった。その彼女の年令を私は知っていた。しかし、彼女は彼よりも年上だということを気にして、彼には自分の年令を教えていなかった。

その日、彼は私に「彼女の年令を教えてほしい。」と言った。そこで、私は彼女に確認してから教えることにした。年令を隠して交際するのも不自然なことだ。

で、その教えた方法なんだがね、私はテレパシーで彼に送ることにしたんだよ。彼はかなり修

行が進んでいたのでね、私がテレパシーで送った数字、これが彼女の年令なんだけれども、それを正確に受け取ったよ。

しかし、彼が持っている彼女のイメージがその枠外にあったものだから、どうしても納得できない。納得できないものだから、自分の受信した数字の方が間違っていると思ってしまった。つまり、その数字を否定してしまった。

これが何を意味しているかというとね、私達がいかに過去の経験や観念ですべての現象を見ているか——ということなんだよ。

きのうは、思い込みについて話したね。そして、今言ったのは、観念があるが為に、私が送ったテレパシーを受け取ることができなかったという例だ。

▼「悟り」とは透明な鏡

コーザル世界にね、宇宙神素っていうものがある。この宇宙神素は、いわゆるデータ・バンクだ。私達はここから、いつでもどんな情報でも得ることができるんだよ。悟りを開きさえすればね。

しかし、悟っていない人は、そこから折角送られてくるデータを読み取ることができない。なぜなら、さっきのテレパシーと同じにね、観念によってねじ曲げたり、否定してしまってね。そ

れは、片寄った心の働きによってもね、あるいは執着によってもね、正確に受信することができなくなってしまうんだ。透明な水がすべてを映すことができるだろう。心も水のようにきれいにならないといけないんだね。

心をきれいにするというのが、真我を本来の姿に戻していくということなんだよ。つまり、真我を迷妄の中から引き出してやるということ、真我の錯覚を取り除いてやるということなんだね。そのプロセスが悟りのプロセスだ。

▼両極を捨てなさい

さて、悟りの障害となるものについてもう少し話そうかね。例えば、プライドが高い人って、よくいるよね。仮に、ここにプライドの高いA子さんがいたとしよう。

A子さんは、「私はここにこの様にして生きています。」ということをアピールしたい。みんなからの尊敬を集めたい。当然こういう欲求のかたまりだ。

もし、自分のプライドを傷つける人がいたとしたらね、A子さんは断固として闘うだろう。プライドの高いA子さんはこういう動きをするだろうね。

しかし、このプライドは悟りにとっては邪魔なんだ。なぜだかわかるかな?例えば、A子さんは物を上から見つめるようになっているはず。これでは物事をありのままには受け取れない。プ

ライドを満足させることのできる条件に身を委ねたとき、自分を高めようなどとは考えられなくなってしまうだろう。これでは、悟りへ向かうことすらできないね。

じゃあ、そのプライドを潰されたならどうなるか。プライドを傷つけられるくらいだったら怒りもするだろうが、完全に潰されてしまったらどうなるんだろうね。ほとんどの場合、卑屈になってしまうよ。そうだろう？

卑屈になったA子さんは、物を下から見つめるようになる。消極的にもなってしまうだろうね。これでも、物事をありのままに見ることができない。当然悟りからは遠のくということになる。ね、私達はプライドを持ってもいけない、卑屈になってもいけないんだ。

▼愛着の向こうには

ところで、愛着も私達が悟る為には取り除かねばならない障害の一つだ。例えば人に対する愛着だ。いいかな。もし愛着を持った人が、ね、組織を動かしたとしよう。そういう人は、組織を動かしていくにあたってね、自分が愛着を持った人を登用してしまうだろう。愛着を感じる相手に才能があってもなくてもね、そんなことにはおかまいなしだ。逆にね、自分が愛着を感じない人に対してはね、例えその人が組織に必要であったとしても、才能があったとしても、切り捨ててしまうだろうね。

そうするとどうだ？発展すべきはずの組織というものがね、発展しなくなるんだ。ねえ、確かにそこで自己満足はするだろうよ。しかし、彼の役割としては良い仕事をしているとは言えないね。

じゃあ次はだ、愛着と対称的に、何にも愛することができない人のことを考えてみよう。白け切った人がここにいたとしようね、いいですか。その人は一切を信じていない。一切を否定している。愛着と対称的だ。その人が組織を動かしたとしよう。その人は確かに条件を見つめる目は持っているかも知れないよ。Aは性格はいいが力が無い。Bは性格が悪いが組織にとって必要である。そして、ねえ、A子は美人だがこの際関係ない。B子は美人ではないが、この際登用すべきだとね。そこまではよろしい。いいかな。

しかしだ、Aを登用しようとBを登用しようと、ねえ、おそらくこのふたりはついて来ないだろうね。まず、愛がなければ、その言葉の端々に冷たさを感じるだろう。そして、絶えず否定的な意味合いのことを聞かされることによって、心は凍りついていくだろう。AもBも当然その冷たいリーダーからね、離れてしまうだろう。

今、例をあげたふたり、愛着を持っている人と愛の無い人はね、両者とも成就からは程遠いね。なぜってね、成就するときにはすべての人を愛せるようになるし、正確に見ることができるようになるのだからね。悟りを開く（成就）ということが、来世の保証だけでなくこの世の幸せを意

味しているのもこれでわかるだろう。すべての人を愛せる、物事を正確に見ることができるということは、速やかにその人に幸せをもたらす条件なんだね。

▼五本の柱

例をあげて考えてきたわけだけど、悟りを開く為に必要なことを、ここでまとめてみようね。次のことが大きな柱となるんだよ。①観念を崩壊させなさい。②愛着を捨てなさい。③すべての人を愛せるようになりなさい。④プライドを越えなさい。

この四つについて、今日話したね。これは順序は関係ないよ。みんな同じように大切なんだ。それと今日は触れはしなかったが、あと一つ柱となることがある。つけ加えておこう。それは瞋るなということ。やはり瞋りは正確なものの見かた・判断の妨げとなるからね。

▼如来の条件

菩薩道を歩こうと決心した私達にとってね、スーパー・シッディ（超能力）を身につけること、そして最終的に解脱することは必要だ。しかし、それと同じように、悟らなければならないよ。解脱と悟りがそろった段階で真の救済者ができるんだからね。わかっていただけるかな。

深い意味で、事象をすべて正確に見つめる為には、スーパー・シッディが必要だ。しかし、ス

ーパー・シッティだけでもだめだ。なぜなら、それだけでは見たものを正確に理解することができないからね。だから悟りも必要。そして、解脱と悟りが合わさってね、初めて私達は人々を救済することができるんだ。人々を真の自由・真の幸福・歓喜の世界に導くこと、これが私達の目差す救済だよ。

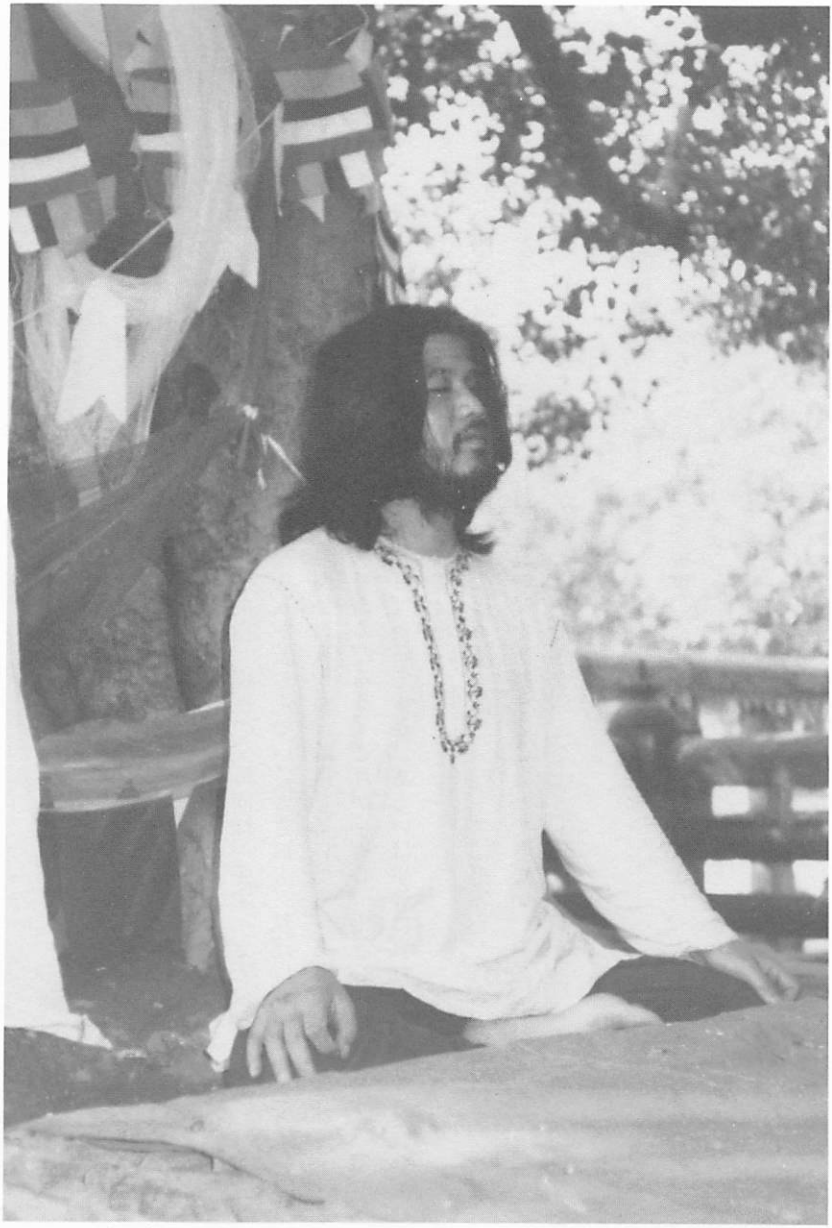
▼幸せをもたらす瞑想

もう少し時間があるようだね。じゃ、ここで悟りに導くとともに、この世でも幸せになれる瞑想法を教えよう。さっき話した、ね。すべての人を愛せる、物事を正確に見ることができるということは、速やかに人に幸せをもたらす——とね。これから説明するのは、この状態を得ることのできる瞑想法で、四無量心というものだよ。今日特にこれを選んだのはね、皆さんが在家の修行者だからだよ。やはり、日常生活でも幸せを実感したいだろうと思うからね。

まず、すべての人や事象を平等に見る訓練が必要だ。

▼平等心は『四無量心』の礎

例えば街を歩いていたとしよう。担架で救急車に担ぎ込まれている人がいる。それを見て、「ああ、今運ばれて行っている人は、私の父親ではない。母親でもない。」と確認したら、知らん顔か



釈迦牟尼如来が成道したマハー・ボディ・テンプル（インド）にて瞑想中

な?でも考えてみてごらん。今生では、あなたの親にはならなかったが、前生においては、あなたの父親だったかもしれない。母親だったかもしれないんだよ。いや、私達は無始の過去から、数えきれないほどの輪廻転生を繰り返しているではないか。だから、一切の魂がかってあなたの父母であったと考えられるのではないか?だったら、現在の父母同様、愛すべきではないか?

このことに気付くことができれば、いかなる人が苦しんでいるときにも、私達は涙を流すことができるだろう。また、愛している人と、無関係の人がね、論議していても、あるいは争っていても、どちらが真実を語っているのかを理解できるだろう。これが平等心。平等心の根底となるものは、一切の物を平等に愛するということだ。いいですか。あるいは平等に哀れむということだ。あるいは平等に喜びを分かち合うということだ。

四無量心の四つ、愛・哀れみ・喜び・平等心は不離一体だ。ベースに平等心を持ち、平等にすべてのものを愛することができなければ、真の愛を実践することができない。真の哀れみを持つことができない。真に喜びを分かち合えることができないんだよ。

▼菩薩の糧『四無量心』

四無量心をマスターすることによって、現世の幸せがもたらされる。また、大乗のボーディサットヴァ(菩薩)にとって、「すべての魂をマハーヤーナに入れるぞ。」という大発願をした私達

ボーディサットヴァにとっては、四無量心は欠くことができない。いや、欠くことができないのではなくて、四無量心の無いボーディサットヴァなどあり得ない。

▼救済のテクニック

ボーディサットヴァには、プライドはいらない。卑屈さもいらない。観念もいらない。ね、そして、すべてのものを平等に見、しかも愛し哀れみ、ね、喜びを分かち合う。この実践が必要なんだ。

四無量心で、ボーディサットヴァの心を持ちなさいよ。そして救済に向かいなさいよ。

救済の方法としては、まず、人々に自分を信じさせなさい。信じさせることから出発だ。その方法としては、病気から解放してあげる、悩みを解決してあげる、という二つの道がある。これらのことで人々を救ってあげ、それをきっかけとして人々を素晴らしい世界へと引き上げてあげなさいよ。悟りと解脱、その両方を合わせたときにそれが可能となるからね。

オウムではその為に、①六つの極限の修行、②煩悩（ぼんのう）を消滅させる瞑想、③四無量心の瞑想を行なっている。

それでは今日の話はこれで終わります。

第四話　その1　三毒の浄化こそ成就の鍵

▼解脱、悟りは気道の浄化から

解脱、悟りとイダー管、ピンガラ管、スシュムナー管との関係に触れてみたいと思う。それから、これは話の成り行きによってなんだけど、チャクラの働きについて話せるかもしれないね。

まずね、私達の身体に三つの大切なエネルギーの通り道がある。これらが、イダー管、ピンガラ管、スシュムナー管と呼ばれる三本の管なんだ。一本は尾てい骨の右側から各チャクラを通過してね、――通過するとき交差するけれど――最後にアージュニァー・チャクラの右に至っている。これがピンガラ管だ。そして、尾てい骨の左側から同じように各チャクラを通過してね、アージュニァー・チャクラの左側へと通っているのがイダー管。それから、中央にスシュムナー管があります。

初日からセミナーに出席している人はわかっていると思うけど、私達の性的ストレス、瞋(いか)りの

ストレスね、あるいは食欲を含めた無智のストレスのエネルギーを通す管がだ、この三本の管なんだよ。中でもスシュムナー管が最も大切だ。

では、この管の働きは何か？まず、ピンガラ管がね、私達の瞋りのエネルギーを運ぶ管だ。いいですか。メモする人はメモしなさいよ。こんなのは、どの経典にも載っていないからね。次に、無智のエネルギー、これは私達の動きを止めたり、愚鈍にしてしまうんだけれど——、これを通すのがイダー管だ。いいですか。そして、私達の執着ね、心の引っかかりみたいなものを通過させていくのが、スシュムナー管だ。

ほらほら、これは仏教でいうところの貪、瞋、癡と一致しているだろう。貪は貪り、すなわち執着などだね。したがって、スシュムナー管と関係している。瞋は、瞋りでピンガラ管。癡、すなわち無智がイダー管というわけだ。これら三本の管をエネルギーが通るときに、それぞれのエネルギーの特質がはっきりと表われるよ。

▼無智——イダー管

例えばだね、ピンガラ管のどこかがおかしくて、瞋りのエネルギーが通らない。一方、無智のエネルギーを通すイダー管は通っているとしようね。——このとき、肉体次元の症状としては、右の鼻がつまって左の鼻だけが通っているんだけどね。その人は無智に襲われる。無智だ、ね。

いいですか?その無智というのはね、私達の動きを愚鈍にする。「あ〜あ、やりたくないな。」とかね、「もう修行だけしておきたい。」とかね、思う。しかし、いざ、その人に修行をさせてみると、できない。修行もしないで寝ている、なんてことになる。

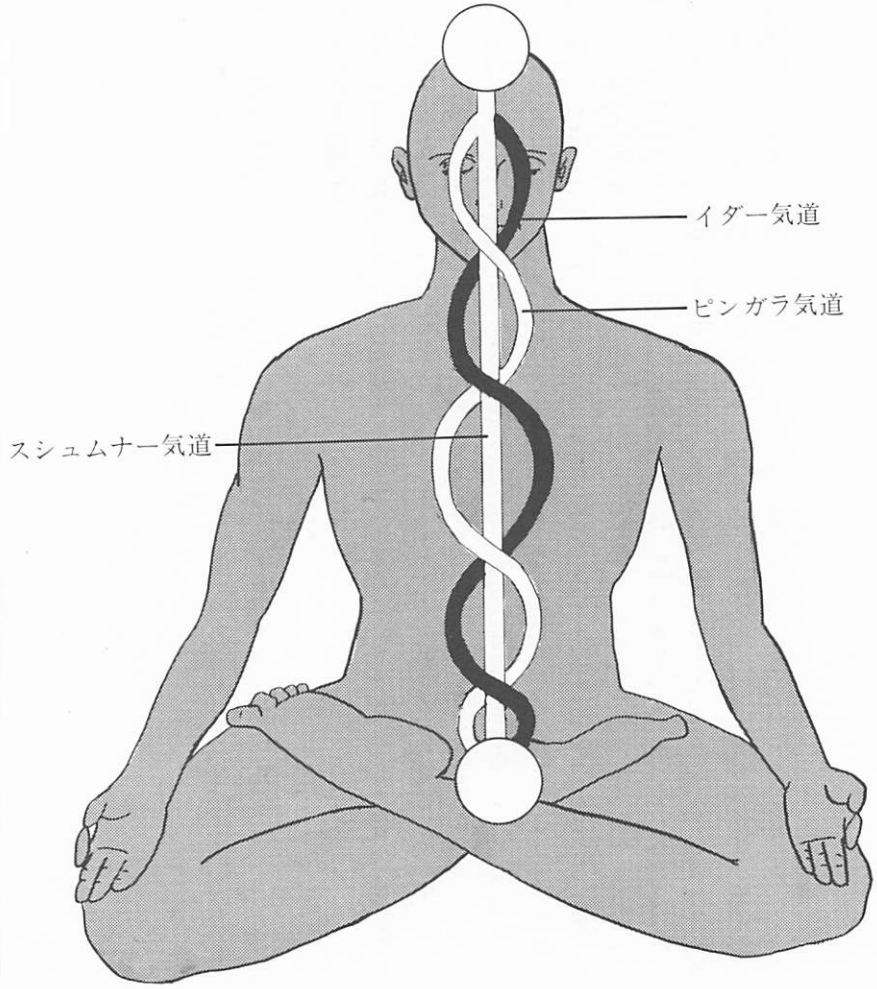
ねえ、これがイダー管の性質だよ。無智の性質だよ。「今日、食っていけたからいいや。」と、「明日は明日の風が吹く。」と、これがイダー管の性質だ、ね。

▼瞋り——ピンガラ管

では、これとは逆に左の鼻がつまって右の鼻だけが通っていたらどうだろうか。要するに、無智のイダー管に障害があり、瞋りのピンガラ管は通っているということだ。このときはね、身体が熱くなる、ね。怒りっぽくなる、ね。いいかな。ピンガラ管の性質が表われるからね。このことから考えても、もしイダー、ピンガラ両方の管が通っていたら、無智と瞋りの両方が出ることがわかるだろう。

▼執着——スシュムナー管

次は、中央のスシュムナー管のどこかがつまっている場合だ。私は、この管は執着を通過させると言ったよね。性的な執着、食べることに対する執着、こういうストレスのエネルギーがクン



気　道　図

ダリニーとなってここを上昇するんだったね。したがって、ここが通っていないと、クンダリニーの上昇は見られない。そして、経典に書かれているように、執着を招くんだ。逆の言い方をすれば、執着を取り除くには、このスシュムナー管を浄化する以外ないんだ、ね。

▼スシュムナーへ導け

スシュムナー管を浄化すれば、執着が消える。イダー管とピンガラ管に関してはね、無智のエネルギーと瞋りのエネルギーが入っているときに、無智と瞋りが現われて問題だ。だったら、どちらもつまってエネルギーが通らないのがベストかといったら、決してそうではない。いや、つまっているのは最低だ。なぜなら、それは低次元の無智、あるいは瞋りを意味しているのだから。例えば、スヴァディスターナ・チャクラで瞋りのエネルギーが止まっていたとしよう。その瞋りは性欲に関係した瞋りということになる。では一つ上のマニプーラ・チャクラのところで止っていたら？これは学問や才能に関係した瞋りということになる。つまり、このエネルギーは上へ行けばいくほど、質が高度になるんだよ。したがって、ピンガラ管が完全に通っているときの瞋りは、——つまり、アージュニァー・チャクラまで到達した瞋りは——個人というよりは社会に対する瞋りということになるのだ。あれ、じゃあエネルギーがイダー、ピンガラを障害なく通っていてもいけない。つまって通らなくてもいけない。これじゃどうしたらいいかわからなくなるね。

よく聞いてくださいよ。修行のプロセスとしては、まずイダー、ピンガラの両管を完全に通してね、無智も瞋りも最高の質に高めるんだ。そうした後、そのエネルギーをスシュムナー管へ移動して、執着のエネルギーと変えてしまう。これが、イダー、ピンガラ管の浄化だ。そして、この時点で執着というストレスのエネルギーが生まれるんだよ。それが、クンダリニーとなって上昇するわけだ。

だから、無智と瞋りを消滅させるにしたがって、——これはつまり移動させてしまうということだが——執着が生まれる。だから、私は執着が一番最後の引っかかりだと言っているんだよ。

▼執着のステージ

一つ具体的に例をあげてみようね。あなた方の身近にこういう人がいないだろうか。それは、自分のさびしさを紛らしたいが為に、数多くの異性とつき合っている人だ。ある人はこう言うかもしれない。「観念が無いから解脱に近い。」と。しかし、私に言わせればそれは無智だ。無智に加えて、無智からスシュムナー管に移動したばかりの、低次元の性的執着があるに過ぎない、ということになる。この人のやっていることは、例えばおなかがすけば、何でも手当たり次第に食べるのと同じじゃないか？

また、他の人にはわき目もふらず、たったひとりの人を追いかけるタイプの人もいるね。この

人は執着の段階だ。しかも、アナハタ・チャクラのレベルつまり愛に対する執着の段階だね。

前者と後者を比べてみると、人間の進化のプロセスで、どちらが上でどちらが下かわかることだろう。

▼気道の浄化は外せない

話をもとに戻そう。このイダー、ピンガラ、スシュムナーというね、三つの管が、修行によって浄化することができる。イダー、ピンガラの浄化が終わって、最後がスシュムナーだ。

これが、釈迦牟尼如来のお説きになった、ね、人間観だよ。いいですか。「そんな事はどこにも載っていない。日本のどの経典を捜しても載っていない。」とあなた方は考えるかもしれない。しかし、それは日本にまで伝わっていないだけでね、インド仏教の経典にはちゃんと載っているんだよ。――貪、瞋、癡のすなわち貪り・瞋り・無智の三つの心の働きは、三つの管の障害となる――とね。いいですか。このように解脱のプロセスにおいても悟りのプロセスにおいても、この三つの管の浄化が必須条件なんだよ。今日は悟りのプロセスとの関係を話したが、解脱のプロセスとの関係については、『生死を超える』を読んでおいてください。それと病気と三本の管との関係については、『超能力秘密のカリキュラム―健康編―』に書いてあるので、こちらも読んでみるといいだろう。

第四話　その2　十二縁起の法

▼「苦界」へのプロセス

さあ、次はね、去年も触れたことがあった『縁起の法』について考えてみよう。これはちょっと難しいよ。——私達は何ゆえにこの苦界に生まれたのであろうか——というね、生き物が苦界に生まれ出た理由というか、プロセスを追って解明しているものなんだよ。苦界というのはね、欲界・色界・無色界の三界を指しているんだ。私達が現在いる人間界はこのうちの欲界に属している。したがって苦界の一つなんだね。

苦界に入ったプロセスは次のようになる。ざっと流すよ。「無明」ありて「行」あり。「行」ありて「識」あり。「識」ありて「名色」あり。「名色」ありて「六処」あり。「六処」ありて「触」あり。「触」ありて「受」あり。「受」ありて「愛」あり。「愛」ありて「取著」あり。「取著」ありて「有」あり。「有」ありて「生」あり。「生」ありて「苦」あり、とね。こうして私達は迷い

の生を受けるんだと、釈迦牟尼如来は言っている。ちょっと今日の講義は難しいからね。まだ、わからなくてもいいよ。今から一つずつ正確な意味合いもね、含めて説いていくから。

じゃあ、まず、無明ありて行ありとは何かね。はい、君、無明ありて行ありとは何ですか？

会員「無明ありて行ありですか？」

麻原「はい、そうです。」

会員「無明とは無智のことです。」

麻原「それは、言葉の遊びだ。無明が無智になろうとだよ、同じだろう。それは言葉を理解したことになるか。無明とはどういう状態かと私は聞いている。」

会員「真理に疎いことです。」

麻原「真理に疎い。おお、いいねえ、なかなか。では真理とは何か。」

会員「絶対自由。」

麻原「絶対自由、それと？」

会員「絶対幸福。」

麻原「なかなかいいね。」

真理というものは、私達の真我が独存に入っていることだ。この時、絶対自由であり、絶対幸福であり、絶対歓喜という状態なんだ、ね。そして不滅でもある。いいかい。これが真理なんだ

よ。私達の真我は、本来この状態であった。

ところがね、その独存の状態にあった真我にね、三グナが干渉しだしたんだ（三グナについてはP18参照）。その三グナの干渉によって、真我は判断を誤り錯覚を起こしてしまった。それが『無明』なんだ。ここに私達の苦へ至るプロセスが始まってしまった！

次に、判断を誤り錯覚を起こした真我は、一見美しく楽しい世界、自由な世界へと入ってしまう。そこはコーザル世界と呼ばれている。ここから『行』へと移ったわけだ。行とは動くという意味だよ。行には身・口・意の三つがある。身は動くことができる、口はしゃべることができる、意は考えることができる、という意味だ。つまりね、もともと真我は自由に動くことができ、しゃべることができ、考えることができるということだ。

『行』の段階で、真我は今述べた身・口・意を使って経験を始める。この経験の舞台となるのはコーザル世界だ。コーザル世界とは、精神と観念だけで成り立っている世界だよ。

真我は、コーザル世界での経験をし尽くすと、今度はアストラル世界へと入っていく。経験し尽くして飽きてしまったコーザル世界より、未知のアストラル世界の方がステキだと、またもや錯覚してしまうんだね。アストラル世界とはイメージの世界、高次元の微細な世界だよ。

このようにして、アストラル世界へと入った真我が、ここで経験をしていく段階が『識』なんだよ。

経典ではこういう表現にはなっていない。しかし、実はそれが六識という言葉で表わされているんだ。この六識が何を指しているかというとね、まず、アストラル世界で見るヴィジョンね、聞く音ね、それから匂い、味覚、触覚、そして思いの六つだ。

もう一度言うと、『行』はコーザル世界で経験していくプロセス、『識』はアストラル世界で経験していくプロセスなんだよ。

それでね、アストラル世界での経験が終わってしまうと、真我は前と同様に、この世へと入って行ってしまう。この時、私達は粗雑次元の五大エレメントを使って、この世に生まれ出るというわけだよ。この段階が『名色』と呼ばれている。

『名色』とは何か？これは五蘊を表わしているんだ。五蘊とは五つの集まりという意味。その五つとは何か？難しい言葉を使うならば、色・受・想・行・識の五つだ。これを私達が使っている言葉に置き換えるとだ、色は粗雑次元の五大エレメント、受は感覚、想は表層意識、行は深層意識、識は判断を表わしている。この『名色』の段階では、真我が五蘊に干渉してしまうんだ。つまり、五蘊を思い通りに動かし始める。より良い生活を求めてね。

そして『名色』ありて『六処』あり。『六処』は、『名色』が具体化するだけなので、同じものと考えても差し支えないだろう。『六処』とはすなわち、目・耳・鼻・口・触覚・意識だよ。

そして、これらが外界と接触する。接触するとそこでいろいろな感情の動きがでてくる。これ

が、『六処』→『触』→『受』→『愛』のプロセスだよ、ね。まず、『六処』が外界と接触する。これが『触』。それによって、感覚器官が働き、いろいろな外的情報が入ってくる。これが『受』だ。ここで愛着が生じる。これを『愛』と言っているんだね。

私達はこの愛着、言い換えれば執着から離れられない。修行によって離れるしかない、と私は何回となくあなた方に言ってきた。その愛着は、このように真我の経験から生まれたものだったのだ。いいですか。なぜ、私達に愛着、執着があるか、その理由はこれでわかったね。真我が経験をし始めた当初である、無始の過去から、私達は愛着を増加させてきたんだよ。

例えばここに女性が十人いてね、私達に無数の過去世において積み上げた経験が全く無かったら、特定の人を美人とも思わなければ、ね、醜いとも思わないし、普通とも思わないよ。しかし、実際は受ける印象が違うだろう?しかも、それぞれ、つまりひとりひとりの真我の経験は違うものだ。人は経験を判断基準としている、というわけで、〝好み〟の女性のタイプもひとりひとり違うんだね。例えば、A君が「B子さんて美人だねえ。」と言ったら、C君は「何だい、あんなチンクシャ。趣味悪いぜ。」と答えることもあり得る、ね。

これを『愛』と言っているんだ。愛着、執着だよ。いいですか。釈迦牟尼如来はこう言っている。「六つの入口から愛着のもとが入ってきますよ。」とね。この六つの入口が、先程述べた『六処』、すなわち目・耳・鼻・口・触覚・意識のことなんだよ。

愛着してしまうと、今度はこれにとらわれてしまう。これが『取著』だ。

例えば、いいですか。あまりにも宗教的な本ばかし読んでだ、理解はしていない人がいたとしよう。これこれこういうことをすると、天界に行けるなんて思い込んでしまったら、また、悟れるんだと思い込んでしまったら、それにとらわれてしまう。これは意識による『取著』だ。

ね、あるいは、今迄会った美人がみんな優しかったと。すると、美人イコール優しい人だと思い込んでしまうかもしれない。これがとらわれだ。『取著』だ。

ね、いいか。たまたまバナナを食ったら、おなかを下してしまったと。それが三回も続いたと。そうするとバナナを食べたら下す、と思う。これもとらわれだよ。ね、いいかな。一切のとらわれが愛着から、あるいはアンチ愛着からね、始まる。ね、これが『取著』だ。

『取著』があると、欲求する。もっと欲しい。もっと良くしたい。もっと満足したい、とね。すると、真我は自分の欲求に動かされて、物を作り出す。私達の欲界でもその作業は続けられているんだね。征服欲がいまや核兵器さえ生み出した。楽をしたいという欲求は、電子レンジや洗濯機、ガスや水道を作り出した。ラジオができた。テレビができた。自動車ができた。飛行機ができた。これらは、みんな真我の欲求が作り出したものなのだ。その作り出して、自分の世界を満足できるようにしていく段階、これを『有』と言っている。『有』だよ。

『有』はどんどん深みにはまっていく。欲は欲を生むからね。死んでも原因となっている愛着

とこだわりは消滅しない。カルマとなって残ってしまうんだよ。そうなると、カルマによってこの世に再生する。これが『生』だ。

そうして、私達は生まれ出て『苦』を味わうことになる。これが『生』あるがゆえに『苦』ありなんだ。じゃあ、どうして『苦』を味わうのか、ということについても説明しておいた方がいいかね。ちょっとね、もともとのプロセスを思い出してごらん。屈折しているだろう。とらわれから生まれ変わっているわけだからね。とらわれていたら、正確に物を見ることができない。だったら幸福になれるはずがないんだよ、ね。

『苦』あるがゆえに、凡夫は一層ね、愛着し取著し、楽しみを求め、一層の苦しみに入る、ね。それを私達はもう何生も何生も気が遠くなる程の生をね、繰り返してきたんだよ。

しかし、私達はこの世に生まれてきたから苦しまねばならない。例えば、病気をしたり年をとったり、ね、あるいは悩みを持ったり、ね。要するに、苦はすべてのプロセスのまとめなんだよ。で、苦から離れなくてはならない、と気付いたら、今度は『生死を超える』のプロセスだな。これは、私の本に書かれているからここでは簡単に触れるのみとするよ。

▼『苦』から『六ヨーガ』へ

――このように今、あなた方の魂はオウムに集まってきている。あなた方の魂は、そこで苦か

ら抜け出そうと考える。『苦』あるがゆえに『信』あり、あなた方は麻原の教説を真理だと信じてオウムに集まった。ね、そして一生懸命修行しようとね、いいですか、あなた方は悟りと解脱のプロセスを歩き出すわけだ。

『信』を基礎とした修行によって、クンダリニーが上昇し『悦』が生じる。『悦』が生じてくると、私達の背骨にあるね、先程言ったスシュムナー管、イダー管、ピンガラ管、この三つの管を浄化する。そして、三つの結節を破るんだ。

まず、マニプーラ・チャクラの裏側のブラフマン結節、それから、アナハタ・チャクラの裏側のヴィシュヌ結節ね、そして、後頭部にあるルドラ結節を破るわけだ。最後にサハスラーラ・チャクラが崩壊する。すると、ツァンダリーが起きる、ね、いいですか。

ツァンダリーは、私達の過去世からの汚れを浄化する。これが『喜』だ。そして、ここを通過するとね、『軽安』『楽』と進む。ま、『楽』というのは、長く座れ瞑想に適している状態だ。この時期に『三昧』に入ることができるようになる。この時、心臓は若干動いている。しかし、聴診器くらいではわからない。これが『三昧』だ、ね。

『三昧』に入ると、その人の精神的レベルによって、いずれかのチャクラから魂が抜け出す。ね、そして六ヨーガが生じる。それはわかるね。読んでない人は『生死を超える』を読んでくださいよ、わかるから。バルドー、夢見、幻身、ね、光ね、そしてポアだ。あれ、これでは五つだ。

一つ足りないじゃない、ね。杉本、何が足りないか？

杉本「熱です。」

よし、なぜ私が六ヨーガの中に熱を入れなかったかというと、すでに上昇させるプロセスで熱のヨーガが入っているんだよ。ベースにあるわけだ。

さて、この六ヨーガによって、私達は一切を知ることができる。ね、『如実知見』だ。そうすると、私達のね、『無明』から始まってこの世に再生してくるプロセスがだよ、良くわかるようになる、ね。

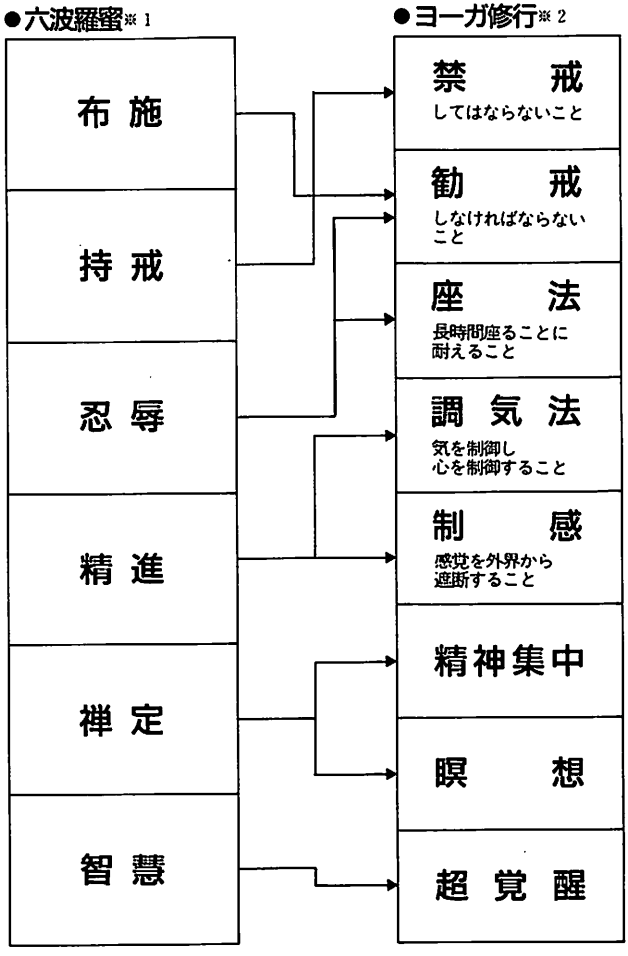
そして、「ああ、こんなのは嫌だ。離れなければならない。」と切実に思うようになる。そして『遠離』ね。それから『離貪』ね。それが終わった段階で、私みたいに解脱するんだよ。

いいかな、これが釈迦牟尼如来のお説きになった縁起の法だ。ねえ、簡単だろう。それから、私が普段言っていることと少しも矛盾しないだろう。だいたいね、真理というものがね、矛盾するのがおかしいんだよ。そうじゃないが。チベット仏教だって、原始仏教だって、ヨーガだって、同じことを目差しているんだよ。真理を追求しているんだ。

▼真理はひとつ

仏教とヨーガのプロセスが同じことに気付かない人がいるかもしれない。では、パタンジャリ

六波羅蜜とヨーガ修行の類似性



※1　六波羅蜜については第2話参照
※2　パタンジャリのヨーガスートラより

のヨーガ・スートラをサッサッサッとみてみよう。ヨーガ・スートラには——これはラージャ・ヨーガなんだけれどね——こう書かれている。一に悪いことを極力しないようにしなさい。二に良いことを徹底的にやりなさい。三に座法を安定させなさい。四に調気法によって心を制御しなさい。五に一切の感覚を外界から引き離しなさい、とね。そして、精神集中、それから瞑想、超覚醒というね、八つのプロセスを歩くわけだ。

非常に似ているね。普段私が言っている六つの極限の実践と非常に良く似ている、ね。つまり、パタンジャリのヨーガ・スートラも、大乗仏典の六波羅蜜の六つの極限の修行も同じことを言っている。私が先程言った縁起の法ともダブッている。

だいたい真理を示しているものにね、矛盾があるはずがないんだ。

第五話　その1　潜在意識をつかめ！

▼潜在意識——指令室

さあ、今日は五回目。それでは私がね、瞑想中に体験したことを話そう。これはあなた方が今から行なっていかなければならない瞑想の中で、特に悟りと関係のあるプロセスだから良く聞いてほしい。いいですか？

まず、瞑想の目的を考えてみようかね。それには、私達の意識のことから説明しなくてはならないだろう。

私達の意識には、潜在意識とそれを覆っている表層意識があるね。表層意識というのは、顕在意識という言い方でも表わされているよ。普通私達は、この顕在意識でものを考えている、ね。しかも、私達は顕在意識の動きしか知らない。

しかし、顕在意識でものを考えてはいるがだよ、その原動力となるものは潜在意識なんだ。潜

在意識の指令によってね、それを受け取った顕在意識が考えているんだよ。いいですか？

——瞑想が始まる、ね。私達は瞑想によって、潜在意識にアプローチするわけだ。修行が進むにつれて、潜在意識を知ることができるようになる。潜在意識と顕在意識は相反する性格を持っているんだ。潜在意識は、直接的、本能的なんだよ。どう言ったらいいかな——有るか無いかなんだね。

例えば、人を愛する愛さないのどちらか、中間が無いんだ。少し愛しているとかいうことが無い。少しおなかがすいているとかなんてことも無いんだね。つまり、両極端しか無いんだ。

ところが、顕在意識は全く違う。確かに潜在意識の指令を受けて、顕在意識は働き出すよ。しかし、潜在意識のように両極端にはならないんだ。今までの経験から得たデータによってね、「これくらい食べると自分は満足できる。」あるいは「これはおいしそうだから、これくらい食べられる。」などというように、分析し判断するわけだ。そして食べる。

▼精神分裂——解脱直前

要するに、私達には相反する二つの意識が同時に存在しているわけだ。そのうち、修行が進んでいくとだよ、自分でもどちらが顕在意識か、潜在意識かわからなくなってしまう。区別がつかなくなってしまうんだね。

ある時は潜在意識の中にいる。ある時は顕在意識が働いている――ここで精神分裂が起きるんだよ。いいですか？だから、修行者は必ず解脱前に分裂する。分裂を通り越さないと成就はあり得ない。わかりますか？あなた方がこの時期を通り越す為にも、オウムが必要になってくるよ。普通の社会生活ができなくなるからね。悪くすると精神病院へ入れられてしまうしね。しかし、オウムではあなた方を保護できる、ね。これは決して忘れてはいけないよ。

もう一つ、精神的におかしくなってしまう時期があるので、つけ加えておこうね。その時期というのはね、ほとんど潜在意識しか使わない時期――最終的には潜在意識のみにするのを目差すのだけど――このほとんど潜在意識しか使わなくなり、ほんの少しだけ顕在意識が残っている時だ。この時期は、煩悩の影響をストレートに受けてしまうんだよ。成就してしまえば、潜在意識だけを使っても何の問題も起きない。成就にあたって煩悩は消滅してしまっているからね。しかし、煩悩があり、それが潜在意識に影響すると、それはそれはひどい状態になる。さっきも言ったように、潜在意識は両極端しかないのだからね。煩悩が顕現してしまうんだ。

ただ前生から修行している人、あるいは今生で修行しながら徹底的に功徳を積んでいる人は、この時期、少しおかしくなるという程度で済むようだ。

▼潜在意識こそ欲望の根源！

では、次に潜在意識と顕在意識がどのように働いているかだ。もう一度繰り返すと、潜在意識は顕在意識の原動力だ。潜在意識の指令で顕在意識が動いている。

例えば、潜在意識からこういう指令が出たとするよ。「私は異性を欲している。このストレスは異性によってしか解消されない。」とね。その指令を受け取った顕在意識は、手頃な異性を捜し始める。ね？手頃な異性を捜すことができなければ、ソープランドかなんかへ行く、ね。そして、男性の場合だったら射精、女性の場合はエクスタシーなんだけれども、これを得た瞬間、顕在意識は満足し、顕在意識レベルでの欲求は消えてしまうんだ。

一方、指令を出していた方の潜在意識はどうなるか？一旦おさまったかのように見えるだけで、実は欲求を持ち続けている。どうしてこうなるのかわかるかな？例えば、異性を欲する——、これは単純にセックスだけを望んでいるわけじゃないんだ。相手の愛が欲しい、安らぎたい、独占したい、性欲に満足したいなど、多くの欲求が複雑に混ざり合っているんだ。この欲求の条件というものをすべて満足させることは不可能だよ、ね。つまり満足できないからその欲求は残っているんだ。だからまたすぐに指令を出すだろう。これは果てしない繰り返しだ。この経験が行きつくところまで行くと苦を感じるんだったね。これは前回話したからここでは省くよ。

▼潜在意識へのアプローチ

さて、私達が瞑想に入るとね、初心者はまずその顕在意識のレベルで一生懸命瞑想をやっているわけだ。例えばジュニアーナ・ヨーガだ。「何ゆえに私には性欲があるのであろうか?」ということを分析していく。昨日ポルノ映画を見たからだと、ね。あるいは強精剤を飲んだからだと、ね。あるいは、この性欲というものは、本能的なものだと考えるかもしれない。

しかし、それはすべて本質的なものではないよ。例えば、条件を一つずつ落として行ってごらん。もし、昨日ポルノ映画を見なかったら、今日性欲は起きていない。確かに今日は起きなかったかもしれない。しかし、明日起きるかもしれない、ね。もし、女性のヌードを見たから性欲が起きたと考えていたとする。じゃ、見なかったら起きなかったのか?そうではないね。

じゃ、次に食欲について考えてみようね。道を歩いていて、おいしそうなカレーのにおいがしたから、おなかがすいて食べたんだと言うかもしれない。じゃあもし、カレーのにおいがしなかったら、永遠に食べなくて済むのか?もし、いいですか、運動をしたからおなかがすいて食べたんだ、という人がいるかもしれない。本当にそうか?じゃ、運動しなかったら食べずに済むのか?いいですか。こういうアプローチをし続けているうちにだ、私達は「待てよ。」と考えるようになる。「これはすべて末端にすぎないんじゃないか。」と。「この元の情報を出している何かがある。」とね。この元の情報を出している何か、これが潜在意識なんだ。

▼入れ替えよ——潜在意識

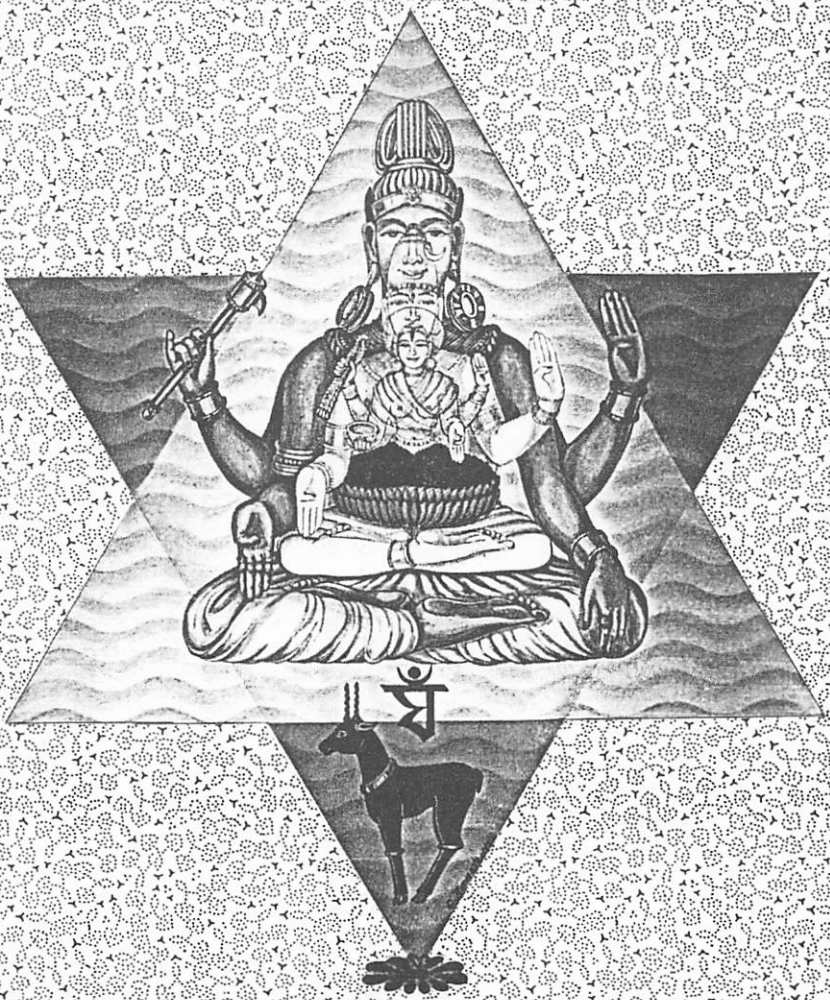
顕在意識とこの潜在意識の中間は眠りみたいなものだ。ボーッとした状態だ。だから、瞑想で顕在意識を落としていくとね、ある段階までくるとね、ボーッとしてものが考えられなくなる。それはそうだよね。今まで顕在意識が考えていたんだからね。それが無くなっていったら、ボーッとなってしまうのは理解できるだろう。そして、ある時は顕在意識に戻ってしまい、ある時には潜在意識に入ってしまう。これが、さっき言った精神の分裂なんだね。

ところで、前生からの修行者は、すでに過去の修行で表層意識が少なくなっている。だから、生まれながらにして精神分裂を起こしているような人もいる。

しかし、それは決して恥ずかしいことでも何でもない。その人が前生から一生懸命顕在意識を落としている証拠にすぎないんだよ。

さて、顕在意識が完全に落ちたら、次は潜在意識の世界に入っていくよ。これは、すでに話したとおり、有るか無いか、だ。両極端しか存在しない。直接的だ。

例えば、瞑想をすると性的衝動、即セクシュアルなヴィジョンとなる。例えば、食欲的衝動、即食物のヴィジョンが出てくるんだ。眠っている時もこの瞑想と同じ状態になる。また、例えば、愛する人を求める。愛するというのは性愛じゃないよ。本当の意味で愛する人を求める。即、そ



の人と話ができる。これが私達の潜在意識だ。

だからね、潜在意識は非常に理解しやすいんだね。単純なんだ、潜在意識は、ね。したがって、データの入れ替えさえスムーズに行なえれば、きれいに透明にすることができるんだよ。

▼『識』から『解脱』へ

そこで、昨日の話と結びつく。私達の魂は、いいですか、私達の真我は、三グナの干渉によってこの迷いの生に引きずり込まれたわけだったね。その中の『識』の段階を覚えているかな?ここで真我はアストラル世界の経験をするんだったね。いいですか?ここが大切だよ。潜在意識はアストラル世界と結びついているんだ。したがって、潜在意識をいじることによってそこでの経験を無くしてしまう、つまり、そこの段階にまで逆のぼってね、以後のプロセスを消滅させることができるわけだ。

そのやり方としては三つあるよ。一つはそれ以上のカルマを作らないで、カルマが無くなるのをひたすら待つということ。潜在意識を通じてその『識』のプロセスを完全に理解できるから、それが可能となるんだ、ね。二つ目は、真我に納得させることだ。真我よ、お前はこのようにして暗に深く迷い込んでしまった。もういいかげんに気付きなさいよ、抜け出しなさいよ、とね。三つ目の方法は、真我が経験したことに対する反対の想念をインプットしてね、今までの記憶を

消してしまうことだ。

こうして、アストラル世界での経験を消してしまうと、アストラル世界は透明になり、『識』の一つ前の段階『行』が理解できる。この『行』においてする、コーザル世界での経験は、『三昧』によって消すことができる。当然コーザル世界は透明となり、『無明』を理解できるようになる。真我は三グナの干渉によって苦へ至るプロセスを歩み始めたんだ、ということを理解できるようになるんだ、ね。そのことを真我が理解する——理解すると三グナの影響を離れる、ね。このことがわかった以上、好き好んで苦のプロセスに入って行くわけがないからね。

こうして、最後に残された『無明』は消滅する。この瞬間が解脱であり悟りであるんだ。そして、「私は解脱した。」という実感を得ることができる。いいですか？

このことは今まで誰も解明していなかったんだよ。どの経典を見たって、こんなことを書いていない。今私がこれを明らかにする——これは不遜なことではないか——とさえ思っているんだよ。でもこれは皆さんに対するプレゼントだ。

▼『からっぽ』は仏陀の意識

話が度々飛んでしまって申しわけない。元に戻すよ。瞑想を進めていってね、顕在意識が完全に無くなり、潜在意識だけの世界に入る、ね。潜在意識で瞑想を始めると、初めのうちは眠った

状態、あるいは眠りに近い状態だ。思考の力が働かない。いいか？

ところが功徳、あるいは六つの極限の実践によって、その眠りに近い状態でありながら、思考することができるようになってくるんだよ。そうしたら、更に一つ一つに精神集中をすることが必要となってくる。それによって潜在意識を透明にしていくんだ。

さっきは、潜在意識と『識』→『行』→『無明』をさかのぼっていくプロセスと結びつけて説明したね。今度は、潜在意識だけにしぼるよ。いいですか？

潜在意識の働きを、すべてストップしてしまった段階で、その人は仏陀となる——一言で言えばこうだ。仏陀とは目覚めた人なんだ。そこはからっぽです。じゃあ、何がからっぽなんだ？一切の情報がね、整理されて完全な状態、観念が無い状態——これを私はからっぽという言葉で表わしたんだ。まあ、これはここまで到達した私の実感から出た言葉なんだがね。

▼最高の修行法はこれだ！

このことからもわかるように、私達の瞑想のポイントは『いかにして潜在意識にアプローチするか』なんだ。

オウムでは、その効果的な方法としてね、布施・持戒・忍辱・精進の四つの極限的修行を提唱しているよ。しかし、これはね、なかなか皆さんが実践できるものじゃない。だから、別の方向

でもアプローチできる方法を考えている。まず、アーサナをやって座法を安定させなさい、と。プラーナーヤーマをやって気をコントロールしてね、潜在意識に入り易い状態を作りなさい、とね。そしてムドラーを行なうことによって、完全に潜在意識に入りなさい、と。潜在意識に入った段階で内側のものを落としてしまいなさい——とね、これがオウムの修行だ。

おそらく地獄から始まって天界まで至る欲六界、色界、無色界を通してだ、オウム以上の修行を考えることはできないだろう。オウムの修行法以外の修行はあり得ないと考えた方がいいだろうね。

もう少しつっ込んでオウムの修行について説明しておこう。あなた方に大変関係してくるからね。

ムドラーで潜在意識に入れるようになった、と。そこまで進むことができたら、ね、私はあなた方に秘伝的な瞑想法を伝授するだろう。その秘伝的な瞑想法とは、グル・ヨーガやツァンダリーなどだ。これによって、あなた方は潜在意識を変えていく。どのように変えていくか、というと、大乗の仏陀となる為の心を潜在意識に植えつけるんだ。

すると、大乗の仏陀となることを潜在意識が欲する。したがって、顕在意識は六つの極限の修行、四無量心（しむりょうしん）、救済などに打ち込むようになる。このことによって、修行の進歩が早まる上に、カルマもどんどん落ちていくんだよ。

でもね、中にはこれをクリアーできない人もいるんだ。どういう人がクリアーできないのかというと、エゴの強い人だ。例えば、自分の為にこの世があると考えている人、物欲が強い人、生存欲が強い人だ。

こういうエゴの強い人にとって、大乗の仏陀の心はギャップがありすぎ、異質なものなんだね。だからスムーズに受け入れられない。無理して受け入れようとしても混乱してしまうだけなんだ。反対に、そういう心の基盤のようなものを持っている人は何も問題が起きないんだね。

▼一瞬にして苦を滅する解脱者

ねえ、解脱した人、悟った人には〝苦〟はあると思うか？無いと思うか？あなた方はこれについてどう考えるだろうね。たぶん、絶対幸福、絶対自由の状態にあるのだから苦を感じることなど無いと思うだろう。しかし、本当は苦があるんだよ。この世に肉体を置いている限り、苦から離れられないんだ。苦はあるんだけれども、その処理の仕方を知っている。実際に、速やかに処理して苦を消滅させてしまうことができる——これが解脱者であり悟った人なんだよ。

苦の原因はね、私達の感覚器官を通して顕在意識に入ってくる。普通の人間の場合はだね、顕在意識に入った苦の原因となる情報が潜在意識に入って根づいてしまうんだ。これは最悪だよ。一旦潜在意識に根づくと、容易に取り去ることができない。しかも、潜在意識に根づいた情報が

だ、その人の行動に対して、あるいは思考に対して悪影響を及ぼしだす。そしてますます苦を感じるようになる。いや、この時から本当の苦が始まると言った方が良いのかもしれない。

これに対して解脱者は、苦の原因が顕在意識に入った段階で消滅させてしまえるんだ。瞑想によって逆の想念をちょっと入れるだけで消滅してしまう。だからとっても楽だ。だから絶対自由・絶対幸福と言えるんだよ、ね。潜在意識に根づくような、本当の苦の発生はもちろんないしね。

第五話　その2　苦の滅尽を知りなさい

▼苦の根本『無明』を滅せ

話かわって阿含経のことに移ろう。阿含経は仏典の一つだよ。その中にこう書かれている。――この人生というものは一切が苦です、とね。何ゆえに苦が生じたのでしょうか？それは、私達の無明が根本的な原因です。無明とは、真実を理解していないということです。

例えば、愛着。愛着の根というのは大変おいしい。私達を喜ばせてくれます。しかし、これは真実ではありません。瞋りというものは、私達を守ってくれます。私達のエゴを満足させてくれます。しかし、これは真実ではありません。ウソをついても、その時逃れられればとても楽です。しかし、これは真実ではありません。愛欲が生じた時、誰でもいいからセックスしてしまう。その愛欲は一時的におさまることでしょう。しかし、それは真実ではありません。――数えあげたらキリがないくらいの真実でないものがある。そして、それを言い換えると無明だ

と言っているんだよ。この無明あるがゆえに、私達は苦しんでいるんだと釈迦牟尼如来は言っているんだ。真実の程は、あなた方が体験してくださいよ。

じゃあ、その無明を滅するにはどうしたらよろしいかとね。釈迦牟尼如来はこう言っていらっしゃる。

——まず、この世の苦を知りなさい。一切この世は苦であることを知りなさい。——

——苦というものは、私達が生きている限り、粗雑な肉体、微細な肉体を持つ限り、起き上がってくるものですよ。——

と言っていらっしゃる。いい言葉だねえ、起き上がるというのは、ね。ふだんは眠っているわけだ、苦はね。しかし、私達が歩いていて、つまり生きていて、けつまずくと起き上がるわけだ。それを苦の生起と言っている。そして、

——苦の滅尽を知りなさい。——

と言っていらっしゃる。じゃ、その方法は何か、というと、ここで登場するのが八正道なんだね。

しかしねえ、これは在家の修行者では無理だ。この日本の環境では無理だ。でも、あなた方の中で挑戦してみたいという人がいるかもしれないから、一応説いておくよ。いいかな？

▼時代錯誤——八正道

今まで、多くの宗教家が八正道について説いた。そして、これは実践できるものだと言っている。

しかし、私はこう思うんだ。ある程度実践できるかもしれないけれど、これは正確にやることは不可能だ、とね。それは今から説く八正道の正確な意味合いを考えたらわかるはずだ。

⊙正見

まず、第一に正見(しょうけん)だ。正しく見る。メモする人はしてもかまわないよ。この正しく見るというのは何か？これは、すべてのものを縁起(えんぎ)の法によって見なさいよ、すべては苦なんですよ、ということだ。

しかし、私達は日本という一つの社会の中で生きているんだよ。生きる為にはお金も稼がなきゃならない。食べていかなきゃならない。あるいは、家庭生活を営んでいる人はね、妻や子を慈(いつく)しまなければならない。そうなると、ここですでに正見は不可能と見なければならないんじゃないかな？だって、そうだろう？俗世を離れた出家行者だったらいざ知らず、私達は、俗世にどっぷりとつかっているんだから。俗世はすなわち錯覚の世界、誤った世界なんだ。その中にいて、いくら目を凝らしても無駄だと思うよ。

まあ、八正道を説くと言ったんだから、一応苦の生起に触れておこう。苦というものは十二縁起の法によって生起しているんだよ、正見によってそのことに気付きなさいよ、と八正道は言っている。十二縁起の法については前にも説明したけどね、ここでざっと復習するよ。

独存の状態にあった真我は、三グナの干渉によって錯覚を起こし、間違ったプロセスを歩み始めた。そして、コーザル世界、アストラル世界を経験した後、苦界に生まれ出て苦を味わうと、ね。そして愛着しとらわれて生まれ変わっては一層苦を増大させている、と、これが縁起の法だったね。

◎正思惟

そして、縁起の法の一つ一つのプロセスを正確に理解する修行、これが正思惟だ。どういう修行かというと、まず、一般的なものや、あなた方のまわりの事情を分析しなさいよ、それが正見につながるかどうか分析しなさいよ、と言っている。

そして、次はあなた方の行為、物の考え方を分析しなさいよ、と言っている。これが正思惟だ。これはできるかもしれない。しかし、この正思惟へと進む前提条件が正見だから、正見ができなかったらこの正思惟もダメだということになるね。

◎正語

次は正語。これは以外とやさしい。真実のみを語りなさいよ、とね。やさしい言葉を使いなさ

いよ、とね。

⊙正業

そして正業。これは日々の生き方についてだ。一日一日を大切にして努め励めよ、と釈迦牟尼は言っていらっしゃる。しかし、これじゃ漠然としすぎているね。実は、これは仏道修行について言っているんだよ。修行以外やるなというに等しい。しかし、これも不可能だろうね。

強いてあなた方在家の修行者に当てはめたら、こういうことだろう。仕事は仕方ない。家庭生活の楽しみは最小限に押さえて修行しなさいよ。アーサナ、プラーナーヤーマ、ムドラー、あるいはグル・ヨーガ、ツァンダリーの瞑想、これらを一生懸命やりなさいよ、とね。

なぜなら、人というものはいつ死ぬかわからないんだからね。明日死ぬかもしれない。あさって死ぬかもしれない、ね。しかも、死んだって来世の保証はないんだよ。来世での幸せを願うんだったら、一日一日を大切にして努め励めよ、と。こうなるだろう。

⊙正命

正業が日々の生活のことを言っているのに対し、こちらはライフ・ワークだ。一生を通じて真の解脱、真の悟りに目覚めるような生き方をしなさいよ、と言っていらっしゃる。これは出家を意味している。しかしね、これもなかなか難しいよ。私達は働かなきゃなんないんだよ。家庭生活も営まなければなんないんだよ。子供をほうっておいたら不良化するだろうよ。親をほうって

おいたら悲しませることになるだろうよ。

しかし、釈迦牟尼は「そういうことはどうでもいい。出家し解脱を目差し励みなさい。一切の執着の根を断って、ただひたすら解脱にまい進しなさい。」と言っていらっしゃる。これが正命だ。

◎正念

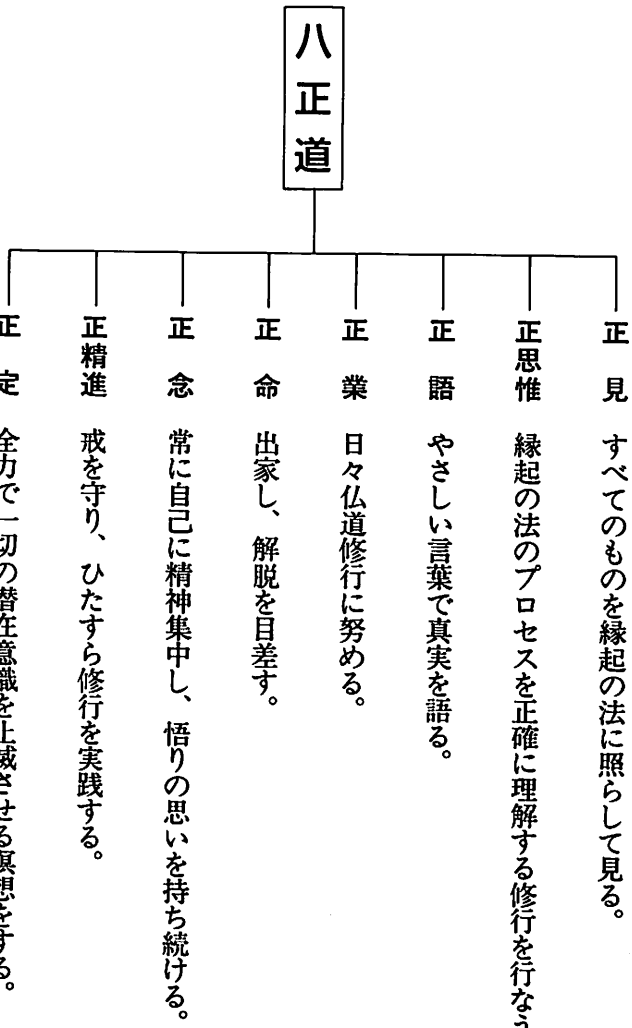
次は正念ね。これは何か？これはね、出家というものは非常に辛かろう。しかし、それにまず耐えて、自分自身に精神集中し、悟りの思いを絶えず持ち続けなさいよ、ということだ。これを正念と言っている。これは心のプロセスだ。

◎正精進

正精進が実際のアクションだ。例え雨が降ったとしても、このマニプーラ・チャクラの下までしか水が溜まらなければ、瞑想をし続けなさい、とかね。ただひたすら瞑想修行に打ち込みなさいよ。ただひたすら正法の流布を実践しなさいよ、といろいろな規定、これが正精進だ。正念と正精進は順番が逆でも差し支えはないよ。

◎正定

最後に正定だ、ね。正定というのは何かというと、正しい瞑想という意味なんだよ。正しい瞑想というのはね、私が先程言ったように、一切の潜在意識を止滅させる瞑想だ。『死ね』の『死』じゃないよ。『止める』の『止』ね。止めてその根を焼き払ってしまう。この修行を全力でやりな


八正道
正見 すべてのものを縁起の法に照らして見る。
正思惟 縁起の法のプロセスを正確に理解する修行を行なう。
正語 やさしい言葉で真実を語る。
正業 日々仏道修行に努める。
正命 出家し、解脱を目差す。
正念 常に自己に精神集中し、悟りの思いを持ち続ける。
正精進 戒を守り、ひたすら修行を実践する。
正定 全力で一切の潜在意識を止滅させる瞑想をする。

さい、と。これが正定だ。

正見・正思惟・正語・正業・正命・正念・正精進・正定、この八つだ。この八つの実践を八正道と言っている。さあ、この日本の社会においてだ、私達が八正道を実践することができるか？できないね、当然。

▼大乗仏教誕生

さて、釈迦牟尼如来が入滅され、その高弟達が亡くなられたあとね、みんな怠慢になった、ね。仏教の弟子達は怠慢になったんだよ、アホだから。なぜ怠慢になったかわかるか？

釈迦牟尼と高弟達はね、素晴らしいスーパー・パワーを持っていらっしゃったんだ。そして、ひたすら修行をし、真理を知っていらっしゃった。それほどに高レベルの人達だったから多くの信者を持っていた。

その為、それ以外の仏教の修行者も、仏教の名に支えられて食べ物に困らなかった。寝泊りに困ることもなかった。信じられていたからね。そして、まだ修行中で力も無いというのにね、ぬるま湯につかったような生活を味わっちゃったんだ。だから、本格的に修行をしたことのない怠慢な彼らは、釈迦牟尼の入滅後、ただ教えしか述べることができなくなっちゃったね。「私はかよ

うに聞いた。ある時世尊（釈迦牟尼）は、サーヴァティーのジェータ林なるアナータピンディカの園にましました……。」とね。単に教えしか話すことができなくなっちゃったんだ。

一方、ヨーガの源流であるバラモン教はだよ、仏教が広まった時、その勢いにおされてすたれてしまった。しかし、バラモン達は「これではいけない。」ということで昔からあった古いタイプのヨーガを改良し、それを武器として仏教に対抗したんだ。

時代は移り、仏教は今言ったように堕落した。それとは逆に、バラモン教から発達したヨーガは力を持つようになった。だから、「ヨーギ（ヨーガ行者）の方が力がある。私達を高い世界に連れて行ってくれる。」と感じた信者達は、仏教を見捨てだした。僧を見捨てだした、ね。

今度困ったのは、仏教の僧達だ。これじゃ生きていけないものね。そこで、一部の非常に優秀な僧達は、それこそ一生懸命に修行をしたわけだよ。そして、信者達の要求をどうしたら受け入れることができるか考えたわけだ。そうして、最終的に大乗仏教が誕生する。

▼君には六つの極限しかない

大乗仏教には、八正道が無い。七科三十七道品も無い。しかし、大乗仏教が劣っているとは言えない。なぜなら、六波羅蜜があるのだから。これが、私がいつも言っている六つの極限の修行だ。この六つの極限の修行の偉大な点は、在家の人達でも解脱できるプロセスが含まれているこ

迫力ある説法

とだ。これは、出家できない、特に日本の社会にあって解脱を望む人達にとって、ぴったりの修行法だと言えるだろうね。

中には初心者もいらっしゃるようだから、もう一度ここで六つの極限について触れておこうと思う。

◎布施

まず布施だ。ここで皆こう考えるかもしれない。「どの宗教も布施のことを言うよ。あれは金を集める為の手段じゃないか。」と。まあ、そう思って金を集めているところもあるかもしれないよ。しかし、布施の本質的な意味は、物質的なものにこだわらない。あるいは心の安らぎにこだわらない。あるいは間違った観念にこだわらない。これが布施の原理なんだよ、ね。

凡夫というものは、物に対するこだわり、自己の安定に対するこだわり、あるいは観念に対するこだわりがあるわけだ。だからそこで布施の実践が必要なんだよね、こだわりを消していく為に。

だから、例えば全財産を布施できる人、自分が苦しいのに他人に安らぎを与えてあげようと手を差し延べられる人、真理の法を理解して他に真理を説ける人は、別に布施の実践をしなくてもこだわりがないので大丈夫だということになる。

◎持戒

これはグルがね、「これはやってはいけないよ。これを無くしなさいよ。」と言ったことに対して、いつもハイハイと二つ返事ですべてを実行できる人、この人はもう持戒を守る必要はないよ。しかし凡夫は、それを守ることができないから、この修行があるんだ。また、エゴによって、自分の欲求によって、いろんなことを求めるから、ね。それを押さえ込む為に持戒があるんだよ。いいですか？

◎忍辱

そして三番目の忍辱だ。これも、例え身体がちぎれようがね、例え血を吐こうが、例え死のうがだ、自己の極限に絶えず挑戦している人、この人はもう忍辱波羅蜜を実践する必要はないんだね。これも当たり前のことだよね。

しかし、私達の意志の力は大変弱いから、そこで忍辱波羅蜜の実践が、忍辱の実践が必要となった、ね。

◎精進

最後に精進だ。世事のことと修行とを比較して、絶えず修行の方をとっている人にとってだ、精進波羅蜜というのは必要ではないんだ。しかし、凡夫は修行よりも世事のこと、快楽、こんなものを求める。だから精進波羅蜜が大切なんだよ、ね。極限の修行が必要なんだよ、ね。

ほら、ここでは在家を否定してないよ。どこに一切を苦しみなさいと言っているか？どこに愛着を捨てなさいと言っているか？持戒はパタンジャリのヨーガスートラを見てごらん。初めに、やってはいけないこととやらなければならないことが書いてあるじゃないか。

忍辱波羅蜜は意志の強化だよ。ラージャ・ヨーガのプロセスと同じだ。そして修行に入りなさいよ。これが精進だ。六波羅蜜では精進の次に瞑想の極限、そして最後にすべてを知る極限がくる。これはヨーガでは精神集中・瞑想・三昧のプロセスと一致している。

このような一致は、仏教とヨーガが歴史上競い合って、互いに良い影響を及ぼしたということだろうね。それだけじゃなく、同じ真理に至る道だから同じになったということもあるだろうね。

▼確信を持て

八正道、七科三十七道品は素晴らしい修行法である、と私は思っている。しかし、現代では使えない。使えるわけがないんだよ。例えば八正道の正見。それは私達日本人にとって、正見のマニュアルが無いんだ。真理の見方については、私しか示すことができないだろう。また、この錯覚の世の中にあり、しかも真我がいまだに暗に落ち込んでいっている人にとっては、苦を感じることはできないだろう。楽しいことだって一杯あると思ってしまうだろう。正しく見ることなど

とてもおぼつかない。

マニュアルが無い。正見の実践は自分だけでは不可能だ、となったら、もうすでに八正道の第一プロセスで引っかかってしまったことになる。

だからこそ、オウムでは私達にぴったりの、独自の修行システムを作っているんだよ。必ず悟る、解脱するというね、それだけのシステムがオウムにはあるんだ。だから皆さんは確信を持って修行してほしい。

第六話　予言と救済

▼確実に核戦争だ！

これから先世界がどうなるか、私達は一体どんな生き方をしたらいいか——ということについて話したいと思う。

まず、これから日本が辿る道に目を向けてみようか。日本は今まで豊かな生活をしてきたね。それは、戦中・戦後しばらくの間の苦しい生活がもたらしたものだ。苦しい生活がもたらしたというのは、日本人が苦しい生活をすることによって功徳を積んだ。その積んだ功徳によって豊かな生活を得たという意味だよ。

しかし、功徳によって得た豊かな生活も、ただ単にそれを享受していたら、今度は功徳を磨り減らすという結果を招いてしまう。人間というものは、このことになかなか気付かないものだ。気付かぬままに、この大切な功徳を失ってしまったら、どんな事態が待ち受けているのだろうか。

本当に大変なことになるよ。

これは私の予言だよ。日本は、アメリカ・ヨーロッパとのね、経済摩擦をきっかけとして、少しずつ少しずつじり貧の生活に入っていくだろう。いいですか。その本当の口火が切られるのは一九九〇年だ。そしてもしだよ、一九九三年までにオウムがね、世界に、世界各国に少なくとも一つないし二つの支部を持っていたら……私が今から話す予言は外れることになるだろう。

しかし、もし一九九三年までに、本当のボーディサットヴァ（大乗の仏陀になる為に修行している人）が集まって、世界各国に二つ以上の支部ができなかったらどうなるか。九三年に再軍備だよ。いいですか。そして、一九九九年から二〇〇三年までに確実に核戦争が起きる。ね、私麻原は初めて核戦争について触れたよ。私達に残されている時間は、あとわずかに十五年くらいしかないんだよ。

▼世界へ羽ばたけ

でもね、その頃にはきっと各国に支部を持っているだろうね。そして支部のリーダーには、きちんとヨーガを成就している、少なくとも仏教の悟りを開いている人がなっているだろうね。オウムの会員の皆さんは、非常に真面目で真剣だから、きっとそうなっていると思うよ。そうなることが、私の願いでもあるよ。

なぜかというとね、もしそれがなされるならば、核戦争を回避することが可能だからだ。じゃあ、なぜ核戦争を回避できるんだとね、皆さんは思われるかも知れない。それはこういう理論なんだ。

各国の支部のリーダー達がね、成就者であったら、これは仏陀（目覚めた人）だ。釈迦牟尼如来が多くの人々に敬愛されたのと同様に、その国の人々に敬愛されていることは想像するに難くない。

その国の人々は知りたがるだろう。「仏陀達の根本はどこですか、仏陀達の根元的エネルギーを発しているところはどこですか。」、とね。「それは日本ですよ、オウムですよ。」私達は彼らに伝えることができる。「オウムは、戦争を否定します。殺生を否定します。メンバーは真理しか語りません。真実の生活しかしません。」オウムの心は外国の人々にも必ずや伝わるだろう。いいですか。そうなったとき、日本はだ、外国からの攻撃は受けないようになるだろうね。それはそうだろう。自分達の魂の根源、魂の根源的城がだよ、日本にあるとしたら、それを誰が攻めることができようか。その国の二割でも三割でもオウムの信者がいたら、日本との戦争は避けるだけのパワーがあるだろう。それは確かだよ。

さて、このような理由から、オウムの教えを世界に広めていかなければならない。支部を各国に作っていかなければならない。アメリカ――、最初にアメリカ合衆国に支部を持とうよ。アメ

リカという国は、何でもそうだが、非常に流行するのが速い。それは日本でのスピードとの比ではないよ。もし、成就者が出て、あるいは成就できなくとも成就に近い人間がね、「オウムの教えとはこういうものだ。」とね、「真理の宗教、その根本となすものはオウムの教えですよ。」と、それを普及したならば同じように闘争は無くなるだろう。アメリカの次はヨーロッパ。最後に私達は、仏教やあるいはヨーガの発祥の地であるヒマラヤに道場を持とうよ、ね。——そして、ひととおり私の仕事は終わる——。

いいですか。もし九三年までにオウムがだよ、シヴァ神の意志を理解し実行し、役割を果たすことができたならだ、確実に戦争回避はできる、ね。そして、逆にだ。シヴァ神の意志をわからないで、理解できないでだ、自分達のことだけを考えていたなら回避は不可能だろう。

▼最期の救済メソッド

ところで、私達は次のようなことも考えていかなければならない。現代はいくら個人に力があったとしても、ね、このシステム的に動いている社会を、どうこうすることはできないよ。そうでしょ?だから、オウム自体もシステム的に動かなきゃならない。そして、その中でもとりわけ大切なのは、「私は解脱をしたいんだ。私は悟りたいんだ。」と願う人に、その場所を提供できるようなね、そういう組織にしていくことじゃないかな。これは私ひとりの力じゃどうしようもな

い。皆さんの力が必要なんだ。皆さんの協力が必要なんだよ。そして、私達が救われる道も、この方法しか残っていないんだよ。私の見ているヴィジョン、直感智、それから私のジュニアーナ・ヨーガによる推理智を総合するとね。

▼真理の道場「地球」を守れ

もちろん、いくら一九九九年、二〇〇一年、二〇〇三年にだ、第三次世界大戦と言われる大きな戦争が起きたとしてもだ、それまでに成就していればその人にとっては大したことではないよ。「何かピカッと光った。さあ、私はクリアーライトに入ろう」とね。肉体はそのとき捨ててしまえばいいからね。しかしだよ。自分のまわりの人達が苦しみもがいているときにだ、「あなた方は修行しなかったから仕方ないよ。私は修行し成就しているから、私だけ楽な世界に入りますよ。」と、そういうことができるか?ま、そんなことできないよね。考えられないよね。だったら、そういう事態、第三次世界大戦を回避するようにしなくては!

私はインドに四回行った。そして、いろんな聖者に会ってきたが、誰ひとりとして回避する道を歩いている人はいなかった。例えばね、あのチベット仏教ですらそうだった。精神世界に固執し、自分達の国が滅亡しているということをね、意識しすぎて真実の道を踏みはずしているように私には見えた。

壇上に立つ尊師（87年冬期セミナーにて）

私達に国は無いんだよ。もともと国は無いんだよ。確かに今、欲六界のうちの人間界に生まれているよ、私達は。でも、これから先いつ虫ケラに生まれ変わるかも知れない。いつ地獄の住人に生まれ変わるかも知れない。ね、それを考えたら私達に国は必要ではない。いいですか。エゴを全うするような国は必要ないんだ。

じゃ何が必要だ?それは私達がこれから先にね、何度でも再生して真実の道を歩ける、そういうスペースが必要なんだよ。空間が——。

それは日本でもなければアメリカでもない。ヨーロッパでもないよ。地球全体がそうなんだよ。したがって、地球を守らなければならないんだよ、私達は。

▼あなたも救済者

今、チベットの僧の中には、インドの兵隊に精神的な教育を行なっている人もいる。「もしあなた方が国を守らなければ、あなた方は戦争に負けてしまいますよ。あなた方の身内も苦しめられますよ。」とね。私はこの話を修行中の若い僧から聞いたときにはびっくりしたね。だってそうでしょ。そんなこと釈迦牟尼如来は言っていないよ。他の成就した聖者達も、誰ひとりとして言っていないよ。

しかしだ、私達の最後の砦(とりで)の一つである、チベット仏教の僧達は、軍隊の教育という職業に就

いたら、そう言わなければならない。そんな環境、条件下で生活しているんだよ。

じゃあね、誰が自由に発言できるんだ？誰が自由に生きることができるんだ？それは私達なんだよ。今の日本こそ、自由に発言し、表現できる国はないよ。

おそらく、この中の多くの人は過去世において多大な修行をし、その功徳によって日本に生まれてきたのだろう。救済の一端を担う為に生まれてきたのだろう――そう私は考えている。

私はまだインドと中国しか知らないけど、確かにみんなのんびりしているよ。中国ものんびりしていた。インドものんびりしている。しかしね、彼らは確かに自由ではあるけれども、私に言わせるとそれは動物的自由に近い。私達日本人もエコノミック・アニマルと言われているけれどね。しかし、精神的に自由になることもできるよね。そうだろう？

まあ、その為にはもっともっとシステム化された、大きな組織が必要なんだけれど。例えば、あなた方が心の自由を欲したとき、一カ月でも二カ月でも瞑想修行をし、悟ることのできる組織がね。この修行をヘルプする組織を作るには、あなた方の協力が必要なんだよ。さっきも言ったようにね。

▼真理を広めよ

私達は今修行をしている。だから、いかなる事態に陥っても最終的にはクリアーライトという

逃げ道がある。クリアーライトというのは、要するに意識をアストラル・ボディーに移し変えてね、アストラル世界に逃げてしまうということだ。そうすれば、いくら核兵器が使われたとしても、私達の肉体は滅びるがアストラル・ボディーは滅びない。またこの世に生まれてきたかったら、新しい肉体を持って再生すれば良い。成就者だったらそれができるんだ。その時地球が荒廃し、手がつけられない状態だったら、他の惑星に生まれればいいよ。

でもねえ、話を元に戻すよ。他の人々が焼かれ苦しんでいるときに、見て見ぬふりはできないよね。自分達だけが幸福だったらいいなんて、思えはしないよね。

だから、私はあなた方にこう言いたいんだよ。あなた方が仏陀になりなさいよ。そうして、あなた方がきちんと私の教え——いや言い方を変えよう、宇宙の真理だ——真理を説いて、もっと多くの仏陀を誕生させなさい。そして、世界的にオウムの修行システムを広めてね、仏陀を点在させなさい、とね。そうなったら、一切の戦いは無くなるはずだ。

▼完璧な修行体系

じゃあ、なぜ戦いが無くなるはずだと言えるのか。一つは前にも述べたように、各国に信者が存在すれば、日本が攻撃されることは無くなるということ。しかし、それだけじゃない。真の教えを信じる人々が多い国だったら、その国内でも争いは無くなるだろう。そして、対外的にも争

いを避けるだろう。このような国が多くなればなる程、地球は平和で安全だ。したがって、一切の戦いは無くなるはずだ、とね、私は言い切ることができるよ。

そして、それを可能とすることのできる宗教的な組織と言ったらね、オウムしかない。それはね、オウムには素晴らしい修行体系があるからだよ。あなた方が悟る為の、解脱する為の修行体系は完璧だ。もし、これが世界に広まったならば、確実に第三次世界大戦を防ぐことができる。これは私が約束しよう。

これからのオウムの動きはわかったね。いよいよ組織的になっていくだろう。

しかしだよ。組織的になっていくからと言って、皆さんひとりひとりの意見をね、無視して進めるつもりはない。逆に、今からはより一層、皆さんの意見あるいはアドバイスを聞いていきたいと思っている。それらは、どしどしオウムに寄せていただきたい。

▼続出する成就者

来年の十二月いっぱいをもってね、私のシャクティーパットは終わるだろう。それは、私は他にやらなければならないことがあるからだ。

じゃあ、会員の皆さんはそれ以降シャクティーパットを受けられないのかと言ったらそうではない。私は必ず皆さんが認めることのできる仏陀というものをね、作っていくよ。そうすれば、

会員の皆さんは私以外の仏陀から、シャクティーパットを受けることができるわけだ。

まず、ケイマを独房修行に入れる。そして、彼女が成就するまで外に出さないつもりだ。次は新実という具合にね、やっていくつもりだよ。まあ今年中はせいぜいふたりか三人だね。しかし、これはネズミ算的に増えていくはずだから、シャクティーパットについては安心してほしい。

▼これからの三年間

一九八七年、つまり今年から一九九〇年の三年間に起きることを簡単に話しておこう。

まず、日本における選挙だが、これは非常に波があるだろう。波があるというのは、例えば、自民党が大勝したり、逆に大敗したりということだ。大敗というのは二百議席すれすれを意味する。衆議員は特に波の激しい選挙になるだろう。

人々は、より一層現実主義にね、移行していくだろう。そして、私達を操っているマスコミはだ、いいですか、私達に食欲、性欲、それからスポーツというね、三つの享楽しか与えなくなるだろう。別の言い方をすれば、精神的な面を徐々に制約していく、ということだよ。

次に――いいですか、良く聞いておいてくださいよ――、政治的な面だが、国家の力・警察の力が増大していくだろう。日本の国民は徐々に徐々に、同じような物の考え方に統一されていくだろう。

それからね、冬と夏の区別がつきづらくなってくるだろうね。例えば四月五月になろうとしているのに急に冷えたり、あるいは十二月になってぽかぽか陽気になったりといった現象が起きてくるだろう。

また、円高は一層進むだろうね。私は百円を切ると考えています。それから、一九九一年から二年くらいの間に、農作物の輸入自由化が行なわれるだろうね。政治的には右傾化してくるはずだ。一九九三年には再軍備だ。

まあ、小さいこともいろいろあるが、今日はこのくらいにしておこうか。

第七話　タントライニシエーションの全貌

▼秘伝の伝授――イニシエーション

タントラのイニシエーション、それと修行法についてお話ししたいと思う。イニシエーションとは、一言で言えば秘伝の伝授だ。グルが弟子に教え、霊的なエネルギー、経験を授ける儀式なんだよ。したがって、イニシエーションが行なわれて初めてそのレベルの修行がスタートするんだ。大変重要な儀式だと言えるね。

イニシエーションはね、大きく分けて四段階あるんだよ。第一イニシエーションから、第四イニシエーションまでね。では、第一イニシエーションから順に説明していくよ。いいですか。

▼第一イニシエーション

これは、チベット語では『プモワン』と呼ばれているイニシエーションだ。これはタントラの

入門の儀式なんだね。言い換えれば、五仏になる為の参入の儀式だよ。

しかし、タントラでは入門と言ってもね、ここに来るまでには大変な修行が必要なんだ。その大変な修行というのはね、布施の極限、持戒の極限、耐えて意志を強める極限、精進の極限の四つの修行だ（詳しくはP100を参照）。この四つの修行の基礎ができて初めてタントラという、一層高度な修行へ入っていくというわけなんだよ。

ただ、皆さんに言っておきたいことはね、——まあ、いつも言っているんだけど——このタントラの基礎となる修行は自分でやってくださいよ、ということだ。私が皆さんに教えるには、時間的制約がある。しかし、私はその限られた時間の中で、最高の修行法を教えたいと思っている。だから、基礎的なことは自分でやっておいてほしい。ね、いいですか。わからないことは、指導員に聞いてね。それを前提として話を進めるよ。言い忘れたが、基礎的修行によってタントラに必要な、長時間精神集中する力を得るんだよ。だから、基礎がしっかりしていないと、次の修行が成り立たない——とこうなるんだね。

さて、話は『プモワン』、すなわち第一イニシエーションに戻るよ。このイニシエーションの儀式ね、これは各派によって多少の違いがあるんだ。ここでは、ゲールク派のイニシエーションを例に取って説明しようと思う。

第一イニシエーションの中には六段階あるんだ。一番最初は『水のイニシエーション』だよ。

ここでタントラの修行者としての参入が認められるわけだ。このとき、修行者はグルから水と修行法を授かるんだよ。

その次は『王冠のイニシエーション』だ。ここではね、王冠とラトナサンバヴァ（宝生如来）になる為の修行法が授けられる。

三番目は『ヴァジラのイニシエーション』。ヴァジラとは、仏陀の心を表わすものだ。日本語では金剛と言っている。このイニシエーションは、グルからこのヴァジラとアミターバ（阿弥陀如来）となる為の修行法を授けられるというわけなんだね。

さて、四番目へ行くよ。四番目は『ヴァジラベルのイニシエーション』だよ。ここではヴァジラベルとともにアモガシッディ（不空成就如来）となる為の修行法が伝授される。

次のイニシエーションでは、タントラの修行者としての名前とヴァイローチャナ（大日如来）になる為の修行法。そして最後が、アクショブヤ（阿閦如来）になる為の修行法だ。

今述べてきたのが、チベット仏教でのイニシエーションだよ。私の、つまりオウムのやり方は、若干違っているので、そのことに触れて第一イニシエーションを終わりにしたいと思っている。

私のやり方っていうのはね、私が過去世で修行を進めてきたそのプロセスをあてはめているんだ。私は過去世でもタントラの修行者だったんだよ。そして、成就することができた。そういう過去世での経験があるからこそ、今生でも若くして成就することができたんだね。皆さんは、私

という指導者がいるから、私の教える修行に励めば最後まで行くこともできるだろう。つまりね、タントラの仏陀になれるだろうということね。

しかし、今生での私にはグルがいなかった。過去世の記憶を頼りに修行したんだよ、私の場合は、ね。そして、どうしても行きづまってしまったときは、シヴァ神が示唆を与えて下さったんだけれどもね。

私は皆さんにはね、自分が辿ったのと同じプロセスにのっとったイニシエーションを与えたいと思っているんだよ。いいですか。すでに、一定のレベルに達した人にはイニシエーションを与えているよ。だから、これについては知っている人もいるだろう。では、私が授けるイニシエーションとはどういうものか、説明していくことにしようね。

まず、第一イニシエーションのその1は『参入の儀式』であって、チベット仏教と同じだから省くことにしよう。そして、その2～その6までが、五仏になる為の修行法だ。ここでは、チベット仏教と順序が違うよ。いいかな。

▼第一イニシエーション　その2

この二番目のイニシエーションではね、ヴァジラとともにアクショブヤになる修行法を伝授するんだよ。この修行法をクリアーするとだ、功徳による修行上のゆるぎない基礎ができるんだ。

▼第一イニシエーション　その3

次に私は、神秘刀とともにラトナサンバヴァになる為の修行法を伝授する。これによって、一切の雑念を振り払い、強靱な意志の力を作ることができるんだよ。

▼第一イニシエーション　その4

次は、アミターバになる為の修行だ。このとき与えるのはヴァジラベル。そしてね、正確な識別智というものを得ることができるんだ。これによってだよ、正確な識別智を得て、衆生を法によって救済するんだ。ここでのポイントはね、ヴァジラベルの音色をこう観想するんだ。その音が識別智によって発する仏陀の声、だとね。

▼第一イニシエーション　その5

第一イニシエーションのその5ともなると、三次元的に使えるシッディが身につく。シッディとは超能力のことだよ。そして、三次元的というのは、この世で——という意味なんだ。だって、この段階ではまだアストラル・ボディーを持ってはいないのだからね。ここで伝授されるのは、アモガシッディになる為の修行法とね、教典だ。この教典は普通の仏教の教典とは全く違うよ。

この私が、アストラル世界から持ち帰った教えが書かれている。したがって、私からイニシエーションを受ける人以外、知ることはできないんだよ。ね、早くこのイニシエーションの段階まできなさいよ。そうしたら、どういう内容かわかるからね。

▼第一イニシエーション　その6

いよいよ第一イニシエーションの最終段階までやってきた。これはヴァイローチャナになる為の修行法だよ。このときグルは、グルが異性と交接しているアストラル的なイメージを与えるんだ。そのアストラル次元での精子と卵子との結合によって、あなたは自分のアストラル・ボディーを作ってもらうことができるんだよ。ここらへんまでくると、大分タントリックな様相を呈してくるね。

▼第二イニシエーション

さて、第一イニシエーションはこのくらいにして、第二イニシエーションへと話を移そうかね。これはシークレット・イニシエーションと言われているんだよ。秘密のイニシエーションという意味だよね。ここでグルが弟子に与えるものは何か――？それは白い精液と赤い血だ。しかし、まあ、ほとんどの場合、白ワインと赤ワイン、ヨーグルトとお茶などの白と赤の象徴で代用され

るんだよね。そして、グルと弟子が共に高レベルのときは本物が使われるはずなんだけど、まれなことなんだ。なぜって、グルと弟子が共に高レベルのことなんて、皆無に等しいからね。私は過去世では、本物でイニシエーションを受けたけれどね。

血は全血管を働かせるんだよ。脳細胞も含めて、ね。精液は、グルの経験を伝える為に必要だ。人間を構成しているのは、母親から受ける経血と父親から受ける精液だったね。だから、グルの子となるタントリストがこれらを受けるのは当然のことでもあるね。経血と精液の話、まだ知らない人は私が書いた『生死を超える』の死の瞬間の項を読んでおいてください。

それから、つけ加えておこう。私が行なうシャクティーパットはね、この第二イニシエーション以上の伝授のときに使うものなんだよ。

▼第三イニシエーション

第三イニシエーションに入ろう。このイニシエーションは、チベット語ではデワチェンポ、サンスクリットではマハースカと呼ばれる状態に導くんだよ。私はその状態を大楽（たいらく）という言葉を用いて表現しているけど、みんな同じ状態のことをいっているんだ。

このイニシエーションではね、絵・像・言葉などによってね、ダキニのイメージを与えるんだよ。ダキニとは天女、修行者を助ける天女だ。

そのイメージによって性的に刺激する。すると、修行者の性エネルギーは非常に強くなって上昇するんだ、ね。そのエネルギーは頭頂のブラフマランドラを刺激して、智のエネルギーが下に降りていく。この智のエネルギーの下降は、心を浄化するんだよ。これはトゥモ（クンダリニーの覚醒）からツァンダリーまでのプロセスだ。ツァンダリーによってデワチェンボ、すなわち大楽を得ることができるんだよ。

ところでね、話は変わるけど、チベット仏教のラマ（高僧）にロブサン・テンジンという人がいるんだ。彼は、二年前に性エネルギーを上昇させるトゥモの科学テストをした。そのテストは、アメリカのハーバード大学で行なわれたんだけれどね。体温が通常よりも十五度も高くなったんだそうだ。それほど強いエネルギーが上昇するんだよ。

私は彼にインドのダラムサーラーで会ったけれど、彼は山の中で瞑想修行をしていたね。彼の天然の岩を利用して作った小さな小屋で、修行について話し合ったものだ。

余談になるけど、この段階は女性よりも男性の方が成就しやすいんだよ。男性の方が性エネルギーが強いからね。

また、いろいろな神秘体験をしだすのも、この第三イニシエーション以後となる。それは、ツァンダリーが神秘の源だからだよ。

▼第四イニシエーション

これがタントラの最終的イニシエーションとなるね。このイニシエーションでは、グルがね、弟子にプロセスを説明するんだ。神秘体験から解脱に至るまでのね。これはとても重要なんだよ。なぜなら、間違いが起こりやすいから。例えばね、まだ成就していないのに成就したと思い込んでしまうとかね。とにかく間違いが多いんだよ。

よくいるんだよね。私から見たら成就していない人間が、「私は解脱した。」と公言してはばからないとかね。そういう人は、本当はここで修行に失敗したんじゃないかな。私はそう思うよ。皆さんの場合はね、私がちゃんとついているから大丈夫だよ。ちゃんと最後までいけると思うよ。やる気さえあれば、ね。

それとね、この頃は心がとても複雑になるからね、グルはその点もふまえて説明するんだよ。心が複雑になると、突然恐怖が襲ってきたり、悲しくなってしまったりする。その影響を最小限にくい止める為にもね、グルからの説明は役に立つんだよ。

ここではもう最後の修行だ。それは、スンジュという状態を作るものであってね、二つのレベルがあるんだよ。一つはロベスンジュ、そして、もう一つはそれより高いレベル、タントラの最高レベルであるミロベスンジュなんだ。

▼ロベスンジュ

さあ、ロベスンジュの状態からお話しようかね。先の第三イニシエーションで、微細体とクリアーライトを得ているんだけれども、このことを言い忘れてしまっていた。悪かったね。とにかく第三イニシエーションの段階を成就すると、微細体とクリアーライトを持てるようになるんだよ。微細体とは、いいですか、仏陀の体なんだ。そして、クリアーライトはね、仏陀の心と思ってもらえばいいだろう。ここまできた人は、すでにこの二つを持っているということだよ。

しかしね、持っていると言っても、それらは別々に存在しているんだね。心と体が別々——これじゃあ当然役には立たないんだよ。そうだろう。

そこでだよ、微細体にクリアーライトを移し変えることが必要なんだね。この移し変えの技法をポアというんだけれどね、この修行には長くかかると言われているんだよ。

さて、ポアに成功したとしたらどうなるかな。まず、カルマの影響を受けなくなるね。しかし、心が微細体に移った為にカルマの影響を受けないだけであって、カルマが消えてしまったわけではない。このカルマを消してしまわないと、再び生まれ変わってしまうんだからね、そうならない為にはカルマを消滅させなければならないよね。そこで、次のミロベスンジュの修行が必要となってくる。

ところで、ポアによって心を持った微細体が活動を開始するとね、この微細体によってその人

は高度な神秘体験をしだすんだよ。

▼ミロベスンジュ

最後の最後の段階、これがミロベスンジュだ。これは、残っているカルマを消滅させていく段階でね、カルマを落とし切ってしまったら、もうあなたはグヤサマジャなんだよ。グヤサマジャというのが、タントラの仏陀だ。ここにすべてが成就——ということになる。

こうやってね、イニシエーションのこの長い道のりを聞くとね、大変だと思うだろう。でも、それは決して不可能ではないんだよ。いいですか。そもそも、タントラというのはね、一つの生で成就する為の修行法をもっているんだよ。特に、私が教える修行法は、不必要なものを一切省いてあるんだ。効果的なんだ。だから頑張って消化してくださいよ。そして今生でグヤサマジャとなってくださいよ。

専門用語の解説

あ行

◎阿含経
仏典の一つ。釈迦牟尼入滅後、高弟達がまとめた釈迦牟尼の法話集。

◎アーサナ
ヨーガ技法の一つ。

◎アストラル世界
異次元の世界全体を指す。微細な五大元素で構成されている。肉体から離れた幽体は、ここへ行く。

◎縁起の法
出典―阿含経。

か行

◎グナ
三つのダイナミックなエネルギーで、宇宙を構成している要素である。（あとは本文に説明あり。）

◎クリアーライト
解説直前の最も高いステージで現われる透明な光。

◎グル
宗教上、修行上の指導者、師。

◎カルマ
原因として生み出されたものは、必ず結果を招くということ。例えば、過去の良い行為、悪い行為が後に

自分に返ってくるということ。

◎グルヨーガ
無上ヨーガの修行法の一つで最高の瞑想法。

◎クンダリニーの覚醒
「生死を超える」「超能力秘密の開発法」参照。

◎クンダリニー・ヨーガ
「生死を超える」「超能力秘密の開発法」参照。

◎コーザル世界
無色界のこと。精神だけで構成された世界。ここには情報のみが存在する。

さ行

◎シヴァ神
ヒンドゥー三神のひとり。オウムの主宰神である。

◎色界、無色界
色界は絶妙の物質でできた世界。無色界はP67参照。

◎シャクティーパット
グルが弟子に直接エネルギーを注入し、霊性を高める技法。

◎ジュニアーナ・ヨーガ
分析的ヨーガである。自己の思考プロセスを分析し、煩悩を理解した上でその煩悩を取り除くことができる。

◎真我独存
最終解脱の状態。このときの魂は絶対自由、絶対幸福、絶対歓喜である。

◎セルフリアライゼーション
最後にして最高の悟り。(悟りには無類のステージがある。)

◎粗雑次元の五大エレメント
この世を構成しているエネルギー地、水、火、風、空、の五つ。

た行

◎大乗の仏陀と小乗の仏陀
仏陀とは目覚めた人、悟った人という意味。大乗とは全ての人々を救う(真理の世界へ連れていく)活動を指す。したがって救済活動をする仏陀である。これに対して小乗の仏陀は他との縁を断ち、ひとり悟りの境地に入る仏陀である。

◎大乗のボーディサットヴァ
P58－59参照。
◎チャクラ
チャクラについては「生死を超える」「超能力秘密のカリキュラム」「超能力秘密の開発法」参照。
◎ツァンダリー
無上ヨーガの瞑想法の一つ。

は行

◎バグワン・シュリ・ラジニーシ
インド出身の宗教家。
◎微細な肉体
アストラル・ボディーのこと。
◎プラーナーヤーマ
ヨーガ技法中にある気をコントロールする技術。
◎ブラフマランドラ
頭蓋内にあってこの世と最高位のアストラル界を結んでいる所。
◎奉仕修行
功徳を積む修行の一つ。また、グルに対しての奉仕修行は、グルと弟子の関係を強化することができる。
◎菩薩道
エゴに満ちた人が、エゴを消滅し大乗の仏陀になって人を救済するための修行プロセス。六つの極限の修行がこれにあたる。

ま行

◎マハーヤーナ
最高のニルヴァーナ。
◎ムドラー
ヨーガ技法の一つ。

体験談については、なるべく原文に忠実に掲載しました。
厳密に言えば誤りかと思われる表記も体験者の個性を残す為に、
そのまま掲載させていただきました。

◉第二章　真理の道——三十一人が明かす解脱のプロセス

だれもが経験する神秘のステージ

▼プロローグ

どんな人たちがどんな修行をしているのだろうか？修行をするとどういうことが起こるのだろうか？こういう疑問をお持ちの人が多いことと思う。そこで、修行や各ステージの体験を、実に三十一名の人達に書いていただくことにした。そして、私はそれらの体験をステージ別に分類し、更にコメントをつけ加えてみた。これらは皆さんの良い参考になることだろうと思う。

もし、皆さんが修行に入ったとしたら、皆さんも同じ体験をし、同じようにステージを上がっていくことだろう。

〈ステージの段階〉

①クンダリニーの覚醒

地のステージ
水のステージ
㊟この二つのステージは、あまりはっきりとした現象がでないので分類からは省く。
②火のステージ
③風のステージ
④空のステージ
⑤ボアのステージ
真解脱
最終解脱
㊟このステージは、まだ私しか体験していないので分類から省く。

以上は、解脱のプロセスである。
他に別枠として次の項目を設けた。
⑥悟りのプロセス
⑦超能力及び現実生活に表われる修行の功徳

▼クンダリニーの覚醒

ここには小宮さんと佐藤さん平田君の体験談をもってきた。本当は、三人ともすでに上のステージに上がっているのだが、クンダリニーの状態がよく表現されているのでこちらにさせていただいたのである。特に小宮さんは、『超能力秘密の開発法―大和出版―』に書かれているプロセスと全く同じプロセスを歩んでいるので参考にしていただきたい。

小宮　英子　（四十三歳）
元看護婦

私の修行を通しての日常生活での変化について述べてみたいと思います。

数年前から私自身の生き方の変化が仕事の面（看護教育）に影響し、そのことで悩みが深く以前のように仕事を充実し自信を持ってやることができない状況にありました。そのような中でも、前向きに生きようと必死に自己をみつめ、今まで人生の中で逃げてきたものに対して、色々と挑戦しておりました。少しは解決されたこともあったのですが、自己の内面ではもう一歩しっくり

せず、何かを探し求めていたのです。

六十一年五月、あるセミナーで友から紹介された雑誌の記事に心をうばわれました。(これが私が長い間探し求めていた道だったのだ。)という思いで何回も何回も繰り返し読んだのです。(これで私は救われるかもしれない。)という喜びが湧いてくる思いでした。それは麻原先生の書いたものだったのです。

さっそくオウムの入会手続きをし、その時六月の集中セミナーについての案内がありました。しかし、今すぐにでも飛んで行きたい衝動を押さえ、七~八月は、基礎プログラムを一生懸命やりました。そして、六十一年八~九月の短期集中セミナーに、はじめて五泊六日参加したのです。

麻原先生の真理に基づいた説法、人がら、オウム・スタッフの行き届いた親切、そして何よりも夜の十二時間にわたる修行のハードなこと——。でも、初心者にもわかりやすく個々に教えて下さり、ありがたく感謝する思いでいっぱいでした。ただ足が痛く、泣くような思いで時間との戦いでした。最高の幸福を得るためには、このような修行は当然必要なことであろうと思ったことでした。

このセミナーを通して私自身確認したことは、本当に参加してよかったという思いと修行を続けていきたいという思いです。麻原先生、オウムの修行を心から尊敬と信頼することが出来、深く感動、感激して帰ってまいりました。セミナー後の一週間位は精神が高ぶって現実生活での思

考が停止したかのようでした。

二～三カ月経過後、人間関係、仕事の面など日常生活上での変化が出てまいりました。今まで仕事の面では忙しく、焦る気持ちや充実感に欠けたりしてそれがストレスとなっておりました。また、人間関係の面でもお互い忙しさのため、自分のことで精一杯という余裕のない状態で、同僚のちょっとした言葉で傷ついたりしておりました。それが仕事は相変わらず忙しかったのですが比較的順調になり、焦る気持ちが少なくなり、直観的なひらめきが出るようになりました。人間関係の面でも以前傷ついた言葉でも相手の気持ちが良くわかるようになり、余裕をもって相手に接しられるようになり、傷つくことも少なくなっていきました。そして気持ちが楽になり、生きることに対して安定感が出てまいりました。

そのような良い変化がみられる一方、修行の時間がとれないことが悩みでした。家に帰ってすべてのことが一段落して瞑想する時間になると睡魔がおそってくるのでした。このまま仕事を続けると修行時間がとれず中断することになるのではと焦るようになりました。同時に、自己を高めるためにはオウムの修行に専念したい、という気持ちが高まっていきました。そして、六十二年一月の短期集中セミナーにおいて最終的な決断をしよう、また気持ちの整理もしてこようという思いで全日程参加いたしました。そして仕事をやめる決心をして帰ってきたのです。

私は看護婦です。数年前看護婦学校が新設されることになり、その設立準備の段階からおりま

したので、喜びも苦しみも学校といっしょにあったわけです。人一倍学校に対して愛着があり、愛着を一つ一つ断つことに人しれず涙を流したり、気持ちの整理をすることに残された時間の中で努力していきました。

家庭に入り修行と子どもの世話、家事という生活が始まりました。修行出来る喜びで毎日が幸福です。

四月二十九日から五月五日の短期集中セミナーは全日程参加いたしました。そして五月二日の出来事です。宿泊所でマントラを唱えているときです。体が上下、横、回転と大きな揺れがおこったのです。同室者から「震度二よ。」などと言われ、そのような状態が家に帰ってからも、しばらく続きました。現在では瞑想すると気持ち良い揺れがおきてきます。そして時折腹部があつくなり快感が走ったりしております。

日常生活においては心が軽くなり、心が満足し精神的な安定が得られております。

五月のシャクティーパットの際、麻原先生から「これからが本格的な修行ですよ。」と言われました。修行と家庭生活を両立させていかなければならないわけですから、修行が継続してできますようにと毎日祈りつつ、一日でも早く成就できるよう励みたいと思っております。

※修行上のポイント※

釈迦牟尼の高弟にマハー・モッガラーナという修行者がいた。あるとき彼は、新参者が真面目に修行しないのを見た。そこで足の指で道場全体を震わせ、新参者を戒めたのだという。

このとき、彼はクンダリニーのエネルギーを使って道場を震わせたのである。クンダリニーは部屋くらい震わせるのは簡単、という強いエネルギーなのだ。小宮さんも、クンダリニーのエネルギーで部屋を震動させることのできる段階で、悦の初めくらいにいるのである。修行は順調だと言ってよい。

これからは喜→軽安→楽——と『生死を超える』のプロセスが待っている。これまた大変である。

佐藤　律子（二十九歳）
日赤勤務　臨床検査技師

精神世界にまったく興味がなかった私が、大好きな人に勧められ、オウムに入会し早一年になろうとしています。この一年を振り返り、シャクティーパット、神秘体験と私の心の動きについ

て綴ることにします。

まずは、シャクティーパット。この最初の体験が、私を修行の道へと導いたのです。

昨年の六月にセミナーに初参加、この時シャクティーパットを受けました。前もって先生から、「セミナー中に神秘体験をするだろう。」とは言われていましたが、それがこのシャクティーパットの時だったのでした。その時の様子はこうでした。先生のエネルギーが私のアージュニァー・チャクラに注入され、私の尾てい骨のムーラダーラ・チャクラを熱くさせ、そのエネルギーに引っ張られるように、熱が上へ上へと昇りつめました。それに伴い心臓の鼓動が非常に速くなり、呼吸が荒く乱れ、全身がしびれ、そして硬直していき、自分の思い通りにならないという状態となったのでした。この時、頭の中では（これはどういうことなのか？）と思いながら、私の最初のシャクティーパットは終わったのでした。先生は、この状態を『歓喜』だと教えて下さいましたが、私には何のことだか少しもわからず、自分の身体であって自分のものではない感覚の原因を知りたいと思ったのでした。

その後、二回目、三回目とシャクティーパットを受け、やはり同様な状態へと導かれたのですが、初回の時以上の激しさはありませんでした。これは私自身が、一つ一つの身体の変化にストップをかけ、先生のエネルギーを素直に受けなかったためのことでした。

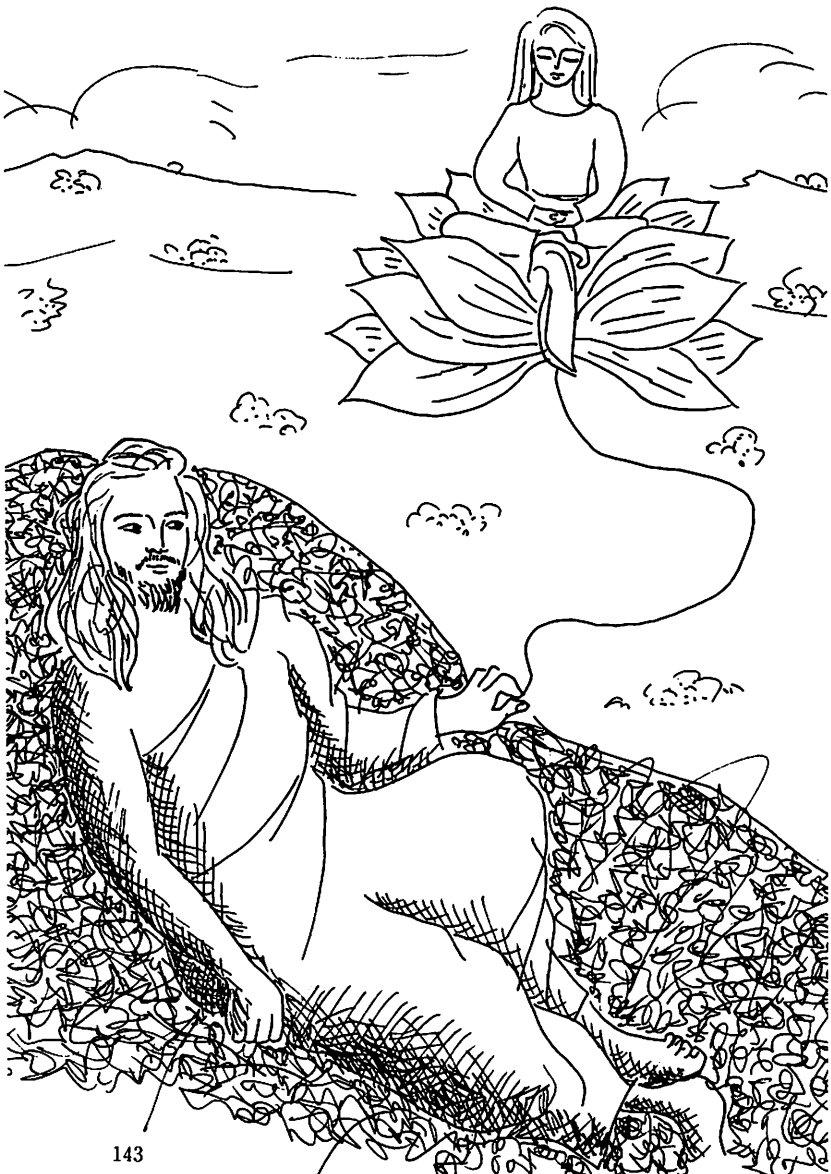
そして、徐々に修行を進めていくうちに自分一人でも『歓喜』を味わえるまでとなったのです。

最初は偶然に起きたことが、今では、意識をアージュニァー・チャクラに集中することによって、ムーラダーラ・チャクラから各チャクラを通ってクンダリニーが上昇し、身体もシャクティーパットの時と同様な反応をするのです。これによって、初回のシャクティーパットの時の疑問が解決し、修行の道へまた一歩進み出したのです。

又、四回目、五回目、六回目と回を重ねるごとに先生のエネルギーのすばらしさに、身体、心ともに歓喜は増すばかりで、満足感、幸福感以上のとても言葉では表わせないものが、私を包み込んでいるように思えるのです。

これが、私がこの一年間で受けたシャクティーパットの経験です。

さて、次に神秘体験ですが、私はほとんど光、幽体離脱、ビジョンという経験は無いのです。しかし、ただ一つだけ脳裏に焼きついていることがあります。それは、最初に自分一人で歓喜状態に陥った時のことでした。その時、先生は側に居ない。この状態を静めるすべも知らない。そのため恐怖感が増し、思わず「先生。」と呼びつづけたのでした。そうすると、先生が壁を抜け徐々に徐々に私の方へ近づき、私の心と身体を静めて下さったのでした。それはイメージでなく、先生の存在をはっきりと感じられるものでした。このことを先生に尋ねたところ、先生はその頃トランス状態であったそうです。この体験は私にとっては、とても貴重なもので、いつも先生がおそばにいらっしゃると思えたのです。



ところで、この一年間で一番苦しい思いをしたのは、自分の心をみつめることです。自分の中に次から次と絶え間なくわき上がる、うぬぼれ、しっと、いかり、執着などエゴの他に何でもない自分の心と行動、それをみつめることがつらく、苦しく、自分がとても嫌になり、人と接することをさけ、自分を消してしまいたい衝動にかられたことがありました。このことに気づかないふりをして、一般社会で〝幸せ〟といわれている結婚に目を向けようとしたこともありました。しかし、一度みつめてしまった心をそのままにしておけず、今では、心の動きをただながめ、心の浄化に努めています。そのことで、私もまわりの人達も幸せになるのではないかと思い、先生の指導のもとで私の修行を一生懸命進めて行こうと決心しましたところ、その一ヶ月後に、テレビ番組の『鶴太郎のテレもんじゃ』で、先生のシャクティーパットの実演となり、光栄にも私が先生のエネルギーを受けることとなったのです。その時の先生のエネルギーの強さ、すばらしさは今までにないものでした。本当に、先生を信じてきて良かったと思っています。そして、最近は非常に心が明るくとても気分のいい日々を送っています。

先生に会えたことと、その機会を与えてくれた良き先輩に感謝し、私の一年間を終わりとします。

※修行上のポイント※

彼女はクンダリニー・ヨーギの典型である。なんと、一回目のシャクティーパットから悦に入れたのである。こういう人は、本当に稀なのだ。今後の修行のポイントとしては、いかに最後の引っかかりである執着を取り除けるか、また百パーセントグルに帰依できるかどうか、ということであろう。これができるなら、解脱を果たすことができるに違いない。

平田　悟　（二十二歳）
富士通勤務

私がオウムに入会したのは、約一年前の六月の初めの日曜日でした。渋谷にあった道場に入会案内の地図を片手に、期待と不安を胸に懐いて道場を訪ねると中から美しい女性が現われました。そして、入会の手続きをすませ奥儀書を手に帰宅して修行を始めました。初めの三日間ぐらいは好奇心で修行をしていたのですが、週末が近づくにつれて修行を段々と怠けるようになりました。日曜日になり、何となく外出し、何となく電車に乗り、気が付くと先週訪れたオウムの道場でした。訳もなく入っていくと、たくさんのうらわかき女性が仕事をしていました。つい、「手伝いま

しょうか。」と言ってしまった私は、手伝うはめとなりました。この時に、私は修行が進まないことや疑問点を話すと、的確に解答してくれて、しかもやさしく励ましてくれるのです。私はなんだかやる気というものが心の底から出てきて、帰宅するころには、元気になっていました。ところが、修行を始めると、又、長続きせずに挫折し、週末になるとオウムに通うというパターンができてしまいました。

このようなことが繰り返されているうちに、月日は流れ、夏の集中セミナーを迎えた私ですが、修行がなかなかハードで初日の修行はついていくのがやっとでした。というよりも少し気を抜いて修行していた、というのが本音です。次の日の修行は慣れもあって少し楽になりました。修行が終わってシャクティーパットを受けることになりました。その時はあまり感じなかったのですが、その日の修行が以前よりずっと楽になりました。又、この時に火と水の洗礼があり、一日で両方とも、クリアできました。長く感じられたセミナーも日程を消化し、帰宅して修行すると修行のつらさが少なくなっているのに気が付きました。又、怠け癖も段々と解消し心にゆとりも出てきました。これもシャクティーパットの効果ではないかと思います。

いつの間にか冬になり十二月の特別セミナーが開催され、私はもちろん参加しました。この時もハードな修行プログラムでしたが、修行中に奇妙な体験をしました。それは、瞑想中に近くを回られたグルが突然私の前で立ち止まったかと思うと頭を引っぱられる感覚を覚えました。その

前に私の呼吸は乱れていて、息苦しかったのですが、その時「息を整えて集中しなさい。」とグルが私にやさしく語られました。私はなぜか涙が出る程うれしくなり、いつの間にか呼吸も停止し、快感にひたっていました。苦しくはなかったのですが、このままでは死んでしまう、と思い、息を入れた瞬間、あの快感がどこかに消えてしまいました。又、このセミナーでのもう一つの土産は、浄化法を教えていただいたことです。この行法を毎日すると体が軽くなり、健康にもなってきました。今も朝、浄化法を実践し、スッキリして会社に勤めています。

次に、正月のパワーアップセミナーでのことを話します。実は、この時クンダリニーの本覚醒を迎えました。この時も、シャクティーパットを受けた後でした。シャクティーパットは、たいへん気持ち良かったのですが、修行を終わってオウムの手伝いをしている時から、体に変化が現われ始めました。最初は風邪でも引いたと思っていましたが、発熱が異常で、何かコンロのようなものの上で焼かれているような感覚でした。この苦痛に耐えている時は、「早く終わればいいのに。」とか「いつまでこのような苦痛に耐えなければならないのか。」というような事ばかり、考えていました。あまりの苦痛にいつのまにか気を失ってしまい、気がつくと熱も下がり、意識もはっきりしました。やっとの思いで本覚醒を終了した私ですが、その時は、大変うれしかった。というのは、あの苦痛を乗り越えられたということと、シッディーの為の第一ステップであるクンダリニーの本覚醒を終了したからです。

今、思えば一年前にオウムに入会していなければ、いつまでもクンダリニーの覚醒は、不可能だったろうし、真理の道に入ることができなかったことと思います。これからも修行に励み、いつしか解脱して、グルの意志を世に伝えようと思います。

最後に、私は、半年でクンダリニーが覚醒しました。これは、オウムがいかに高度な修行体系を採っているかを裏付ける証だと思います。この体系を我々の為に教えて下さったグル麻原尊師に感謝いたします。

※修行上のポイント※

平田君は、入会以来積極的に布施と奉仕に励んできた。典型的な功徳の修行である。彼の修行が進んだのは、この功徳のおかげである。

ところで、修行が長続きしそうにないことを自認する人は、手伝いなどによってオウムとのパイプを作ることをお勧めする。彼の体験談にもあるように、たとえ週末が近づくにつれ、さぼるようになったとしても、何とか続けていくことができるだろう。そして確実に進歩していくことだろう。（八九年一月解脱）

▼火のステージ

まず、この火のステージに関係のあるもの、現象を列挙してみよう。

○マニプーラ・チャクラ
○バルドー（中間状態）
○仏教的には阿弥陀如来
○ヨーガ的にはブラフマン
○熱
○火
○識別智
○赤
○学問・才能

このステージの人はこれらのものと関係のある体験をするのである。またはここに挙げた能力を獲得するものなのである。あとは、実際に体験談を読んで確認していただきたいと思う。

萩沢　隆子　（二十六歳）
修行者　津田塾大学卒

私は昔から人間が生きることの意味について知りたくて仕方がありませんでした。しかし、どんなに偉大といわれる哲学者や思想家も私の疑問には答えてはくれなかったために、次第に私は宗教的なものに興味を持ち始めました。それまでは宗教など馬鹿々々しいもの、と見向きもしない私でしたが…。

とにかく超能力を得て真理を知りたいという目的と、夢も希望もない人生から何とか救われたいという気持ちからセミナーに参加してみようと思ったのです。

最初は、チャクラやクンダリニーといったものが本当に存在するのだろうかと半信半疑でした。また、シャクティーパットも私の場合は虹色の光の軸が見えただけで、期待していた程のセンセーショナルな体験もできなかったので、少しがっかりしたものでした。しかし、

「何も感じない人も回を重ねれば効果があらわれますから…。」

ということばを信じて、家でも修行を続けました（といっても一時間にも満たない程度のもので

したが)。

こうして、毎日少しずつ瞑想し、何回かセミナーに参加してシャクティーパットを受けるうちに〝見えない世界〟は確かに実在するのだという確信を得ることができるようになりました。自分自身が数多くの神秘体験をするようになったからです。

最初の頃は、白銀の点が見えたり、何かが背骨に沿って動くのを感じたり、尾てい骨が恐ろしい程熱くなるのを感じました。その後幽体離脱(ゆうたいりだつ)をしたり、今の地球上では見たこともないような文字のビジョンを見たり、またある時は夢の中で友人とリアルに会話し、しかもその時に友人から聞いた話が現実と一致するものだった、という不思議な体験をしたりしました。

そしてついにクンダリニーの覚醒を体験するに至りました(その日はなぜか『生死を超える』を手にした日だったのでした)。まず微熱が二日間続き、喉が痛くなり声が出なくなってしまいました。そして数日後、眠っている時に背骨がものすごく熱くなるという体験をしました。その熱は日常生活で経験するものとは異なり、何か未知のエネルギーによるものという感じでした。そしてこの熱は目を覚ますと去り、眠るとまた生じるのでした。

やがて私は人生は苦であるといっそう激しく感じるようになり、一時の享楽を追うよりも修行に専念したいと考え始めました。そして、その頃から今までとは違った体験をするようになりました。

瞑想中にボーンという音を聞いたり、修行をアドバイスしてくれるような声を聞いたり、アストラル世界で何かを経験させられたり（ビジョンが見えた後、「今〜を経験させたから。」という声が聞こえた）、またある時は、眠っている時にグル・ヨーガのマントラを唱えると白い光が螺旋状にアージュニァー・チャクラに注がれて来るのを見たりもしました。

このようなことがあったため、修行に対するやり甲斐を感じ、五月のセミナーには思い切って全日程参加することにしました。何とか終えることができ、家に帰って入浴していると地震のように体が揺れるのを感じました。そして今までにない強いエネルギーが上昇し始めたのです。驚いたことに、そのエネルギーが頭頂に達する度に「ギィ、ギィ」という音が聞こえるのでした。

その後発熱し、もうろうとした意識の中で、強いエネルギーが喉のあたりまで上昇するのを感じました。熱が下った後も喉の腫れが一週間程続き、その間、阿修羅界を象徴するかのような黄緑色の痰が出続けたのでした。

発熱の理由を先生に伺ったところ、煩悩の多い人は度々そういうことがある、とのことで、自分自身を省みて十分根拠のあることだと思いました。

その後のシャクティーパットの後、

「エネルギーがものすごく強くなっている。サハスラーラの崩壊までもう少しだ。もうすぐ普通の生活ができなくなるよ。」

と、先生に言われ、嬉しく思いました。

最近では、現世的な享楽への関心が次第に薄れ、穏やかな日々を送れるようになりました。いつかの説法で聴いた、

「人は外的な条件によって幸福になったり不幸になったりするのではない。」

ということを本当に真理であると思えるようになったような気がします。そして、知りたくて仕方がなかった自分の生きることの意味も直観的ではありますがだんだんとわかり始めてきたように思います。

以上、入会して一年と少しの間の出来事でしたが、私にとっては十数年分に匹敵するような激変ぶりでした。「普通の生活が出来なくなる。」日を楽しみにしてこれからもがんばりたいと思います。

※修行上のポイント※

修行を始めて以来、きちんと解脱のプロセスを歩いている人である。これから遅かれ早かれ精神分裂が起きてくるだろう。精神分裂も修行の一つのプロセスであるからだ。そして、この精神分裂の時期を乗り越えたら、もう解脱直前の状態なのである。(八八年十月解脱)

堀　富士男　（三十六歳）
塾教師

早いもので、私がオウムに入会して、既に四ヶ月が過ぎようとしています。その間に、東京の本部道場でシャクティー・パット準備コースを一回終了し、五月の集中セミナーに二泊三日参加しました。

修行を始めて日の浅い私ですが、今までのノンビリとした生活は一変し、午前中から、マントラ、プラーナーヤーマ、ムドラー、クリヤヨーガをやり、夜はマントラ、瞑想といった具合に、毎日平均四時間程度をヨーガの修行に費やす様になりました。最初はかなり疲れを感じる事が多かったのですが、最近はどうやら身体の方も慣れてきて、一日のリズムがつかめる様になりました。なんとか他の会員の方たちに、少しでも近づければ幸いだと思っています。

ところで、私が初めて麻原先生からシャクティー・パットをしていただいたのは、三月下旬の夜でしたが、言葉がよく出てこないくらい緊張してしまいました。

頭を向けて横になると、先生は指をアージュニァー・チャクラに当て、二、三度グルグル回転

すると、「これは、堅いな。」とおっしゃいました。私は実は霊体質で、九年間以上も魔境に入ったままで、何人もの霊能者、超能力者に施療をしてもらいましたが完治せず、いつも頭が締めつけられるようで、筋肉が凝っていたのです。だから、そのことをおっしゃったのかなと思って目を閉じていると、何やら尾てい骨の中がどろりと溶けて、あついお湯の様なものが背骨の中を上下しながら昇ってくるのが、はっきりと感じられました。どんどん上昇するように祈っていましたが、へその少し上の部分で止まって、それ以上動かなくなってしまいました。

シャクティー・パット終了後、先生に、私の霊体質の原因は、マニプーラ・チャクラが既に開いていたからで、アナハタ・チャクラが開かれるならば、この最悪の体質から抜け出せるということを教えていただき、目の前が急に明るくなりました。

その夜、先生から授かった、ヒヒイロカネをアナハタ・チャクラの上に置き、マントラを唱えると、尾てい骨が熱くなり、閉じている目の前が、赤くなったかと思うと、濃い紫色でいっぱいになりました。

それからは四、五日に一度くらいの間隔で尾てい骨から白いものが、シューという感じで頭頂めがけて上昇し、ボワッという感じで頭から出てゆくのが夢うつつの状態ではっきりと見えました。

その頃から心身ともに良好な状態に向かっているのが自分でも良く理解できるようになりまし

た。

例えば、以前は大変疲れやすかった体質が、体の中からエネルギーが湧き出てくるようで、たとえ少々の低級霊にかこまれてもさほど疲れず体力が持続するようになったこと。以前苦痛を感じた『上体を後ろに伸ばすアーサナ』を比較的楽にやれるようになり、腰や背中が軟らかくなったこと。心に及ぼす不安感を伴った波動が弱まって、イライラがほとんどなくなったこと、等をあげることができます。

二度目のシャクティー・パットは、五月の集中セミナー終了後にしていただきました。セミナーの内容は、予想通り厳しいもので、僅か二泊三日とはいえヘトヘトになってしまうほどでした。麻原先生は、一睡もせずに、夜中から朝までシャクティー・パットをして下さっているというのに、私は疲労のため、半分眠っている様な状態でシャクティー・パットをしていただいたため、一回目のときほどクンダリニーの状態を鮮明に感じとることができませんでした。

しかし、二日後の夜中、腰のあたりがあつくなり目を覚ますと、ムーラ・バンダとウディヤーナ・バンダが同時に五、六回リズミカルに起こり、一回目のシャクティー・パットのときの倍以上のエネルギーが頭頂に向かってかけ昇り、首のつけ根がピクピクとケイレンし、改めて先生のパワーの強さを知った思いがしました。

現在は、まだ完全に魔境から抜け出していないために、頭重などで時折悩まされることがあり、

瞑想中深く入って行けず、又、イメージやビジョンを心に描く力が非常に弱められるために、修行が進まず、時々残念に思うこともありますが、焦らず、魔境を脱出した時の清々しい気持ちを夢みつつ、頑張りたいと思っています。

※修行上のポイント※

彼もまた前生からの修行者である。前生での修行レベルが高かったので、今生ではいきなり魔境から入ってしまったわけだ。そして運に恵まれず、真の教えに触れる機会がなかった為、無為に九年間を過ごしてしまった。まあ、それもカルマと言えばカルマだが――。

でも、現在のように真の教えに基づいた修行に打ち込めば、あと二～三カ月もあれば完全に魔境から抜けだすことができるだろう。そのときは速やかに『解脱直前のプロセス』へと入って行けるはずである。そして、今度は思い込みを落としていく為の修行が必要となろう。

神田　豊　（二十二歳）
修行者　元警備員

初めてのシャクティー・パットを受けてから一ヶ月程たったある日のこと、私は昼寝をしていた。目がさめると（いや、寝ているのだが、意識だけが目覚めているといったほうが正確かも知れない）、とにかく体が熱い。異常に熱い。四十度以上あるのではないか。そして、しびれる。体じゅうに電気が流れているようだ。とにかく、私は目を開けようとした。

しかし、のりではりつけられたような感じで目があかない。指を動かそうとしても動かない。足も動かない。まるで体全体がかなしばりにあったようだ。耳もとにはキーンといった、金属音のような音がしている。「とにかく体を動かそう。」そう思って、もがこうとするのだが、全然体が動かない。

突然誰かが私の手首と足をつかんだ。私の幽体を肉体から引っ張り出そうとしている。「地獄へつれて行かれる。」そう思った私は、必死で抵抗した。しかし、抵抗すればするほど、ますます強く、私を肉体から引っ張り出そうとする。「いったい誰が……。」確かめようと思っても目があか

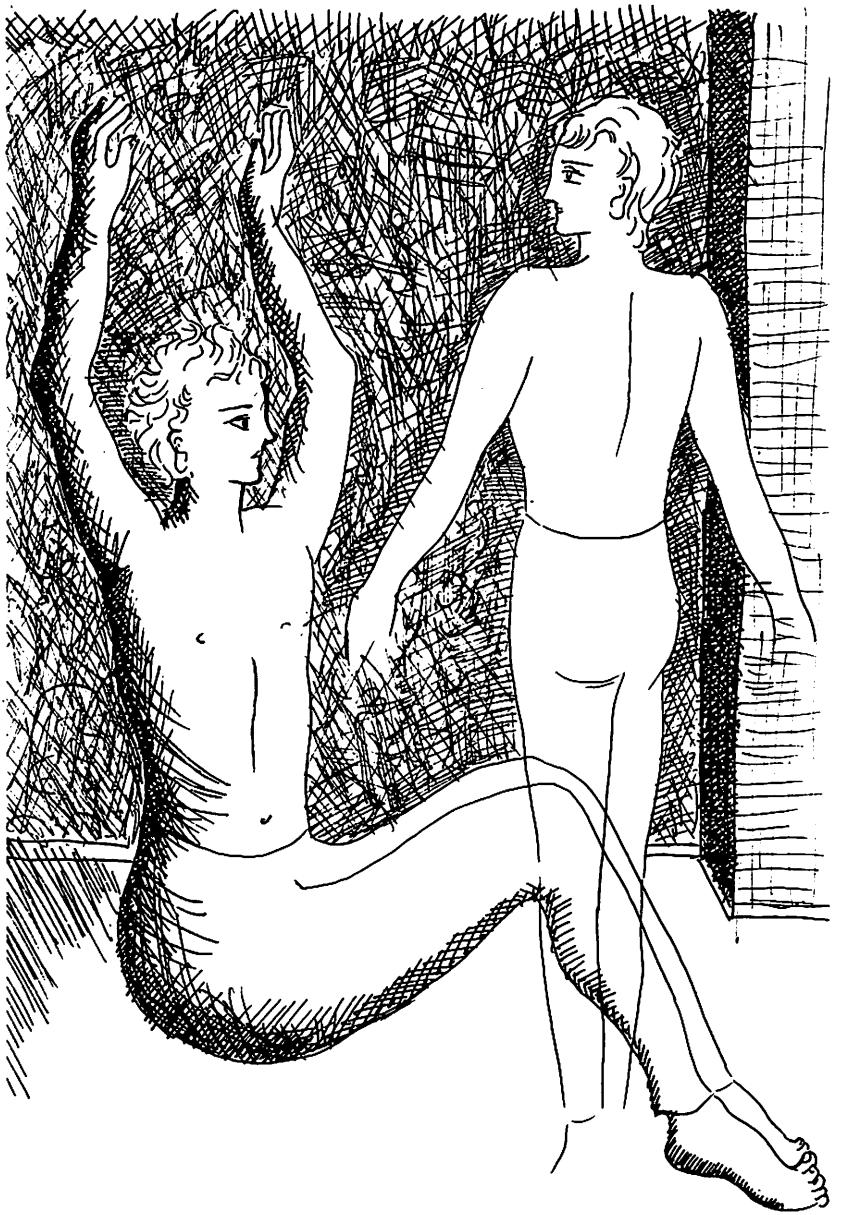
ない。ついに私は、あおむけに寝ているにもかかわらず、うつぶせになっていた。あおむけの自分とうつぶせの自分の二つの肉体があるという感じだ。

しかし、とうとう私の幽体は肉体から引っ張り出された。その瞬間、今まで私をつかんでいた手が消えた。私の体はどんどん浮き上がって行く。ふと気が付くと、私は知らない部屋にいた。窓から外を見ると、庭の向こうに塀がある。私は外に出たくなった。「これは幽体だから、ガラスを通りぬけられるのではないか。」そう思った私は、窓ガラスに体当りを試みた。ガラスを通りぬけたと思った瞬間、私はもとの肉体にもどっていた。

今までのことは夢だったのだろうか。しかし、まだ体が熱い。

その後はほぼ一週間に一度の割合で、このようなことがおきるようになった。何者かに、肉体から引っ張り出されて、赤とオレンジを混ぜたような明るい光に包まれながら浮き上がり、しばらくすると、下に落ちて、肉体にもどる。するとまた引っ張り出されて、浮き上がっては落ちるといったことを何回もくりかえしたり、肉体から横にすべり出すようにぬけだし、壁にぶつかると思った瞬間、もとにもどったり、ということが続いた。

また、夜中に体が重苦しいので、目を覚ますと、首から下の空気が重く感じる。まわりを見回しても誰もいないし、人のいる気配もない。ただ空気だけが重くのしかかっているだけだ、ということもたびたびおこるようになった。



こうして、私はだんだん寝るのが怖くなっていった。

しかし、修行が進むにつれて、こういった体験の数は減っていき、そしてついには全くなくなった。そして、こういった体験を忘れかけた、ある十二月の夜中、私は自分の体が熱くなり、しびれるのを感じた。ひさしぶりに幽体離脱をするのではないかと感じた私は、以前の恐怖などはすっかり忘れ、なかば期待していた。

しかし、何かが違う。耳もとで聞こえるはずの金属音のような音が聞こえない。手首や足首をつかむ者もない。結局、その日は体が熱くなっただけで終わった。しかし、本クンダリニーがもうすぐ覚醒するのではないか、そんな気がした。

こうして、正月のセミナーを迎えた私は、初日の晩にシャクティー・パットを受けた。そしてセミナー三日目、私は高熱を出し、だるくなってしまった。次の日に絶食をして、どうにか熱は下げたものの、だるさを残したままセミナーを終わった。

家に帰って二日目の夜中、再び体の異常な熱さとしびれで目を覚ますと、尾てい骨から、らせん状に上がっていく白銀色の光が見えた。蛍光灯の光よりも明るく、鮮やかな光だった。これが本クンダリニーだろうか。その晩は、まだ残る熱さと興奮で、なかなか寝つかれなかった。

その後、二ヶ月程は何事もなく、修行も止まったような感じになっていた。三月の初め、麻原先生がチベットから帰られ、青年部にいらっしゃった。私は先生のそばにいるだけで、自分のエ

ネルギーが強くなるのを感じた。それだけではなく、その晩再び白銀色のエネルギーが上がるのを体験したのである。そばにいるだけで、このような素晴らしい体験をさせてくれる麻原先生――。先生こそ本物のグルであると確信し、最後まで先生について行こうと思ったのだった。

※修行上のポイント※

神田君は、非常に精神力の強い人である。現在、オウム内で仕事を手伝ってくれているが、何一つ文句も言わず黙々とやり続けている。この精神力は、過去世での忍辱（にんにく）の極限の修行によって培（つちか）われたものだろう。今生ではこれを通過したところから修行が始まったのである。

彼の修行レベルは、火のステージを越えたところである。体験談にある体験は、すべて火のステージのものだ。今の真面目な性格が変わらない限り、必ず解脱するであろう。

R・N　（十七歳）
高校生

僕が麻原先生と初めてお会いし、そしてシャクティー・パットを受けたのは高校一年の秋、十月も終わりのことだった。それから今まで、シャクティー・パットは合計八回受けることができた。当時、雑誌「トワイライトゾーン」と「ムー」で先生の空中浮揚の記事を拝見した僕は、少なからず感動と興奮を感じた。なぜなら、それまでその名は聞いていたが、日本人でそれを実演している人を知らなかったからである。その上、その記事には空中浮揚に至るまでの修行が事こまかに書かれてあったのだ。そこで先生にお電話をすると、「今度セミナーがあるから来てみなさい。」とのことだった。何分にも高校生なのでいろいろ事情があったが、とにもかくにも北陸から上京した。

実を言えば、その頃超能力及び超能力の開発法に深い関心を持ち、その上国粋主義者だった僕はヨーガよりも神道・仙道の方に興味を持っていた。そして恥ずかしながらヨーガを見下し、「これは超能力を得るための土台なのだ。さっさと修行を完成し、好機至れば日本の神道を成就して

やる。」などととんでもないことをうそぶいていた。

それはともかく、早速セミナーに参加し滞りなく修行を終えた。初めて先生とお会いして、ただ来て良かったと思った。親身に話を聞いてくださり、そしてあたたかく励ましてくださった。ここへ来れば何とかなる、とさえ思った。そしてシャクティー・パットを受けたのだが、これは何も感じることができなかった。そして二回目のセミナーでのシャクティー・パット。今度は、うまいことに尾てい骨がこころもち熱くなり、妙にムズムズした。先生のおっしゃるには、ムーラダーラ・チャクラが開いたとのことだった。

三回目のシャクティー・パットは丹沢での年末年始セミナーでのことだったが、前回と同じく、尾てい骨に圧迫感を感じ、目の前に白い光を感じた。終わってから先生が、「スヴァディスターナとアージュニャー・チャクラが開いたよ。」とおっしゃった。それを聞いた僕はやけに嬉しくなってしまった。「ひょっとしたら、超能力がつくかも知れない。」帰ってからも、心中秘かに期待していたけれども、それは無理だった。

しかし一月も終わり頃、頭がボーッとしていき、まるではたらかなくなってきた。特に精を消費するような時になり、全身が風邪の時にだるく、こめかみが脈打ち頭皮が収縮しているような、変な圧迫感を感じた。ひどいときには右も左も分からないようで「車にでもはねられたらどうしよう。」という有様だった。おまけに勉強したり、物に熱中するときにひどくなった。風呂に入る

ことさえできなくなってしまったのだ。これにはほとほと困ってしまって先生に相談すると、「修行が進んでいる証拠だよ。気にしないでいい。」という返事を戴いた。仕方がないのでなるべく精を消耗せず慎重に行動すると果たして、大分良くなって来た。が、やはり頭には薄もやがかかっている状態でそれが今でも続いている。

春も過ぎてからマントラ「オウム」を唱えていると、ちょっとした体験を二、三度することができた。アージュニアー・チャクラが震え、体が無重力状態の所にいるような感じである。そして、マントラを唱えていると眠たくなってしまうのである。眠たくなるのは現在でも続いている。しかし少し緩和したような気もする。これは暗性だからなのだそうだ。

セミナーも回を重ね、ようやく麻原先生、そしてヨーガの偉大さ、奥深さに気付くことができた。そして人間である僕自身の向上の終着が解脱であるということに気付き、あまり重視していなかったというより疑念を持っていた瞑想・功徳などの意義もおぼろげながらわかってきた。

四回目のシャクティー・パットでスシュムナー気道が全開し、ブラフマ・ランドラに孔があいた。そして六回目、七回目には手が熱くなり、「火のエレメント」が崩壊した。

最近では食欲が増し、とくに甘いものが好きになった。

また、かなり論理的な思考もできるようになったと思う。そして今まで悪夢など見たことのなかった自分が、ひんぱんに見るようになった。

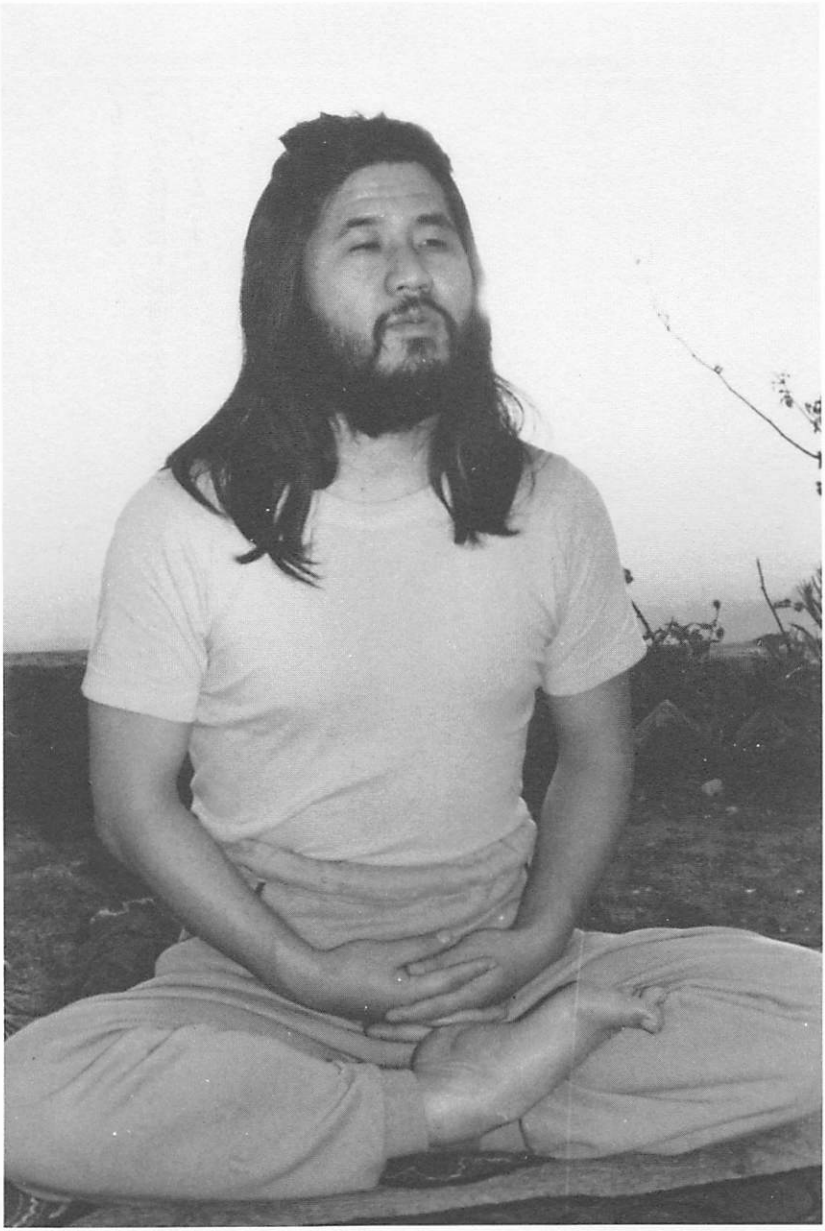
僕は生来が鈍感なので残念なことにあまり神秘体験はしたことがない。肝心のクンダリニーもいつ上がったのかわからないし、火と水の洗礼もあいまいだった。前述したように暗性で気道にカルマがつまっているせいなのだろう。先生は僕を評して、「煩悩が多い。」とおっしゃった。まさに図星である。でもこうした欠点を一日でも早く克服しなければならない。

全く平凡で俗物の僕がここまでこれたのも皆先生のおかげで、毎回先生とシャクティー・パットをあてにしている自分勝手な自分だが、先生に感謝と謝意を表わすと同時に修行に励もうと思う。

※修行上のポイント※

N君は、シャクティーパットを行なってもなかなかクンダリニーが覚醒しなかった。それでも真面目な彼は、セミナーには毎回きちんと出席し続けていた。今では修行も進み、火のステージから、徐々に風のステージへと移ってきている。誰でも彼のように真面目に修行を続けたなら、必ずクンダリニーは覚醒し、修行が進むものである。このことは決して忘れてはならないことである。

良く会員から、「神道とヨーガではどちらが優れているのですか?」という質問が出る。私はい



つもこう答える。

「どんな修行にも長所と欠点があるものですよ。問題となるのは、それを修行する本人の心構えだけなんです。」

と。

▼風のステージ

このステージに関係するものは、

○アナハタ・チャクラ
○夢見
○風（スシュムナー管を上昇する風）
○仏教的には釈迦牟尼如来
○ヨーガ的にはビシュヌ神
○願望成就（低次元のもの）
○空中浮揚
○博識
○宿命通
○ナーダ音
○グリーン

などである。すでに高いステージであると言える。しかし、前生からの修行者の場合、非常に早く到達できるものである。

新実　智光　（二十三歳）
修行者　元マルサン勤務

魔境に入り、二台の車を潰した私は、あの後、上京し、尊師のおそばで修行し、仕事をするようになった（「生死を超える」参照）。

私は尊師のおそばでは、てっきり、修行だけに明け暮れる毎日か、と願っていた。しかし、尊師は、魔境から抜ける為には、解脱をする為には、功徳を積む（神とグルに対する布施と奉仕）ことしかないと、私に功徳を積まさせてくださったのだ。

「何故、功徳が必要か？」――功徳はその人の心を明るくするのだ。悪いことをすれば、その人の心は暗く重たくなる。そうすると、どうなる。その人の〝気〟は暗く重い物になり、解脱の為に上へと集めるはずの〝気〟が下がってしまうのだ。反対に、功徳を積むと、心は軽く明るくなる。それゆえに、〝気〟は上へとあがり、明るくなるのだ（ビジョンが見え出すのだ）。

このようにして、形だけの修行にとらわれないで、ただ尊師のおっしゃったこと（勿論、少しずつは修行をしたが）だけを毎日おこない、尊師の喜びを自分の喜びへと変えられるようにと念

じながら過ごしたのである。

そうして、三ケ月もしないうちに、魔境を乗り超えることが出来たのだ。今、思うと魔境は、私が、死に対する恐怖の裏返しとして、否定的（ネガティブ）な観念にとりつかれてしまったからなのではないだろうか。何と馬鹿げた物にこだわってしまったのか。でも、このようにして、私は魔境を乗り超えたのだ。

苦を知り、それを超えるために、尊師を信じ、尊師のお力ゆえに、クンダリニーが目覚め、悦が生じるようになった。これが私の辿ってきた道だ。

今年、三月の東京道場でのツァンダリーのセミナーでの事である。私は尊師の隣で、プラーナーヤーマとムドラーの実演を終えた。そして、瞑想へと入った時、クンダリニーが熱をともなって上がっていき、私の頭頂に達した時、フラッシュのような白銀の光が、初めは、パッパッパッと、次第にその光が永続し、まるで、私自身がその光の中に溶け込んでいるかのように、強くなっていったのである。これは、アージュニャー・チャクラの光であり、私はその光の中に溶け込むことによって、歓喜へと導かれたのである。だが、奇妙な事に時々、後ろにと頭がひっぱられ、足を崩してしまうのだった。私は、この奇妙な事は虚空三昧（暗性状態での三昧で、瞑想といねむりと同じようになってしまい、光もビジョンも見えないで、全ての物がおおい隠されてしまうこと。）であろうと思っていた。しかし、それは風（人体エネルギー）の崩壊のプロセスで後に示

す空中浮揚へと続くワン・ステップだったのだ。

三月のセミナーの後、四月の大阪道場でのツァンダリーのセミナーでも、同じように光に包まれるとともに、今度は後ろの人にぶつかるくらい強く、ひっぱられたのだった。その時を境に私は瞑想中に頭が一瞬、空白になるとともに、心が軽くなるのを感じた。そして、その時にこそ、体がひっぱられるのだった。

又、神秘体験として、白銀の光に溶け込むだけではなく、宿命通もつき始めてきた。例えば、場所は中国、時代は三国史に出てくるような戦国時代という設定だ。私がつかえていた王様が敵に殺され、私は号泣（本当に悲しくなり、泣いたのである）しながら、その王様の子二人を守り、切り抜けたのだ（私には実際、大きなナタみたいな刀を振り廻して、人を切った時の感触が手に残っていた）。

そして、最後、尊師と瓜二つの人（尊師の前生であろう）に切りかかったが、二回とも当たったはずが、どうしても切れず、空をきるだけだった。私は自分でこの人をただ者ではない、自分とは格が違うとし、自分から、刀を離し、身をゆだねたのである。そして、今と同じように弟子入りをしたのだった。

このように、ただの夢とは違い、実際の動作を鮮明に覚えているばかりか、泣いたり、切ったりした感触がありありと、嫌なほど、残っているのだった。

以上書いてきたように、ただ解脱者であられる尊師のおそばに居られるだけで修行が進んだ。そして、最近の五月の集中セミナーで、私は尊師のシャクティーパットを受けた後、体中のクンダリニーが上につきあげるような感覚におそわれた。そして、耐えきれなくなり、一瞬、雑念が吹き飛ぶと同時に、頭の中が空白となり、上へとはねていた。そのクンダリニーのつきあげる凄さは、首がガクッと後ろへとひかれ、鞭打ちになるぐらいの衝撃だった。私は最初、自分の身体に何が起こったのかわからず、ただボーゼンとするだけ。私はこのとき、クンダリニーの凄さを実感したのだった。

それから、身体が手鞠のように、はねだしたのだ。初めは五分に一回、それが三分、二分、一分そして、一瞬止まっただけですぐにはねあがるようになった。この現象は空中浮揚の前段階のダルドリー・シッディ（蛙跳び）だそうだ。まだ、上にあがる距離は微々たるものだが、私は必ずや、空中浮揚が出来ると確信している（何故なら、心がとても軽く、身体も軽くなってきているように感じるからだ）。

私のような未熟な者でも、ただ尊師のおそばについているだけで、尊師の経験、エネルギーを移入してもらうことによって、魔境を超え、神秘体験をし、空中浮揚を今、目指すことが出来るのです。ありがとうございました。

※修行上のポイント※

魔境から抜け出し、思い込みを落としていくプロセスへと入った新実君である。あとは、静かな目で自分自身を見る訓練をしていかなければならないのだ。この訓練によって解脱はやってくるだろう。

また、彼はもう少しで空中浮揚というところにきている。また、過去世を知ることのできる宿命通も身についたようだ。空中浮揚も宿命通も、五大エレメントで言えば風のステージで身につく超能力である。このように修行レベルに応じて超能力が身につくのは、オウムの修行体系に誤りがないからである。（八七年十二月解脱）

井上　嘉浩　（十七歳）
高校生

イニシエーション――私のオウムでの修行はこれによって始まったと思います。そして、これ

を伝授されるごとに、私の修行が進歩して行きました。私の場合は、アストラル体でのイニシエーションが中心であると思っています。

昨年の今頃、私がオウムに入会しようと決心した晩のことでした。私の夢の中に、三人のチベット僧が現われ、私がその前へ座ると同時に、私のアストラル次元のクンダリニーが覚醒するという信じられない事が起こりました。

その後、オウムの教材で修行をすると、すぐに、火と水の洗礼が始まりました。約一カ月ぐらい微熱が続きました。そして、しだいに、体がだるくなって、考える事がしづらくなりました。又、クンダリニーが、右に傾いているのではないかという感覚がありました。すると、その晩、夢の中に、一度もあった事がないのに麻原先生が出てきて、密教の法具らしいものを手に取って、私の手を取ってくださいました。すると、ものすごいエネルギーが私の左手から入り出し、イダー管を刺激し、左の尾てい骨の辺りが、ものすごくしびれたのを覚えています。その後、クンダリニーが左右に傾く事が皆無になりました。

しかし、心に落ちつきがなくなって行きました。ものすごい無常感に包まれ、どうしようもなく悲しくなったり、私の奥深く隠れていた、精神的な欲求が表面化し、私はいつも矛盾だらけの中にいました。

八六年、夏のセミナーでシャクティーパットを受けました。その後、家に帰り、修行を続ける

と、変わった経験をしました。例えば、瞑想中に、体がぼよぼよにふくらむ感覚や、水の中に溶け込むような感覚、又、ぐらぐらと地面が揺れ、体がぐるぐると回転するような感覚がありました。私が一番よく覚えているのは、瞑想中に、私のアージュニァー・チャクラの真中から、白銀光がさしこみ、ものすごい悦を感じた事でした。精神的には、ますます、乱れて行きました。私の中の矛盾がより増大して行き、どうする事もできなくなってしまいました。そのうちに、私の内にある種の悲しみが生まれました。世の中に対する悲しみと言ったらよいでしょうか、いつも、これでいいのか、これでいいのかと、自問自答していました。

八七年、冬のセミナーで二回目、大阪で三回目のシャクティーパットを受けました。私は、このセミナーで、修行の修習の大切さを痛切に感じ、毎日修行を五時間ぐらいしました。すると、又変わった経験をしました。

グルヨーガという瞑想中に、目を開いているにもかかわらず、緑色の輪がゆらゆらと回転しながら、私に近づいたり、遠のいたりしました。そして、次は青色、そして赤紫、ついには、白銀光が私を包みました。

又、このころは、夢の中に、よく聖者が現われ、私にシャクティーパットを与えたり、行の指示をしてくださいました。先ほどの体験は、五大エレメント中の『ルン』エレメントの崩壊であった事を後で知りました。

しかし、この『ルン』の崩壊後、精神状態が、又、変化しました。つまり、私が持っている本質的な欲望が、暴発しました。ありとあらゆる愛着が表面化してきました。性欲、食欲を始めとして、数え切れない欲望がありました。この時、私はあらためて知りました、私は汚れている。私は常に享楽を貪っていると。そして、自己の利益のために、怒りを蓄積していると。そして、今までの修行は、偽りの修行であると。高慢とうぬぼれの中で、エゴをあざむいていたという事を。

八七年春、大阪でツァンダリーを伝授していただきました。この修行を続けると、ますます、このような精神状態はエスカレートしていきました。そして、ある日、私は、私の内にある思念に対して、判断することを止めました。言葉では表現できませんが、私の中に、色もなく、言葉もなく、ただ大きな存在を覚えました。その時、知りました。私は、今まで、なにも苦しむ必要がなかった事を。自分で作り出した幻影に対して、愛着するから苦しみの中へ入ってしまうと感じました。

最後に、ツァンダリーの体験を書きます。まず、私はこの瞑想に入ると、自然に、エネルギーが循環します。そしてしばらくすると、すべてのプロセスが光として感じる事ができます。クンダリニーが、とても微細に、たてに振動しながら上昇し、サハスラーラ・チャクラにあたると、そこに「ジワー」と歓喜が広がり、「スースー」してきます。すると、私の外わくを甘露(かんろ)が下降し、

それが終わると、ヴシュッダ・チャクラに落ちます。すると赤紫のきれいな光がたちのぼり、私はその光にとけこみます。そして、アナハタ・チャクラを通過する時、青緑の光が横にひろがります。そして、マニプーラ・チャクラに達する頃には、もう私は光の色がわからなくなります。

そして、スヴァディスターナ・チャクラに入ると、そこで円心状の歓喜を感じ、又、クンダリニーが上昇します。このプロセスを繰り返しますと、私の中に、とてつもなく大きな広がりを感じます。

今私は、時には、自分の内側からたえまなく流れ続けるエネルギー（思考）にとらわれ、とんでもないまちがいをする事もありますが、以前のように乱れる事は、なくなった気がします。これからは、シヴァ神とグルの意思に少しでも近づき、絶対に、修行を成就したいと願っています。

※修行上のポイント※

井上君は前生ではチベットの修行者であった。五大元素の「風」のステージまで進んでいたらしい。そのため、今生でも「風」のステージまでは早く到達している。しかし、これからは長い。五大元素を克服した後、真解脱、最終解脱と進まなければならないからだ。強い信を持ち、修行に打ち込んでもらいたいと思う。

ところで、彼は空中浮揚ができるそうである。セミナー中には、何人もの会員が彼が飛んでいるのを目撃したという。ちなみに、チベットでは空中浮揚は『風の瞑想』がもたらす超能力であるとされている。（八八年十一月解脱）

宮本　公恵　（二十六歳）
修行者　元グラフィックデザイナー

私が初めてシャクティーパットを受けたのは、昭和六十一年九月の初めでした。オウムに入会したのが八月の初めでしたので、一カ月間本部からいただいた奥儀書にもとづいて修行をした後のことです。その一カ月の間にも、瞑想中にシヴァ神が現われ煙草をやめさせてくれたり、腕にガラスのつきささった夢を見て目が覚めると、ちょうどそこの部分にスジが入っていたりということがありました。

初めて先生にお会いしたのも、八月の丹沢での集中セミナーの時でした。私は四泊五日の日程でしたけれど、その間は感動の連続でした。最後の日にシャクティーパットを受けた時も、私の

順番までにすでにフラフラになりながらも、優しく話しかけてくださる先生に対して、とても感動しました。横になると、いよいよシャクティーパットが始まりました。しばらくすると虹色の光が見え始めました。最初それは斜めに横切り、だんだん先生の手の動きにしたがって楕円状にぐるぐる回り、まるで銀河系の様子を見ているかのようでした。そして、それはしだいに白銀光に変わり、一度目のシャクティーパットはそれで終わりました。終わったあとは、少しボンヤリしていたので、よく記憶していないのですが、確か「マニプーラチャクラまで開いたよ。」と言われたように思います。その時は、あまり至福感というのは感じなかったのですが、家に帰る前に友人に会った時に、あまりにも満足しきった心の状態にやっと気づき、何にも話す気になれず、そんな自分に自分でもビックリしました。

その後は、だんだん表層意識が取れていったせいなのか、もともと我儘な性格だったのが一層ひどくなったように思いました。感情の振り子も一層大きくなり、まるで思春期の頃のように怒ったり、笑ったり、泣いたりが人目を気にすることなく態度に出てしまうのです。一喜一憂が余りにも激しく、それに疲れてしまい、家でもまじめに修行もしなくなってゆき、今思うとよけいに悪循環だったのでしょう。

そして、シャクティーパットを受けて一ケ月ぐらいした頃に、三日間ぐらいでしたが九度三分の熱がでました。しかし、意識はハッキリしていたので、それがクンダリニーの覚醒だったので

しょうか。もしそうだったとすると、けっこうアッケラカンとしたものでした。

そういう時期を過ごして、二度目のシャクティーパットを受けたのは十二月の半ばになった頃でした。一度目の時に光が見えたにもかかわらず、この時は何も感じませんでした。終わった後、先生に「アナハタチャクラに傷があるね。家ではどんな修行をしている。」といぶかしそうに聞かれました。そして、「人生をありのままに受けいれなさい。」と言われました。私が先生の言葉の意味がよく分からなかったので不思議そうな顔をしていると、「いやなことがおこっても、これでカルマが一つ減ったと感謝するんだ。そうすれば修行も進むよ。」と言われたのです。

それからの私は先生に言われたことを常に心にとめて行動しました。それまでの私は石につまずいても、ついていないとスネていたのですが、そういうささいなことでも感謝するように心がけました。そうしているうちに、だんだん精神的にも安定してゆき、感情に押し流されてコントロールできなくなってしまうという状態がしだいに少なくなってきたのです。

そして、たぶんその頃だったと思いますが、夢の中で先生がもう一人の男の人を指して、「この人が君のブラフマンだよ。この人がこれから君の中に入るからね。」と言うと、目が覚め、そのとたん体中に心地よいしびれが走り、体全体がオーラに包まれているような感じがし、そのオーラが本当に体の中に入ってくるような感じがしてフワーッと宙に浮くような気がしました。

その次の日に見た夢は、ハープの音色のようなとてもきれいなメロディがどこからともなく聞

こえてきて、それはとても気持ちよく、心の中いっぱいに至福感が広がり、私は嬉しくなると同時に寝ている体の中からもう一人の私が飛び出し、その私は部屋の窓から外へ出てヒューヒューと空を飛び回っていました。

その後、年末年始集中セミナーがあり、私は全日程を参加しました。その時に行ったサガルバサヒタクンバカでは、気をコントロールすることができず、何度も気を失ってしまいました。初めはただ真暗になり、気がついた時に自分がどこにいるのか分からないという状態でしたが、何度も気を失っているうちに、まるで汽車に乗って窓から景色を見ている時のように、すごい勢いで情景が流れ去ってゆき、ザワザワという大勢の人の声も聞こえてくるようになりました。そのうち、自分が大きなヤシの木に囲まれて裸で横になっていた時、誰か私を呼ぶ声がして、意識がしだいに青山荘に戻ったのですが、自分がまだ裸でいると勘違いして、恥ずかしくてしばらく目を開けられなかったということもありました。

その時のグルヨーガは、一日目は日常生活での疲れで、瞑想中眠ってしまったのですが、その時きれいな男の人に手を引かれて扉の中に入っていくと、そこは透明なブルーの空気がたちこめて、床もなく、そこを二人で手をつないで歩いていたという夢を見ました。その夢の中では、体中がしびれるというか、フワーッとした感じの何とも言いがたい快感がずっとありました。せつないような、だけどとても幸せでした。その夢を見た次の日からは瞑想に入ると、夢の中でおこ

ったのと同じ快感が体中を包むようになりました。初めてグルヨーガをやったにもかかわらず、観想もわりとハッキリできました。

そして、三度目のシャクティーパットを受けたのは一月の半ば頃でした。その時は、おでこの上の方から、とてもまぶしすぎるくらいの真白い光がさしこみ続けていました。シャクティーパットが終わった後先生は、「後頭部がかなり盛り上がってきている。もうしばらくすると過去世を思い出すようになるよ。修行も順調に進んできている。」とおっしゃってくださいました。

それくらいの時期から青年部も始まり、私は毎週青年部の集まりに参加していました。青年部には参加するだけでエネルギーが入ってくるのか、ある時、青年部の帰りに一緒に参加した友人の背中に「ねえ。」と言ってちょっと触れただけで、その友人は「ウワーッ。」と言ってそこにうずくまってしまいました。その友人の話では、強烈な電気が体を走り、その電気は、体の中を上へ下へとしばらくの間走り続けていたそうです。私はというと、ビリッと指にきただけで、何ともありませんでした。

その頃から夢見の状態が、物の感触がハッキリ分かるようになりました。夢の中で人と抱きあったりすると、普通の状態とまるで同じように、温かくて柔らかい肌の感じまでハッキリ分かるのです。

しかし、その頃までは夢見がとても楽しかったのですが、だんだん恐い夢を多く見るようにな

ってきました。それは、今までのカルマの清算を夢見の中でも行っているのだそうです。そうとは知らなかった私は虎におそわれた夢を見た時、あまりにも恐いので必死な気持ちで、その夢の中の虎を消して、メリーゴーランドのようなとてもきれいな景色に変えてしまいました。それはいけないことなのだそうだけれども、必死になれば夢がコントロールできるということが分かりました。

今は、メディテーションセミナーを全日程出ています。このセミナーのおかげで、瞑想がだいぶ充実してきたように思います。四度目のシャクティーパットを受けたのは、このセミナーの最中で三日ほど前の三月二十八日でした。この時は、白い光の中に時々虹色の光がゆらゆらと遊んでいました。この時の虹色の光は、一度目のシャクティーパットの時の毒々しいくらいの強い色ではなく、とても柔らかくて、心地いい感じでした。シャクティーパットが終わった時、白い光がゆらゆらと散らばってゆき、その白い点々が私の体を包んでとても気持ちよく感じました。最後に先生が私の頭に手を乗せていた時は、やはり柔らかな白い光が、ゆらゆらと波間を漂っているようでした。

シャクティーパットを受ける前の瞑想でも頭がしびれ、エネルギーが上昇して首が勝手に動いてしまうということがありましたが、シャクティーパットを受けた後は、まるで誰かに頭をギューッと力いっぱい押さえつけられているような感じがし、首から上が大きく動き出して自分では

止められませんでした。それから、やっとアナハタ音も聞こえるようになってきました。

最近は解脱に対する欲求も強くなり、今までは大きな比重を占めていたはずの日常生活が、今ではまるでおまけのような感じがしてしまいます。これからも今までより一層、一生懸命に修行をやってゆきたいと心から思っています。

※修行上のポイント※

彼女は、五大エレメントのうちの火のステージを越すことができた。火と関係のあるチャクラは、マニプーラ・チャクラである。そのため、マニプーラ・チャクラにある変化身が動き出す幽体離脱の体験をしたり、マニプーラの支配神であるブラフマンが体内に入る夢を見たりしているのだ。電気が走った一件も、火、すなわち熱エネルギーに関係している。

火のエレメントを越した彼女は、アナハタ音を聞くようになってきている。これは一つ上の段階である風のエレメントに入ってきたということだ。このように一つ一つの体験がはっきりしているのも珍しい。前世でヨーガ系統の修行をし、高いステージにまで行っていたことがわかる。

（八八年七月解脱）

満生　均史　（三十五歳）
満生不動産経営

私が、最初に先生とお会いしたのは、昭和六十一年三月の集中セミナーの時でした。
その時の印象は、若いのに精神世界の知識が豊富だし、話に迫力があり、見るからに頼れる先生だと感じたのです。私の目には、きっとこの先生なら自分を目的地まで導いてくれるにちがないと信じさせてくれるほどの迫力を持った偉大な聖者に写ったのです。
シャクティー・パットの体験談ですが、一回目は、閉じている目の前が少し明るくなると同時に尾てい骨が暖かくなり、背骨を虫がはって昇っているように感じました。
「クンダリニーが昇ったよ。ムーラダーラとアナハタとアージュニャーの三つのチャクラが開いたからね。ところで、アナハタ・チャクラが開いたので胸が痛くなるだろうから気をつけなさい。」
と、先生は言われた。
その時、私は以前本を読んで知り得た知識で、クンダリニー覚醒が大変な苦痛を伴うものだと

思っていたのに苦痛を感じないままだったので、半信半疑で帰途に着きました。

しかし、三日後の夜、寝ていたら尾てい骨がドクドク脈打ってきたのです。その脈打つ音が、だんだん大きくなり不安になってきました。しばらくその状態が続いていたのですが、今度はかなりの痛みが尾てい骨を襲い、その痛みが背骨を伝わって頭の方へ昇っていくという体験をしました。それから時々、胸と尾てい骨がチクチク痛むことがありました。

二回目のシャクティー・パットは、いくつもの色の光が虹のように見え、その色を緑、オレンジ等とはっきり識別することができました。

三回目のシャクティー・パットの時は、何かパッと光ったと思うと虹色の光が現われて渦のようにぐるぐる回り、その中心に自分が引き込まれていく感じがするのです。やがて気が遠くなりかけたと思ったら、パッとあたりが輝いたように感じました。

「白銀の色が見えただろう。よく修行しているね。」と、先生は言われました。

このころから、自分自身に実感できる変化があるようになってきました。身体的には、尾てい骨がよくむずむずするし、チクチク痛みが走ることと、頭がボーとしたり、頭の中を虫がはっているような感じに悩まされたことです。これは、きっと気が昇っているせいだと思います。心的には、自分自身の性格がいやになったり、無性に孤独になりたいと思ったことです。

また、瞑想していると白ひげをはやした老人の顔が、ふっと見えたのです。その時は、あまり

気にせずにいました。

四回目のシャクティー・パットの時は、光がパッパッと何回かフラッシュのように見えたかと思うと、虹色の帯があちらこちらに飛び散るように見えて、本当に気持ち良くなりました。

「アストラル体が拡大しているし、マニプーラ以下のチャクラが完全に開いているね。色々変なものが見えているだろうが、下位のチャクラに満足してはいけない。たとえ見えてもチベット密教の偉い人は、見えないと言うんだよ。」と、先生は言われた。

そのことを聞いて、私は以前瞑想中に見えたことの理由が、わかりました。

帰ってからの悩みは、異常な食欲でした。すぐ空腹感を覚えるので、たくさん食べてしまう。しかし、以前に比べてなかなか腹いっぱいにならない。そうこうしているうちに、腹痛に悩まされる有り様でした。

それで、以前先生からお聞きしていたように、肉や魚等はやめて自然食だけを一日二食で腹六分目に決めて実行し始めましたが、意志が弱いため食欲のコントロールがうまくできずに悩まされる毎日でした。

「異常な食欲の原因は、マニプーラ・チャクラのせいだ。」と言われて、今までのことが理解できました。

五回目のシャクティー・パットは、パッと光ったと思うと光点がぽっかりと浮かんだような感

じに見えました。「アナハタ・チャクラが使われだしているので、瞑想中に光が見え始めているのではないか。」と言われて、私は思い当たることがあるので、大きく返事をしたものです。

今は、うすぼんやりした光でも、これから先だんだんはっきりと見えてくるのかと思うと、うれしくなってしまいました。

帰ってからの変化は、以前に比べ夢見が良くなったことです。また、空想の世界で遊ぶときもイメージがはっきりしてきたことです。一つの題名を与えると、ちょうど映画のように勝手にストーリーがどんどん進行して見えるので、外で映画を見るよりも、こちらの方がおもしろいと思います。ただし、おもしろくていつ終わりにしたらいいか困ることがありますし、それに時間を取られて修行がおろそかになりますので御用心を。また、主人公が不幸な目に会うと、胸が締めつけられるように痛くなりますし、涙が出る時もありますので、イメージの世界の映画は、ほどほどにしたほうがいいかもしれません。

心の変化では、人に対して微妙に優しくなったような気がします。怒ることが少なくなったとか、人を許す気持ちがでてきたことです。

ところで、ある人の中には現実生活をしながらの修行は、むつかしいと考えている人があるようですが、私は妻や子供もいて、親兄弟もすぐ近くに住んでいますし、しかも営業の仕事をしているため、いろいろな誘惑も受けていて、決して良い修行環境とはいえませんが、先生のはげま

しの言葉により、この現実生活をしていても気持ちのもちようで十分修行ができるし、目的も達成できると信じ、修行の毎日を送っています。

※修行上のポイント※

満生さんは、シャクティーパットを中心に体験談を書いてくれた。シャクティーパットの回を重ねるにしたがって、ステージを上げていく様子が良くわかることと思う。

五回目のシャクティーパットで、満生さんは風のステージに達している。瞑想中に光が見えるということ、夢見が良くなったことなどから、それを知ることができるのである。このステージでは、ダルドリーシッディや空中浮揚の超能力を得ることも可能だ。

ただ、シャクティーパットだけでここまで修行が進んだわけではない。本人の努力にも並々ならぬものがある。妻子がいて、親兄弟が近くにいて——といった中で、体験談には書かれていないが、一日六時間の修行を続けたということを本人の口から聞いた。在家の修行者でも、このように修行生活を送ることができるという、良い見本だ。

（八八年十月解脱）

西沢　直人（二十二歳）
修行者　元防水工

世の中の矛盾、いつわりの自分自身がいやになり、自分を変えたいと思って修行し始めたのが仙道だった。始めて三ヶ月ぐらいは雑念にとらわれていたが、そのうち小周天を行うたびに光が見えたり変わった感覚を覚えるということが毎日つづいた。しかし、私はもっと大きな変化がほしかった。そう、大周天やクンダリニーの覚醒が。小周天を日々やっている中で魂の叫びが、又、心の中にある穴のようなものが段々はっきりしてきた。何かが欠けてる――そう思うのだった。

そうした中、毎日の様に本屋に行っているうちに仏教のとりこになっていた自分に気づいた。禅の自然の様なおおらかさ、密教の仏たちとダイナミックな世界、そして般若心経、維摩経、華厳経、理趣経、正法眼蔵、法句経、法華経、阿含経と学んでいるうちに心の持ち方、生き方以外の修行、いわゆる体系のととのった瞑想法、修行法が知りたくなったが、どうもこれだという瞑想法がない。

ある宗教団体にも入会したが求めていた物とは全く違っていた。途方に暮れた私はいつしかグ

ルを求めるようになっていた。しかし今の日本でそれを求めるのは無理だ、インドやチベットでもないかぎり。出家しよう、それしか道はない。私は禅宗か真言宗かそれを絞るためにこの二つの宗派を徹底的に学ぼう、そして仏教関係の大学に入って僧になろうと思い立った。

その矢先、空中浮揚している麻原先生の本に出会った。他に空中浮揚している人もいるので正直言って「またか。」という思いがあったが、気になり購入して読んでみた。本を読んでいて体が震えた、いや魂が震えていたのかもしれない。私が求めていたものが全てあったのである。居ても立ってもいられず、オウムに即入会を求めた。

六十一年六月丹沢セミナー、熱い思いでいっぱいだ。待望のクンダリニー覚醒とグルとの対面、二階の修行部屋に恐る恐る階段を昇って行くと、その部屋の奥には、まさに神が肉体の衣をまとってそこに居るといったムードで座している。私は当惑した。どう挨拶したらよいかと。

説法する先生の声はまさしく神の声に聞こえた。その内容は今まで聞いた事がない、いや誰も話せなかった事ばかりだった。先生の側近の人々も神秘的ムードが漂い、この会に入会出来た事を本当に幸せに思った。先生が指導する修行はパワーに溢れていた。

いよいよシャクティーパットだ、すごく緊張した。今まであの手この手をつくしても覚醒しなかったクンダリニーの扉が開く、それを考えると熱い思いが湧き上がる。あお向けで寝ている所に、先生の親指が私の額に置かれた数分後、額が明るくなった。「はい、起きて。」という先生の

声が聞こえるが、体が痺れて起きれない。座り直すと、今度は、私のサハスラーラに先生の手の平が置かれる。とその瞬間、サハスラーラから透明なオーラの様な光が圧力を伴い降り注いだ。呆然とした。何か先生が言っているが、呆然としていたため聞きとれなかった。ただ「マニプーラは全開だね。」という言葉は覚えていた。背中に何か昇る感覚があるので後で先生にお聞きしたら、微笑んでクンダリニーだよと言われた。こうして六月のセミナーを終えた。

昇る様な気持ちで帰宅し、友人知人にこの事をふれまわったが、あまりにも話が突飛なため変な目で見る人が数人いた。が、これは、私の話し方が悪く、自分本位の考えで不快な思いをさせてしまったのだと思う。しかし、そのあたりから日常生活とのギャップを少し感じ始めてきた。

環境の変化というより、自分自身の変化を求め参加した八月のセミナー。個人相談の時間を取っていただき、厳粛な気持ちで先生の前に座すと、いきなり先生が「僧伽を作るので良かったら参加しないか?きみはアクショブヤの解脱をする。三年あれば解脱できる。」と言われる。私は何が何だか判らなかった。先生を眼前にして暫く頭が混乱していたが、しだいに実感が湧いて来て「はい。」と答えた。こういう機会をどれだけ待ち望んだ事か。シャクティーパットは目映いばかりの白銀光が額一面に輝き、しばらくするとムーラダーラから赤い光が昇って来た。

ところが、八月のセミナーも終わっていよいよ僧伽入りという直前になって迷いが出て来た。情に溺れ易い性格なのでそこでひっかかった。迷いを切ろうとすればする程迷いが出て、ついに

は先生に「先生は本当に解脱しているのですか？」という本当に愚かな質問までしてしまった。しかし先生の「判断の基準は自分自身のハートしかない。」という言葉をお聞きして、一喝された思いがした。私の心は定まり元の求道心が出て来た。まるで暗闇の迷路に光が差し込み、道標を得た心境だった。ちなみにこの愚問の事が未だに冗談話に出て来て後悔させられている。

僧伽の生活は今迄のあまりにも俗的な生活と違い、修行や朝早いという事などが、きつい時もあったが、心、安らかな生活だった。僧伽から本部道場に移り、一層先生の近くに来る事が出来るようになった。あまり修行は出来なくて、オウムの仕事での忍辱、精進の実践の毎日だ。しかし、何よりも先生の近くにいるだけで修行が進むようだ。

大阪でのセミナーに参加した時、初日は、大暗性だった。そのためツァンダリーの瞑想中、意識はちゃんとあるのにフッフッと意識が切れてしまう虚空三昧（こくうざんまい）に入ってしまう。光も何も見えない。これではまずいと思いクリヤを行なって二日目、アシュヴィニ・ムドラーを行っていると、ムーラダーラから頭上の方まで電気的な痺れが駆け昇るようになり、光は見えるようになったが、まばらで継続しない。しかし、少しは良くなって来た。

三日目、心に落ち着きが出だした。暗性の時、修行の時間が長く感じ、まだあと何分もある、まだ終わらないのかなあという気持ちだったのが、今度は、あと何分しかない、がんばろう、という風に時間が短く大切に思えるようになった。アシュヴィニ・ムドラーを行なうと痺れは強く

なり気持ち良さまで出て来た。意識は鮮明で瞑想中に五大エレメントの色が見えた。順はスカイブルー、青みがかった緑、白、茶色に近いほど濃い赤、そして黄色。しかし説明で聞いていたのとチャクラとの対応場所が違う。先生に言うと「それはアナハタの位置から見ているからだ。もっと上から見なさい。」と言われた。そう言われれば意識がアナハタの位置にあったのを覚えている。こういった私の間違いさえも瞬時に判ってしまう。全てを経験している仏陀ならではだ、と改めて感心させられた。

大阪のセミナーが終わるとすぐに、口の悪いカルマの清算である喉の痛み、異常な眠気、けだるさが出る様になった。一方、背を駆け昇る気持ちの良い痺れは強くなり、ムーラバンダをしたり、又意識するだけでも昇る様になった。

端から見ていると、しゃっくりをしている様に見えていて、一日中、止まらないので他の人に面白がられたり、気持ち悪がられたりした。それは、二週間近く続いたが徐々に少なくなり、ついには起こらなくなった。

しかし、段々と人の心に自分の気持ちを合わせると、その人の心のひっかかりや、気持ちが伝わって来たり、又ある人が将来どうなるかと考えると、断片的な、イメージというか、ヴィジョンの様なものが浮かんできたりする様になって来た。たとえば私自身、シャクティーパットを施して、ぼろぼろになっている未来の自分がよく浮かんで来る。いくつかの良くないイメージは、

不幸にも当たってしまった。

これらを先生に話したら冗談とも本気とも思える調子で「私と同じものを見ている。」と言われた。私は、シャクティーパットがどんなに辛いか知らぬがゆえに、ヴィジョンの様に自分がシャクティーパットでぼろぼろになる日が来る事を恐怖と共に待ち望んでいる。何千億年、何兆年以上に渡る麻原先生の如来、大菩薩としての救済活動の手助けが出来るなら、この上ない幸せである。出来る事なら、全ての魂（真我）がマハーヤーナに入るまで、足手纏いにならぬなら、御手伝いがしたい。

※修行上のポイント※

彼は、私のところにくる前から仙道や仏教の修行をしていた。そのため、霊体の浄化が進んでおり、シャクティーパットでも私のエネルギーが入り易かったのを覚えている。

最近、ちょっと気になることがある。それは、彼が人の心がわかるとか、未来のビジョンが見えるといった超能力に心を奪われ始めているということだ。解脱の為には、何事にも執着してはならないのである。超能力にさえも執着してはならない。したがって、何事も起こるがままに自然に受け流すようにしていったらよいだろう。

▼空のステージ

この頃から精神分裂が始まる。次のステージのポアも徐々に始まっている。

○ヴィシュッダ・チャクラ
○幻身（げんしん）のヨーガ（『生死を超える』参照）
○微細エネルギー
○仏教的には大日如来（だいにちにょらい）
○ヨーガ的にはヴィシュヌ神
○天耳通（てんにつう）（遠隔透耳能力）
○三つの聖なる経典を知る能力
○高貴
○スカイ・ブルー

上祐　史浩　（二十四歳）
修行者　元宇宙開発事業団勤務

去年の八月に入会以来、私に起こった肉体的変化と精神的変化について、お話ししたいと思います。

まず、肉体的変化についてですが、一日二～三時間の修行を始めてから三週間程たった頃、寒気と熱と頭痛に襲われ、頭頂が少し盛り上がるというクンダリニーの覚醒を経験しました。その後、東京の道場に行って、お手伝いや修行をしているうちに、体が震動し、目を閉じると常に柔らかい白い光（クンダリニーの光）が見えるようになりました。

そして、よりダイナミックな体験をしたのは四月のメディテーション・セミナーに参加した時です。瞑想していると、軽い震動を伴って、エネルギーが尾てい骨から頭へ向かって上昇しました。そして、頭頂がしびれ、震動するのを感じました。時には、そこが冷たくなり、汗のようなもの（不死の甘露）が落ちるのを感じました。さらに瞑想を続けていると、オレンジ・青・緑の様々なぼんやりとした色が見え、色々な神秘的な音（ナーダ音と言われている）が聞こえました。

さらに、目を閉じているにも拘わらず、様々な景色が見えるようになりました。調子の良い時には、自分の見たい物を映すことができたのです。一度だけですが、強いエネルギーが体を包み、感覚が鈍り、上に飛び出してしまうような感じを体験しました。夢が非常にリアルになったのもこの頃でした。

このような超常現象に対して私は、比較的平静に対処することができました。なぜなら、これらの変化はクンダリニー・ヨーガのプロセスとして、先生から詳しく説明を受けていたからです。私が驚いたのは神秘体験そのものではなく、先生のおっしゃった通りのプロセスで予定通り神秘体験をするという事実でした。そして、この事実は先生への『信』を強めることになり、この確信がさらに修行を進めてみようという気持ちを作っていったのでした。

この様な肉体的変化にも増して、精神的変化は大きいものでした。次にそれについてお話しします。

私は以前から自分の心に常に涌いてくる嫉妬、怒り、不安に悩まされていました。そこで、先生の説くジュニアーナ・ヨーガの修行に興味を持ったのです。そこで、先生は人間の心のメカニズム、欲望や苦悩の源、それらの取り除きかたを詳しく教えて下さいました。そして、その教えに従って、自分の心の動きを一つ一つ分析し、コントロールすることを試みました。

例えば、プライドについてはこう考え、瞑想しました。まず、私の心を悩ます嫉妬や怒りの多

くは、プライドから来ているのではないかと思いました。プライドを持っているから、他人が自分より優れていると嫉妬し、誤りを指摘されると素直に認められず、ついかっとなり弁解をすることが多いように思ったのです。そこで、このプライドというものが自分を本当に幸福にするかについて考えました。よく考えると、プライドを持っているために、間違いを指摘されても直そうとしなかったり、高慢に見られて人間関係を悪くしたり、嫉妬や怒りで心が穏やかではいられないのでした。そこで、瞑想の時や日常生活で自分の心に対して「プライドは私を必ずしも幸福にしない、それから離れよう。」と言い聞かせるようにしてみました。

そうすると面白いことに、プライドがなくなるかわりに卑屈になってしまうのです。そこで同じように、卑屈さが自分を本当に幸せにするかと考え、それを否定しようと努めました。ここまで来て感じたのは、プライドもその裏返しの卑屈さも、何が真に自分を幸福にするかを理解してないために生じているように思いました。これは、先生のいわれる『無智』よって起こる、本当は自分を幸福にしないが、一見心地よい感じのするものに対する執着、すなわちエゴの典型的例ではないかと思います。

最終的な結論としては、プライドも持たず、卑屈にもならず、表現しにくいのですが、何にもしがみつかない透明な心の状態を作り出せればいいなと思いました。そして、これが先生の言う『空(くう)』の一例ではないかなという気がしました。そして、先に述べた肉体的な修行と同様に、精

神的修行においても、自分の修行の結果が先生の教えと一致することは嬉しいことでした。

この修行を続けるうちに、様々な問題についてエゴを感じるようになりました。それは性欲や食欲の問題であったり、社会的地位、家族、恋人のことであったり色々でした。そして、そのエゴから離れようとする自分とエゴが激しく対立するようになりました。このような心の葛藤が起こるたびに、私は先生にアドバイスを求め、いつも納得のいく答えを得ることができました。

さて、これまでは、肉体的プロセスと精神的プロセスを別個に述べさせていただきましたが、この二つは不離一体なんだなと強く感じる体験をつい最近したのです。

オウムのスタッフとして五月のセミナーに参加した時のことでした。もっと神秘体験をしたいと思った私は、自分に与えられた仕事（先生の著書や法具の販売等）より瞑想修行に熱心でした。経験してみたかったのは、サハスラーラ・チャクラより落ちる不死の甘露（様々な神秘体験や超能力獲得の源となる）です。メディテーション・セミナーで少しは感じたのですがもっと大量にはっきりと感じたいと思ったのでした。そこで、仕事に集中できず、いいかげんにすませ、できるだけ瞑想をしていました。しかし、甘露はほんの少ししか感じませんでした。

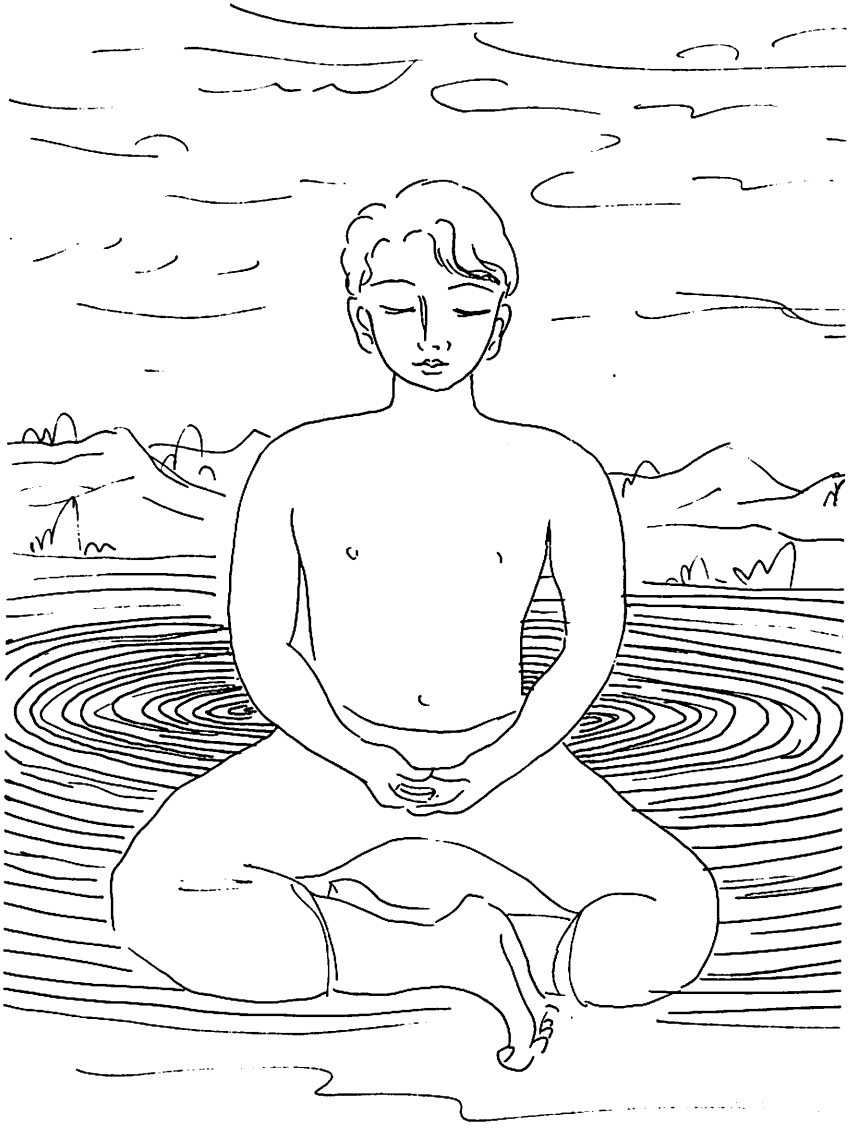
セミナーより帰ると先生の著書のワープロうちの仕事が山ほど待っていました。期限に間に合わせるために夜四時、五時まで起きていることが数日続きました。もちろん、瞑想はできません。半分観念した私は、次第にワープロうちに没頭していきました。

すると不思議なことに、頭頂がしびれ、快感が生じた後、今までとは比較にならないほどはっきりと甘露が落ちるのを感じました。それは頭頂から左右にサーッと流れ、時には肩や腰のほうに落ちるものでした。そして、いつでも容易に頭頂に気を集めることができるようになったのです。これはどうしてだろう?奉仕が大切なのはわかっているつもりだったが、瞑想よりも修行を進める効果があるのは納得いかないことでした。この点に関して先生はこうおっしゃいました。

「一生懸命奉仕することによって、君は修行を進めるために必要な『徳』を積むことになる。徳はエネルギーなんだよ。そして徳を積むには自分のエゴを満足させるものでなく、純粋な奉仕でなくてはならない。私とシャクティーパットを受けた人にはアストラル、コーザル体でパイプがつながっているから、その人がエゴを滅し一生懸命奉仕すると、そのパイプから流れてくる私のエネルギーを受け取ることができる。心がエゴだらけの人は私のエネルギーにチャンネルがあってないので受け取ることができない。」

「そしてね、修行に形はないんだ。いくら瞑想してもそれがエゴを満たすだけの場合、徳にはならない。奉仕も修行、瞑想も修行。何をしているにしても大切なのはその人の精神状態なんだよ。」

この先生の『徳の理論』を聞いて、より一層、先生の道の確かさと何とも言えない奥の深さ、素晴らしさを感じました。



以上、自分自身の肉体的、精神的修行についてお話しさせていただきましたが、最近は、先生がよく言われる救済、すなわち、自分と同じ様にエゴ等のために苦しんでいる他人を修行へ導くことに目を向けるようにしています。特に、このエゴに満ちた社会が近い将来向かえるであろう核戦争の危機についての先生の予言には強いショックを受け、その回避のために先生が計画なさっている救済活動には自分の力の及ぶ限り協力をしたいと思っています。

現在の自分は依然として強いエゴに手を焼いています。しかし、先生のように大乗の仏陀の道を歩もうという意識は少しずつ強くなっているように感じます。今後はできるだけエゴを滅し、徳を積み、救済に尽力したいと考えております。

※修行上のポイント※

彼は前生から菩薩の道を歩いてきている人である。まるで乾いた大地に水が染み込んでいくかのように、私の宗教理論を吸収している。しかも、吸収した理論を完全に消化して自分の物にしてしまっているのだ。さすがは菩薩様であると感心してしまう。彼は私がそうだったように、前世のステージを思い出す手段として〝演技〟の修行をしていくことになるだろう。私が〝演技〟と言ったのは、本当はすでに菩薩のレベルを知っているのだが、それを思い出す為に形だけの修

行が必要だという意味である。彼はすぐにでも成就することだろう。私が彼にしてあげられるのは、環境作りくらいになることだろう。

宇宙開発という科学の最先端をいく職場を捨て、菩薩の道を歩き始めた彼は、私と同様に救済活動をする為に人間界に生まれてきたのだろう。（八七年九月解脱）

堀口　雄一　（三十八才）
医師

昭和六十一年三月、丹沢での集中セミナーに初めて参加した。全員が五輪の塔の儀式で「ジャナー」のマントラを唱えている時、眼の前に、紫色が主を占める、放射状のスポークを持った輪が出現して来た。髪の毛程の細かいスポークが一本一本はっきり見え、かつ輪全体がゆっくりと反時計方向に回転していた。后にチャクラの絵を調べてみると、色はヴィシュッダ・チャクラの色に似、形はアージュニァー・チャクラとほぼ同様で、スポークの数はサハスラーラ・チャクラと同じ程に多かった。眼を閉じてこれ程くっきりと物が見えたのは初めてであったので非常に感

激したのを覚えている。

しかし、初めてのシャクティーパットでは、先生から、「アナハタまで開きましたよ。」と言われても、何の変化も感じられず、単に額を触れられた感じのみであった。が、すでに何回か受けた人達の経験談を耳に挟んでいたし、何しろ、それまで全く修行をしていなかった事でもあり、かつ、五輪の塔にて不思議な体験もしたので、不平、不満などは全くなかった。逆に、先生を初めて見た時と、多人数の人にシャクティーパットをした后では、顔色が違い、先生の眼に隈が出来ていて、疲れきっている様で気の毒にと思っていた。

私のシャクティーパットの順番が来た時、「もう疲れ果ててできないからしばらく待っているように。」と言って、若者達を連れて雪の降っている外へ、上半身裸で出て行き数時間マントラを唱えてから戻って来られた時には、眼の隈は消え、元気そのものという印象を受け驚いた。

なお、この時、同じ部屋の青年で、ヨーガの修行を別の道場でしていた人が、「今回の初めてのシャクティーパットにて、周りが一面真っ白になり、ドカーンと音がしてクンダリニーが覚醒し、先生もびっくりしたみたい。」と本人から聞いた時には、羨(うらやま)しく思い、オレの方はクンダリニーの覚醒ができるのだろうか?と思っていた。

その后、やっと五月中旬に「火と水の洗礼」を受けた。悪寒、戦慄、それに高熱が一度に出現したが、感冒の時と違い、寒けは我慢でき、震えは、意志の力で数分位ならストップができ、意

識は非常にはっきりとしていた。これはわずか一日で終わった。しかし、歯はガチガチと鳴るし、体はガタガタ、額や胸や腹は非常に熱く、布団はびしょ濡れという具合に相当ひどかった。

六月末の二回目のシャクティーパットでは、「地、水、火、風、空」の五元素の光を扇状に見、十二月の集中セミナーでのシャクティーパットでは、意志の鞘と理智の鞘を見た。この二つの鞘は、非常に色が薄くて透明に近い黄色をしていた。中央から放射状に直線が何本も出、その先端ごとに小さな円があり、その円が線香花火のようにピカピカと光っていた。「何だろうか、これは……。」と思いながらも余りにも色が薄く、それまでのシャクティーパットでの濃い、はっきりとした色ではなかったので、どうせ大した事ではないだろうと思い、先生に質問しなかったが、その后、会員仲間から良い本だと勧められて買った「魂の科学」に載っていたのを見て驚き、何であったかが分かった。

六十一年四月のツァンダリーの瞑想訓練では、ヴァヤヴィヤクンバカで保息するたびごとにヴィシュッダ・チャクラが出現、又、シャクティーパットでは鮮やかなオレンジ色の光が下方から出現、徐々に大きくなり、視野全面に広がるのを見た。そして五月の和田平でのセミナーでは、シャクティーパットにて歓喜の鞘とルンのエネルギーを見た。初め、真っ暗な視野の中に青と緑系統の色が出現、その后、黄色やピンクに近い色も出現してきた。その頃になると、今でも分からないのだが、なぜか白い色が二つ出て来るような気がしていた。とにかく、瞑想にて白い色を

見るのが一番苦手であるのだが。そうすると中央と視野の周囲に白い光が出現、気がつくと、中央を中心として、何重にも円が出現、かつその円はジグザグとしていて、「魂の科学」にある歓喜の鞘と同じであった。しかし、歓喜の鞘がはっきり出現した頃、だぶってルンのエネルギーがはっきりと見え出し、これに気をとられてしまい、中央の「真我」を注意深く見る事ができなかったので残念に思っている。なお、ルンのエネルギーは円柱状に多数見えた。

以上がシャクティーパットでの体験であるが、その間の現実生活の面では、初めの九～十ヶ月程は、短気になり、ちょっとした事でもイライラするようになった。今では徐々に元に戻りつつあるが。そして六十一年夏頃より、それまでは見えていたオーラの色を見る能力が徐々に低下し、今までは、オーラは見えても、色は全く見る事ができない。

一方、身に付いた能力としては、癌患者を一時的に軽快させる、又は、癌で死んで行く時も苦しまずに死んでいかせる能力を持ったようだ。しかしまだまだ力が弱く、この能力を使うと、こちらの疲れが激しく、フラフラになってしまう。なお、先生に初めて会った時、治らない病気を超能力で治すことができればと強く希望した為か、他の能力は全く出て来ない。他の力も欲しいんだが……。

その他、アレルギー性鼻炎とアレルギー性結膜炎にて、毎年二月から四月の間は、鼻はズルズル、目はショボショボとひどく、時には、一日でティッシュペーパー一箱がなくなる時もあった

が、今回初めて、ぬるま湯のネーティをやったら、四日目で、完全ではないが、眼症状はほとんど気にならなくなり、鼻も時々かむ程度にまで改善した。ヨーガには、一般人にとっては未知の、不思議と思える力があるようだ。

※修行上のポイント※

彼はとても慈悲深い医師である。体験談にもあるように、『治らない病気を超能力で治すことができれば』という一念で修行を始めている。そして、かなり力をつけてきたようだ。透視によって、意志の鞘など自分の内側を見ることができたのも、彼が慈悲の心を持っているからである。今後も修行を続け、救済活動に励んでいただきたい。

広田　耕之　（二十四才）
修行者　東京芸大大学院卒

グルである麻原先生の計らいによって、サンガに入った私の当初の仕事は、サンガ内の会計と炊事でした。男だけの生活だったので、性の問題、人間関係等、様々な問題もあったのですが、先生の指導とみんなの努力で切り抜けていきました。この間いろいろな人の心の動きというものを見る機会をえて、漠然とながら人の世の苦しみと魂の歩む深遠な道のりを、垣間見たような気がします。

そして昨年十一月、これまで積んできた功徳のおかげで、私の心はある程度きれいな状態に至ることができました。その頃の私は静かで思い浮かぶ雑念もほとんどなかったようです（表面意識がうすれてかっとうが少なくなっていました）。ここである程度としか書けないのは、その後再び心が動き出してしまったからです。麻原先生からのたびたびの指摘にもかかわらず、私の心は外界からの情報によって激しくゆれ動きました。私達のまわりにある情報はほとんどが正確なものではありません。ところが情報に左右されやすい私は、自分の得た情報や、昔から引きずって

いる観念によって物事を判断し、結局誤った方向へ動いてしまったのでした（このときは、人々の言動にとらわれていました）。

そんなわけで私の心の平安は非常に短い期間のものに終わりましたが、高いステージを少しでも味わうことができたのは良い経験になったと思います。

さて、十二月から一月にかけての集中セミナーのときのことです。突然三十九・五度の熱を出した私は、セミナーの手伝いもできぬまま、一人サンガで床についていました（その数日間はリンゴしか食べることができず、体中がリンゴのにおいを発するほどでした）。——またクンダリニーが上昇しているのだ。今迄してきた悪い行ないがこの苦しみを招いたのだ。——そう思いました。これは、先生によると自然のトゥモー（熱のヨーガ）だそうで、瞑想が好きでない私は瞑想中に取るべきアカをこのような形で排除するしかなかったのだと思います。高熱にうなされ、ボーッとした意識のままでなぜか私は、シヴァ神の神殿を早く日本につくらなくてはいけない。——と考えていました。

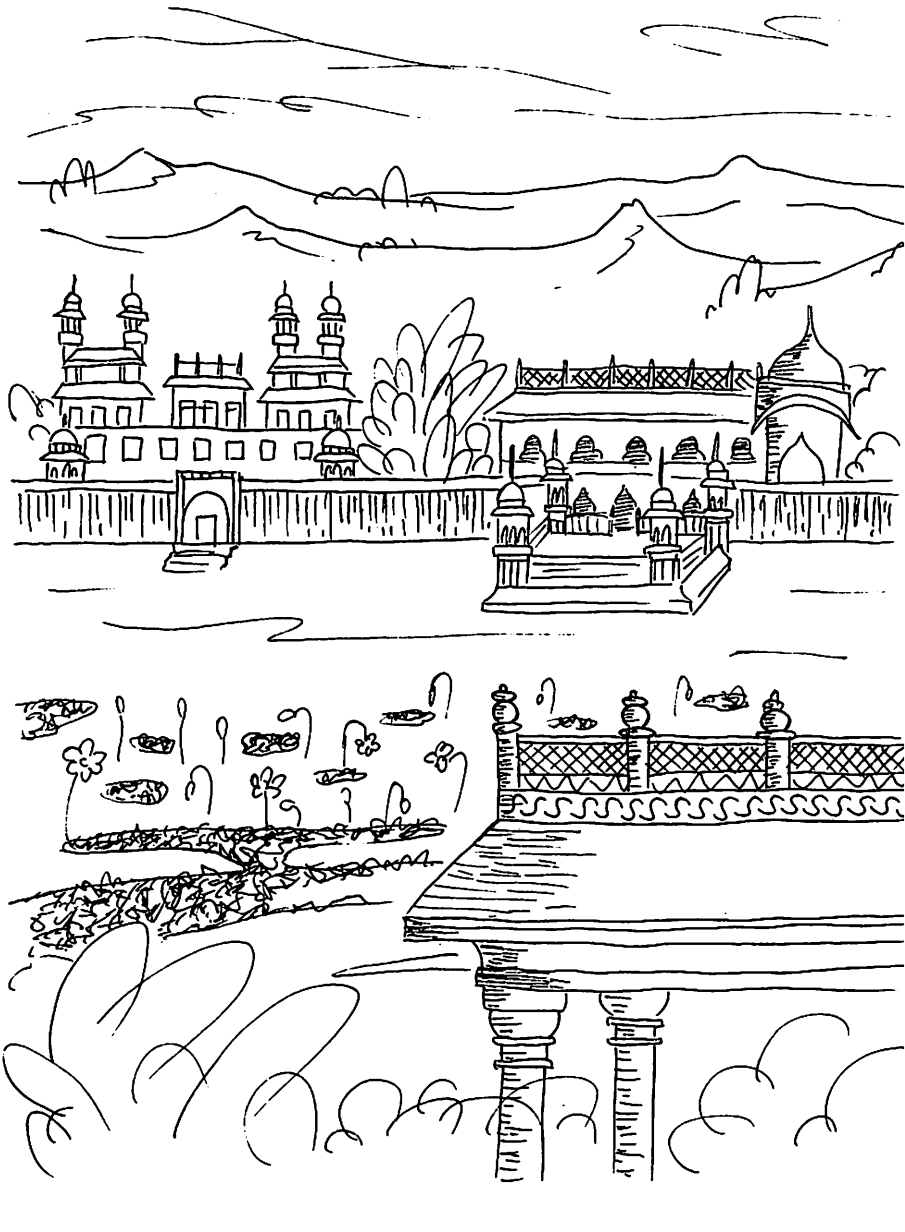
これは偶然でしょうか。このセミナーのとき、先生もシヴァ神から『早くみんなが修行できる道場をつくりなさい。』と指示を受けていたそうです（私がボーッとしていたのとちがい、先生は瞑想してシヴァ神と会っていましたが——）。みんなが修行できる道場、つまりシヴァ神の神殿を建てるということは、麻原先生の長年の夢の一つであります。過去私はこのことを先生から何度

か聞かされてはいましたが、この不思議な一致はたぶん先生の波動が伝わってきたことによる現象だと思っています。

このときまで忘れていましたが、先生に初めてお会いしたとき、確かにこのように言われていたのです。『君は私の所へ来て、シヴァ神の像を造るのだよ。』と。このとき私は、まさかそんな大それたことをすることになろうとは思ってもいませんでした。しかし、熱のひいた私がセミナーに出ると、さっそく先生の部屋で、シヴァ神の像を造るように指示されました。

実は私は芸大の大学院生で、今春ようやっと卒業することができました（麻原先生は、途中で物事を断念することをとてもきらいます。強靱な意志の力を得るためには、自分のやると決めたことは最後まであきらめてはいけないからです）。自分の彫刻の実力には少なからず不安を感じますが、シヴァ神の意思と先生を信じて、神殿を造ることを天命と思い全力をつくしたいと思いました。

三月二日、インドのダラムサーラーより帰国なさった先生を迎えに成田空港へ行きました。いっしょに迎えに行った杉本さんと私は、先生よりインドへ行くようにと指示を受けました。「オウム」の仕事で行くのですが、彫刻の勉強もできるだろうというのです。私も先生がインドへ行っている間、インドへ行かなくてはいけないのではないか、と考えていたのでとても驚きました。ヨーガ発祥の地であり、釈迦牟尼の教えの発祥地であり、また数多くの解脱者を出しているチベ



ット密教総帥ダライ・ラマがましますインド。聖なる山ヒマラヤのあるインド。私は心の奥底で『行ってみたい。』と痛切に思っていたことを知りました。インドで何が待っているのか私にはわかりませんが、一度は行かなくてはいけないようです。あっという間にインド行きは決まってしまいましたが、私達には行く前にしなくてはならないことがありました。「オウム」の代表として行く以上それなりの修行レベルに達していなければなりません。そのためには修行しかない!!というわけで私達二人（広田と杉本）は四月一日夜から五月一日夜まで一ケ月間の独房修行に入りました。

最初の十五日間は、一日二食。次の十五日間は一日一食。各自自分の部屋から一歩たりとも出てはいけない（もちろんトイレも中でしました）。後半の八日間は何も話してはいけない……。とてもきびしい修行でした。本格的な修行は初めてだったので非常につらかったのですが、そのときにした神秘体験の中で一番印象に残っているものを書きます。

十二時間の修行プログラムを終えて、寝る前に少しムドラーをしました。床についた私は、ガヤートリー真言を唱えながらねむりに入るのを待っていました（修行期間中は、修行のために大脳が興奮していてなかなかねむれないことがたびたびでした）。まっすぐ横になってシャヴァアーサナのかっこうをしていたのですが、どうもおかしいのです。よく考えてみると膝から下が直角に折れて床にもぐってしまっているようなのです。『何だこの感覚は？』私が意志すると足はもと

の体にもどっています。何度か繰り返すうちに、『これは幽体離脱だ。』と気が付きました。どうも自分の肉体と重なっているもう一つの体、アストラルボディーを体験しているらしいのです。この不思議な体に私の意識はありました。思い切って起きてみようとしたら、フワーッと起き上がれました。そして着地した場所は、なんと異次元でした。

この世界はうまく表現できませんが、私はアストラル体の意識で思いました。《ここは異次元だ。》と。そう思ったらだんだん落ちついてきました。《どこへ行ってみようか…。》そのとたん、フワッと動いて今度は自宅の廊下に立っていました。たぶん自宅へ帰りたいと思っていたのでしょう。十歩ぐらい歩いてみましたが確かに自分の思いどおりに動けました（体が軽すぎて少しぎこちない感じがありました）。そしてカーテンのすきまから、外の景色を見ました。とても見慣れた風景といった感じです。夜なので外は暗いし、あまり楽しくはありませんでした。その後しばらく自宅を歩きまわっていましたが、《先生に会いたい。》と思ったらなぜか私は元の部屋で横になっている肉体のところへ帰ってきてしまいました。

今までにも幽体離脱は何回か経験しましたが、今回の体験は現実の世界よりリアルで意識がはっきりしていたことが特徴だと思います（これは体験しなければわからない、非常にショッキングなでき事でした）。この経験をしたことによって、私の内部には確実な変化がおこっています。私は魂であって肉体ではないということ、世界はこの世だけではないということを知識としてで

はなく自分で体験してしまったからです。

しかし麻原先生はいつも『魂（真我）は肉体ではないし、感覚でも心でも観念でもない。』といっています。まだ私の得た経験は不完全であり、本当の自分を探すためには、もっと功徳を積み修行による経験をしなくてはならないと思います。

三十日間の修行中には他にも様々な経験をしました。瞑想中、目の前に明るいスカイブルーの点が五～六個見えたことがありました。そしてその光の点は日に日に数を増して大きくなっていきました。空元素（くうげんそ）の色を見ているのではないかと思います。この光の点は、明るくとても美しいものでした。

また、リアルな夢も数多く見ました。夢の中で麻原先生に自分の疑問に思っていたことを聞いて答えてもらったりしました。現在いっしょに修行中の仲間達の夢もたくさん見ました。瞑想しているときに見たもので、夢なのかヴィジョンなのかよくわからないものもありました。それは次のようなものでした…。そこは洞穴の前でした。たくさんの人々がいて、何か待っています。みんな修行者や信者達です。私もその中の一人としてその場にいました。たぶんインドなのではないかと思います（なぜなら、私を含めてみんなそのような服を着ていましたから）。そこへ、麻原先生が洞穴から出てきました。でも少しちがいます。今の先生よりもっとひげを長くのばしていました。上半身ははだかで、下半身には布を巻いていました（布の色は思い出せないのですけ

れど、麻原先生が私の印象を読んだところ、真っ白い布だったようです)。何か大事なことが終わったあとのようでした。その聖者の顔は少しきびしい感じがしました。名前を呼ばれて話をしたようなのだけれどここはよく思い出せません。これは、前世のことだと思います。もっと細かく思い出せるといいのですが……。前世は今のところ二~三ケぐらいしか思い出していません。

この修行が終わりに近づいたころ、私は、ツァンダリーの修習によって、エネルギーを上昇させると快感を感じるようになりました。最初は背中をゾクっと寒気が昇るだけでした。そのためエネルギーが上昇していないのではないかと思ったほどです。しかし、その上昇感が強くなっていくと、とても気持ちいい快感のようなものになりました。現在では、この世で味わえる最高の快感だと思っています。射精などの快感などとは比べようもありません。また頭頂から体の中心を下に向かって甘露(ネクター)が落ちるようになりました。甘露は各チャクラごとに冷たさと快感を呼びおこしながら次々と下へ降りていきます。私の場合、落ちていくのがわかるというより、落ちたときに各チャクラから快感が上昇するのでわかるという感じです。少し体にしびれをともなうこのプロセスは本当にすばらしいものです。しかし、まだまだ何回も周転させることが必要だと思っています。

いくつか神秘体験を書きましたが、独房を出たときには自分の心の変化にも驚かされました。五月一日の晩遅く(実は、もう五月二日になっていました)、私達の独房修行は終わりました。正

直にいってうれしくなかったわけではありません。しかしこのまま修行を続けたほうが楽だと思いました。一歩外へ出れば、苦しみの原因であるものと接触しなくてはならないからです。一カ月の修行が終わる頃には、この世の中が苦しいと思うようになっていたのです。

例えば、修行中トイレや食事の世話をしてくれた人達に御礼を言おうとしたのですが、言葉を発することがものすごくエネルギーのロスに感じられました。もちろん、人のそばへなども行きたくもありません。人間の体が汚いものだということは、一ケ月間風呂にも入らず接触もしないでいた私には明らかな事実だったからです。本当は、私の体の方が異臭を放っていたはずですが、まわりの人達の体の方が汚れているように感じました。人が近よってくるとたじたじと後ずさりしてしまう程でした。五感から得られるものすべてが苦しみでした（独房に入っている間に食べたいと思っていたものを、こっそり近くのセブンイレブンで買って食べたら気持ち悪くなって吐いてしまいました。人々の話し声は異常にうるさく聞こえました。洗髪した後のシャンプーやリンスのにおいも鼻にツンときました）。

そして私は知ったのです。愛着しているものから離れるのは非常につらいものですが、すべてが苦しいこの世界の中で苦しいこともしらずに愛着している人々のつらさ、苦しみといったら例えようもない程のものでしょう。このとき、私は四無量心の『悲しみ』を感じました。一ケ月間の修行を終えて出てきたとき、私達二人はずいぶんと変わってしまっていたようです。

私は自分のことを高い精神レベルにあるとは思えません。私の心の中には様々な、そして数えきれない程の煩悩があり、それはまだ消え去ったわけではないからです。もしかしたら、まわりと接触を繰り返すうちに、この世の中が楽であると思うようになってしまうこともあるかもしれません。そのくらいこの世界はひどい状態にあると思いました（しかも人々はそれに気がついてさえいません）。

私が、この独房修行で得た最高の智慧は、『修行しか役に立たない。』ということでした。

私はいま、インドへ行く準備でとても忙しくしています。おぼつかない英語、そして軟弱な精神と肉体でどこまで頑張れるかわかりませんが、精一杯勉強してこようと思っています。すばらしいシヴァ神の像を造るため、できる限りの努力をしようと思います。

一刻も早くシヴァ神（無始の過去からの解脱者）の神殿が日本にできるよう、また、世界が平和で人々が安らかに修行できるよう祈らずにはいられません。すべての生き物達が本当の幸福の世界（ニルヴァーナ）へ行けますように。

※修行上のポイント※

広田君も『生死を超える』に体験談を書いてくれていた。杉本君同様、成長のあとがうかがわ

れる今回の体験談である。幽体離脱の体験がよりリアルになったのは、マニプーラ・チャクラが浄化されているからである。現在浄化段階に入っているのだ。したがって、あと二〜三回も独房修行を行なえば、解脱できることと思う。

二宮　耕一　（二十一歳）
修行者　元愛知製鋼勤務

一九八六年八月、私は先生の弟子にしてもらうつもりで集中セミナーに参加しました。先生との面談を希望し初めて先生に会った瞬間、なんともいえない気分になり目には涙があふれてなつかしさのようなものを感じました。

私は先生に、「私は解脱をめざしています。ある程度お金をためたら修行の生活に入ろうと思ってます。」といいました。すると先生は、「解脱だったら三年時間をくれたらさせてあげるよ。」とおっしゃられた。私はびっくりしました。たった三年で解脱ができるなんて——とそれまでいろんな本を読みあさっていたので変な観念ができていたのかもしれない。私はこの時の面談で本物

のグルだと確信しました。先生は早く会社をやめてサンガに入るよう勧められました。私はもうすべてを捨てる覚悟はできていましたのでサンガ入りをきめました。

そして先生はここで大乗のボーディサットヴァと小乗の仏陀のちがいについて説明してくださいましたが、さっぱりこの時はわかりませんでした。私は先生に質問した、「私には使命があるのでしょうか？」と。先生はこう答えられた。「使命とは過去世から作っていくものだ。二十歳でそれを考えているのだから使命はあるのだろう。しかし、それをやりだすと解脱は遅れる。それは、大乗のボーディーサットヴァだ。」と、そして最後に、「修行はつらいが頑張んなさいよ。」とやさしい口調でおっしゃいました。面談がおわってサンガ用の修行、五体投地を指導していただきました。

それから数日たって私が帰る前日の修行中、初めてヴィジョンを見ることができました。その内容は、まず自分の心や性格のいやな部分が回想されたのです。それと同時に気分が悪くなりました。行を続けていると、こんどは阿弥陀如来がだんだん近づいてきました。如来の顔の表情が次々と変化しました。そうするうちに菩薩が円になって火を囲んでいるのが見えました。私が円の中心にいる感覚があり菩薩の顔を全員見ました。すると女神が地からまい上がりました。場面がかわって麻原先生が、マントをひるがえしながら菩薩といっしょにこちらへむかっていました。ふたたび場面がかわり、私と菩薩が宇宙の中にある長い階段をのぼっていった前方に光の扉が見

えました。菩薩がいいました。「このむこうがニルヴァーナだ。」と。このことを先生に話すと「過去世の記憶だ。」と、そして、「君が修行にむかっているからそのヴィジョンを見ることができた。」とおっしゃった。これは、シャクティーパット前に見たものである。

会社の寮に帰ってからは先生の姿がリアルにいつも目の前にあらわれていました。そして、頭から先生のことが離れなくなってしまいました。一ヶ月後、私はサンガに入りました。

サンガに入って二ヶ月後に、私は超能力を経験しました。初歩の超能力なのですが私にとっては、不思議な現象でした。それはダリドリーシッディと呼ばれる超能力で、すわったまま、カエルのようにはねる現象です。私がマントラを唱えていると、アージュニァー・チャクラのちょっと上に意志が集中し、ものすごい圧力がかかり、身体が震えだしてドン、ドン、ドンと三回から四回つづけてはねるのです。このあとなんとも言えぬ幸福感にひたることができました。

クリヤ・ヨーガを実践するようになって夢がとてもリアルになりました。特に多い夢は人殺しの夢です。例をあげると、サンガの二階にちょっとふとめの男がいて、ナイフで切り刻むのです。その肉を切るリアルさといったらそこらのホラー映画などは比較にならないほどです。

このことを先生に話すと、「過去世のカルマがでてきて浄化されている。」といわれました。そして、「お前は過去世でチベット密教のカギュ派の修行者だった。」ということも聞いたのです。自分が過去世で修行をしていたなんて信じられませんでした。

五体投地が九万回になった時、全身が快感につつまれました。そして十万回に近づいたときに強大なシヴァ神が私の前にあらわれ、しだいにグルの顔に変化したのです。それは私を祝福してくださっているようでした。

私はオウムに入ってグルの弟子となって絶対幸福への道を歩き始めたのですが、今では大乗のボーディサットヴァの意味、必要性を理解できたと思ってます。そして必ず解脱し悟りをひらいて、すべて魂を救済するまで偉大なる聖師に何千、何億カルパでもついていきます。これが、過去世からの宿命なのかもしれない。

※修行上のポイント※

彼は確実に一段そして一段とステージを上げている。彼の体験は、すべてそれぞれの段階の現象として説明のつくものなのである。

まず、火のステージで阿弥陀如来を見ている。阿弥陀如来は火の主宰神である。次に彼は風のステージへと進む。風では空中浮揚ができることになっている。現に彼は空中浮揚の前段階であるダルドリーシッディを獲得している。本人が望めば、空中浮揚もすぐにできるようになるだろう。そして、全身がしびれるというのは最後の空のステージだ。この進歩の速さ、ステージの高

さを考えると、彼は前生で非常に高いステージにいたことは間違いないだろう。少なくとも、空中浮揚はできていたはずである。

最後につけ加えるなら、彼はアストラル・ボディーに意識を移し変えるポアも始まっているのである。（八八年十一月解脱）

▼ポアのステージ

○アージュニァー・チャクラとサハスラーラ・チャクラ
○精神分裂
○自己矛盾
○透視能力
○願望成就（高次元）
○高次元のアストラル・ヴィジョン
○仏教ではグル
○ヨーガではシヴァ神
○光のヨーガ
○ポア
○白銀色と透明

修行が順調に進み、スシュムナー管でクンダリニーが自由に動けるようになっていたら、最初からクンダリニーの覚醒～ポアまでの全部の体験をするはずである。シャクティーパットがそれを可能にしているのだ。反対に、クンダリニーのエネルギーが弱く、どこかのチャクラで止まっていたら、そのステージの体験をすることになる。更に、スシュムナー管に何らかの障害がある

場合、それぞれのステージの一部の体験しかすることができないだろう。

大内　早苗　（三十歳）
修行者　元エスティシャン

何の為に生まれてきたのだろう。何か大切なことを知る為に与えられた生命…無駄に時を過ごしたくない。幸せになりたい。まわりの人も幸せにしてあげたい、と子供の頃から思っていた。一生懸命働いて色々な経験をしてふと気づくと、少しも幸福でない自分がそこにいた。生きてゆくことさえ本当に苦しい。悲しい。なぜだろう。

そのような状態で昭和六十一年に入会する。運命鑑定をしていただき今までの生き方が、百パーセント的中しているのに驚く。また、超能力神秘体験も可能で、絶対自由で幸せで、本当の自分を知るということは解脱することだとお聞きした。凡夫の私にはとても高い世界に思えたが、信じて修行してみようと思った。

そして、オウムの修行とシャクティーパットによってわずか二ヶ月で、幽体離脱（ゆうたいりだつ）、白銀の光、

プラーナ、自宅でグルのマントラを唱えられる声が聞こえることなどを体験しだした。

実生活においては、人間関係がスムーズになり修行時間も上司の理解によってとれるようになった。願うこと、望むことも全てかない出し、修行を始める前と後の環境が一変する。驚きと喜びは、シヴァ神とグルへの確かな信となり心の底から帰依したいと思うようになった。

次の日、先生より五体投地の行法を教えていただく。これはシヴァ神とグルに帰依する行法だと言われた。凡夫の私は、『なぜ先生は私が帰依したいと思ったことを、ご存知なのだろう。』と心の中で不思議がっていた。すかさず先生は、『グルはなぜ必要か知っているか。全てを体験し尽くしたグルだから、その人の解脱への一番近道を知っている。』と明解にお答えになった。このとき、先生が日本で唯一人解脱され悟られたグルだと実感した。先生のご指導によって最短コースを歩んで行けば、今生で解脱もできる。解脱したいという強い思いがわいてきたのだった。

五ケ月目に入ると表層意識が落ち始め潜在意識が表われだす。今まで閉ざし気づかなかった意識（欲望、望み、思いなど）が浮かびあがってくるのだった。それは、露骨でもありまた滑稽で切なく渇いた意識でもあった。五体投地最終日には、突然ふるえるアナハタ・チャクラからやさしさが広がり始めた。あふれ出る意識は確かなシヴァ神とグルの慈悲のようにも感じられた。私の魂はすっぽりとやすらぎにも包まれた。涙にむせびながら、人が求めてやまないものは、やすらぎではないかと思った。それを求める限り永遠に輪廻の輪を彷徨し苦しまなければいけないので

はないかと思った。

八ケ月目にはアストラル体験が物語のように続くようになる。夢見がリアルになり実際の感覚と変わらなくなる。

それにつれて、かなりきびしい心の修行も始まる。グルは、「心の大手術をするよ。」とおっしゃったが、病巣は深く病んでいたと思う。ただいつももう耐えられないと思う時、グルがおっしゃった言葉を思い出していた。

「全てを失いながらも努力すること。

どんなにみじめな状態になっても捨て鉢にならず、ひたすら努力し続けること。

そして、己自身を根本としなさいよ。」

時が過ぎれば苦しさもいつの間にか過ぎてゆく。心は揺れながらも、苦の原因を見つめ分析し始めていた。そして、いつも同じパターンで失敗していたことに気がつく。

十ケ月目のある日、瞑想中に光をエネルギーとして感じる。宇宙を構成している要素は光、音、熱の三つのエネルギーだとお聞きしたことがあった。しかし、光は光、エネルギーと感じられたことはなかったが、この日は別であった。眠ったような状態であるはずなのに、肉体次元はマントラを唱え続けている。同時に覚めた意識がはっきりとアージュニァー・チャクラに集中している。何かが起こりそうだと感じた瞬間、強烈な白銀光がアージュニァー・チャクラに差し込んで

きた。今まで見たどんな光よりもまぶしく強烈な白銀光は、まさしくエネルギー以外説明できない。

そして、一年半の時が過ぎた。ツァンダリーの行法によって肉体とチャクラの浄化を体験する。「トゥモゥが完成したじゃないか。浄化されていないエネルギーが上がっている。」と先生は言われ私の背後に立たれた。そのとき、連日三八度五分の熱で肉体が、火をふき出したような状態であったが、意識ははっきりしていた。心を静めしばらくグルの意識に集中する。さわやかで果てしない包容力のあるグルのエネルギーがスーッとおりてきた。浄化して下さったのだと思う。入会してまだ一年半だが、二十年もの時を経験したような思いがある。それは、グルの御指導あっての体験であった。入会前を思えば、言葉では尽くせぬ感謝の気持ちで一杯。今私は、全てのエネルギーと功徳を解脱に向けて、歩いている。そして、必ず今生で解脱をしたい。

※修行上のポイント※

彼女は、私が仕掛けた辛い『観念崩し』に耐え、見事に乗り切った。そして、今では非常に高いステージに来ている。そのステージは、悟り・解脱直前であると言っていい。

彼女のこれからの課題は二つ。一つは、自由・幸福が、もともと自分の魂に備わっている、と

いうことを知ること。もう一つは、自己保存の観念を捨てることである。このためには、自分がこの世にもアストラル世界にも存在していないということを悟らなければならない。実は、それらの世界に存在していると思っている自分は幻影にすぎないのだ。

――そして必要なのは、解脱に対する熱望だけである。（八七年七月解脱）

佐伯　一明　（二十六歳）
修行者　元営業マン

誰でも、「今の人生は、間違っていないだろうか?」と、何度か思い悩んだことはあると思います。私も独りになったとき、よく悩んだものです。紆余曲折しながらも、社会の荒波の中をどうにか、生き延びてきた一人の人間として、弱輩ながらも精神の世界とは、人生とは、人間がなすべく使命とは何かを考え、また、誇大妄想なのか世界の平和を希求していました。しかし、どんな人物と会っても納得のいく解答は得ることは出来ず、いつも焦っては腹立たしさを他の欲求とすり替えていたのでした。

人生の意味を勉強しなければ、たとえ一流大学に入り、一流企業に就職したとしても、不幸な人生しか送れないのだ、と。これが私の腹中有書です。それゆえに、ただ無意味な書物を買ってきては、乱読の日々を過ごし「人生の意味」を探していたものです。

たしか六十年の十月でした。麻原先生の声が電話を通して伝わった瞬間でした。私は「これは、本物だ！」と、一瞬、目の前が明るくなり、心は震えんばかりの状態になりました。その後、セミナーに参加し、シャクティー・パットを受けました。そして、約一ヶ月後の魔境という体験が、私を修行者の道へと進めていたのだと、今では信じています。

六十一年二月九日、午後十一時三十分。

「ウウッ……、ここはどこだ？」

我に戻ったとき、痛い程のまぶしい光が両目に飛び込んで来ました。

「何の光だろうか？」

何故か恐怖感で身動きが取れず、ただカメレオンの目のように、辺りを見回し、周囲の状態を観察した結果、ここは手術台の上だということに気付いたのです。私は愕然としました。

「またかっ！」

しかし、身体を動かす勇気もなく、ただ自分の身体が五体満足に無事かどうかということだけが気になりました。その時、ライトの光を遮る黒い頭が「ぬっ」と出てきました。そして、

「おいっ！気が付いたか？生きてるで、手も足もちゃんとみんなついているからなっ。だから安心しろよ！」

と、その頭の主は云いました。眼鏡を掛けた丸顔、人の良さそうな声、手には針を持っています。

このとき私は、人生の哀しさと、カルマの尊さを染み染み感じながら、囁くような弱々しい声で、「調子に乗ると、いつもこうなるんですよ、本当に……。」哀しい口調で懺悔するかのようにつぶやいたものです。まるでスタントマンが失敗したとき、看護ベッドの上でいう決まり文句のようでした。医師は、先程の口調とは打って変わり、厳しい表情で、黙々と額の傷を縫っていました。

それからどれだけの時間が過ぎて行ったのだろうか、意識が回復して先ず最初に思ったことは麻原先生のことでした。

「何故、事故を起こしたのだろうか？一ヶ月前にシャクティー・パットをして戴いた後なのに。」

と、不思議に思えました。

看護婦がドアを開き、「検温の時間です。」と云って入ってきます、「コツ、コツ……」その足音に何故か意識が集中したときでした。急にこんな思いが湧いてきたのです。

「これが本当のカルマかも知れない。いや人生すべてがカルマとするのが真実なんだ。そう、麻原先生が云っておられた。ならば、何が起ころうとも動じず、カルマに従って、これ以上のカ

ルマを作らないようにしよう。そして、修行に励み、グルの教えに附いて行くのが、真に人生の意味を知ることのできる唯一の道だ。」

このように理解できたのが、入院後、四十日目の頃でした。

では、どういう事故だったのかというと、先ず生きていたのが不思議なくらいの大事故だったのです。百二十五キロのスピードで、河川敷から七メートル下の河原めがけて、約十七メートル程、空中に飛んでいたのですから、普通でしたら今頃は、下六界の辺りをさまよっていたでしょう。

これまでに、大きな事故は三度しました。どの事故も死亡診断書を貰っても不思議ではなかったでしょう。先生が云うには「佐伯君はどんなことをしても死なないよ。」との返事で、まるでゴキブリの代名詞の称号を授かったようでした。そして、一応の安心はしたのですが、心の内では、「もう入院はうんざりだ、苦しみに耐える体験はもう沢山だ。」と悪徳のカルマを作らないように心に誓ったのでした。

入院期間は六十三日、入院中は悲惨な毎日でした。

ところで、この入院中に、オウムのヨーガが如何に神秘的なパワーを秘めているかが解ったのです。実は、入院後と十日間は首が廻らず、頸椎にひびが入っているのではと医師から云われていました。これを聞いたとき私は、「もう、オウムの修行はできないのか。」とまるで人生に終止

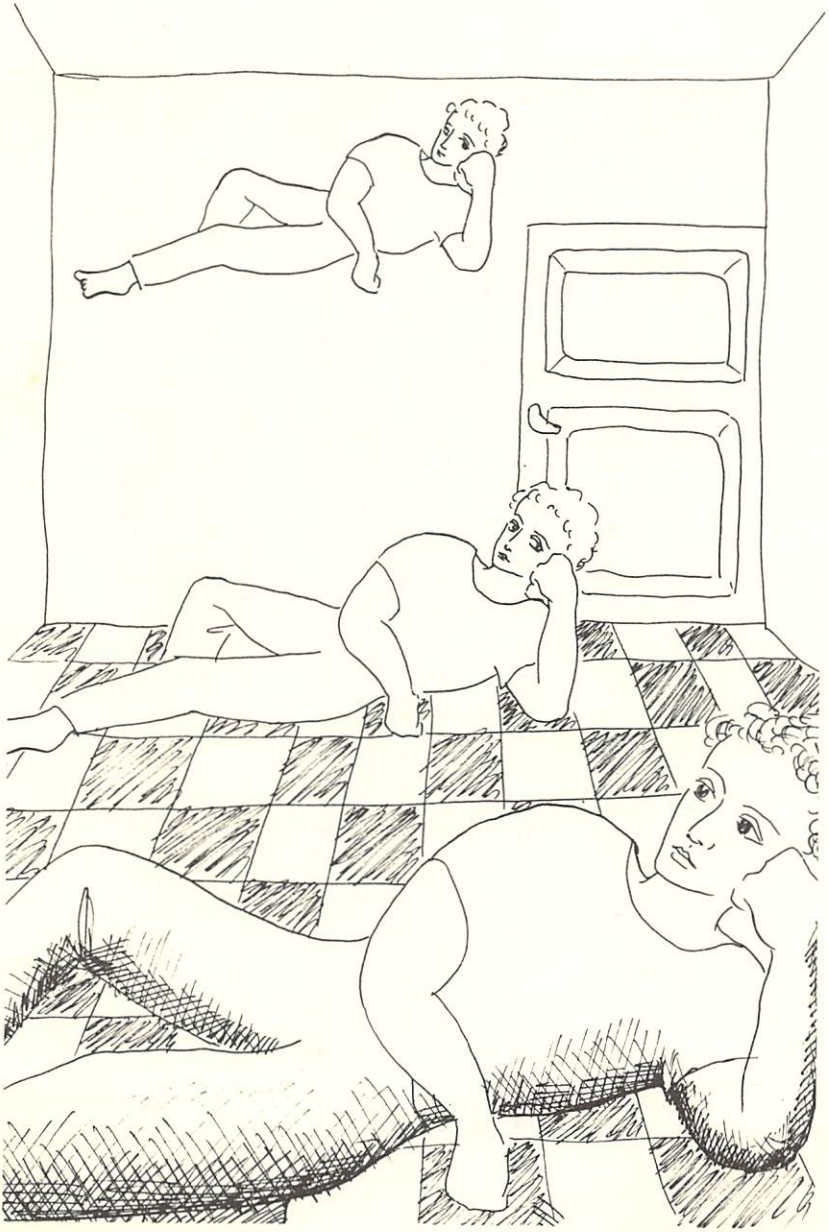
符を打たれた気分でした。

ところが、手術の前日外出を許され、岡山の紀伊國屋書店で先生の著書「超能力秘密の開発法」と「あるヨギの自叙伝」を購入して病室に帰り、悦に篭もりながら、久しぶりの耽読を味わえたのです。その結果、グルと弟子との真実の愛とは、これなんだと、また、この世で真実の愛とは、グルと弟子だけの関係しかないのだと教えられました。

そして、三日後には無理を承知でムドラーをやっていたのでした。それは『ビバリータ・カラニー・ムドラー』です。それも三時間を連続して、その為にベッドの敷布団も看護婦に頼み込んで、畳式敷布団に替えて貰いました。消灯は午後八時で、それから三時間のムドラー、見廻りに来る看護婦は病室に入る度に、声を出してびっくりしてました。十一人の看護婦のその声は、皆違っていて滑稽でした。

頸椎のレントゲンの結果が異常なしと出て、脳波の検査結果も異常なし。私はこの時程、麻原先生に、オウムのヨーガ・テクニックに感謝したことはありません。どの医師も信じ難いといった表情でした。しかし、私がヨーガをしていることを知っている看護婦や医師は今では、納得の表情がうかがえました。

退院後、自宅でもムドラーを続け、完全に体調も回復し、修行も進んでいた折りでした。何故か急激に睡魔が襲って来たのです。私は意識を外界に向けて、自分を眺めようとしたら、その時



もうひとりの自分が入口のドアから寝惚けまなこの自分を立って眺めていたのです。そして、次の瞬間、天井からその二人を自分が、またも眺めていたのでした。私は自分自身が三人いることに気付き、おかしいと思ったその時、最初の自分に意識が戻り、「ゴーッ」という音と共に、耳に激痛が走りました。そして、「痛いっ、もうダメだ、やめた！」と心の内で叫んだ瞬間、我に戻っていたのでした。

たぶんこれは、幽体離脱の現象だと思います。その後も色々な体験をしました。特に面白かったのは、十年以上前の夢の続きが出てきたり、同じ夢の続きが四度も続いて、一時は日々寝るのが楽しみだったことが有りました。その後も各セミナーで色々な超常体験が有りました。

私はこのオウムに因って人生最大の目的を手に入れることが出来たんだ、と実感しているのです。グル・麻原彰晃との出会いによって、人間としての生きる道を教えられ、今ではその道に精進していくことに生き甲斐を感じました。日々ベストを尽くして修行をして行くことの出来る唯一の所がオウムだということです。

人は皆、一時の快楽に耽って、時を悪戯に過ごし、大切な時間を無駄にしていくうちに、肉体の限界を感じた時にはもう手遅れなのです。人間として、生まれてきた意味が解った時、初めて真実が見え、永遠の幸福へと導いてくれるグルを探しあてた時、私達は人間としての幸福を得ることができるだのと思います。

※修行上のポイント※

魔境に入っても、正しい宗教を持っていれば決して死ぬことはない。魔境については拙著『生死を超える』に体験例が載っているので、ここでは後の幽体離脱について触れることにしよう。これはマニプーラ・チャクラに存在している変化身が活動を始めたときに起こる現象である。しかし、変化身は一体である。すると、〝第二の自分〟は法身か?法身はアナハタ・チャクラに存在している、もう一つの身体だ。となると、佐伯君はかなり高いステージに行っていることになる。夢の続きを見るなどという体験は、意識（心）がアストラル・ボディーに移行しつつあることを示している。つまり、ポアと呼ばれる意識の移し変えが始まっているのだ。

しかし、アストラル・ボディーに移った意識に煩悩が残っていると——彼は『大魔王』になってしまう。この点には十分注意して修行してほしいと思う。

アストラル・ボディーに移った意識が透明だったら『仏陀（ぶっだ）』となる。功徳（くどく）に満ちあふれていたら『大神』となる。さて、彼はどうなるだろうか?（八七年七月解脱）

青山　仁志　（三十歳）
会社員

私の最初のシャクティーパットの体験は、昨年（一九八六年）六月のセミナーのときです。緊張しながらあお向けに寝ると、先生は私の額に親指をあててぐるぐると回転させ始めました。うっすらと目の前が明るくなり、その明るさがだんだん強くなったかと思うと、やがて虹色の帯状の光が右上方と左下方からパッ、パッと斜めに走り始めました。

「ものすごい光の吸収だ。」という先生の声も聞きながら、私は夢うつつで（なんで目を閉じているのにこんな光が見えるんだ?）などと考えていました。きつねにつままれたような気持ちで横たわっていると、次に正座させられ、先生は私の左手をにぎり、額に親指をあてて、チャクラの状態を説明してくださいました。なんと私はすでにヴィシュッダチャクラまで開き、アージュニャーチャクラが開きかかっていたそうです。そして今度は、私の頭頂をごしごしこすり始め、

「これは肉髻（にくげい）です。仏陀（ぶっだ）の頭と同じものです。」

「もうすぐ霊視能力が出るだろう。」

「できるだけ寝ないようにして、意識をアストラル体に移すように。」などとおっしゃるのです。突然予期せぬことをたてつづけに言われて、すっかり面くらってしまいました。

以上のような調子で、あっけにとられたまま、私の初めてのシャクティーパットは終わりました。セミナー終了後、これは中途半端な気持ちでやっているとたいへんなことになると思い、真剣に修行の生活に入ることを決心しました。クンダリニー、チャクラ、ヨーガに関する本もかたっぱしから読みあさりました。そんなある日のこと、これらの本のクンダリニー覚醒についての記述が、どうも私がしょっちゅう経験している金縛りの症状にそっくりなことに気がつきました。私はこの頃、平均して二週間に一度位の割合で金縛りに襲われていたのです。

(よく似てるなあ。これはクンダリニーなのだろうか。)

先生の著書によると、『クンダリニー覚醒は二回ある。』と書かれている。

(ちがうなあ。しかし、『丹田に快感が走る。これは性交時よりも強い快感である。それとともに心地よいゾクッとした感覚が尾てい骨から頭頂に向かって、次第に拡がっていく。』という記述は金縛りが終わった後の症状にそっくりだ。)

又、別の本によると、『グルなしに覚醒することは難しい』だの『自力で覚醒させることは非常に危険である』などというようなことが書かれている。まさか、自分がそんなまれな体験をしてい

るとは夢にも思わないので、（うーん、やはりちがうなあ。しかし似ている。よくわからんなあ。）などと思いながら、修行に励んでいるうちに夏のセミナーが始まりました。そして先生との個人面談で、金縛りの時の症状や以下に記す初めてそれを経験した時のことなどをお話しました。「それはクンダリニーだよ。一日に何十回も上昇させて、頭頂にエネルギーを蓄えきった時に解脱が訪れる。」ということを教えていただきました。私の〝根本無明〟はこの時やっと晴れたのです。

では、私のクンダリニーが覚醒した時のことをお話ししましょう。かなり昔のことで記憶があいまいなのですが、それは今から約十五年前、高校一年の時だったと思います。当時、陸上競技をやっていて練習で疲労した上に、さらに非科学的なめちゃくちゃな筋力トレーニングをやっていたために、帰宅して食事して風呂に入って、あとは死んだように眠りこけるという毎日を送っていました。そんなある日の真夜中、突然頭の中で「ガラガラビシャーン」というすさまじい雷鳴のような音がとどろき渡ったのです。当時団地に住んでいたので、てっきり上の階の人が思いっきり窓を開閉したのだろうと思いました。（うるせえなあー、何時だと思ってるんだ。）と思いながら目をあけると真昼のように明るいのです。（しまった、寝すごしたか！）と、びっくりして目覚ましに手を伸ばそうとした瞬間、突然、ものすごいエネルギーが尾てい骨のあたりから頭頂に向かってガーンと噴きあがりました。火山にたとえると、ちょうど尾てい骨あたりのマグマだま

りから、マグマが頭頂の噴火口めがけて一気にかけ昇り、大噴火を起こしている、そんなような感じでした。全身が硬直し、金縛りで体は動かず、「うぉーっ、た、た、助けてくれー。」と叫んでも声は出ず(＝口があいたまま動かない)、呼吸もできず、奈落の底につき落とされていくようでした。それはかなり長い時間つづき(＝と感じた)、それが続けて四回ほど繰り返されてやっと解放されました。あたりは真っ暗闇にもどり、全身からすっかり力が抜けて、あまりの恐怖に(悪霊にとりつかれた)と思いながら、頭からすっぽり布団をかぶって朝までぐったりと横になっていました。(＝ふるえる力もなくなってしまったのです。)私は山登りが好きで、遭難しそうになったり、滑落して大ケガしたり、落雷にやられそうになったり、ずいぶん危険な目に会いましたが、心底、死の恐怖というものに直面したのはこの時をおいて他にはありません。(その後、これはひんぱんに起こるようになり、二週間に一度位の割合で起こるようになりました。もうあたりまえの生理現象になってしまったので恐怖感もなくなり、スシュムナー管が拡がったのか、上昇する時の勢いや強さもマイルドになっていました。)

そしてこの頃を境にして、私は身も心もズタズタの状態になってしまったのです。頭を打った記憶がないのに、大きなたんこぶがいつのまにかでき、さわると痛くて頭が洗えなくなったり、微熱が出っぱなしで、頭がボーッとして注意力が散漫になったり、やたらとケガばかりしてとうとうクラブをやめるはめになってしまいました。さらに神経が非常に過敏になり、わけもわから

ずおびえたり、水道の蛇口やガスの栓がゆるんでもれているような妄想にとりつかれ、何回もしめ直してみたり、自分の名前が突然見たこともない字に見えたり、足し算、引き算が突然わからなくなって脂汗が出たり、というようなノイローゼ状態になってしまいました。症状をあげるときりがないのですが、もう完全な精神病です。そして、家族やまわりの人間に気づかれないように異常に神経を使い、ヘトヘトになりながらやっと灰色の高校時代を終えたのです。

その後、一年間浪人している間にようやくこれらの症状も弱まり、地方の大学に入学して、一人暮らしを始める頃やっとおさまってくれました。そして世の大半の大学生と同じように、「寝ること、食うこと、勉強しないこと」を趣味にして、格闘技や山登りに熱中しておりました。そうこうしているうちにあっというまに四年生になり、さすがに万事チャランポランな私も自分の進路、将来といったことを真剣に考えるようになりました。しかし結論は出ず、就職はみごとに失敗、研究もすっぽかしたまま卒業し、アルバイトをしながら、(オレはいったい何のために生きているのだ?)ということを真剣に追い求める生活に知らず知らずのうちに入っていきました。一週間の断食をしたり、某宗のメディテーションセンターにかよって瞑想のまねごとをしてみたりしましたが、心の飢餓感はおさまらず、ぎっくり腰になったりして、どうにもやりきれない気持ちで悶々とした日々を送っておりました。

そして、昔のケガの後遺症で大手術を行ない、退院して療養している時に先生の本にめぐり会

ったのです。初めてセミナーに参加して面くらい、真剣に修行の生活に入る決心をしたのは前に書いたとおりです。そして苦節十五年、この夏のセミナーで、私の一連の異常体験がすべてクンダリニーの覚醒によるものであることがわかった今、私の今までの人生観は音をたてて崩れ去り、完全に一変してしまいました。(オレが長い間捜し求めていたものはこれだったんだ。思えばこの十五年間、とんでもないより道をしてしまったものだ。もう人生の折り返し地点ではないか。この十五年間のクンダリニーのエネルギーを修行に向けていれば、今頃はとっくに……。ああ、なんというエネルギーの無駄使い。なんという無智。)悔いてもどうにもならないのですが、本当になさけない気持ちでした。

そして気持ちを新たに臨んだこのセミナーでの二回目のシャクティーパットは本当にすばらしいものでした。前回と同じように虹色の帯状の光が右上方と左下方からパッ、パッと斜めに走り、それがやがてぐるぐると回転し始め、白銀色の光球に変化したのです。しかし、この時はなんとなくかすみがかかったようで今一つ鮮明度に欠ける感じでした。先生も「どうも暗いなあ。」と言って私をうつ伏せに寝かせ、背中をなぜながら、「下位アストラル体がにごっている。これは霊障です。」などと言うのです。私は思わず「ええーっ。」と叫び声をあげてしまいました。霊障などというのはでたらめな宗教団体が銭儲けのためにいってることだ、ぐらいにしか思っていなかったので、まさか先生の口からそのようなことを聞くとは夢にも思っていなかったのです。このあ

と再度シャクティー・パットをやり直したところ、先程のにごったような感じがなくなり、驚くほど鮮明になりました。まるで強力なサーチライトで照らされているようなまぶしさで、それはもうゾッとするような美しさでした。霊障という言葉にショックを受けたものの、非常にみちたりた気分で二回目のシャクティーパットを終わりました。

三回目、四回目のシャクティーパットは、十二月と一月に受けましたが、残念ながら、二回とも何も見えず、何も感じませんでした。先生は順調にきているとおっしゃるのですが、前二回の印象が強烈だったために、少々がっかりしてしまいました。

そして、この体験談を書いているきょう、三月三十一日、五回目（集中セミナーの分）と六回目（メディテーションセミナーの分）のシャクティーパットを受けました。午前中に受けたシャクティーパットでは、赤、青、黄の非常に透明度の高い光（＝色界の光だそうです）が輪になってボーッとあらわれ、それがやがて縦、横、斜めに走り、細くなったり太くなったりしてめまぐるしく飛びまわっていました。さらにメディテーションセミナー終了後、夜に受けたシャクティーパットでは、色の種類がどんどんふえていき、それらが縦横無尽にかけめぐって、最後はオーロラのように目の前いっぱいに広がりました。まるで光のシャワーを浴びているようで、ただただもうその神秘的な美しさに見とれているばかりでした。文才がないのでこの程度のことしか書けませんが、その美しさや様子はとても文章で表現できるものではありません。そして現在の状

態を示唆する先生の話を聞き、内心ニヤケっぱなしで家路につきました。現在、落ち込んでいた時に拾ってもらった会社にも別れを告げ、修行オンリーの生活を送っているのですが、ようやくその甲斐があったのでしょうか。しかし三十年間にこびりついた怠けぐせという敵はなかなかてごわく、老骨に鞭打って、改めて修行に励むことを決意しているところです。

※修行上のポイント※

青山さんは今まで順調にクンダリニーのプロセスを歩んできた。しかし、この最終段階で私の指示と違う瞑想を選んでしまったようだ。彼が現在行なっているのは『空になる瞑想』である。やはり、前生からのカルマによって、禅的な瞑想法にひかれているのだろう。しかし、これでは時間がかかり過ぎるのである。動いているものが止まるのをじっと待つのと、積極的に動いて止めるのとでは、どちらが早いかわかるだろう。彼がやっているのは、言うまでもなくじっと待つ方法である。仏教では、この方法だと七生かかると言われている。

私が彼に言えることは、「一刻も早くタントラの瞑想に切り替えて今生で解脱してしまいなさいよ。」ということである。急がないと、カルマに負けて落ちてしまうことだってあるんだ。もしそうなったら、悔んでも悔みきれないだろう。—青山さんの為に、あえて苦言を呈した次第である。

飯田　エリ子　（二十六歳）
日産火災海上保険勤務

私は今まで、人生は楽しむためにあるという考えを持っていました。ところが半年位前から、「生きていることは苦である。」と痛切に感じるようになりました。修行により自分の内側を見つめる時間が長くなるにつれて、現実生活とのギャップに悩むようになってきたからなのでしょう。

又精神面の変化と同時に、近ごろの肉体的変化にも驚くことが多くなりました。

以前は、クンダリニーが上がるという状態を自分ではさほど意識できませんでした。ただ背中が熱いとか頭が痛くなると感じるだけだったのです。しかし、今では背中、首、頭と痺れるように熱くなり、それに伴って、体が溶けるような歓喜を感じたり、又は反対に全部の神経が一本一本逆立つような、居てもたってもいられないような状態になったりします。

又、突然後ろから、強いドライヤーでもあてられているのかと思う程、強い熱風を感じることもありました。

最近、困っていることがあるのです。それは寝る前にビバリータカラニーをし、アシュビニム

ドラー（肛門の締めつけ）を行なって、そのシャヴァアーサナの延長で寝ているせいか、突然クンダリニーが上がりだし、尾てい骨が焼ける程熱く、痛くなり、すっかり目が冴えてしまって、睡眠時間が一層少なくなっているということです。

しかし、不思議な事にこういう状態の時は疲れというものを全く感じない、むしろ一種の興奮状態、張り詰めた状態が続いている感じです。又、先生のそば、もしくはエネルギーの強い修行仲間のそばに居るだけで感応してしまい、背中や頭が熱く、ボーッとしてしまい仕事が出来ずに困ることもありました。

このようなクンダリニーの上昇の他に、肉体、アストラル体の浄化が起こっているのか、全部のチャクラが痛くなったり、今までの人に対して言った悪口などのカルマがでて、喉が腫れたりもしました。

瞑想中に意識が無くなることもしばしばで、たった五分位の瞑想のつもりが、気がついたら一時間近く経っている虚空三昧（こくうざんまい）の状態が多くなりました。

又、日常生活でも不思議な事が起こり始めました。

よく「何時かな。」と思って、時計を見ようとする前に必ず頭の中に、ある時刻が過（よ）ぎります。するとちょうど時計もその時刻をさしているのです。一～二分の狂いはありましたが、そのようなことが何度もありました。又、友人に、百人位の顔写真の中から「彼女」を当ててほしいと言

われ、十秒もしない内にずばり、その人を当ててしまったこともあったのです。

それに加えて、現実よりも夢で見る世界の方が、よりリアルに感じることが多くなりました。夢の中で強烈なエクスタシーを感じたり、人に殺されそうになったり（これは、カルマの消滅だそうです。）と、かなりショッキングな夢が多くなってきたのです。クンダリニーが覚醒した後に性エネルギーが蓄えられると、このような現象が起きるのだそうです。

また、この性エネルギーが蓄えられたところがアナハタ・チャクラであったために、異性からの誘惑が多くなってきてしまいました。アナハタ・チャクラというのは、面白いもので、感情のバイブレーションを人に送ることができるのです。私の場合は、私自身の深層意識にある寂しさが、アナハタ・チャクラをとおって、異性をひきつけてしまったのだと思います。

これは本当に大変なことなんです。なぜかというと私は人に流され易い性格で、今までにも人に流されて修行を中断してしまったことが何度かあったからです。だから、私にはこう思えるのです。これからの修行は、一段上のステージに上がれるか、さもなくば、人に流されるというカルマに負けて落ちてしまうかを試されるものになるに違いないと……。

ただ、その後私の内側で変わってきたことがあるのです。流されてしまうプロセスは同じだとしても、わいてきた感情が、本当に自分のものなのか否かの判断、又、こうしたらこうなって行くだろうというプロセスが、まるでもう一人の自分が、自分を見つめているかのように判るよう

になってきたのです（今までは、感情のままに動いていたのだが）。

因と果がわかっているにもかかわらず、流されてしまい苦しみの渦の中に入っていってしまう自分。それを一方で冷静に見ている自分との葛藤。しかし寂しさの方が強く、なかなかこの壁を超すことができない。この時、愛着こそが苦だと痛感したのです。人から何かを受けることにより自分の心が乱れ、そして苦しむ。解脱をしない限り、その繰り返しが続くのだと・・・。

ところで、グルは離れていてもいつも弟子のバイブレーションと心の浄化と潜在意識を見つめていることが出来るようです。なぜなら私は先生に、君はいついつ時の心の状態はこうだったね、と言われることが、しばしばあったのです。グルと弟子とは、あるパイプでつながっているということをこれで実感しました。修行者にとっては、それ程にグルの力とは偉大なものであり、修行を成就するために絶対のものだと信じることが出来ました。

この先も、数々の難関があると思いますがんばって修行して行きたいと思います。

※修行上のポイント※

飯田さんは空性（真実）と現象が同じであるということに気付き出しているようである。それは、例えばアストラル世界で見た時刻と、この世の時刻とにズレがないことなどに表われている。

また、この世よりも、アストラル世界での感覚が鋭いということから、すでにアストラル・ボディーに意識を移し変えるポアが始まっていることがわかる。

ポアの後、アストラル・ボディーに移った意識が透明だったら『仏陀』になるだろう。功徳が十分だったら『大神』になるだろう。しかし、煩悩が残っていたら『大魔王』となってしまう。ぜひとも仏陀か大神になれるよう、正しい修行に励んでもらいたいと思う。

（八七年十二月解脱）

▼悟りのプロセス

これら三人は、クンダリニー・ヨーガによる解脱のプロセスも進んでいるのだが、悟りのプロセスも並行して進んでいるのでご紹介しよう。三人の体験談では、悪戦苦闘の様子がうかがわれる。このように悟りとは、とても難しいものなのである。それは、解脱が物理的に起こるのに対し、悟りは精神的に進化しないとどうしようもないからだ。この悟りのプロセスについては、第一章P51で詳しく説明してあるので読んでいただきたいと思う。

大内　利裕　（三十四歳）
修行者　元鍼灸師

昨年の三月二日の本クンダリニー覚醒後は、特に目立つ体験はありませんでした。むしろ、自分のマーヤ（幻影）を一つ一つ落としていく事が精いっぱいだったようです。グルが与えてくださった課題として、マーヤの糸をこのボンクラ頭で一生懸命解きほぐしていました。常に、これはグルが私に与えて下さった最高の修行であると思いながらも、亀の如き私の修行スピードには、

先生もサジを投げられているのではと思う事しばしばでした。

そんな私が、急に神秘体験をしだしたのです。これから、そのことをお話ししましょう。

丁度先生がダラムサーラへいっておられる時期、私は頭頂サハスラーラがかなりの強さでしびれたり、圧迫感を感じたり、痛んだりしました。まるで、先生のエネルギーを感じ続けているかのようでした。この頃の私は、ネーティ、バスティ、ダウティと浄化法をやり、トラータカ、ビバリータ・カラニー・ムドラーも毎日行じていました。

二月六日起床時、突然ムーラダーラからサハスラーラまで一気に駆け抜けるエネルギーを感じると同時に、身体がブルッと震えました。その瞬間、後頭部から頭上三十センチメートル位上方にかけて、「パーン」と言う音と共に白銀光が花火の様な感じでスパークしました。心良い快感状態の中で、一瞬私の意識は何の脈絡もなく「抜けたぁー！」と感じました。と言うのは、今まで気が上昇しても、後頭部付近が詰まったような感じがいつもしていたからです。

続いて次の日、七日には夢を見ている最中に、唐突に私の夢の中に先生があらわれました。それは、いきなりヴァーンと言う感じで、アストラルの世界に切り替わりました。それまで見ていた夢は、まさに夢、何も覚えていませんが、その後の先生のヴィジョンだけは、詳細に今も覚えています。それは私にとって、アストラル界でのテストがあったのかも知れません。

そのヴィジョンには、私の感知し得る最大限の画面一杯に、先生のアストラルでのお顔、身体

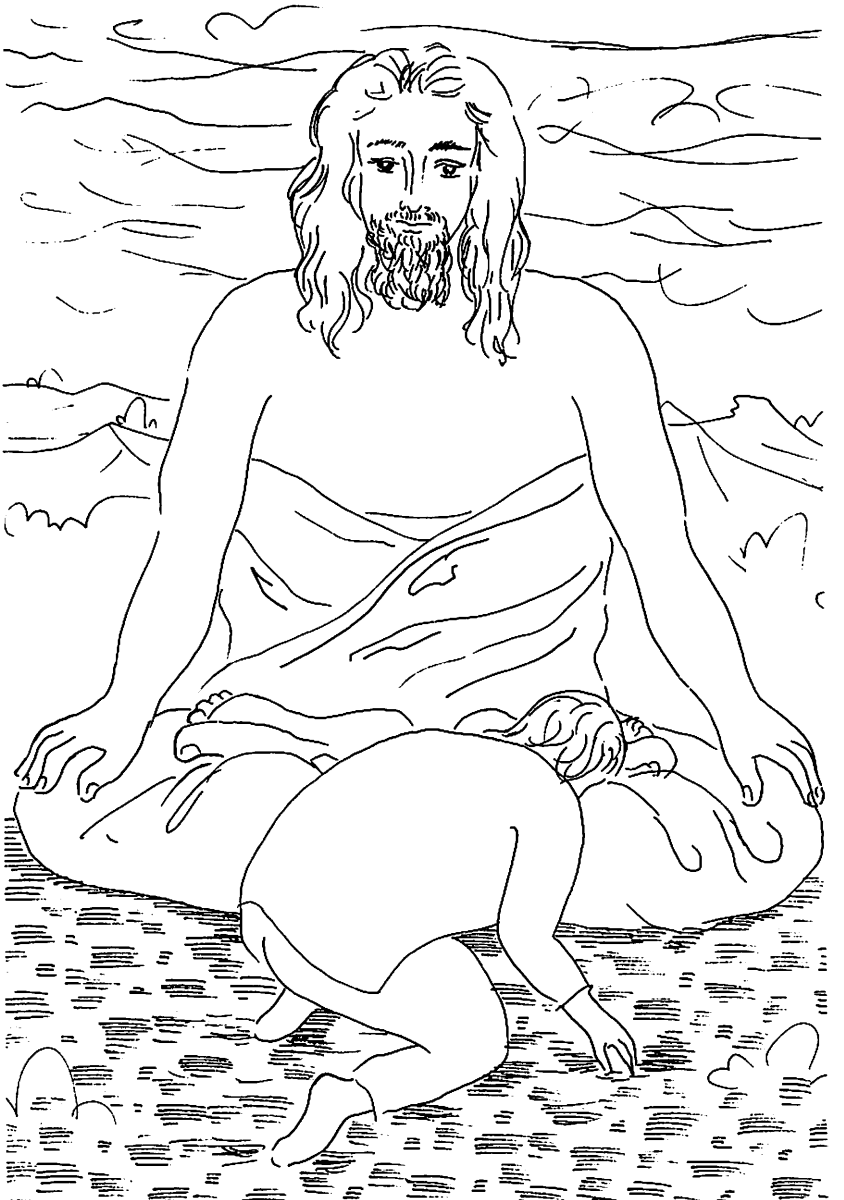
がものすごい大きさであらわれたのです。例えますと、雲ひとつない青天の空を見上げて、その視野一杯にと言う感じです。「あ、先生！」と思っていると、先生は何も言わずに、霊視をされたり、プラティヤーハラの時のお顔でジィーと私を見降ろしていらっしゃいました。

そのとき、いきなりヴィジョンが変わりました。先生のプクプクとした右足の親指のみが眼前に見え、同時に先生の姿も二重映しのように見えるのです。

私は、すかさず古式礼拝をしてました。それは、グルの右の第一趾へ軽く口を触れると言う礼拝の仕方です。アストラルでの私は、心の底から湧き上がる「マハー・グル・ディバー」と言う思いが強過ぎるあまり、礼拝を一度で止めることができずに触れ続けています。先生はと見ると、今度はいつもの肉体次元の普通の大きさに戻られ、苦笑いされながら右手で私を制し、慈愛に満ちた目を向けながらも、半ばアキレたような感じで「わかった！わかった！大内！もう良い。」とおっしゃいました。

とても表層意識の現実では、お恥ずかしい限りの「信」しか持っていないと思っていた私が、ウソのつけない潜在意識の中では完全帰依をして、先生とは魂での深いレベルでコミュニケーションしていたのでしょうか。申すまでもなく、先生は意志すれば他の人の夢の中に簡単に入ることが出来るのです。

そして次の日、これまた夢からいきなりアストラルのヴィジョンに切り替わりました。今度は



小さな少女のような、この世の美しさ可愛らしさ以上のものをもった透明な感じの女の子が、真っすぐ私を目がけて来ました。そして私の右大腿(だいたい)の上に静かに乗り、しばらくじっとしていました。それは何か。原始仏のような感じでした。そして「また来ますネ。」と言って去っていったのです。

こちらのヴィジョンは、まだ先生にお話していませんが、自分では人間を解脱させたいと願っているダキニ天女か、守護神かなあーと思う反面、女性夢魔かとも思いました。しかし、セクシャルな意識は全然なく、その場でもセクシャルなバイブレーションを感じませんでした。逆に、厳(おごそ)かな感じを受けたのです。

秩父での集中セミナーに於けるイニシエーションでも、かなりの神秘体験をしました。先生が私のプラフマランドラに手を当ててまもなく、しびれを伴った熱感をムーラダーラからスヴァディスターナ・チャクラに感じました。また、頭頂では先生のエネルギーが震動を伴って、はっきり私の中に入るのが知覚されました。下からは、ファーッと甘く軽い感じで快感が頭頂に上昇、しばらくするとそれが頭上より自分の身体を包むように降りてきました。つまり、私はこの時、悦(えつ)から喜(き)の初歩の段階まで、わずか一分以内に経験させられていたことになります。なんと言うグルの御力だろうか。筆舌に尽くしがたい恩恵を頂きました。

先生の悦の強さに比べれば、私の悦は及ぶべくもないでしょう。しかし、それでも確かに性感

によるエクスタシーよりは強い快感でした。性感によるエクスタシーは、クンバカによる失神寸前の快感と同じく、下に落ちるような下降傾向の快感であり、悦は逆に甘く軽い感じでシビレを伴ってファーッと一気に上昇する上昇傾向の快感のように思われます。

またこの時、イニシエーションは、実は受け手側の状態が問題であると気づきました。それは、どれだけ受け手が自分を捨て、ゼロ、空っぽにしているかどうかということです。空っぽになれば、先生からのエネルギーはいくらでも入るのです。言葉を変えれば、受け手次第でもあるということでしょう（全てを捨てた時全てを得る）。

またこのセミナーでは、先生の説法の中で、私なりに公式（真理）を会得させて頂きました（先生の説法、お話は真理の宝の山である）。

私はそれを使って、少しの性欲を残し、この世への執着のひとつである性欲をほとんど滅する事ができました。イニシエーションに於いて、「悦」の状態を経験させて頂いた事も大きな要因ですが、なんといってもグルの公式は、どのようなものにも応用のきく真理なのです。

以上の経験は、全て偉大なるグル神様（マハー・グル・ディバー）麻原先生の御力だけによる恩恵です。本当に感謝をしております。願わくば、先生の御経験全てを私にお見せ下さい。そして、先生の御元にお連れ下さいますように……。

※修行上のポイント※

彼は、クンダリニーのプロセスは進んできた。しかし、心のプロセスでは〝情(じょう)〟で引っかかっている。さぞ、本人も苦しんでいることだろう。彼が解脱できるかどうかは、この情の引っかかりから抜けだせるかどうかにかかっていると言える。とにかく四無量心の瞑想をやり、これを乗り越えることである。(八八年三月解脱)

船木　俊子　(四十六歳)
画　家

私は昨年の三月頃から、頭痛と不眠症に悩まされていました。そんな中で、前年から一年間近く修行に行っていた所が、あまりにも遠方なので無理があることに悩み、又、ゴーピ・クリシュナの本等数冊読んでみて、修行の上でも何か、もっと本格的にそこまで至る道があるのではないかと、漠然とした考えを持って居りました。

眠れぬ夜に、何回も何回も麻原先生の「超能力秘密の開発法」を読み返してみるのですが、なかなか決心がつきません。こんなに熱や寒けがするようなことがおきたら、今でも頭痛がしているのに大変なことだと思い、一方では自分がだんだん先生の修行の虜になって行くのが感ぜられずにはいられませんでした。結局、増々先生が身近に感じられるようになった時、オウムに連絡し入会手続きをし、頭痛ももしかして直していただけるかもしれない、と期待して六月のセミナーの出席までに漕ぎ着きました。

ところが、セミナーの二日前にぎっくり腰になってしまったのです。「ああ、私には縁の無い先生なのかなあ。」とがっかりいたしましたが、ふと確かめてみようと電話をしてみました。すると、オウムのスタッフの方が先生に御伺いして下さり「修行が出来るようにして下さる。」とのことで、参加致し、腰も直していただきました。

相談会の時、先生の前に座って居りますと、先生は「頭痛と不眠症は、エネルギーが途中迄上がって来ているのが原因です。シャクティー・パットで上げてあげますから心配ない。」とおっしゃいました。私はほっとして、こんなことまでおわかりになるのだとびっくり。尊敬の念が深まるばかりでした。後の修行は、無我夢中でしたが、終わりにシャクティー・パットの自分の番が来ました。

先生は優しいお顔で、「やはりエネルギーが出ていますよ。」とおっしゃいました。そして横に

なるように言われ、先生の指でアージュニァー・チャクラからエネルギーを入れてくださいました。しばらくして、「アナハタを使う誤った修行をしていましたネ。」と言われました。私は前の修行で胸の部分を異常に使い、ちょっと物事を考えるとひどく熱くなるという状態でした。又、人のオーラがライオンの髪のように見えたり、ニクロム線を張り巡らしたように見えたりしていたのです。あの修行の月日が一瞬よぎりましたが、それも消えて先生にすべてを任せていました。

「光が見えますか。」と聞かれたりしているうちに、だんだん心が安らいできました。そして、なんとも言えずすばらしい快感がうっすらと足の方から上がり、次に胴体を包みながら両腕の外側を強烈に昇って来ました。私は、感きわまりない至福感に到りました。しばらくして、先生は座るようにおっしゃり、私の手を取り頭に乗せ、その上に先生の手を重ねられ、「頭頂に盛り上がり(肉髻)が出来た。」とおっしゃいました。右側が強く上がっている様でした。「どうでしたか。」と聞かれましたので、快感を得たことをお伝えすると、大変嬉しそうににっこりなさって、「解脱出来ます。修行をおやりなさい。」と言って下さいました。私には、今もあの時の先生のお顔が思い出されます。きっと、一生忘れることが出来ないでしょう。そして、特別大きなヒヒイロカネを取り出して、「重たいよ。」と、私をからかいながらお渡し下さいました。このヒヒイロカネは、帰りのタクシーの中で車よいした私の胸から邪気を吸いとってくれて、大変有り難い思いも致しました。

こうして家に帰り、メモを見たり本を見たりして、覚えた修行を繰り返してやり始めました。先ず、アージュニァー・チャクラに精神集中する時は、本に出ていたように楕円形の中にシヴァ神を想像し、白銀色に光を放っている様子を描いて行なうことにしました。

二日後のことです。瞑想に入り二、三分した時、突然、楕円形の突起状が頭一面に並んでいる状態が目の前に見えたかと思うと、頭がもの凄い光を放って大爆発したのです。左後方一メートル位の所に、身体が飛んだほどの大爆発でした。ふと我に返り、「これは、いったい何ごとがおきたのだろう。」と考えながら、兎に角修行を続けなくてはと、元の位置に這うようにしてもどり、又習った修行を続けて行ったのです。二日目のシャクティー・パットの時、先生がアージュニァー・チャクラが開いていますよ、と言われたのはこの時起きたのだと思います。ところで、この時のシャクティー・パットでは、又頭にこぶが出来ると言われ、後ますますひどい頭の形になって来ました。

こうして、エネルギーはいつも身体のあちらこちらに熱い感覚をたぎらせ、瞑想の時は青紫色の色が表われ、時々白い広がりの時もあるという状態でいました。

四ヶ月位たったある日、仕事中にある知り合いの人が私の悪口を言っている人がいると告げ口を言って来ました。私は、腹立たしいことが次々と思い浮かんで来ましたので、じっと観想してその人を見ながら、自分の身体を意識してみました。すると、どうしたことでしょう。頭の方で

は幾つもの大変嫌な怒りが通り過ぎるのですが、マニプーラ・チャクラのところにどっしりとしたもう一人の自分がいて微動だにしないのです。そのまま観想を続けると、なんとそのあたりにそよそよと涼やかな微風がして来るのです。

次の日、本人に会いましたらまったく不快な感情は無く、寛大な自分がいます。そればかりか、心を統一すると、ほっほっといとおしさが湧き上がって来るのです。私は、今までこんな経験が無く初めてですので、「自分がだんだん変わるのだなあ。」と感動致しました。

そして、このことについてミニセミナーの時先生にお伺い致しましたら、「頭に浮かんで来るのは意識で、愛を感じているのは真我である。」と、お答えをいただき「それは大変良いことです。解脱寸前まで来ましたネ。」とお言葉をいただきました。しかし、私は「何と意識とはやっかいなものだろう。」と思いました。長年の習慣で、この意識だけで過ごして来ているような気がして、まったく自信が持てなかったのです。

案の定、それから日常生活の色々なトラブルに巻き込まれ、私の心はさまざまに崩れ、立ち直ろうとする葛藤に三ヶ月以上かかってしまいました。途中のシャクティー・パットで、先生から「雑念が多くなった。」と指摘され、「エネルギーがもっと強烈に上がらないものか。」と悩み、「時間が無くて修行が出来ない。」と悩み、などというどうしようもない状態が続いたのです。

しかし、先生から「スシュムナー気道は完全に通っているし、エネルギーも行ったり来たりし

ている。貴女は悟りから解脱へ入れるのですよ。」と慰められました。また、「これからは夢見のヨーガに入るところだから、しっかり修行しなさい。」と励まされました。私は、生活を修行しやすく工夫したりして、なんとかしがみついて続けて来たのです。

この頃は心が落ち着きましたが、この一ヶ月は座ると身体が浮き上がり、いてもたってもいられず、数分すると立ち上がってしまうのです。これは多くのエネルギーが上昇しているとのことで、ツァンダリーの修行をするように指示されました。

又、左下側から小さなピンポン玉のような真赤なものが頭にぬけて上がることがあるので質問致しますと、「これは貴女が真理を人に語ったので、こういう時真赤な球がアストラル体から飛びこんでくるのです。」ということでした。

ところで、私はシャクティー・パット準備コースも時々受けていますが大変疲れます。ある日のこと、瞑想段階に入って数秒か数分か、うっとりと眠ってしまったのです。すると何やら人の気配がして、私の膝にある左手の薬指を強く上に引っ張って起こすのです。私は、びっくりして目を覚ましました。てっきり、インストラクターの山本さんに起こされたのかと思いましたが、まったくその様子はありません。私はと言えばそれっきり目が覚めて大変爽快になり、修行が続けられたのです。不思議なこともあると思いましたら、先生は「それは守護神が修行を援助しているのですよ。」と、可笑しそうに笑っていらっしゃいました。

三月に受けたシャクティー・パットでは、新しい発見がありました。エネルギーを入れられしばらくして先生と一体となると、宙に浮き上がりそうになり、身体全体が優しさでうっとりとなり甘くとろける様になるのです。自分の肉体が無くなり、その感覚器官だけがそこにいるという感じを深く味わいました。「先生の心はなんと優しく、美しいのだ。」と感動し、そしてまた、すばらしい世界に耽溺させていただくことによって、限り無くひとに優しく出来る自信が湧いて来るのです。終わった時、先生は「修行が進み大変良い感じだ。」と一言おっしゃいました。

セミナーの準備をしている時など楽しく、思っただけでエネルギーが強くなります。だんだんその日が近づくと、増々強くなるのを感じます。

今、解脱という大変な目的を持ち、毎日が幸福です。そして、これ程までに至福感を味わいだしてみますと、先生がニルバーナにお入りにならず再生し、多くの方々のためにお働きになっていることの大切さ偉大さをひしひしと感じられるのです。このことは、修行していなかった頃の現実生活に疲れ果てていた私には、到底理解出来なかったことだと思います。だんだん私もこんなことを考えるようになりました。これからの私には、いったい何が出来るのだろうか。良く真我を見つめながら、なんとか解脱を成就したいものと、強く願っているのです。

※修行上のポイント※

彼女が見た赤い玉、あれは阿弥陀如来のしるしである。彼女は阿弥陀如来との関係が深いのだ。阿弥陀如来は、ジュニアーナ・ヨーガの悟りの象徴である。実際、彼女は悟りでもいいところまできている。

一時、彼女は解脱寸前まできて、おしくも落ちてしまった。解脱はとにかく難しい。技術的問題ではなく（オウムの技術は完璧だから）カルマの問題なのだ。船木さんはこれから、自分も他人も冷静に見つめられるようにしなければならない。一言で言えば冷めきってしまうことである。これができれば、カルマに影響されることもなくなり、解脱に成功するだろう。

杉本　繁郎　（二十八才）
修行者　元東京証券勤務

私がオウムで修行を始めて八ヶ月が過ぎようとしていた頃のことです。私の精神と肉体が変化し始めました。通り過ぎてみるとこの時期は自分の修行の一つのプロセスでもあった、と実感できるのですが、当時の自分は、魔境の中で必死にもがき苦しんでいたのです。体がだるい、何も

したくない、オウムの仕事もしたくない、修行もしたくない、そして時間があれば寝ている、という状態が続きました。また、人の話し声、これがすべて自分への悪口に聞こえ、自分の欠点は見えなくなり、人の悪い所ばかり見るようになりました。

車を運転している時など、このままガードレールに突っ込もうかと考えてしまったりして、この世の苦しみの中にいるよりも、死んでしまおうという気持ちが強くなってきました。何度かこのような破滅的な衝動が自分を襲いましたが、こんな時、常に冷静に物事を見ているもう一人の自分がいて、そして彼が、色々な衝動に対して、自分でも信じられぬくらい冷静に対処しているのでした。

このような状態の中で思いつめた私は、オウムから去ろう、逃げ出そうと思い、二度三度と先生に話しました。その時、先生は、「透明な鏡で自分自身を見なさい。あとで後悔するような事だけはしないように。」と言われ、この言葉で自分は思いとどまりました（後日、先生からオウムを去ろうと考えていた月日まで指摘されました。私の考えていたことはすべて先生に透視されていたのでした）。

このような状態が三ヶ月くらい続いたとき、年末年始の集中セミナーが始まりました。この時私は先生の弟子としてシャクティーパット、シャクティープラヨーガを会員に行ない、高熱を出して倒れてしまいました。これはかなりのエネルギーを消耗してしまったからです。セミナーが

終わり、オウムに帰って、体調が良くなった頃、ふと気づきました。今まで自分が苦しんでいたことが、自分の前を通り過ぎ始めたことに。

そして一月の末、グアムへの研修旅行を機会に、自分の内側のモヤがすべて吹き飛ばされたのを感じました。この時の自分の修行は瞑想が中心でした。砂浜に座り、マントラを唱え、砂でマンダラを作り、意識でチュウの瞑想を行なっていました。あまり長い時間は行ないませんでしたが、この瞑想が終わる頃、この世は〝夢〟、〝幻〟だなと強く感じ、〝絶対〟、〝究極〟の道を尋ねてみたいと思うようになりました。帰国後、自分の外側へ向かっていた意識が、内側へと向かい始め、今まで気にしていたこと、ひっかかっていたことに心が動かなくなりました。

この三ヶ月余りの間、麻原先生から適切なアドバイスがあったにもかかわらず、怠け者の私は何も行じることなく、苦しんでいただけでした。苦しみから解き放たれた時、私に与えられたアドバイスがすべて、この苦しみを打ち破るための術だったことに気づきました。この時、自分を一番よく知っているのは自分ではなく、実は麻原先生であることに気づき、グルの偉大さを改めて認識しました。

二月から一ヶ月麻原先生はインドへ行かれましたが、この二～三日前私はスシュムナー管を炎が上昇し、アージュニァー・チャクラでオレンジ色の炎が燃え、吹き上がるのを見ていました。先生にお聞きしましたら、「とてもいい状態で修行が進んでいるね。」と言われました。

グアムでの修行で納得できるものを得た私は、それが炎となって現われたのかなとも考えました。

また、その時「時期が来たのだ。」と強く思いました。なんの時期なのかはわかりませんでしたが不思議なことにこう思ったのです。ところが先生が帰国された時、私に「インドへ行き、チベットの教典を翻訳するように。」と言われたのでした。時期が来たとはこのことだったのに違いありません。

同じ日、渡印に先立って、一ヶ月間の独房修行に入るように指示されました。そして、一緒にインドへ行くことになった広田さんと二人で、四月二日～五月一日の一ヶ月その修行を行なったのです。もちろん、別々の部屋でです。先生から指示された行法はツァンダリー、一日の修行時間は十二時間、三時間を四回行ないました。一回目だけ、ヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマを一時間、アシュヴィニ・ムドラーを三十分行ない、残りの一時間半はツァンダリー、他の三回は三時間すべてツァンダリーでした。

ツァンダリーを行じはじめて、二週間くらいの間、エネルギーを上昇させるとアージュニァー・チャクラに意識が自然に集まり、そこから頭頂へ向かってエネルギーが上昇していく感覚が続きました。次に頭頂へ意識を集中させると、言葉では表わせないくらいの至福感に包まれるのでした。そして、エネルギーを下降させるプロセスでは、各チャクラがかすか蜃動しているのが感

じられました。

それに伴って肉体的な変化が起こり、また様々な神秘体験をするようになりました。まず肉体的な変化ですが、ほとんど眠れなくなり、横になると脈が急に速くなり、体の前面が激しく震動するのでした。また、寝ていないにもかかわらず、意識はとても鮮明になって行きました。

神秘的な体験としては、三人の中国風の仙人のような女性が白い雲に乗って上昇して行くのをビジョンとして見ました。また、瞑想中に自分の体が小さくなり、上からエネルギーのようなもので押さえつけられるような感じを覚えました。「以前経験したアストラル体の縮小だな。」とその時すぐにそう思いました。その後すぐに、アージュニァー・チャクラにエネルギーのようなものが突き刺さり、身体全体をそのエネルギーが持ち上げているといった感覚が、しばらくの間、続いていました。また、自分の目の前が明るくなったり、上空から白い光が差し込んだりし始めていました。

これらの体験と同じ時期に煩悩、雑念が瞑想中に浮かんで来るようになりました。今までの生活でしたら、欲しい時に欲しいものが手に入っていましたが、一ヶ月間、部屋から出られませんので、今まで自由に自分のエゴを満たしていたことが、欲望となって生起してくるようになりました。私の場合、まず食欲でした。食事の量、回数も制限されており、今まで食事の量がとても多かった自分だけに、食べ物に対する執着はとても苦痛に感じられました。また、物に対する欲

望も強く欲望が次々と生起しては消えて行きましたが、食欲ほど強くはありませんでした。また、最初の三～四日は強く感じていましたが、ツァンダリーにより、エネルギーを上昇させることによって、わりと簡単に性欲は解消されました。雑念も過去の記憶を中心に浮かび上がって来るようになり、まるで走馬灯のように自分の目の前を通り過ぎました。

ツァンダリーを行なっていると、過去から現在に到る自分の行動パターンを形成している原因と結果が、不思議なくらいよくわかりました。原因と結果がわかるようになって、自分の煩悩と雑念は少しずつ静まって行きました。

修行の後半に入りはじめて、たくさん経験していた神秘体験をしなくなると同時に、修行が心のプロセスへと向かっていました。今まで煩悩雑念の中で、もだえ苦しんでいたのに、いつしかゆったりとくつろいだ状態で、煩悩を外側から見ている自分に気がつきました。何も考えず、ただ単に煩悩を見ているだけなのです。この時から自分の価値感が百八十度変わってしまいました。今まで自分が好きだったこと、興味のあったこと、その他色々なことに全くといっていいほど関心がなくなってしまい、ほんとうに必要なこと、やらなければいけないことにしか心が動かなくなってしまいました。

最後の八日間は修行時間が十六時間に延長されました。独房に先生が来て下さった時、先生は「少し苦しいんじゃないか?」と聞かれましたが、その時私は口をすべらせて「こんなのお遊び

ですよ。」なんて答えてしまったのです。一瞬やばいなと思った時、先生が「それじゃ一日十六時間の修行にしよう。」と言われ、私は顔から血のけが引いていくのを感じました。

朝起きて、ヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマを六時間行ない、二時間休んで十時間のツァンダリー瞑想に修行内容が変更されました。十六時間の修行は長いだろうなと考えていましたが、実際にやってみると、それほど長いとは感じませんでした。

十六時間の修行に入って自分の思考パターンがはっきりと認識できるようになりました。前半のプロセスでは行動パターンが認識できる程度でしたが、ここでは自分の行動を決定している思考パターンまで手に取るようにわかるようになりました。そして過去の記憶から、自分の行動パターンと思考パターンを一つ一つ分析、検討するようになり、今までよりも一層自分の心の内側を知るようになりました。

長いような短いような一ヶ月が過ぎ、独房から出る日がやって来ました。部屋から一歩表へ出た時、まるで空を飛んでいるかのように自分の体が軽くなっていました。また、自分の部屋の外はまるで別世界のようであらゆるものがすべて幻想のように思われました。そして話をすることと人と接することがとても苦痛に感じられ、無駄な話をすることに対して、とてもエネルギーのロスを感じるのでした。独房に入る前は私の生活している世界はとてもすばらしく思えていましたが、独房から出てみると今まですばらしく思っていたことがすべて苦しみに感じられ、この世

での生活は苦しみしかもたらされないなと強く思いました。また独房の中でここから出たら、色々なことをしたい、おいしい食べ物を食べたい、その他色々と思っていましたが、いざ、部屋から出てみるとあれこれ考えていたことに全くといっていいほど関心がなくなっていて、おいしいと思っていた食べ物を食べても、悲しくなったり、むなしくなったりするだけでした。

今までエゴを満たすことに喜びを感じていた自分でしたが、今はエゴを満たすことよりも、自分の心の観察、煩悩の状態、そしてこれらの滅却に喜びを感じるようになりました。

独房修行が終わって二十日が過ぎた今現在、自分の心を見つめてみると自分自身でも精神的に大きく変化したなと思いました。心が解き放たれたというか解放されたというか、そういう感じなのです。また何にも捕らわれなくなり、外界との接触によっても心が動かなくなりました。ものの考え方や判断のしかたも、今まで色々と考えていたのに、良い悪いとか、好き嫌いとか、二つに一つだけになりました。心はいつもくつろいで、必要以外の時にはほとんど無思考といった状態の中に今の自分はいます。このくつろぎと〝無思考〟の状態にある時、私は言い表わしようのない喜びに包まれています。

しかし、私の修行はこれからも続くのです。最終解脱を果たすまでは——。

※修行上のポイント※

彼は、『生死を超える』にも体験談を書いてくれてあるが、当時と比べると、大変な成長のあとがうかがえる。精神的にも進歩し、またアストラル世界の浄化も進んできたようだ。ここまできたなら、全面的な帰依をした上での二回程度の独房修行（極限修行）によって成就することができるだろう。

ところで、彼が見た〝仙人のような女性〟は、アストラル世界の天女である。このような美しい女性にかしずかれて生活してみたい人は、次は天界に生まれ変わることだ。これは興味ある人のご参考までに――。（八八年十月解脱）

▼超能力と現実生活に表われる修行の功徳

ここで取り上げた方たちは、前のステージ分類にも入るのであるが、現実的な変化も大きかったのでこちらに入れさせていただいた次第である。彼らの文章を読むと、どのように現実生活に幸福がもたらされるかが良くわかると思う。

早川　紀代秀（三十七歳）
会社員

今年の三月、五回目のシャクティーパットを受け終わった時のことでした。身体がしびれ、まだボーとしている私に先生が、「半年以内に空中浮揚ができるよ。早ければ二ヶ月以内だネ。」と突然おっしゃいました。クンダリニーがまだ覚醒していないと思っていた私は、「えっ、それじゃもうクンダリニーは覚醒しているのでしょうか。高熱が出た覚えもないし、身体がしびれた記憶もないのですが…。」とびっくりしてお聞きすると、先生は、「クンダリニーが覚醒していないと空中浮揚はできないよ。スシュムナー管が太くなっているので四十度以下の普通の熱はでない

よ。それがシャクティーパットの値打ちだよ。今後もし熱が出るとすれば、瞑想中に四十二度程の超高熱（普通なら死んでしまう）が出るだろうネ。」とおっしゃいました。

待ちに待ったクンダリニーの覚醒。それはグルの偉大な力のおかげで、ごく自然に起こっていたのでした。オウムの修行を始めてほぼ一年目のことでした。

オウムに巡り会うまでの私は、様々な瞑想法や瞑想器具を試しては、他にもっと良い方法はないものか、暇があれば本屋のメディテーションコーナー等をのぞいていました。そんな折、出会ったのが先生の著書でした。一読してびっくり。そこに書かれているシャクティーパットなるものをぜひ受けてみたいと思いました。それから三ヶ月後、待望のシャクティーパットを受けることができました。この時先生は、「あれ、スヴァディスターナ・チャクラが開いているネ。女性によくもてるでしょう。」と言われたのを憶えています。「えっそんなにもてるかなあ。」等と考えているうちにシャクティーパットは終わってしまいました。終わってから先生は、私の頭をさわりながら、「菩薩タイプだから苦労するヨ。」とおっしゃいました。私は終始緊張しながら先生のお言葉をお聞きしつつ、初めて接する先生のやさしく暖かな雰囲気に完全に魅了されていました。

こうしてオウムの修行の第一歩を歩み始めたわけですが、シャクティーパットを受けて以来、それまで日に五十本は吸っていたタバコをピタッと止めることができ、また、性欲、食欲にも以前程悩まされなくなりました。改めて先生の力のすばらしさを実感するとともに、自分の変化を

楽しんだりしていました。

その後、修行が進むにつれ、益々自分が変わっていくのを体験することになりました。最初の大きな変化は主に精神的な面に顕われてきました。心がどんどん透明になっていく様な感じがし、非常に落ち着いてきました。それまではすぐ腹を立てカッとしていたのが、一歩退いて冷静に物事を見られるようになりました。先生にも、「随分静かになったネ。」と言われました。

また、価値感が変化し始め、それまで生きがいであり人生の中心であった仕事が徐々に影を薄め、代わって修行が人生のなかで大きなウエイトを占めるようになりました。このころになると、瞑想中にもこれまで感じたことのない快感や震動、「シンシン」「ジー」といった音などを感じるようになり、身体がスーと横に動くような感覚（アストラル体の浮遊だそうです）も体験するようになりました。クンダリニーの覚醒後は、わずかですが確かに頭頂部が盛り上がり、仕事をしている時でも時々頭頂部がヒクヒクしたり、背中が急に熱くなったりするようになりました。

最近では、瞑想中にはきまって身体がビクッビクッと震え、目の前が急に白っぽく明るくなったかと思うとパッパッと光が点滅するのが感じられます。また日常生活においても、円滑化現象とでもいうようなことが起きるようになりました。例えば、「この約束流れてくれると助かるのになあ。」と思っていると、考えられないような理由で先方からキャンセルしてきたり、「これはもめるだろうなあ。」と覚悟を決めていると、驚くほどスムーズに事が運んだり、「欲しいけど予算

がないなあ。」と思っていると、めったにない中古品が手ごろな値段で出ているのに巡り会ったり、「本当にこれでいいのかなあ。」と思うことしばしばです。

このように、これまでは特に問題もなく順調に来られたのですが、最近になって急に体調が崩れることが多くなりました。かぜによく似た症状なのですが、どうもチャクラの浄化らしいとのことです。急に身体の節々が痛くなり、次いで鼻やのど、お腹が順々に痛くなってくるのです。オウムの方に相談すると「気にせずできるだけ普通の生活をするように。」とのことでした。不思議なことにオウムの方に相談したとたん良くなってしまいました。

現在再び浄化が始まった様です。急にのどが痛くなり黄色い痰がたくさん出て、声がほとんど出なくなりました。また左目が急に真っ赤になりうみが出たかと思うと一日で直り、次に右目が同じ様になり、これも一日で直りました。普通のかぜと異なって、症状が急に出て急に消えること、また先生からシャクティーパットを受けた直後に起こること等が特徴のように思います。

このような体調の変化は、身体の面では辛いことですが、精神的にはむしろ爽快です。先生の貴重なエネルギーが私自身をどんどん浄化していくのが実感できるからです。

私の汚れたカルマを一身に引き受け、代わりに透明なエネルギーを注ぎこんでくださっている先生へ限りない感謝をしつつ、また先生の教えを守り謙虚でやさしいオウムのスタッフの方々を見習いつつ、共に歩み始めた妻と二人、大乗のボーディサットヴァめざして精進していかねばと

思っています。

※修行上のポイント※

早川さんは、大阪支部の会員だ。セミナーは一回もかかさず出席するという、熱心な修行者である。前世でも菩薩（ボーディサットヴァ）であったので、修行の進歩が非常に速い。解脱まで、どれだけ時間を短縮できるかが、これからの問題だろう。しかし大乗の思想はしっかりしているし、修行にもまじめに取り組んでいるので、心配なことはないようだ。

釈迦牟尼がこう言っている。

「私の側に居るからといって弟子ではない。私の教団に入っていなくとも、私の説く真理の教えを実践するものこそが、私の弟子なのだ。」

彼は、この言葉に当てはまる。地方の会員でありながら、オウムの修行を実践し、着実にステージを上げているのだ。素晴らしいことである。ただ、解脱直前の半年～一年は私の側に来る必要があろう。この最後の微妙な時期には、経験者が側についていなければならないのである。

また、彼が瞑想中に聞いた「シンシン」「ジー」などの音は、ナーダ音と呼ばれているものである。これは、アナハタ・チャクラの中で響きわたっているのだ。

ここで一つつけ加えておきたい。これは、どの経典にも記されていないのだが、ナーダ音には三つのタイプがある。イダー管を通る音、ピンガラ管を通る音、スシュムナー管を通る音の三タイプである。イダー管を通る音は人を愚鈍にし、ピンガラ管のものは人を瞋らせ、スシュムナー管のものは人を安らがせる。私は、このナーダ音の性質を利用し、近い将来瞑想用テープを作ってみようかと考えているのである。（お楽しみに）（八八年十二月解脱）

鈴木　伸幸　（二十歳）
慶応大学　大学生

私がオウムへ入会したのは、昭和六十年五月でした。当時、大学一年であった私は、田舎から上京して間もない頃、地理も分からぬ新宿とやらのある書店で、参考書を購入することになりました。ところが購入するその予定が〝超能力秘密の…〟という、皆さん御存じの方も多いと思いますが、その本につかまれた様にレジの美しいお姉さんのところへ「お願いします。」と出していたのです。

生まれてこのかた、宗教からヨーガまで、その様な分野への興味も好奇心もなかった私が、なぜか、フッと購入してしまったのです。幸か不幸か、いえいえ、絶対に〝幸〟ですけれども、そーいう時期に限って、お金に余裕があったから、もー大変、あらよあらよという間にオウムのセミナーに出て、しっかりとシャクティーパットを受けちゃうし、そのおかげで、この私が、神秘体験なんかも、している始末。

では、数多い!?神秘体験のなかから、いくつか、かいつまんで話をしてみましょう。

まず、シャクティーパットを受けて全体的に言える事は〝運〟がドンドン良くなるということです。運といっても、仕事運、金銭運、恋愛運などとたくさんありますが、私の場合、三番目の恋愛運が爆発的かつ即効的に効果があらわれました。今迄まるっきりモテなかったわけではありませんが、シャクティーパット後、突然一挙に四人もの女性が近づいてきたことがありました。ボクの潜在意識でそういう関係を望んでいたのが表に出た……ある意味では願望成就と言えるかもしれません。

しかし、囲りの環境の変化に驚き、とまどいながらもどこかで天狗になっていたところがあって、一ヶ月もたたないうちに、一人又一人と去っていき、それに気が付いた時は、あとの祭りとなってしまいました。と、普通ならここで終わるのですが、私の場合、もう一つの山がありました。

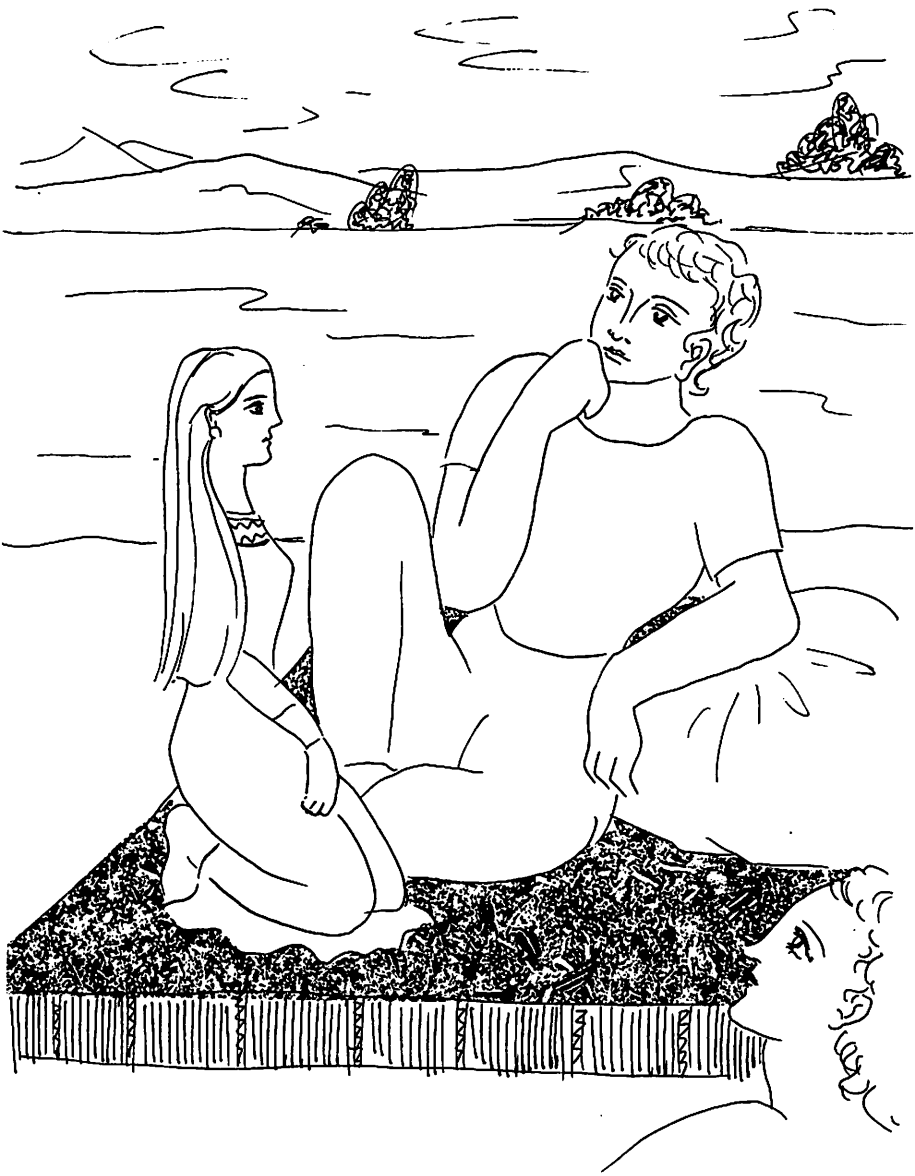
というのは、再び複数の女性が近づいてきたのです。前回でにがい汁をなめている私は〝ハーレムの帝王〟などといった高慢なおごりを捨て、押しも引きもせず時の流れにまかせていました。これがかえって執着しないでよかったのか、ほとんどの女性が心から心配し、気遣ってくれるのです。ある女性は、私と会って性格がガラリとよくなった人もいる位です。自慢しているわけではありませんが、うれしさが噴きあふれる反面、シャクティーパットの効果の絶大さをしみじみと感じさせてくれる体験でした。

次は、学問運がよくなったことを話しましょう。

去年大学の一年に在籍しながらも、それに満足できず、再度受験しようと心に決めていました。しかし、アルバイト、サークル、友人達とのつき合いを始め、旅行、合宿などでろくろく勉強の時間もとれず、次第に受験する覚悟もぐらついて、参考書からもどんどん遠のいていきました。

このままではムリだ、と思っていた頃、オウムのセミナーがありましたので、参加させてもらいました。たった、二泊三日の合宿修行でしたが、遊びから完全に脱皮でき、再び受験へと闘志をわかすことができました。帰宅してからは、先生に教わった頭の良くなる…特に記憶力の良くなる修行法を毎日とは言えないまでも、できるだけ続けて、結果は、志望大学合格！

よくできた話だと思われるでしょうが、私の場合、よくできた話＝真実なのです。今考えてみても、わずか数ヶ月の受験勉強！よく合格したと、不思議にさえ思います。



私は、現在、現役の大学生なので、それなりの遊びのつき合いがありまして…、あまり修行者としてはよくないことだと思いますが、現世利益にも大きく影響していることを、箇条書きにして簡単に話してみましょう。

○相手がウソをついているか否かの適確な判断
○自分にとって、マイナスになる人達との決別、反対にプラスになる人達との出会い
○第六感と言われるカンのよさ（人の気持ちが今迄以上によく分かる）
○一枚しか買わなかった宝くじの当選
○九十パーセント近い、パチンコ、マージャンの勝率

など、様々な点での運気が向上しています。

シャクティーパット、ヨーガの修行の効果というのは、普段考えられないような力を与えてくれ、奇跡を起こしてくれるのに、最も近道かつ必要不可欠なものではないかと思います。

※修行上のポイント※

彼は志望校三校に合格した。そして今は慶応ボーイである。もともと頭の良い人なので、修行との相乗効果によってこのような快挙を成し遂げることができたのだろう。

確かに、ヨーガには頭を良くするという、ありがたい（？）技法がある。同じく大学生のK君は、サークルで『シャクティーパットとヨーガによるＩＱの伸び』を研究中なのだそうだ。結果は上々ということだが、近いうちに大々的に研究成果を発表してもらいたいと思っている。

ところで、どうしてヨーガで頭が良くなるのだろうか？それは、クンダリニーのエネルギーが大脳を刺激し、また大脳に十分な栄養を与えるからなのである。特に、受験生などの若い人たちは、飛躍的に伸びている。したがって、詰め込みの受験勉強をするよりは、ヨーガをやった方がずっと良いということになるだろう。かつてヒットした『スーパーラーニング』も、ごく初歩的なヨーガ技法を取り入れているにすぎない。

中山　浩子　（五十歳）
主　婦

去る四月五日より九日迄、大阪メディテーションセミナーに参加の機会を得、偉大なグルと親しくお話が出来たことは私にとって無上の幸せでした。眼前でグルのパワーを全身に浴びながら

修行出来る喜びは、とても言葉では表現出来ません。

今回で三回目のシャクティーパットになりますが、帰りの電車の中ですでにあの現象が始まっていたのです。

〃火と水の洗礼〃

グルのご本で読ませて頂いた時は、実際のところよくわかりませんでした。自分自身で体験して初めてその過程のことがわかったのです。

ストレートに落ちるような鼻水と喉のいがらっぽさに閉口しました。ひどい寝汗、熱さと寒さが交互にやって来ます。ねまきを二回着替えても、またぐっしょりぬれてしまう程でした。熱を計ってみたのですが、この時は三十五・六度位、これは私の正常な体温です。

まるで風邪の症状、とご本にありましたが、本当にその通りなのです。初め私は、自分が風邪を引いたと思っていました。でもその原因は思い当たらない。そこで大阪支部へ電話をしてお聞きしました。症状が出てから二日後のことでした。すると、「本クンダリニーの上昇だと思いますので風邪薬などは飲まないように。」と指示されました。〃もしかしたら――〃と心の奥で思っていたことが現実となり、一方、気持ちの上では安堵しました。鼻水が少し収まって来たと思ったら、次は咳と痰に苦しめられました。

私には過去（十九歳～二十歳の頃）に気管支喘息を病んだ経験がありますが、この時は、全く

そのままの症状を呈していたのです。あまり激しく咳こむとおしっこをちびってしまう程でした。唯不思議なことはこれ程激しい咳なのに、胸は痛みましたが呼吸困難にならなかったことです。

ひどい鼻づまりはネーティをすることで解消、空気のおいしさを改めて知りました。しかしこの頃から身体がだるくてたまらなくなりました。体温をみると三十七・八度～三十七・二度位を上下しています。このような状態から脱出するには修行しかない、とお聞きしていたので今回マスターしたばかりのヴァヤヴィヤ・クンバカ、アシュヴィニ・ムドラー、瞑想を三十分、三十分、六十分として行いました。

咳のためクンバカは思うように出来ませんでしたが、一日も早くこの洗礼をクリヤーしたいと、ひたすらグルに願ってマントラを唱えました。十五日目にようやく〝峠をこえたな。〟と感じるようになりました。修行の時間にしても主婦の立場で、まとめて二時間とるのが限度で不本意だったのですが、仕方ありませんでした。こうして約一ヶ月私の〝火と水の洗礼〟は続きました。

オウムでのシャクティーパット体験以来、私の身体の上に変化が起こっています。先ず、長年苦しめられた便秘が解消したことです。このことは大きな悩みでしたから、何よりもうれしく思います。次にお酒やコーヒーを必要としなくなりました。全く欲しくなくなってしまったのです。味覚にも変化が起こっています。かなりはっきりした濃い目の味が好きでしたが、家族の者が〝水くさい。〟という程うす味になってしまいました。精神面では以前に比べて、安らかな気持ちとい

うか、平穏な気持ちというか、あまり激高しなくなったように思います。

暇さえあればグルヨーガのマントラとグルを観想しています。常にグルのパワーを受けていたい!!と、これは私の欲でしょうか?

次に、主人の身（主人もオウムの会員です）に起きたことですが、自分のこと以上に嬉しかったので書かせて頂きます。

先ず、四十年間ほとんど失明に近かった右眼の手術に成功し、〇・三迄の視力回復にこぎつけました。あちらこちらの眼科医から見込みなしと宣言されていただけにこの成功は大きな喜びでした。暗闇から光の世界を獲得出来た喜びに、三日も男泣きしていた主人を忘れることが出来ません。現在、左右（左〇・〇八）の視力のアンバランスを解消するためリハビリを続けています。

そしてもう一つ〝五十天命〟として鍼灸学校入学を果たしたことです。これは自分の仕事であるゲルマニウム療法と並行して、指圧の免許を取るための決意でした。昨今鍼灸学校は、現役の大学卒業生達が受験するので、とても入学がむずかしいと聞いておりました。勉学から遠のいて久しく、文字を書くのも苦手な主人が合格を果たしたのです。目には見えないけれど、大いなる〝力〟が応援してくれたのだと、私は心の奥で手を合わせました。そして今私がやらねばならないことは、この主人のために手足となって、主人が思う存分自己の道を邁進出来るように配慮してあげることだと思っています。

ところで対人関係も、とてもよくなって参りました。思いがけない方が力になってくれたりしています。

私にはむずかしいことはわかりませんが、大好きなグル（畏れ多いことですが云わせて下さい）を信じて残りの人生を懸けてみたいと思っております。

合掌

※修行上のポイント※

中山さんも前生での修行者だった。一回目のシャクティーパットでいきなり悦の状態に入り、周囲をびっくりさせたものである。彼女の魂も、彼女がこうして今生での修行生活に入る日を心待ちにしていたに違いない。

普通、女性が結婚生活をしながら修行を続けるのは難しいようだ。なぜなら、セミナーなどに泊りがけでは参加できない人がほとんどなのである。ところが彼女は大変恵まれた修行環境にある。というのも、ご主人も娘さんもオウムの会員で、同じように修行しているからである。このように家族の理解を得られるというのも、彼女が前生で積んだ功徳の表われであろう。

（八八年十二月解脱）

松下　晃敏　（四十六才）
大学職員

初めてクンダリニーの覚醒を実感できたのは、昭和六十年の年末から丹沢の青山荘で開催されたセミナーに参加して、麻原先生よりシャクティーパットを受けたときでした。そのセミナーには、長年ヨーガや仙道を修行した人達をはじめ、老人や子供迄先生を慕って、全国から集まってきました。クンダリニーは、長年の修行者でさえ覚醒していません。だから、私のような凡人が簡単に覚醒するはずがないと思っていました。

ところが、そのセミナーの冒頭、先生は「クンダリニーは必ず覚醒します。評価はセミナーが終わってからにして欲しい。」といわれました。

いよいよシャクティーパットの順番になりました。先生の部屋へ招かれて上向きに寝ました。先生は、私の額に指を当ててエネルギーの注入を始めました。「そーらきた。」と先生がつぶやくと、熱の固まりが尾てい骨から背骨に沿って上昇してきました。おヘソの裏側を通るとき、「チクチクッ」と痛み、赤い炎が見えました。熱の固まりが、首のところまで上昇したのがわかりまし

た。最後に、虹色の紐のようなものが見えました。終わってから、「アージュニァー・チャクラまで開いたよ。」と言われました。私は、嬉しさで胸が一杯になりました。「立てるかな。」と言われ、「大丈夫です。」と立ち上がろうとしましたが、体がひどくフラフラして立つのに苦労しました。

私と相部屋で修行歴の全くなかった人でも白銀色が見えたり、シャクティーパットが終わっても虹色のチャクラの色が見え続けている人がいました。私は、先生に対して疑念を持ったことに恥ずかしく申し訳なく思いました。

クンダリニーの覚醒は、修行の終わりではなく始まりでした。シャクティーパットが終わった後は、マントラを唱えるだけで胸や腰の周辺から湯のような熱気が流れ出たことを覚えています。

一回目以降に受けたシャクティーパットでは、体が拡大したり縮小したりする感覚や、頭頂が盛り上がる現象（肉聲）を体験しました。

昭和六十一年十二月初旬のシャクティーパットでは、初めて緑や紫のチャクラの色が見えました。この時先生は、「白銀色まで見えたよ。」「ラトナサンバヴァによる解脱（意志による解脱）を目指すことになる。」といわれました。

また、「修行の結果は環境に具現化する。」と先生はいわれました。私は過去数年間、善意のつもりの行為が裏目裏目と働いて、知らない間に職場の評価が落ち信頼を失っていました。しかし、クンダリニーの覚醒した昭和六十一年の三月には、欠員の不安があったポストへは誠実な人が採

用されて私の片腕になっています。

また、四念処や四無量心を少し瞑想しただけでしたが、トゲトゲしかった雰囲気がいつの間にか消えて、頼んだ仕事も気持ち良く済ましてくれるようになりました。これで、信頼も回復してきたのではないかと思います。

このことをセミナー参加のとき先生に報告しました。すると、「前より顔が優しくなっています。」「これからまだまだ優しくなります。そして、もっともっとあなたの言うことが聞かれるようになります。」「写真を撮って比べてみると、良く解ります。」と先生は言われました。

一方家庭に於いては、子供達が勉強に身が入らないため、私の心は不安と怒りが交差していました。今はそれもなくなり、愛情も戻ってきています。

老母は一年位の間に、心臓ぜん息といわれたものが自然に直ってしまいました。

環境への影響について再度先生に伺いますと、「修行の影響は、親と子の関係が一番強く出ます。」「周りが暗いと自分が暗くなります。修行して自分が明るくなると、周りも明るくなります。」とお答えになりました。

私は職場に通い、家庭も持っているので、修行の時間が短く、資質の良否もあると思いますが、修行の進み具合が遅く神秘体験もありません。しかし私は、釈尊（しゃくそん）のような偉大なグル麻原先生にめぐり会えたことを生かして、例えカタツムリのようであっても解脱へ向けて修行していきたい

と思います。

※修行上のポイント※

実は、彼には奥さんも子供もいて、修行に没頭できるという環境ではない。しかし、その中でグルに帰依し最善を尽くそうと努力しているようすがうかがわれる。

修行の結果は環境に具現化する——彼のまわりも良い方へ良い方へと向かっているわけだ。不幸は去り、幸福が訪れるのは、真理に基づいたオウムの修行を実践しているからである。この点でもオウムの修行の正しさを確認することができるだろう。

中村　昇　（二十一歳）
修行者　大学中退

麻原先生のシャクティー・パットによって、クンダリニーが覚醒した私は、とうとう僧伽（サンガ）に入りました。昨年の九月のことでした。

そして、十一月に五体投地の修行を終えることができました。これは、グルとシヴァ神と解脱に対する『信（しん）』を強くするための行法です。これを終えたとき、麻原先生から弟子としての新しい名前をいただきました。

その後、新しく取り組むべきアーサナを教えていただいたのですが、体が硬いために思うようにできず、困ってしまいました。先生は、「体の硬い原因の一つに粘液体質がある。君はこの体質だから浄化法とアーサナを併用して修行しなさい。」と言われました。そして、ガージャカラニー、サンカプラクサラーナ・クリヤ、ダウティ、ひものネーティ、ジャーラ・ネーティのやり方を直接教えてくださったのです。

これらの浄化法をやるのは、とてもつらいことでした。時間も、サンカプラクサラーナを除い

たとしても三時間近くかかってしまいました。しかし、毎日やり続けると楽になってきて、時間も一時間くらいで済むようになりました。

この浄化法の効果というものは、偉大なものでした。まだ座法は安定しませんが、以前に比べるとものすごく軟らかくなりました。そして、アーサナができない日があっても、硬くなりにくくなったのです。食事のほうも、少しの量で完全に栄養を吸収するのでしょうか、一食でも充分になりました。睡眠時間も八時間ぐらい寝ていたのが三〜四時間で済むようになり、瞑想中も、あまり眠たくなることがなくなりました。

またアパーナ気やサマーナ気などが、少し知覚できるようになりました。夢見もとてもよくなり、予知夢や幽体離脱なども体験するようになりました。

少し夢の内容について書くことにしましょう。ある日、夢の中に先生が出てこられて、私の尾てい骨をなでられました。その瞬間クンダリニーがすごい勢いで上昇し、アージュニャーチャクラにエネルギーが集中しました。集中したと思ったら、細胞の一つ一つが空性に溶け込んでいくのでした。

また同じように、エネルギーがサハスラーラチャクラに集中し、肉醤（にくびしょう）が大きくなり始め最後は爆発するという体験もしました。

この二つはいずれも恐怖はなく、すがすがしい気分でした。

幽体離脱の時は何か音がしたかと思うと、ムーラバンダが始まりしびれをともなってナウリが自然に始まり抜け出ていろいろ体験するというものでした。

また、先生がある弟子につけた名前が、その三日前からわかっていたということもありました。これは、直感によるものでした。

これからは、この体験などは否定してゆきたいと思います。そして現状に安楽をせず、より一層修行し、功徳をつんで、一日も早く長時間座れるようになりたいと思います。そして解脱し、先生の負担を少しでも減らすことができたらと思っています。

※修行上のポイント※

中村君は、浄化法（クリヤ・ヨーガ）とアーサナの組み合わせによって短眠法を獲得した。三～四時間の睡眠で足りるというこの短眠法、忙しい現代人に必要な超能力と言えるだろう。

彼は今、マニプーラ・チャクラとアナハタ・チャクラのレベルにいるようだが、真面目な青年なので、いずれは成就するだろう。

浄化法については『超能力秘密のカリキュラム（健康編）』が紹介している。

（八八年十一月解脱）

景山　樹良　（五十八歳）
個人タクシー運転手

私が入会を果たしてから丁度一年になります。入会当時、麻原グルはヒマラヤで修行中、私も色々と雑用があって六月）に行われた丹沢での集中ゼミには参加出来ず、初めてお会い出来たのは、その次の九月に行われた集中ゼミの時の事でした。その時私は約二ヶ月ばかりのテキストに依る修行で、実に八十キロ近くもあった肥満体を六十五キロの若い時代のスマートな姿に戻していたので、本当の仏道に巡り会った嬉しさと、ヨーガによっていよいよ未知の世界に足を踏み入れる事が出来るかもしれない、と言う興奮で頭の中が真っ赤に燃えているような状態だったのです。

九月のゼミでの私の興奮は、麻原グルの仏道の原点に立った迫力ある説法と、霊界と言う興味深い問題に対する麻原グルのザックバランな質疑応答に頂点に達し、野次馬精神の旺盛な私の神経を昂ぶらせ、真紅に燃えていたのを、麻原グル自身が一番良く御存知だったと思います。

そんな中で、私が初めて受けた「シャクティーパット」は、頭がガンガン耳がジンジンと高鳴

るだけ、何も判らないうちに終わりましたが、数日後私は、時々身体に地震のような感触を受けるようになり、修行中、毛布のしわや白い壁に視線を当てたりした時、鮮やかなグリーンの影を見掛けるようになっていたのです。そして、面白い事に二十数年来「居候」を続けてきた水虫君が何時の間にか夜逃げをし、やはり、十何年間も私を悩ませ続けて参りました腰痛も、何時の間にか何処かへ蒸発をして消えていたのでした。

そして、それだけではありません。私は、第一回目の集中ゼミで教わった「チャクラ」開発の呼吸法の中で、下から五番目に当たる「ヴィシュッダ・チャクラ」の呼吸法で、腹から胸と喉を通して頭の中へ気を押し上げ、「頭の中を活性化させて異様な活動を始める」珍しい技法を習得して驚いたのでした。

この「ヴィシュッダ・チャクラ」は喉にあるチャクラですから、生まれつき喉が弱くてさんざん苦労してきた私の体質に旨く合っていたのでしょうか？それとも、腹の皮を背中へくっつける位に力を掛けて「気」を胸から首を通して頭の方へ押し上げる強力なものなので、その効果がはっきりと現われて来るのが初心者にもよく判ったのでしょうか？

私は、青山荘での初めての実習の時には、まだこの呼吸法をよく呑み込めず、我が家に持ち帰って練習をした結果、初めてその「全身から汗の吹き出るような技法」を会得し、その素晴らしい迫力と効果に、「これは、あの難病のゼンソクだって完全に治せるな！」と、驚嘆したものでし

た。後でグルに指摘されて判ったことなのですが、私はこの技法のお陰で「特例」として下から四段目のチャクラを飛び越えて五段目の、ヴィシュッダ・チャクラを覚醒させた為、下の低次元の魔境を経験する事なく、ミニ、ではありますが、クンダリニーの上昇まで経験する事が出来たのでした。そして、不思議な事に、長年苦しんで参りました喉のしこりが取れて、響きのある良く通る声に声変わりをして、

「葬式坊主になっても読経にひけをとるような事はないな。」

と、思う程の、張りのある声に声変わりをしていたのです。その時の経験は、それは非常に劇的で神秘的で貴重な体験でしたが、残念ながら紙数の関係でまたの機会にゆずる事にいたします。

私はこの修行の御陰で、暗いトンネルの中で漸く出口を見つけたような気持ちと申しますか、ヨーガの神髄の片鱗に触れたような気持ちになったわけです。それは、簡単に申しますと、二、三年前に密教ブームが起こった時、テレビでも放送されていました、拡大と収縮をくり返す宇宙の姿、即ち、麻原グルも説明されておられました「色つきの霧」のそのどす黒い、青、紫、ピンク、オレンジ、赤色のスクリーンを確認する事が出来たのでした。想像でものを言ってはならないのですが、私はこの色つきの霧こそ、この世と冥土を仕切る煙幕であり、冥土を写しだすスクリーンではないかと楽しみにしているのです。修行に依る神秘体験は以上の四点程ですが、その他に一度、寝ついて間もなく壁を抜けて宇宙に飛び出した夢?も経験しました。これが幻覚か霊

夢かはよく判りませんが、面白い事になったぞと思う間もなく、二、三回星も無い宇宙を移動しただけで地上に引き戻され、地上に浮いたまま何処かの立派な門構えの家の中へ壁を素通りして入り、間もなく終わったのでしたが、仮にそれが夢であっても、夢と言うものにあまり縁のない私にとっては珍しい経験でした。

そして、実用で役立った事件で欠かせないのは、例のヒヒイロカネの不思議なお守り事件です。その事件も子供をはねると言う人身事故を起こしながら、なんと、警察沙汰にならないばかりか、相手の方が謝りながら解決するという前代未聞の決着となったのでした。普通、人身事故を起こすと、例え相手に過失があろうとも運転者の責任は免れるものではありません。まして、子供となると親が気違いのようになって騒ぎ救急車や警察を呼ぶものですが、そんなごたごたが一切なくて、相手の親の方からの謝りで解決を見たのは、私の三十数年の運転経歴の中でもかって例を見ない不思議な事件でした。

※修行上のポイント※

彼は大変行動的な人である。しかも実直な人柄だ。こういう性格的な要素が幸いして、年令のハンデを乗り越えているのだろう。クンダリニーの覚醒も、年令はそう関係ないことがわかる。

彼は色つきの霧を見出している。この段階を越えたとき、本当に神秘の世界へと入って行けるのである。また、彼はこの霧が「この世と冥土を仕切る煙幕であり、冥土を写したスクリーンではないか――」と言っているが、まさにそのとおり。霧の向こうは死の世界、バルドーなのだ。

また、事故の例を見てもわかるとおり、正しい教えを実践していれば、不幸に見舞われることはない。彼は個人タクシーの運転手で、この時は子供が急に飛び出したのだそうである。不幸がやってきたはずなのに、全く影響されなかった、という好例である。

なお、彼が大幅に減量できたのは、ヨーガのバランス効果の賜物である。

三井　宣子　（三十一歳）
アルバイト

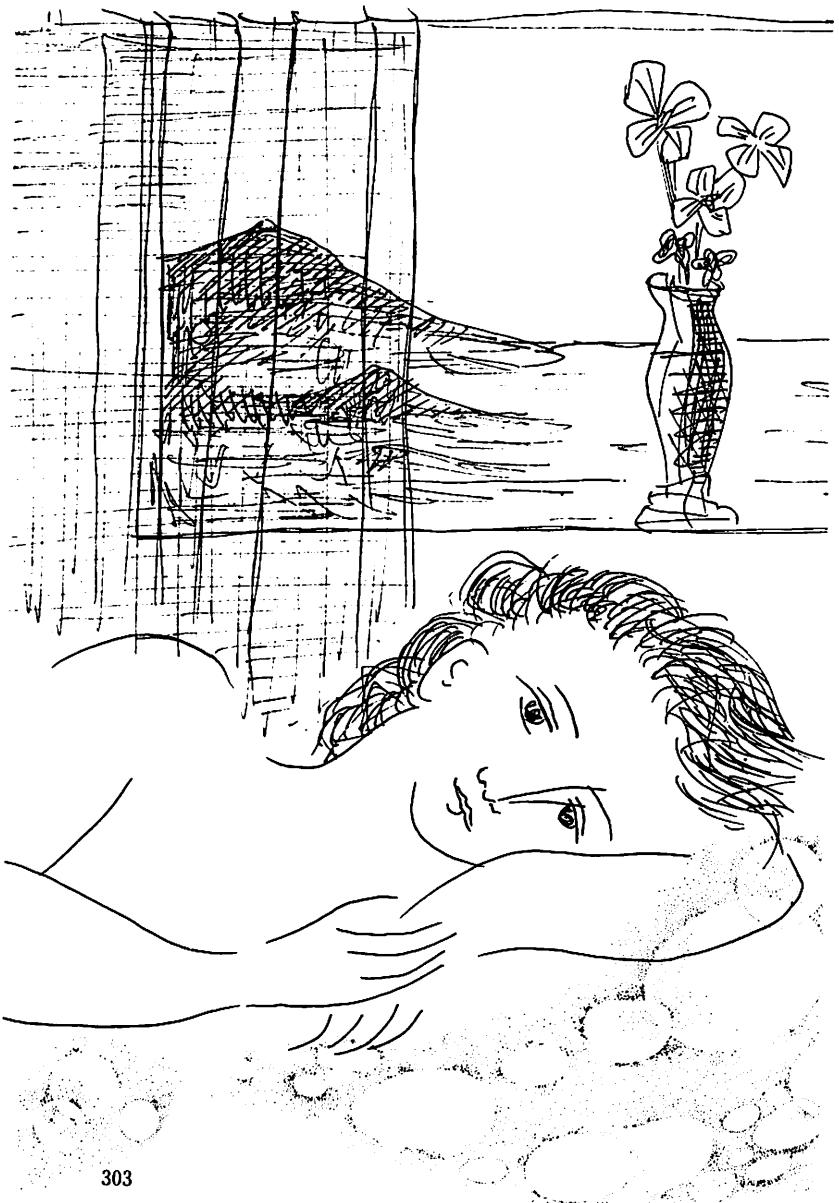
オウムで修行するようになって九ヶ月たちましたが、その間にシャクティーパットは四回受けさせていただきました。シャクティーパットを受ける時は、いつも額のあたりに白や青の光が見えて体がしびれるような感じで、それほどとりたてた変化はありませんが、やはり自分自身には

相当変化があったと思います。

最初の四～五ヶ月はあまり変化がありませんでした。かえって今までのウミが出るように自分の悪い所が強調されたように思いましたが、二回目のシャクティーパットを受けたあと、食事のあと、体中にじんましんができ、おへその穴からとてもくさい汁が出ました。それは体が浄化されたのだと思います。そして瞑想中、尾てい骨からとても快いものが背骨をのぼってきて、それが額のあたりで白銀色にきらめいて、その光につつまれ、なんともいえない至福感にみたされました。あとで先生にお聞きしたら、その時クンダリニーが覚醒したのだということでした。

そして三回目のシャクティーパットを受けた時に、先生から「これからはしあわせになるよ。」と言われましたが、ほんとうにしあわせになったのです。瞑想中も至福感を感じるようになりましたし、ふだんも心おだやかに、しあわせな気持ちでいられるようになり、今までイライラして頭にくるようなこともあまり気にならなくなって、願望成就というか心から願うと実現するようになってきたのです。でも念が強くなってきた分、心の持ち方には気をつけないといけないと思ったのは、ある人のことを憎らしく思ってしまったら、ちょうどその思った時間にその人が怪我をしてしまったのです。ぐうぜんかもしれませんが、想念というものはこわいなあと思いました。

四回目のシャクティーパットの時、先生からこのような段階になっても落ちるのはすぐだと言われましたので、これからも解脱を目標に自分なりにがんばって修行していかなければいけない



なあと思います。

私がオウムで修行する前の心境と今とでは、一年もたっていないのに我ながらすごい変化だなあと思います。修行する前はたしかに解脱とかヨガとかには興味があったのですが、雲をつかむようなはなしだったので、修行もとりたててしていませんでしたが、自分のまわりのことなどでたいへんなことがつづき、精神的にもとてもまいってしまい、生きる希望も失い、毎日死んでいるような無気力な日々が続き、雑誌で拝見した先生のセミナーにわらをもつかむ気持ちで参加したものでした。それが今ではとても毎日が充実して、エネルギッシュで生き生きとしたしあわせな気持ちで生きていられるのですから。これもみんな先生のおかげだと感謝して、これからも解脱をめざしてがんばって修行してゆきたいと思っています。

※修行上のポイント※

彼女は典型的なクンダリニーの覚醒を体験している。その後、願望成就の超能力を獲得したのは、アナハタ・チャクラまでが活性化していることを示している。また、憎らしく思った相手が怪我をした、というのも彼女の想念によるものであろう。これからは、こんなことを起こさないように気をつけてもらいたいものである。彼女は大丈夫だと確信しているが、中には超能力を悪

に使ってしまう人もいる。そういう事実に気付いたとき、私はその人のクンダリニーのパイプを断ち切って、二度と超能力が使えないようにしている。

木庭　稔雄　（三十五歳）
証券マン

実を言うと体験談を書いて欲しいとの連絡を受けた時、私自身が余り熱心な修行者であるとは言えないこと、およそ神秘的な体験というものとは縁が少ないこと、それと原稿の提出迄僅か一日（残業して家に帰ってから寝床につく迄に一日である）しかもらえなかったことと相俟って余程お断りしようかと考えたものである。しかし、そこはオウムの頼み、普段先生が口癖のように仰る「功徳」を積む一端となるのでは…と虫の良い思いが頭をかすめ、今、ペンを取っている次第である。

私がオウムに入会して奥儀書とテープを頼りに修行を開始したのが昨年（六十一年）七月なのでかれこれ十ヶ月余りになる訳である。その間、身体面での顕著な変化として体重が六十四キロ

グラムから五十六キログラムへと八キログラム減少したことが挙げられる。私の身長は百六十四センチメートルであり、それ迄自分では、最も体調が良いと感じていた頃の体重が五十八キログラム、それが目標体重だったのでいつの間にか目標を通り越してしまっていたのである。

次に寒さに強くなった。前の年迄はむしろ寒がりで、オーバーコートに手袋迄して通勤していたのだが、この冬はコートに手を通したのが一回、十二月に雪が降った時だけで、あとは雪が降ろうが霜柱が立とうが三ッ揃いの背広一着で頑張ってしまったのである。これには会社の上司、同僚にもびっくりされてしまった。何しろ尾てい骨のあたりからポカポカして冷たいのは手先位だったのだから、自分でも嬉しくなって、修行半分見栄半分で伊達の薄着を決めこんだ訳である。年末年始のセミナーの後、シャクティーパットを受けた時、先生が、「クンダリニーの熱が上下するようになっています。」と仰ったので、謎解きも完了した。

精神面での変化としては(やや自画自賛のきらい無きにしもあらずだが)、以前より心が広くなり、意志も強くなったように感ずる。少なくとも皆苦しいのだと思い、この苦の世界に生を受けた他人の心の痛み、魂の呻吟を理解しようと努力するようにはなった。そして、麻原先生に対する信頼の念はますます強くなってきた。しかし、逆に不完全な自分自身に対する後悔にも似た強い苛立ちを感ずる様になったこともまた事実である。

唐突だが、ここで、やや独善的な私の修行を振り返ってみたいと思う。これ迄に、集中セミナ

ーへの参加は、シャクティーパットの最低条件である二泊三日ずつ三回、従って当然シャクティーパットの体験も三回である。昨年八月に初めてセミナーに参加する迄はアーサナとスクハプールヴァカ調気法中心の修行であった。

その後、桑田次郎氏の「般若心経の霊妙力」に感化を受け、風呂に入る度に湯舟につかりながら般若心経を唱え、上がり際に先生に頂いたマントラを唱えながら冷水シャワーを浴びることを始めた。多分、昨年十月初め位からだったと思うが、マントラは三呼吸の間だけ唱えるのみである。一時期は(と言ってもほんの一～二週間のことだったと思うが)、毎朝四時に起きて出勤前迄アーサナ、プラーナーヤーマ等の実修をしたこともあった。その後起床時間を遅くして続けていたが、今春風邪をひいて以来止めてしまった。

私は、ひどい花粉症で、昭和五十三年の春以来毎春、眼科、耳鼻科、内科のアレルギー専門医にかかっていたが、「超能力秘密のカリキュラム」により、ネーティを毎日実修したら今年は、医者に行く時間と費用が節約できた。今は、そのネーティも滅多に実修していない。

現在、曲がりなりにも続けているのは、風呂での般若心経、マントラと、朝夕オウムを三回唱えること、それに五分から十分位、ヒヒイロカネを手にしてマントラを唱えることのみである。もっとも、これには理由があって、公私にわたり忙しさが増して来たこと、家族が団欒を犠牲にするのを快く思わないことなどがあるが、修行の重要性は理解している積もりなので何とか睡眠

時間を短縮するなりしてリズムを取り戻すようにしたいと思っている。

ところで、今もやや不思議に思っているのだが、私は、集中セミナーの前後は、諸事多忙になったり、風邪をひいたりで修行の密度が極端に薄くなってしまうのである。三度あって三度共そうだったのだが、均すと一定レベルの修行しか出来ないカルマになっているのだろうか？目を閉じた時に見える光は以前より明るくなっているように感じるし、シャクティーパットを受けた時に感じる光もより強くなっているように思うのだけれども、果たしてそうなのだろうか？現実生活の中では相場商品を扱う証券会社に勤めていて、毎日売った買ったを繰り返し、欲得ずくのマネーゲームに明け暮れているのだけれど、本当に修行が進んでいるのだろうか？ましてや、解脱などという大それた望みを抱いて良いものだろうかと疑問の絶えない此頃である。

寝呆けたようにとりとめのない体験談になってしまったが、私自身、現代社会に身を置いて迷いに迷っている存在なので何とか御容赦御願いする次第であります。

※修行上のポイント※

彼は『在家の人が天界に行く為の修行』をやっている。解脱する為の修行に比べると、時間的にも短くて済むし無理がない。私はいろいろな修行者がいて良いと思っている。

ところで、彼が唱える般若心経であるが、インド仏教でもチベット仏教でも、そして私も、般若心経の中のマントラの部分だけが重要だと考えている。だから、般若心経の〝霊妙力〟が必要だったら、マントラの部分だけを唱えた方が良いだろう。はっきり言って、日本には正確に経典を理解している人などほとんどいない。生半可な知識で本を書いている人もいる。そういう事実を知り、注意して振り回されないようにすべきだ。

花粉症などのアレルギーで悩んでいる人は、体験談にあるように浄化法をやると良い。これは素晴らしい効果を発揮する。詳しくは「超能力秘密のカリキュラム―健康編―」参照のこと。

――本文終わり

絶対幸福の鍵を解く

生死を超える

改訂版

現実生活の苦悩から修行を志し、ついに解脱するに至った麻原彰晃尊師の貴重な体験をもとに、釈迦牟尼の「縁起の法」が、実はクンダリニー・ヨーガのプロセスそのものであったことを説き明かした名著「生死を超える」。

麻原彰晃

八十六年十二月発売以来、宗教、精神世界に関心を持つ読者に絶大な支持を受け、解脱を目指す修行者にとって、手放すことのできない〝バイブル〟となっております。新たに八人の体験談をまじえて贈る全面改訂版。

◎誰にも書けなかった知られざる世界が今ここに！
◎真実を求めるあなた、人生の悩み、苦しみを乗り越えたいあなたに贈るヨーガ、仏教の真髄！
◎修行者二十一人の豊富な体験談も満載！

麻原彰晃著／B6判／定価1854円（本体1800円）

●ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。（送料300円）

●オウム出版● 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 電話：03(323)9294/郵便振替：東京2-109325

麻原彰晃著

THE SECRET CURRICULUM

超能力「秘密のカリキュラム」健康編

今甦るクリヤ・ヨーガの秘法

クリヤ・ヨーガ——それは、ヒマラヤに伝わる肉体浄化の秘法。現代医学を超えたその効果は、直腸癌を三カ月で撃退した著者をはじめ、数多くの人々が証明しています。

さらに、アストラル・ボディーの浄化を促し、霊性を確実に向上させます。あなたもこのクリヤ・ヨーガで超能力を獲得し、解脱への第一歩を踏み出してみませんか。

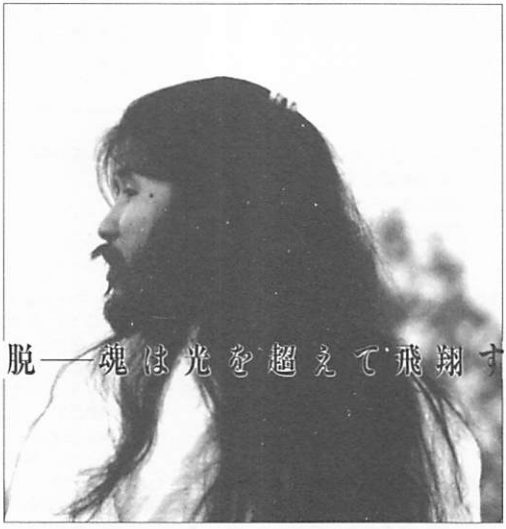
◆どこまで信じられるか？　今、常識は覆されようとしている！
◇三時間睡眠でエネルギッシュに活動できる
◇明晰な頭脳・優れた記憶力を獲得する
◇超健康体になれる　◇精神的ストレスの解放
◇神秘体験ができる　◇超能力者になれる

◆高血圧が正常になり、15キロの減量に成功。アルコール、タバコとも縁が切れました。（堀田高弘さん　愛知県）
◆安眠もできないほどのリューマチの痛みが、オウムの修行と浄化法で完全に治りました。（田中和利さん　北海道）
◆医者も見放すほどしつこかった水虫・たむしが、ガージャ・カラニーで綺麗に治りました。（垂井明美さん　大阪府）
◆徹底的に浄化法を行なって、子宮筋種が良くなりました。生理痛にも効果があります。（吉田恵子さん　静岡県）
◆5歳の愛娘にガージャ・カラニーをさせたところ、ひどかったアトピー性皮膚炎が治りました。（満生輝世子さん　福岡県）
◆生まれつきのアレルギー体質も、鼻炎をはじめ、すべて薬の必要がなくなりました。（田下聖児さん　愛知県）

超能力「秘密のカリキュラム」定価1009円

ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。（送料300円）
オウム出版　〒154　東京都世田谷区世田谷2-8-17／TEL 03(439)6043／郵便振替　東京2-109325

MAHAYANA SUTRA



実体験に裏付けられた偉大な書物

中田美治さん
(京都府　書店経営)

小乗、大乗、金剛乗という区別、および名称さえ知らない仏教徒もいる中で、麻原尊師が体験をもとにして、この三乗の違いを明らかにされた偉大な書物。成就者の修行体験が尊師の説かれた道の正しさを示している。

最終解脱までのガイドブック

谷岡宏幸さん
(山口県　教諭)

一読して感動しました。まさにこれは、最終解脱までのガイドブックです。解脱までのプロセスが四名の解脱者の生の体験談として書かれていることが強烈でした。私も早く解脱という光の体験をしたいものです。

やっと巡り合えた真理の世界

田代玲子さん
(福岡県　保母)

成就者の体験談に驚き、感動し、憧れを覚えました。やっと待ち望んでいた世界に巡り合えた、そんな思いがします。この「マハーヤーナ・スートラ」は何度読み返してもその度に新しい発見がある、宝石箱のような本です。

最終解脱者のみが著わし得た宝典

小原正士さん
(北海道　会社員)

「自分っていったい何だろう、人生の目的って何だろう」人生を真剣に生きれば生きるほど、避けては通れないこの根源的な問いに、明確な、それでいて温かく、どこかしら懐かしい回答を与えてくれるのが、この書である。

今までの疑問がすべて氷解

黒瀬隆司さん
(兵庫県　関西学院大学)

この『マハーヤーナ・スートラ』は二千五百年前釈迦牟尼がお説きになった宇宙観や大乗の仏陀への全プロセスについて、明快に説き明かしている。今まで、漠然としてよくわからなかった「解脱」が目の前に明確に示された。

マハーヤーナ・スートラ

大乗ヨーガ経典

麻原彰晃 著

実体験が証明する解脱の真理

そして、多くの魂を究極の幸福へと導く大乗の道程とは……

◎仏教、ヨーガに共通する真実の宇宙観
◎預流向からマハーヤーナまで
——初めて明かされる大乗ヨーガの全ステージ
◎解脱とは何か
——そのすべてがここに証明される
◎五蘊、および四正断
——現代に甦った仏陀釈迦牟尼の法
◎すべての疑問に答える質疑応答編
◎修行法の正しさを証明する、
四名の解脱者の体験談

B6版296ページ(巻頭カラー8ページ)
定価3090円(送料300円)

ついに真理を手に入れた!

塩田英二郎さん
(大阪府 公務員)

何千年にわたって多くの人々が求め続けてきた「真理」。それがこんなに簡単に手に入る現代人は何と幸せなのだろう。「マハーヤーナ・スートラ」には、実際に解脱を体験した者でしか書き得ない迫力と真実味がある。

不思議と希望がわいてくる

西美智子さん
(滋賀県 英語塾講師)

この「マハーヤーナ・スートラ」を何回も読み直すと、不思議と解脱というものが身近に思えてきます。私のような凡夫でも、完全に苦から脱却できるかもしれない、そんな希望がわいてくるのがこの本の素晴らしさです。

宇宙のすべてが説き尽くされている

岡田弘幸さん
(群馬県 工員)

遠い過去から、人々の魂を導いてきた聖なる流れ。かの仏陀釈迦牟尼も、他の偉大なる聖者達も、皆その一本の流れに沿って進み、真理の大海へと人々を誘い続けたのだ。その遠大なる真理の全貌が今ここに明らかにされた。

遥かなる世界に戻るための地図

小林之生さん
(東京都 会社員)

欲望や煩悩に惑わされ、遥かな高い世界からこの苦しみの現象界に落ちてきた私達の魂が、再び絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜の世界に戻っていくための地図となるのがこの「マハーヤーナ・スートラ」である。

魂の故郷へと至る道標

鐵田 薫さん
(神奈川県 会社員)

もう雑多な書物はいらない。私達はただこの偉大な本にのっとって、真理の階段を一歩一歩確実に昇っていけばいいのだ。そこには、私達の魂の故郷、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜の世界、マハーヤーナがあるのだ。

ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。
オウム出版 〒154東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL03(439)6043 郵便振替 東京2-109325

彰晃の滅亡シリーズ！

『黙示録』が示す滅亡のタイムテーブル

◉大好評

『滅亡の日』

麻原彰晃「黙示録大預言」の秘密のベールを剝ぐ

■麻原彰晃著

1999年まであとわずか。真実を知り、選択するのはあなただ！すべてが今明らかにされる！謎の数字666、アメリカ・ソ連の趨勢、ハルマゲドン……。謎の預言書『ヨハネの黙示録』が語る近未来図。

B6判／240ページ／定価1854円

その日、すべては虚空に帰する……

『滅亡から虚空へ』（続・滅亡の日）

麻原彰晃の「黙示録大預言」完全解読

21世紀を展望する麻原

■麻原彰晃著
戦慄のハルマゲドン後の世界。
これが「ヨハネの黙示録」衝撃の全貌！
前著『滅亡の日』で開示された終末の世界。
大破局の後に来る新たなる戦い。そのとき、あなたは……。
B6判／240ページ／定価1900円

◉好評発売中！
マンガ『滅亡の日（ハルマゲドン）1』
■麻原彰晃原作　A5判／232ページ／定価824円

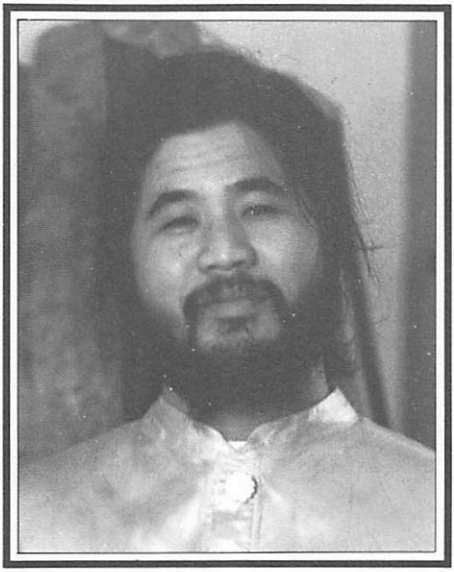
この本には戦慄の内容が書かれている。したがって、
1.心臓の弱い者　2.精神病の気がある者
3.自律神経失調症の疑いのある者　4.心の惑いやすい者
5.現世で楽しく生きたい者は
これを開いてはならない……。

ご注文は書店にてお願いいたします。
直接弊社にお申し込みの場合は左記まで（送料300円）。
オウム出版　〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
TEL03(439)6043　郵便振替 東京2-109325

真実は光を超えた

「マハーヤーナ」MAHA-YANA
麻原彰晃監修・月刊書籍

精神世界の情報満載
こんな書籍はかつてなかった！
大反響を巻き起こした話題の「マハーヤーナ」



解脱者が続出するのも、幸福へ近づけるのも
情報の正確さの証明——
次に真実を見るのはあなた

「特別寄稿、説法」等、麻原彰晃尊師の真理の法を毎月掲載.！
他に、貴重な成就者の体験談、超能力セミナー、人生相談、
音楽……盛りだくさんの内容はもうあなたを離さない.！

NO.1～6定価824円、 NO.7～20定価1133円、 NO.21～定価1200円 送料300円

NO.19

NO.20

NO.21

NO.22

NO.23

NO.24

真理のメッセンジャー・真理ブックス

「神通力―麻原彰晃は魅せた！」
尊師の縦横無尽の神通力を大師シッシャが徹底追究！
内容より～さりげなく他心通／空中歩行の真相／天候を変える／無呼吸の証明／神々の降霊／ひょうきんな透視実験 他
定価567円（送料250円）

「人生を斬る――幸福な人生を歩むために」
家庭、仕事、健康、修行……様々な悩みを、オウムの大師が真理の理論でズバリ回答！
内容より～家庭内暴力をなくすには／タバコをやめるには／試験をパスするためには／仕事でツキを取り戻すために 他
定価618円（送料250円）

不思議な出来事、日々の暮らしの中での悩みや苦しみ
いろんなことを真理の窓からのぞいてみませんか
絡んだ糸がほぐれていくように、すべてが納得できる
――それこそ真理なのです。
「真理ブックス」は、あなたに真理の窓の鍵をお渡しします。

ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。
オウム出版 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 電話03(439)6043 郵便振替 東京2-109325

究極の真理はここに！

オウム真理教

二千五百年の時を経て甦った真理が、今ここにある
幸福な人生への懸け橋は渡された
魂の飛翔への道筋は示された
究極の真理をつかむか否かは、あなた次第だ！

日本でただ一人の最終解脱者、
麻原彰晃尊師が主宰する
「オウム真理教」は、あなたに、
●病苦からの解放
●この世での幸福
●より良い転生
●悟り、解脱
をお約束します

始めよう！　真理の実践

◉入信されたすべての方に…

①道場の利用

既にご利用いただいている富士山総本部、東京本部、大阪支部、さらにニューヨーク支部、ボン支部等、日本全国世界各地の神聖な道場をご利用いただけます。

②月刊書籍の無料進呈

麻原彰晃尊師監修による月刊誌『マハーヤーナ』（定価一二〇〇円）と『実践真理』（頒価一五〇円）を毎月無料でお送りします。尊師の説法、特別寄稿、成就者の貴重な体験談、人生相談、信徒の方々の体験談など、精神世界の情報・真理の言葉を満載しています。

なお、ご希望により、テープによる『良い子の真理』（〇～六歳向け）『小学生の真理』（七～十二歳向け）『青年真理』（十三～十八歳向け）『声の実践真理』（ご老人・目の不自由な方向け）をお届けいたします。

③「ヒヒイロカネ」の無料進呈

尊師のエネルギーを込めた神秘の霊石「ヒヒイロカネ」を差し上げます。ヒヒイロカネから放射される尊師のエネルギーは修行を速やかに進め、あなたの霊性を向上させます。

④大師による電話相談
あなたの質問に大師が電話でお答えします。修行につきものの個人差等からくる疑問をどこにお住まいの方でも解消でき、成就者の神聖なヴァイブレーションを感じることができます。

⑤運命鑑定
尊師があみだした驚異の適中率を誇る「大宇宙占星学」で、あなたの運命を予知します。それにより的確なアドバイスをし、鑑定書としてお渡しします。

※加えて、選択されたコースにより、それぞれの特徴がございます。詳しくは各コースの案内をご覧ください。

◉日本で唯一の最終解脱者　麻原彰晃尊師が指導する

ヨーガタントラ・コース　*Yoga Tantra Course*

解脱し悟りを得、絶対自由・絶対幸福の世界であるマハー・ニルヴァーナへと魂を進化させることを望まれる方のコースです。
八八年、八九年に、五十二名の成就者を誕生させた最終解脱者麻原彰晃尊師および成就した弟子達が、責任を持って指導いたします。

古来からの秘儀と最新の科学を駆使し、あなたの霊性を驚異的なスピードで向上させます。
このプログラムに習熟すれば、二年足らずで成就することが可能です。

【コース全体の特徴】

①麻原彰晃尊師が独自の修行法に加えて、インドの聖者や上位アストラル界の偉大な師より授かった数々の秘法を伝授（イニシエーション）いたします。

②成就者の神聖なエネルギーを注入し、速やかにクンダリニーを覚醒させる「シャクティーパット」および、「成就し、仏陀になるための無上ヨーガ」のイニシエーションを受ける資格を得ることができます。

③自宅修行システムも充実しています。入信と同時に、奥儀書、行法テープを差し上げます。

④真理の法をわかりやすく語った尊師の説法テープを二カ月に一度お送りします。

【コースとセミナー】

①イニシエーション準備クラス（初級・中級・上級）
アーサナ、プラーナーヤーマ、ムドラー、瞑想の指導をいたします。

②集中セミナー
麻原彰晃尊師説法、質疑応答に加え、秘伝の行法・瞑想法を直接伝授いたします。

③深夜セミナー
忙しくて集中セミナーに参加できない方々のための夜間集中修行です。

※通信講座もございます。地方にお住まいの方、お時間のない方はご利用ください。

◎資料請求について

詳細について知りたいとお望みの方は、下記の資料請求券を添付したハガキ、または電話にて、最寄りの本部、支部道場までお申し込みください。詳しい入信案内および申し込み書をお送りいたします。

麻原彰晃尊師が、その秘法のすべてを駆使してあなたをスーパーマンに！

◉体力、知力、精神力が飛躍的に向上！

・一日三時間の超短眠法・ストレスを五分で完全に解消する・一日中エネルギッシュに・一度覚えたら忘れない超記憶力・驚くほど頭の回転が良くなる・ここ一発に強くなる集中力・鋭いインスピレーション・土壇場でも動じない強靭な精神力

◉あらゆる超能力を獲得！

・重力からの解放――空中浮揚・透視能力・百発百中のテレパシー・部屋をも震わせる念力・肉

（キリトリ線）
資料請求券
イニシエーション

体からの解放――幽体離脱・異次元の世界へ

【コース全体の特徴】

①完璧なプログラム。成就者は超能力を知り尽くしていますので、他の団体にみられないほど、速やかに超能力が身に付きます。これは、超能力開発の最大のポイントです。

②総合超能力プログラムの一つのクラスを修了するたびに「シッディ・イニシエーション」を受ける資格が得られます。シッディ・イニシエーションとは、各種超能力に関する秘儀伝授のことです。

③自宅修行システムも充実しています。入信と同時に、奥儀書、テープを差し上げます。

④さらに、あなたが獲得したい超能力を開発する秘伝のマントラ（真言）を大師が伝授します。

【基礎修行、コースとセミナー】

①総合超能力プログラム

定期セミナー（三カ月×6クラス）、テキストに沿った自宅練習で、様々な能力とあらゆる超能力を総合的に開発します。

②超能力セミナー

麻原彰晃尊師、または大師の直接指導によるチャクラ開発中心のセミナーです。毎月一回開催します。参加者全員にエネルギーを込めた特製「マントラ・プルシャ」が贈られます。

※通信講座もございます。地方にお住まいの方、お時間のない方はご利用ください。

◎資料請求について

詳細について知りたいとお望みの方は、下記の資料請求券を添付したハガキ、または電話にて、

（キリトリ線）

イニシエーション資料請求券

最寄りの本部、支部道場までお申し込みください。詳しい入信案内および申し込み書をお送りいたします。

◉安らぎと繁栄はすぐそこに

ポア・コース *Poa Course*

現実生活において幸福になり、来世では高い世界に生まれ変わることを望まれる方のためのコースです。

ご自身やご家族の健康、心の安定、ご子孫の末長い繁栄、解脱者の導きによる幸福な転生（ポア）をお約束します。

社会的に重要な地位にあり修行に集中できない方、高齢のためハードな行法ができない方も、このコースで真理の実践をすることができます。

◆今から二千五百年前、仏陀釈迦牟尼は、出家して修行に専念することのできなかった在家修行者に対して、布施・持戒と簡単な瞑想を実践し、来世で天界に生まれ変わるための法を説いています。

今生で解脱できなくとも真理を実践することで、必ず幸福と良い転生を得ることができるのです。安らぎに満ちた生活。それは、真理を土台にしたときにこそ築かれるのです。

【コース全体の特徴】

①入信と同時に奥儀書、アストラル音楽テープ「幸福へのシンフォニー」を差し上げます。

②一切の迷いを解く尊師の説法テープを二カ月に一度お送りします。

【基礎修行とセミナー】

年齢、あるいは肉体的条件により、激しい行法のできない方でも無理なく消化することのできるプログラムです。

①基礎修行

自宅修行の教材として、今生と来世の幸福への道程を明かす奥儀書をお渡しします。毎日、わずかの修行を繰り返すだけで、幸福と良い転生が得られます。

②ポアの集い

毎月一回、本部・各支部で「ポアの集い」が開催されます。尊師または大師による講話、甘露水による「水の祭典」、「ポア・ブレッシング」などが行なわれます。

◎資料請求について

詳細について知りたいとお望みの方は、下記の資料請求券を添付したハガキ、または電話にて、最寄りの本部、支部道場までお申し込みください。詳しい入信案内および申し込み書をお送りいたします。

（キリトリ線）

イニシエーション

資料請求券

飛躍的に霊性が向上

オウムの修行アップシステム

★シャクティーパット……高レベルの成就者が、あなたに直接エネルギーを移入し、クンダリニーを速やかに覚醒させます。また、成就者の透明なエネルギーによって、心は浄化され、修行が促進します。イニシエーションの中でも、最も高度なものの一つです。

★プルシャ……神秘のセラミックス「ハーン」に尊師のエネルギーを込めました。生命エネルギーを強化し、悟りに必要な潜在意識へのアプローチを可能にします。

★プルシャ型たまて箱……古代エジプトの秘儀に基づく神秘の香りを込めたペンダント型たまて箱です。地元素を浄化し、ムーラダーラ・チャクラを活性化します。

★甘露水……尊師自ら修法した、高次元のエネルギーが込められた聖水です。水元素を浄化し、スヴァディスターナ・チャクラを活性化します。「甘露水」「超甘露水」「超純粋甘露水」「サットプラーナ神水」「ミラクル・ポンド」等があります。

★アストラル音楽テープ……尊師が高次元の世界から引き出したメロディーで作られた音楽の数々。チャクラを開き、アストラル体を浄化するだけでなく、心に働きかけるので情操教育にもうってつけです。

★アストラル・イニシエーション……尊師のマントラを音源とし、それを超高精度でデジタル化することによって、五大元素すべてを浄化することに成功しました。修行を飛躍的にアップします。

◆各道場のご案内

- 富士山総本部　〒418-02 静岡県富士宮市人穴381-1　☎0544(54)1267
- 東京本部　〒156 東京都世田谷区赤堤2-42-5杉田村松ビル1F　☎03(327)8565
- 大阪支部　〒532 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14八光ビル2F　☎06(397)1022
- 福岡支部　〒812 福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15第一渡部ビル6F　☎092(474)2877
- 名古屋支部　〒460 愛知県名古屋市中区栄5-8-14万国ビル3F　☎052(252)0709
- 札幌支部　〒060 北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1札幌三博ビル201号　☎011(241)4938
- 京都支部　〒600 京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384松本ビル2F　☎075(371)3759
- 仙台支部　〒982 宮城県仙台市若林区河原町1-4-20十全会ビル2F　☎022(268)3904
- 金沢支部　〒920 石川県金沢市京町25-20ソフトオフィスビル2+4 2F　☎0762(51)8457
- 高知支部　〒780 高知県高知市はりまや町2-8-8安藤ビル2F　☎0888(84)8286
- 広島支部　〒732 広島県広島市南区西蟹屋4-4-18和田ビル3F　☎082(264)6250
- 横浜支部　〒231 神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 若葉ビル2F　☎045(243)8079
- 和歌山支部　〒640 和歌山県和歌山市鞍河町42 和歌山酒販会館2F　☎0734(24)2859
- 水戸支部　〒310 茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F　☎0292(26)8044

真の音楽とは、私達の心を安らがせ、幸福へと導いてくれるもの。

アストラル音楽

天界のメロディーは幸福への序曲

麻原彰晃尊師がアストラル世界よりお持ち帰りになった天上の清らかな調べは、あなたの真実の意識に響き、心を浄化し、安らぎをもたらし、魂を高い世界へといざないます。
アストラル音楽で、本当の自分に会いに出かけませんか?

◎瞑想の友に
――霊的プロセス　霊性の向上の効果――
アストラルへの旅　深い瞑想状態に導きチャクラ開発に効果抜群
甘露　現世的な願望成就効果のある瞑想曲

――悟りのプロセス　情操教育にも最適――
幸福へのシンフォニー　慈の調線、左のイダー気道を浄化する明るい曲
ロード・シヴァ　慈の調線、日本的な雰囲気を持つ究極の悟りの曲

◎能力開発に
花園の妖精たち　ダンシング・シヴァ
二曲とも軽快なテンポで明るい空間を生み、職場・家庭での仕事の能率を促進する曲。

新曲
チッタ、温かなる救済、救世主も好評発売中!!

カセットテープ(60分)
●幸福へのシンフォニー●アストラルへの旅●光を超えて●甘露●復活●ロード・シヴァ●タイム・トラベル●聖者●マハー・カーラーの詩●花園の妖精たち●ダンシング・シヴァ●チッタ●温かなる救済●救世主
価格(各々)　一般10,000円　預流向4,000円　後援会会員4,000円　信徒3,000円

◎お問い合わせ

株式会社オウム　TEL.03(439)6043
〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17

『イニシエーション』
INITIATION

一九八七年　八月　一日　初版発行
一九八九年十一月三十日　第三版発行

定価　二一六三円（本体二一〇〇円）

著者　麻原彰晃
発行者　松本知子
　　石井久子
編集　オウム出版
発行所　株式会社　オウム
東京都世田谷区世田谷二―八―十七
郵便番号　一五四
電話　〇三―四三九―六〇四三
振替　東京二―一〇九三一五

乱丁・落丁本がありましたらお取り替えいたします。

©Shoko Asahara 1987
ISBN4-900497-02-9　C0014　P2163E

イニシエーション

麻原彰晃

ISBN4-900497-02-9 C0014 定価2163円(本体2100円)